



Keijyu Healthcare System

2017

業績集

The collection of achievements

社会医療法人財団 董仙会
社会福祉法人 徳充会

Vol.20 june,2018

2017年 [平成 29 年]
業 績 集
The collection of achievements



けいじゅヘルスケアシステム
Keiju Healthcare System



**GOOD DESIGN
AWARD 2017**

**BEST
100**

2017 年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

2017 年度を振り返ると、政治の面では、2018 年度にもその影響が引き続く「忬度」「北」「野党分裂」の年だったようだ。

一方、経済的には多くの大企業は空前ともいえる好決算に湧きながらも、働き方改革や人口減と相まって人材不足感が大きな影を落とす年ともなった。

医療・介護・福祉業界でもまた同様に働き方改革の余波は人材面からその経営の継続性を脅かす事態となってきた。特に、医師の働き方の議論は、地域医療の存亡の大きな要素となる危惧を与えている。

これら背景の下で、すべての業種にとって生産性向上がカギとなり、そのための ICT, AI, ロボットなどの最新技術をいかに導入するかが重要となってきたと言えよう。

法人の単年度方針として『今こそ QOL 経営を実践しよう』とし、Quality of Life の Life に地域住民の生命、生存だけではなく生活や人生にもわれわれが関わるべきとした。これまでのコールセンター事業や『樂のり君』サービスに加えて 9 月からは、かねてから提唱してきた PHR (Personal Health Record) である『カルテコ』の導入を実現した。これは、患者個人に自身の医療情報を渡すことによって、患者が情報管理の中心となり、患者を介して医療・介護ばかりではなく薬局やその他サービス事業者と連携を可能なものにするものである。

一方、けいじゅヘルスケアシステム、特に恵寿総合病院において医師の確保で難渋した。特に、外科手術の多くを占め、また高齢社会における多くのニーズをこなす整形外科の医師数の減少が大きな問題となった。2018 年 4 月以降には増員によって回復はしたものの、今季下半期の手術数などで予期できぬ影響を与えた。しかしながら、その分を内科系領域での患者数増加でカバーし、年間を通して好調な経営状態となった。

また、われわれのこれまでの取り組みに対してグッドデザイン賞 2017 における Best100 賞、審査員特別賞（未来づくり賞）等を受賞し、グッドキャリア企業アワード 2017 ではイノベーション賞を受賞した。これらによって医療以外の業界との多くの接点生まれ、より効率的で洗練されたサービス提供や働き方の仕組みを導入する土台ができたと言っていいだろう。

9 月には第 59 回全日本病院学会 in 石川を『大変革前夜に挑め！ ～今こそ生きるをデザインせよ～』というテーマで、私が学会長として金沢市で開催した。全国から 3,300 名にのぼる病院関係者が一堂に会した。『生きるをデザインせよ』に病院こそ地域住民の生活支援にかかわるべきとの QOL 経営のメッセージを込めた。この全国学会に法人から多数の発表演題を出し、また職員は学会運営スタッフとして全国の病院の取り組みを知ることができたと言える。

縮小していく地域の中で、これからも自らの変化として組織の改編、さらには新規知見の積極的な導入をしながら、われわれの立ち位置をより強固なものにしていきたい。

2018 年 6 月吉日

けいじゅヘルスケアシステム 理事長

神野 正博

創業
精神

いつでも 誰でも たやすく

安心して診療を受けられる病院にする。

基本
理念

人命尊重、心身の健康第一の立場に立ち、職員が一体となって地域住民の健康維持(予防、診療、リハビリテーション、介護)に努めると共に、地域の中核医療施設として、社会、経済、文化の発展向上に貢献します。

信頼の心

私達は、患者・利用者の皆様の権利を尊重し、信頼される質の高い医療により、地域に貢献します。

思いやりの心

私達は、思いやりのある病院・施設づくりに努めます。

健全な経営

私達は、収支構造の安定した病院・施設を維持します。

職員の健康と幸せ

私達は、董仙会の発展を通じ、職員の健康と幸せを築きます。

目次

発行にあたって
創業精神・基本理念
目次

第1章 法人概要・組織図

8	董仙会概要・沿革・施設
9	董仙会組織図
10	董仙会本部組織図 会議・委員会
11	董仙会人員の推移
12	恵寿総合病院概要
13	恵寿総合病院組織図
14	恵寿総合病院会議・委員会
15	恵寿総合病院施設基準等
16	恵寿金沢病院概要 会議・委員会
17	恵寿金沢病院組織図
18	恵寿金沢病院施設基準等 学会認定施設
20	徳充会概要・沿革・施設
21	徳充会組織図
22	徳充会人員の推移
23	徳充会会議・委員会

第2章 法人方針・事業報告

26	2017年度 けいじゅヘルスケアシステム方針
28	TQM 発表大会
29	事例研究大会
30	メディア掲載
34	来訪者一覧
36	2018-2020 中期計画
42	事業報告

第3章 医療部門 診療統計・医療の質

	恵寿総合病院
84	外来患者数
85	年代別(男女別)外来患者数
86	救急外来患者数
87	紹介患者数
88	入院患者数
89	年代別(男女別)新入院患者数
90	平均在院日数・病床稼働率
92	手術件数
93	MDC 別
94	入院患者マップ
95	疾病分類別患者数
96	年代別死亡退院患者数
97	疾病分類(中分類)別上位疾病
98	悪性新生物の国際疾病別 退院数及び内死亡数
99	48時間以内死亡患者数
99	2017年度死亡要因上位件数(中分類)
100	Quality Indicator

	恵寿金沢病院
102	外来患者数
103	年代別(男女別)外来患者数
104	救急外来患者数
105	紹介患者数
106	入院患者数
107	平均在院日数・病床稼働率
108	年代別(男女別)新入院患者数
109	手術件数
110	入院患者マップ
111	疾病分類別患者数
112	年代別死亡退院患者数
113	疾病分類(中分類)別上位疾病
114	48時間以内死亡患者数
114	2017年度死亡要因上位件数(中分類)
115	Quality Indicator
	クリニック
116	田鶴浜診療所
117	鳥屋診療所
118	恵寿ローレルクリニック
119	恵寿鳩ヶ丘クリニック

第4章 介護・福祉部門 利用統計・介護の質

122	利用統計
123	各施設 Quality Indicator

第5章 研究・業績

142	論文・著書・インタビュー等
148	学会発表
160	講師・座長・パネリスト等
172	資格取得
176	公職
182	メディア出演
185	その他

第6章 KEIJU MONTHLY LETTER

188	2017年度 KEIJU MONTHLY LETTER
-----	-----------------------------

第7章 トピックス(社会貢献)

202	董仙会トピックス(社会貢献)
204	徳充会トピックス(社会貢献)



第 1 章
概要
組織図

董仙会 概要

所在地 石川県七尾市富岡町 94 番地
 Tel 0767-52-3211 (代表)
 Fax 0767-52-3218 (代表)

理事長 神野 正博

職員数 1,349 名

病床数 515 床 入所ベッド数 373 床
 全ベッド数 888 床

董仙会 各施設概要

恵寿総合病院
 〒926-8605 石川県七尾市富岡町 94 番地

恵寿金沢病院
 〒920-0910 石川県金沢市下新町 6 番 26 号

田鶴浜診療所
 〒929-2121 石川県七尾市田鶴浜町り部 11 番地 1

鳥屋診療所 いきいき
 〒929-1704 石川県鹿島郡中能登町末坂 2 部 60 番地 4

恵寿ローレルクリニック
 〒926-8607 石川県七尾市富岡町 95 番地

恵寿鳩ヶ丘クリニック
 〒927-0023 石川県鳳珠郡穴水町字麦ヶ浦 15、39 番 8

介護老人保健施設 和光苑
 〒926-0853 石川県七尾市津向町ト部 107 番地

介護老人保健施設 鶴友苑
 〒929-2121 石川県七尾市田鶴浜町り部 11 番地 1

介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘
 〒927-0023 石川県鳳珠郡穴水町字麦ヶ浦 15、39 番 8

恵寿居宅介護支援事業所けいじゅ
 〒926-8605 石川県七尾市富岡町 94 番地

在宅複合施設 ほのぼの
 〒929-1704 石川県鹿島郡中能登町末坂 2 部 33 番地

デイサービスセンター いこい
 〒929-1725 石川県鹿島郡中能登町東馬場ほ部 18 番地 1

小規模多機能型居宅介護事業所 けいじゅ一本杉
 〒926-0806 石川県七尾市一本杉町 37 番地

小規模多機能型居宅介護事業所 恵寿みおや
 〒929-1717 石川県鹿島郡中能登町良川か部 44 番地 1

けいじゅデリカサプライセンター
 〒929-2121 石川県七尾市田鶴浜町ち部 33

医療福祉ショップ めぐみ
 〒926-8605 石川県七尾市富岡町 94 番地

七尾看護専門学校
 〒926-0854 石川県七尾市なぎの浦 156

董仙会 沿革

1934年 神野病院創立 初代病院長 神野 正隣 (まさちか)
 1963年 診療棟新築
 1964年 救急病棟新築
 第二代病院長として神野 正一就任

1967年 第1病棟新築
 恵寿病院と改称し、医療法人財団 董仙会を設立
 (初代理事長 神野 正一)

1969年 大蔵省(現財務省) 特定医療法人に認定
 1975年 第2病棟新築
 1980年 第3病棟新築(454床)
 1982年 恵寿総合病院と改称
 1984年 田鶴浜町の依頼で田鶴浜診療所開設
 関連法人として社会福祉法人 徳充会を開設
 (初代理事長 神野 正一)

1988年 鳥屋町(現中能登町)の依頼で鳥屋診療所開設
 1989年 老人保健施設「和光苑」開設(新築として県初)
 1993年 第三代病院長として神野 正博就任
 老人保健施設「鶴友苑」開設

1995年 第二代董仙会理事長に神野 正博就任
 1997年 医療情報システム(オータリングシステム)運用開始
 1998年 (財)日本医療機能評価機構より認定
 (200床以上の一般病院B・北陸初) Ver.3.1

1999年 鳥屋町(現中能登町)在宅複合施設「ほのぼの」運営受託
 特別医療法人認可
 2000年 穴水町に恵寿鳩ヶ丘病院開設(143床)
 第5病棟新築
 全国初の医療・介護コールセンターとして、けいじゅサービスセンター開設
 董仙会・徳充会を総称し「けいじゅヘルスケアシステム」と呼称
 全国初となる院内24時間コンビエンスストアオープン
 鹿島町(現中能登町)デイサービスセンター「いこい」運営受託

2001年 けいじゅ在宅総合サービスセンター開設
 2002年 電子カルテシステム運用開始
 2003年 センtralキッチン「けいじゅデリカサプライセンター」開設
 厚生労働省臨床研修指定病院(基幹型)認定
 病院内に病児保育室「あんず」設置
 (財)日本医療機能評価機構のリハビリテーション付加機能認定

2005年 けいじゅ PET-CT センター開設
 2007年 職員宿舎「ピオラ」「コニファー」新築
 2008年 第四代病院長として山本 達就任
 社会医療法人認可 11/1より改称(全国9番目)
 2009年 けいじゅファミリークリニック開設
 けいじゅ PET-CT センターにリニアックセンターを併設
 恵寿鳩ヶ丘病院を介護療養型老人保健施設に転換(名称:恵寿鳩ヶ丘)

2010年 七尾市内一本杉通り商店街に小規模多機能型居宅介護事業所「けいじゅ一本杉」開設
 2011年 神野 正博社会福祉法人徳充会第二代理事長就任
 石川県地域がん診療連携協力病院に指定

2013年 恵寿総合病院本館(223床)新築
 恵寿総合病院80周年記念式典開催

2014年 電子カルテシステム更新(MicrosoftVDIによる、同時接続ユーザー世界最大)
 第五代病院長として山本 健就任
 中能登町に小規模多機能型居宅介護事業所「恵寿みおや」開設
 金沢市に「恵寿金沢病院」開設(89床)

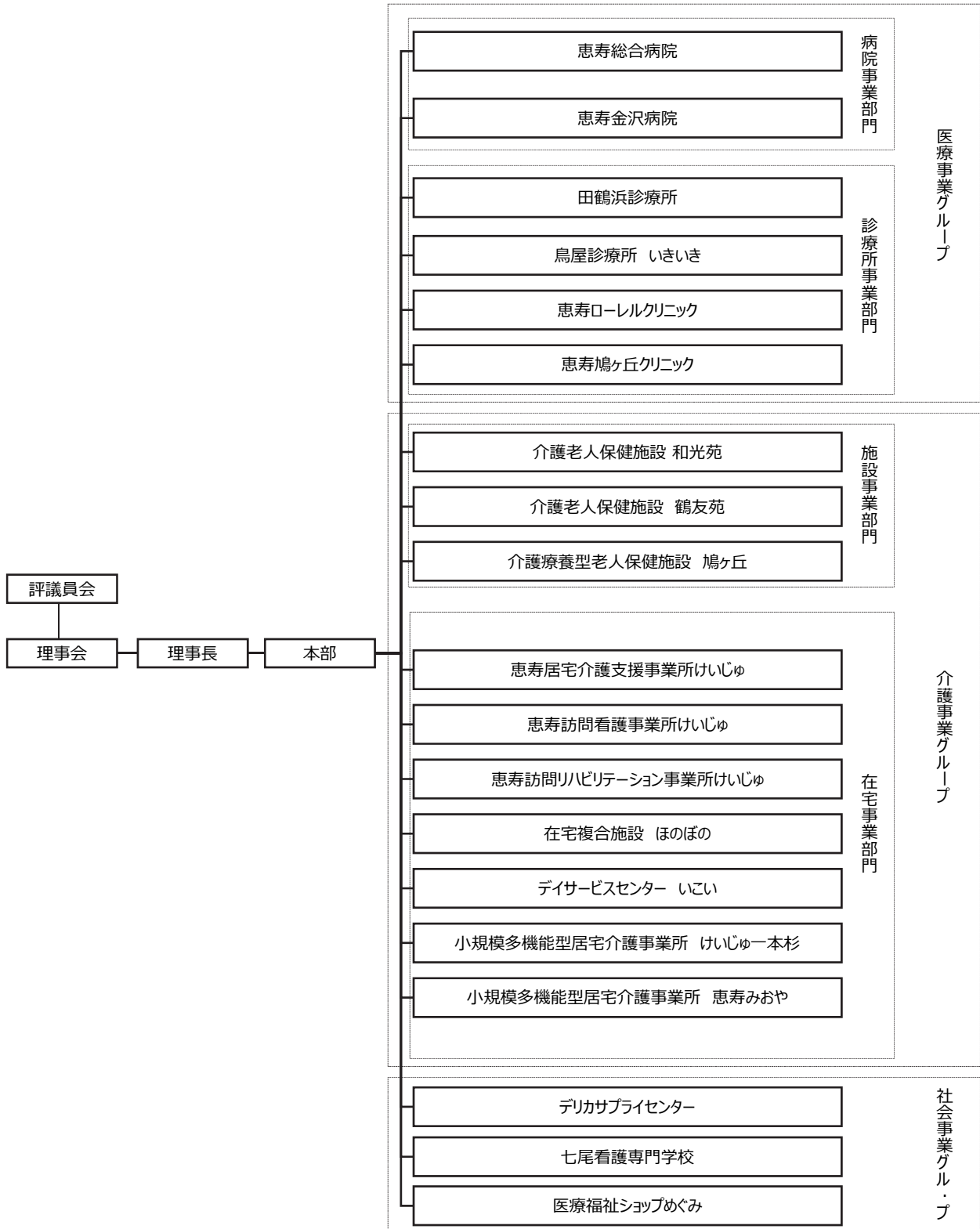
2015年 高齢者複合施設「ローレルハイム恵寿」開設
 恵寿健康管理センター「人間ドック健診施設機能評価」認定
 病院外から電子カルテの閲覧、操作可能なリモートアクセスシステムを開始
 オンデマンド送迎サービス「楽のり君」開始
 本院3病棟6階に「Keiju Innovation Hub」開設
 「けいじゅ一本杉」内に「一本杉 Café」を開設

2016年 恵寿総合病院「外国人患者受入れ医療機関認証制度」(JMIP)取得
 サービス産業生産性協議会(SPRING)より「第1回日本サービス大賞 総務大臣賞」受賞

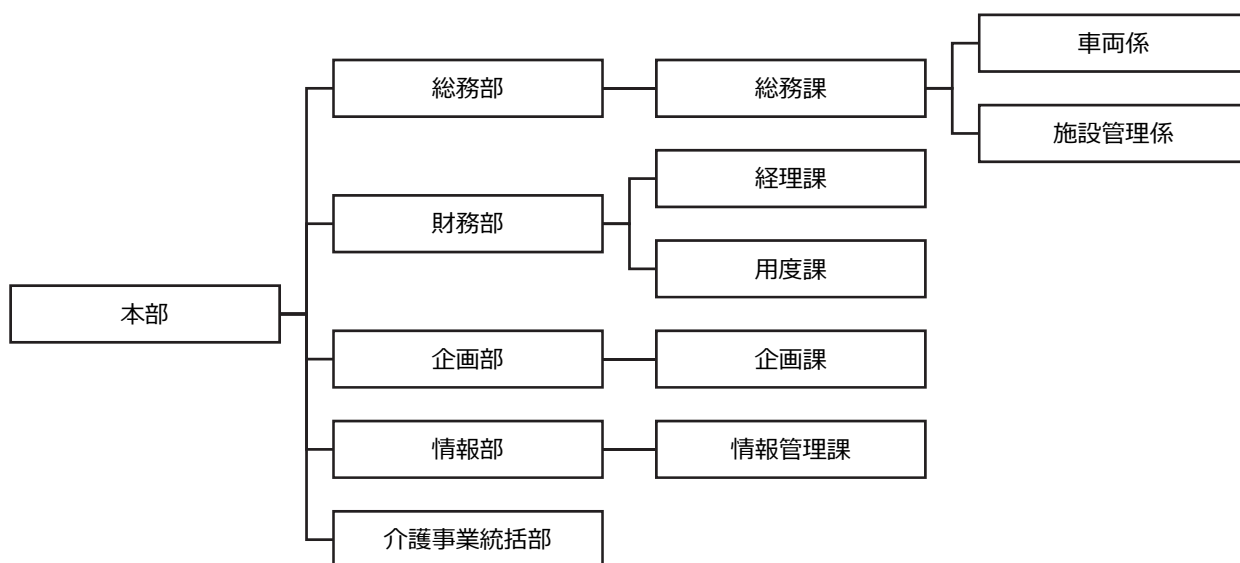
2017年 パーソナルヘルスレコード(PHR)カルテコを開始
 「第59回全日本病院学会 in 石川」開催(学会長 神野正博)
 (公社)日本デザイン振興会より「2017年度グッドデザインベスト100・特別賞[未来づくり]」受賞
 厚生労働省より「グッドキャリア企業アワード2017 イノベーション賞」受賞

2018年 健康経営優良法人2018~ホワイト500~認定

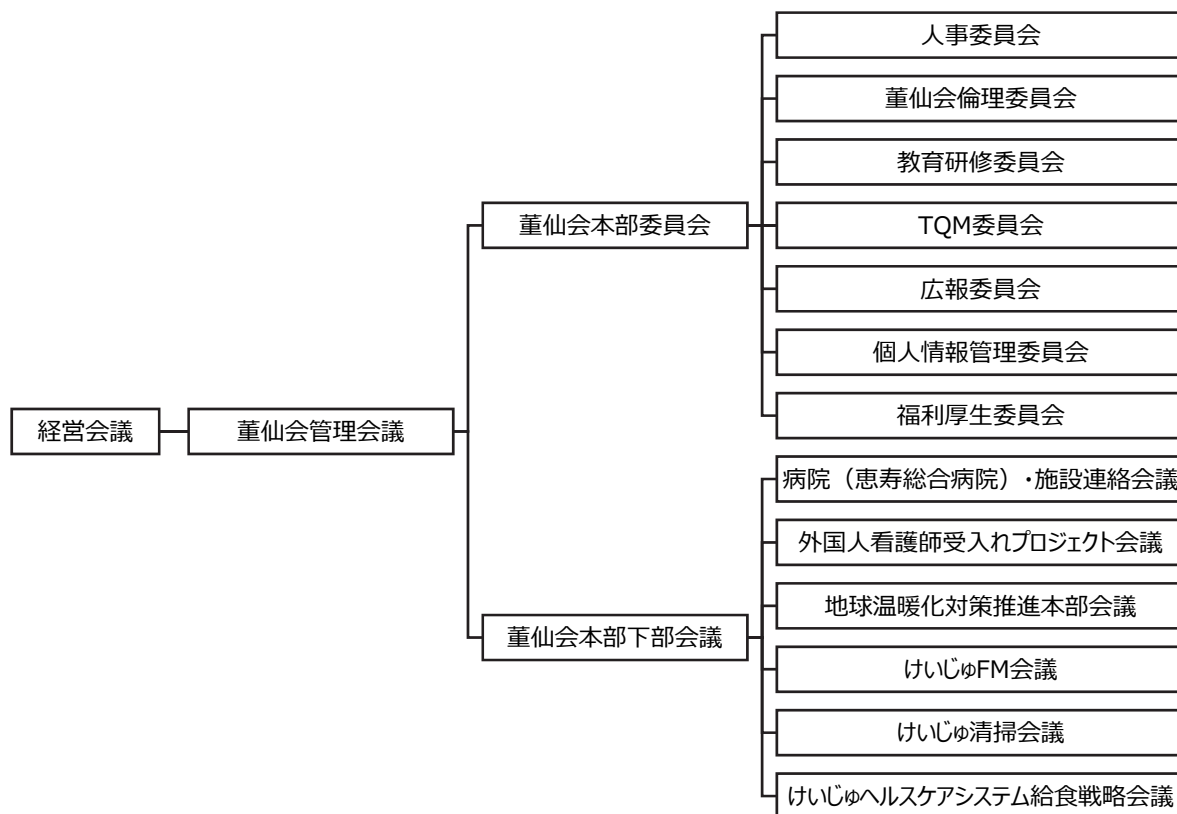
董仙会組織図



董仙会本部 組織図



董仙会 会議・委員会



人員の推移

職種別人員		2015年4月1日			2016年4月1日			2017年4月1日現在		
		恵寿 総合病院	他施設	合計	恵寿 総合病院	他施設	合計	恵寿 総合病院	他施設	合計
医 師	男	54	15	69	55	15	70	52	15	67
	女	8	2	10	10	1	11	9	1	10
薬 剤 師	男	7	1	8	7	1	8	7	1	8
	女	4	5	9	4	3	7	4	4	8
臨床検査技師	男	8	2	10	9	1	10	8	1	9
	女	15	4	19	16	6	22	16	6	22
診療放射線技師	男	11	2	13	12	0	12	11	0	11
	女	8	2	10	6	4	10	8	4	12
理学療法士	男	31	10	41	38	12	50	37	13	50
	女	14	3	17	13	5	18	15	4	19
作業療法士	男	7	3	10	8	2	10	9	1	10
	女	15	6	21	16	7	23	16	9	25
言語聴覚士	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	5	0	5	7	0	7	8	1	9
臨床工学技士	男	12	0	12	12	0	12	9	0	9
	女	5	0	5	6	0	6	5	0	5
視能訓練士	男	0	0	0	1	0	1	1	0	1
	女	3	0	3	2	0	2	3	0	3
臨床心理士	男	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士	男	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	女	8	7	15	10	7	17	10	7	17
救急救命士	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
義肢装具士	男	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉士	男	0	2	2	0	2	2	0	2	2
	女	10	6	16	13	6	19	11	6	17
健康運動指導士	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	1	1	0	1	1	0	1
保 健 師	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	6	0	6	4	0	4	5	0	5
助 産 師	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	11	0	11	11	0	11	9	0	9
看 護 師	男	39	2	41	33	8	41	39	8	47
	女	264	122	386	262	134	396	262	134	396
准看護師	男	6	0	6	5	1	6	4	2	6
	女	45	37	82	39	43	82	34	38	72
介護福祉士	男	0	29	29	0	29	29	0	31	31
	女	5	119	124	4	122	126	7	133	140
介護職員	男	0	8	8	0	10	10	0	7	7
	女	2	58	60	2	62	64	0	45	45
介護支援専門員 (ケアマネジャー)	男	0	2	2	0	2	2	0	2	2
	女	0	16	16	0	16	16	0	16	16
看護補助者	男	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	62	6	68	58	6	64	51	6	57
事 務 員	男	33	8	41	33	9	42	33	8	41
	女	86	16	102	87	21	108	93	27	120
運 転 手	男	4	8	12	5	8	13	6	6	12
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
警 備 員	男	2	7	9	2	7	9	2	7	9
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	男	1	1	2	1	1	2	1	4	5
	女	5	5	10	6	5	11	11	4	15
小計	男	218	101	319	223	109	332	222	109	331
	女	582	414	996	577	448	1,025	578	445	1,023
合計		800	515	1,315	800	557	1,357	800	554	1,354

恵寿総合病院 概要

所在地 石川県七尾市富岡町 94 番地

開設者 社会医療法人財団董仙会

理事長 神野 正博

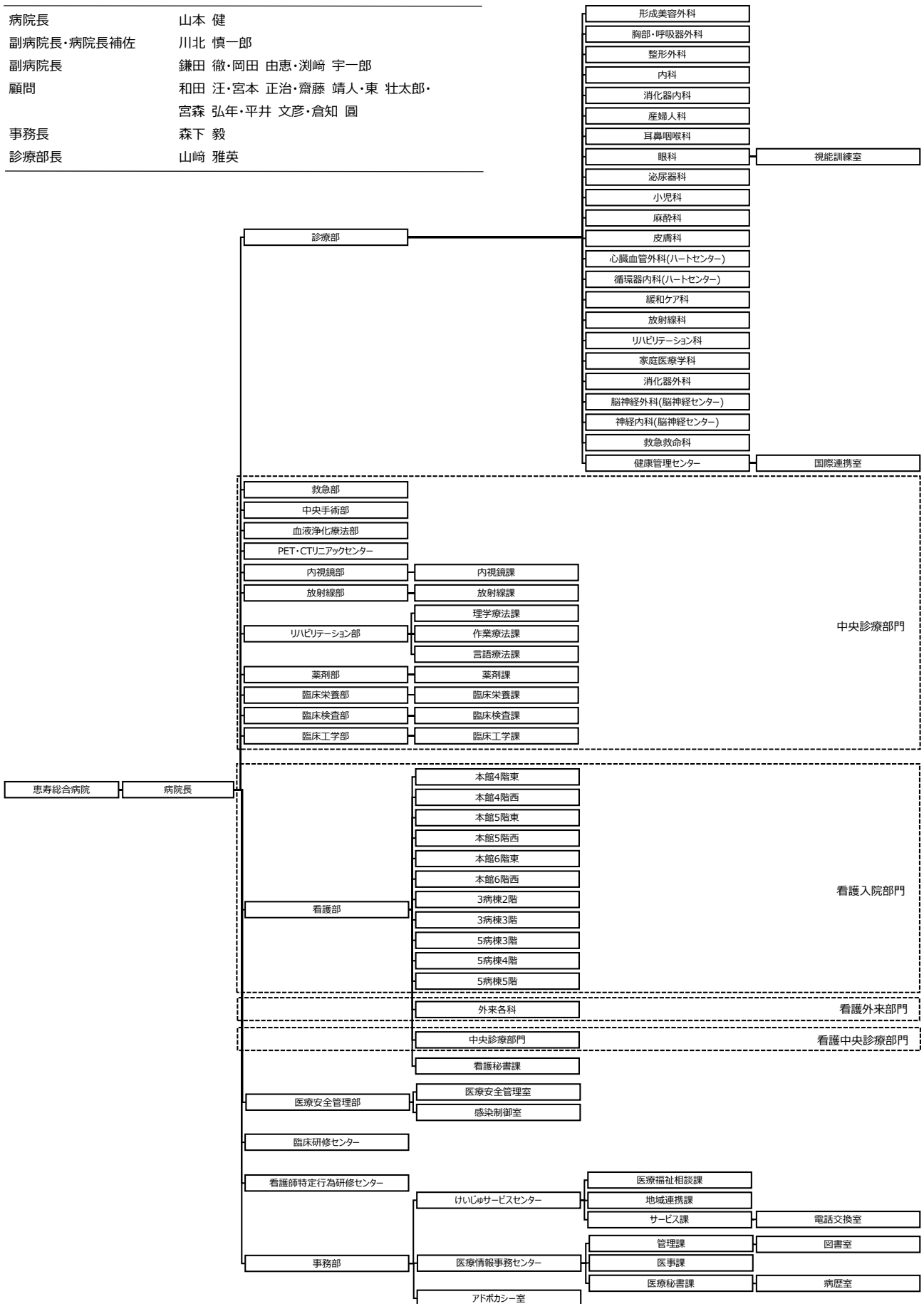
病院長 山本 健

病床数 426 床

診療科目 外科・消化器外科・乳腺外科・内科・消化器内科・
心臓血管外科・循環器内科・脳神経外科・神経内
科・整形外科・呼吸器外科・形成外科・美容外科・
産婦人科・家庭医療科・緩和医療科・小児科・眼
科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・麻酔科・皮膚科・リハビ
リテーション科・放射線科

恵寿総合病院組織図

病院長 山本 健
 副病院長・病院長補佐 川北 慎一郎
 副病院長 鎌田 徹・岡田 由恵・瀧崎 宇一郎
 顧問 和田 汪・宮本 正治・齋藤 靖人・東 壮太郎・
 宮森 弘年・平井 文彦・倉知 圓
 事務長 森下 毅
 診療部長 山崎 雅英



恵寿総合病院 会議・委員会

統括部門

恵寿総合病院管理会議
恵寿総合病院運営会議
倫理委員会
医療事故緊急会議
病院改善会議
院内医療事故調査委員会
救急部運営委員会
看護師特定行為研修管理委員会
看護師特定行為研修運営委員会

診療技術部門

臨床栄養委員会
NST
脳卒中地域連携パス管理委員会
リハビリテーション運営委員会
図書委員会
医療技術部門連携連絡委員会
認知症対策プロジェクト委員会

診療情報管理部門

診療情報提供委員会
診療情報管理委員会
電子パス委員会
DPC 評価委員会
化学療法委員会
緩和ケア委員会
がん診療連携推進委員会
中央手術部運営委員会
医療ガス安全管理委員会

教育部門

医療の質向上委員会
臨床研修管理委員会
臨床研修プログラム委員会
臨床研修運営委員会
救命救急実行委員会
恵寿総合病院医学雑誌編集委員会

臓器提供委員会
移植対策室
法的脳死判定委員会

医療安全管理部門

医療安全管理委員会
リスクマネジメント部会
感染防止対策委員会
インфекションコントロールチーム
治験審査委員会
呼吸療法委員会
診療材料委員会

診療部門

薬事審議委員会
救命救急実行委員会
集中治療運営委員会
輸血療法委員会
臨床検査適正化委員会
透析機器安全管理委員会
糖尿病委員会
外来運営委員会

事務部門

放射線安全委員会
安全衛生委員会
防災委員会

看護部門

病床運営委員会
褥瘡予防対策委員会

健康保険医療機関	栄養サポートチーム加算	ノタイプ判定)
国民健康保険療養取扱機関	医療安全対策加算 1	検体検査管理加算 (Ⅱ)
労災保険指定取扱機関	感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
母体保護法指定医	患者サポート体制充実加算	時間内歩行試験
身体障害者福祉法指定医	ハイリスク妊娠管理加算	ヘッドアップティルト試験
更生医療指定取扱機関	総合評価加算	神経学的検査
生活保護法指定取扱機関	呼吸ケアチーム加算	コンタクトレンズ検査料 I
療育医療指定取扱機関	病棟薬剤業務実施加算	小児食物アレルギー-負荷検査
結核予防法指定取扱機関	データ提出加算 2	画像診断管理加算 1
短期人間ドック指定病院	退院支援加算 1 (地域連携診療計画加算)	遠隔画像診断
原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱機関	認知症ケア加算 1	ポジトロン断層撮影
健康審査機関指定病院	精神疾患診療体制加算 2	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診医療機関	ハイケアユニット入院医療管理料 2	CT 撮影及び MRI 撮影
自動車事故後遺障害認定病院	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (体制強化加算 2, 充実加算)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
労災保険二次健診等給付医療機関	地域包括ケア病棟入院料 1 (看護職員配置加算)	外来化学療法加算 1
二次救急指定病院	入院食事療法 (Ⅰ)	無菌製剤処理料
臨床研修指定病院	糖尿病合併症管理料	心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)
日本医療機能評価機構認定証 (Ver6.0)	がん性疼痛緩和指導管理料	脳血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)
石川県地域がん診療連携協力病院	がん患者指導管理加算 1	運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)
短期入院協力病院	がん患者指導管理加算 2	呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)
産科医療補償制度加入機関	糖尿病透析予防指導管理料	がん患者リハビリテーション料
難病法の指定医療機関	院内トリアージ実施料	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
児童福祉法に基づく指定小児慢性特定疾病指定医療機関	ニコチン依存症管理料	脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む) 及び脳刺激装置交換術
特定行為研修指定研修機関	開放型病院共同指導料	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独)
地域における外国人患者受入れ拠点病院	ハイリスク妊産婦共同管理料 (Ⅰ)	経皮的中隔心筋焼灼術
〔健康保険法関係〕	がん治療連携計画策定料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
一般病棟入院基本料 7 対 1	がん治療連携指導料	大動脈バルーンパンピング法 (IABP 法)
障害者施設等入院基本料 10 対 1	肝炎インターフェロン治療計画料	胃瘻造設術
総合入院体制加算 3	薬剤管理指導料	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
超急性期脳卒中加算	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
診療録管理体制加算 1	医療機器安全管理料 1	輸血管理料 (Ⅱ)
医師事務作業補助体制加算 1 15 対 1	在宅療養後方支援病院	輸血適正使用加算 (輸血管理料Ⅱ)
急性期看護補助体制加算 3 50 対 1	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	貯血式自己血輸血管理体制加算
特殊疾患入院施設管理加算	HPV 拡散検出	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
療養環境加算	HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出 (簡易ジエ	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
無菌治療室管理加算 1		麻酔管理料 (Ⅰ)
無菌治療室管理加算 2		

日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本乳癌学会認定関連施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本プライマリ・ケア連合学会「恵寿家庭医療プログラム(ver.2.0)」認定
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本栄養士会栄養サポートチーム担当者研修認定教育施設
日本神経学会専門医制度教育関連施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定証 (JSPEN)
日本内科学会認定内科専門医教育関連施設	日本作業療法士協会作業療法士臨床実習指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本産婦人科学会専門研修連携施設指定
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度 (I&A 制度) 認定証
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本呼吸器学会関連施設認定
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設 (基幹病院: 金沢大学附属病院)
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	
日本救急医学会認定 救急科専門医指定施設	
日本整形外科学会認定医研修施設	
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	
日本血液学会認定研修施設	
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	
日本呼吸器内視鏡学会関連施設 (金沢大学附属病院)	
日本がん治療認定医機構認定研修施設	

恵寿金沢病院 概要

所在地 石川県金沢市下新町 6 番 26 号
TEL : 076-220-9192
FAX : 076-223-7378
病院長 上田 幹夫
病床数 89 床
診療科目 内科、血液内科、呼吸器内科、外科、胃腸・消化器外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、リウマチ科、リハビリテーション科

恵寿金沢病院 会議・委員会

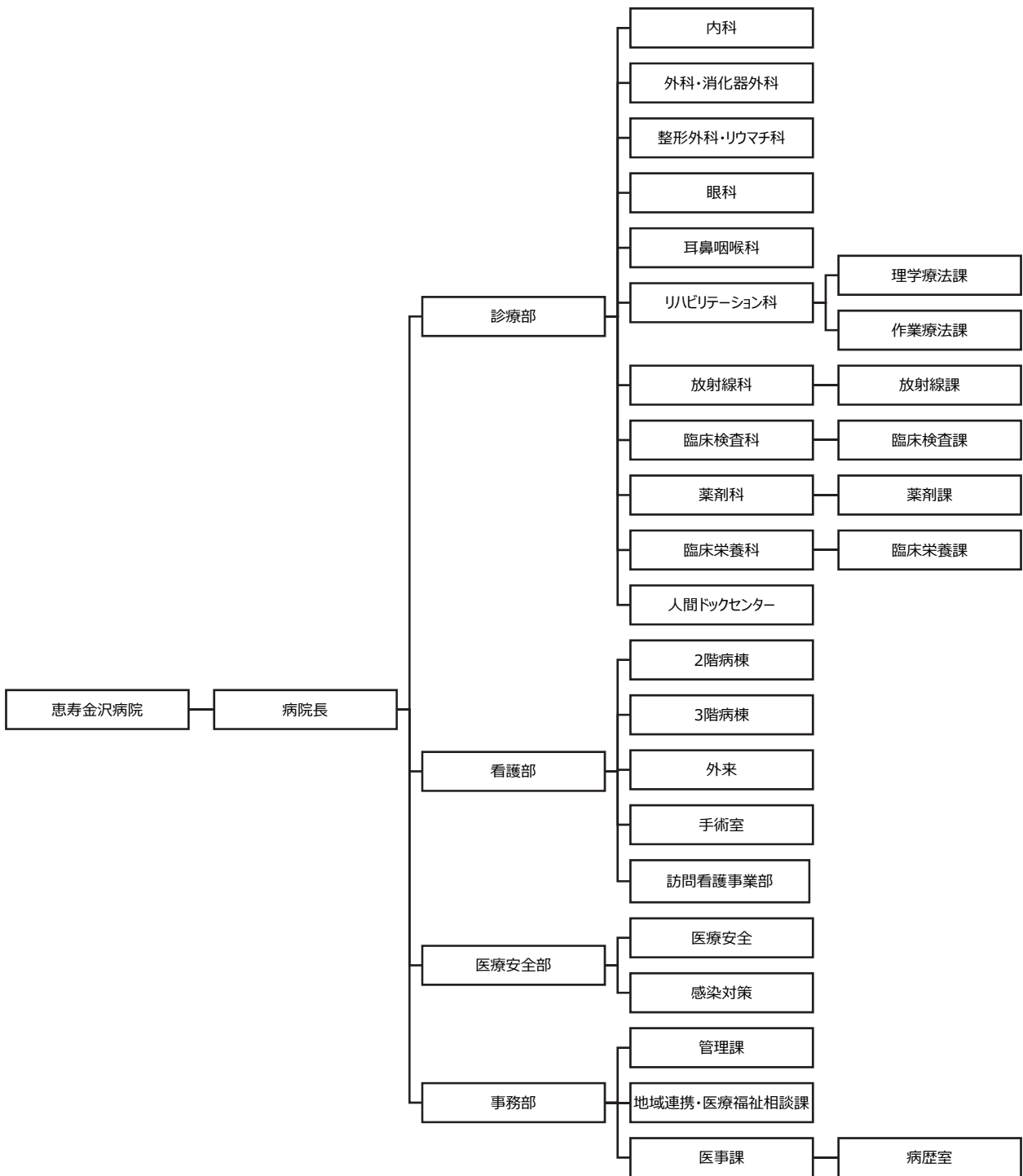
会議・委員会

運営会議
倫理委員会
診療情報管理委員会
院内感染対策委員会
医療安全管理委員会
保険診療委員会
薬事委員会
栄養委員会
医療機器・医材委員会
医療ガス安全管理委員会
臨床検査適正化委員会
輸血療法委員会
放射線管理委員会
治験審査委員会
褥瘡対策委員会
病床運営委員会
防災対策委員会
患者サポート委員会
手術室運営委員会
クリティカルパス委員会
化学療法運営委員会
軽症救急委員会
安全衛生委員会

部会

感染対策（ICT チーム）部会
リスクマネジメント部会

恵寿金沢病院 組織図



【基本診療料】

一般病棟入院基本料（7対1）
診療録管理体制加算 2
無菌治療室管理加算 1・2
感染防止対策加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
地域包括ケア入院医療管理料 1
データ提出加算 2
患者サポート体制充実加算
後発医薬品使用体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1
認知症ケア加算 2

【特掲診療料】

がん性疼痛緩和指導管理料
薬剤管理指導料
検体検査管理加算（Ⅱ）
時間内歩行試験
コンタクトレンズ検査料 1
CT 撮影及び MRI 撮影
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
輸血管理料（Ⅱ）
輸血適正使用加算

臨床研修病院指定

日本血液学会認定血液研修施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

徳充会 概要

所在地 石川県七尾市青山3部 22 番
Tel 0767-57-3309
Fax 0767-57-1531
理事長 神野 正博
職員数 456 人
総ベッド数 603 床

徳充会 各施設

障がい者事業

- 青山彩光苑リハビリテーションセンター
青山彩光苑ライフサポートセンター、セレーナ青山
〒926-0831 石川県七尾市青山町3部 22 番
- 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター
〒927-0023 石川県鳳珠郡穴水町字麦ヶ浦 15-39 番地 12
- 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜
〒929-2116 石川県七尾市吉田町昭部 6-1
- さいこうえんの障害者生活支援センター
〒926-0045 石川県七尾市袖ヶ江町 14-1
- さいこうえん障害者就業・生活支援センター
〒926-0045 石川県七尾市袖ヶ江町 14-1
- 石川県精育園〈指定管理〉
〒927-0021 石川県鳳珠郡穴水町七海 6-50
- 自立ホームけいじゅ、ヘルパーステーション銀河、
相談支援キララ
〒927-0053 石川県鳳珠郡穴水町此木 11-24

高齢者事業

- 特別養護老人ホーム エレガントなぎの浦
ケアハウス アンジェリナなぎの浦
〒926-0853 石川県七尾市津向町卜部 107 番地 4
- 地域密着型介護老人福祉施設 エレガントなぎの浦
〒929-2121 石川県七尾市田鶴浜町り部 11 番地 1
- 高齢者複合施設 ローレルハイツ恵寿
ヘルパーステーション ローレル
〒926-8607 石川県七尾市富岡町 95 番地
- デイサービスセンター もみの木苑
〒929-2121 石川県七尾市田鶴浜町り部 27 番地
- デイサービスセンター ふれあいの里
〒926-0841 石川県七尾市松百町 2-57-1

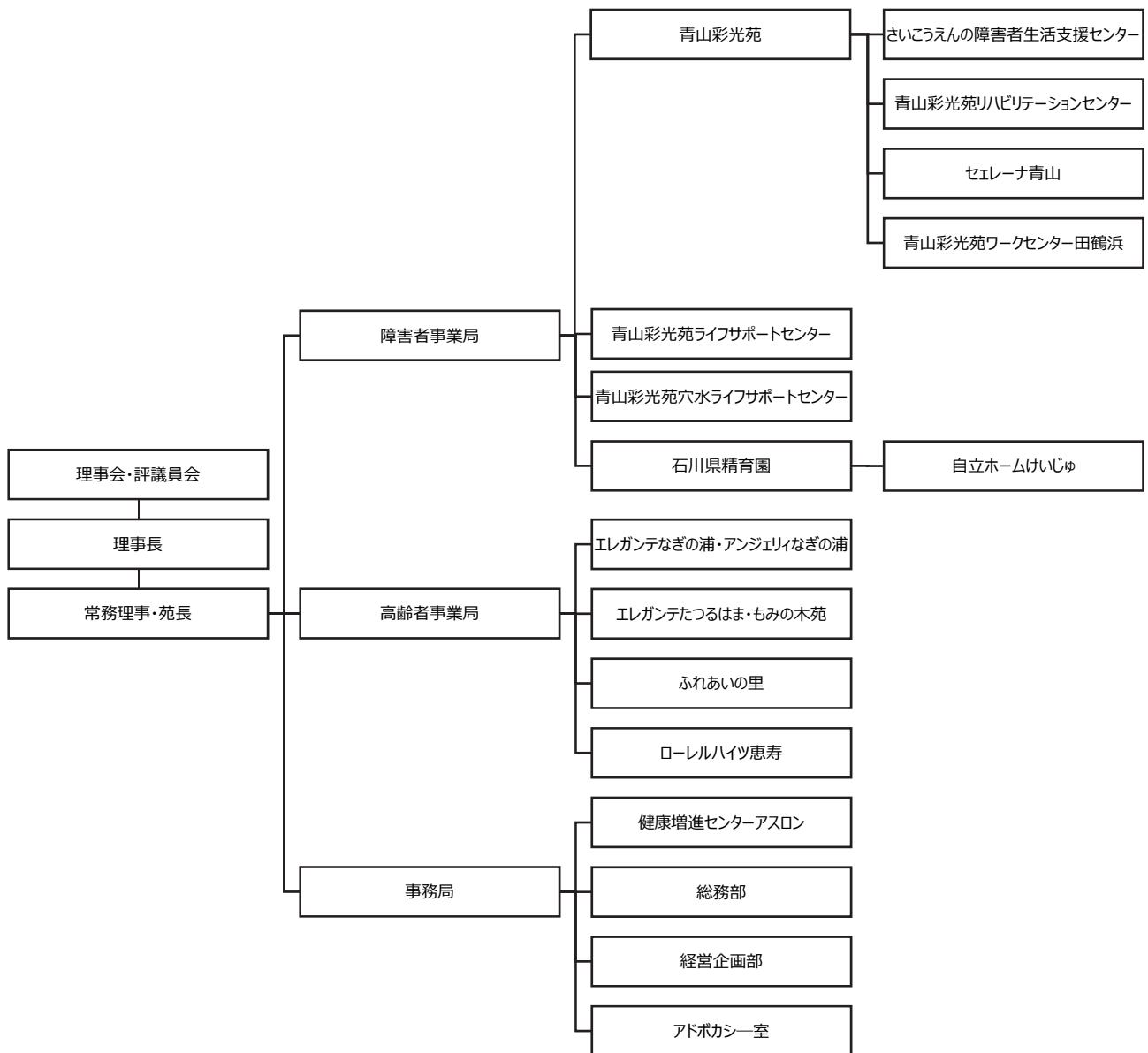
その他

- 健康増進センター アスロン〈指定管理〉
〒929-2111 石川県七尾市高田町ち部 10 番地

徳充会 沿革

- 1984 年 社会福祉法人「徳充会」設立
- 1985 年 重度身体障害者更生援護施設「青山彩光苑」開設
- 1989 年 身体障害者療護施設「青山彩光苑」開設
- 1989 年 ショートステイ事業開始
- 1993 年 療護施設 50 床増床
- 1994 年 在宅障害者デイサービス事業開始
- 1997 年 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜開設
- 1997 年 バリアフリーホームセレーナ青山開設
- 1999 年 特別養護老人ホーム「エレガントなぎの浦」開設
- 1999 年 ケアハウス「アンジェリナなぎの浦」開設
- 2003 年 「さいこうえんの障害者生活支援センター」開設
- 2004 年 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター開設
- 2006 年 デイサービスセンターもみの木苑開設
- 2006 年 ヘルパーステーションもみの木苑開設
- 2007 年 特別養護老人ホーム「エレガントなぎの浦」開設
- 2007 年 デイサービスセンターふれあいの里開設
- 2011 年 健康増進センターアスロンを指定管理者として運営開始
- 2012 年 障害者生活支援センターを七尾市袖ヶ江町に移転
- 2013 年 石川県精育園を指定管理者として運営開始
- 2015 年 エレガントなぎの浦 増床
- 2015 年 ローレルハイツ恵寿ケアハウス(一般、特定)開設
- 2015 年 ローレルハイツ恵寿サービス付高齢者住宅 開設
- 2015 年 ヘルパーステーションローレルに名称変更
- 2016 年 相談支援キララ 石川県精育園内へ移転し、スマイル S と統合
- 2018 年 自立ホーム穴水を自立ホームけいじゅに名称変更し、穴水町此木へ移転
- 2018 年 ヘルパーステーション銀河 開設
- 2018 年 相談支援キララを自立ホームけいじゅ内に移転

徳充会 組織図



人員の推移

		2015年4月1日	2016年4月1日	2017年4月1日
医師	男	1	1	0
	女	0	0	0
理学療法士	男	2	2	3
	女	2	2	3
作業療法士	男	2	2	2
	女	2	2	2
あん摩マッサージ指圧師	男	1	2	2
	女	0	0	0
管理栄養士	男	0	0	0
	女	7	7	6
健康運動士	男	0	0	1
	女	4	4	5
社会福祉士	男	7	6	9
	女	9	9	13
精神保健福祉士	男	0	1	1
	女	0	0	0
看護師	男	0	0	0
	女	23	23	21
准看護師	男	0	0	0
	女	17	18	18
介護福祉士	男	39	42	54
	女	119	129	142
介護職員	男	33	36	37
	女	84	94	82
介護支援専門員 (ケアマネジャー)	男	1	1	1
	女	4	4	4
社会福祉主事	男	1	1	1
	女	3	2	1
事務員	男	7	6	5
	女	13	13	14
運転手	男	9	8	9
	女	0	0	0
その他	男	10	8	7
	女	3	5	9
小計	男	113	116	132
	女	290	312	321
合計		403	428	453

徳充会 会議・委員会

【会議】

部長会議

障がい者部門会議

高齢者部門会議

【常任委員会】

教育研修委員会

福利厚生委員会

【事業推進委員会】

事例研究大会委員会



第 2 章
法人報告
事業報告

2017 年度けいじゅヘルスケアシステム方針

文明が開化した明治維新より 150 年が経過する。50 年周期に時代は変わる。近代国家への道、大戦・敗戦と復興、そして団塊の世代という人口ボーナスによる繁栄期である。そして、次の 50 年は、その団塊の世代がいよいよ高齢世代へ突入し、しかも人口減社会を迎えようとしている。

これまでと異なる価値観を持つ高齢世代に我々是对応する必要がある。ネガティブ思考ではなく**意志をもって高齢社会をリード**する必要がある。われわれが持つ医療介護福祉間で、さらには地域社会との間で**全体最適**を図りながら、先を読み、気働きを利かせながらサービスを提供する。それが、**患者満足、利用者満足**につながり、かつ**職員のやりがい**にもつながるに違いない。

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

患者・利用者、そして職員が笑顔になるために、**患者・利用者の価値中心の医療介護福祉**を目指そう。**職員の仕事の質**を見直そう。

『今こそ QOL 経営を実践しよう』

* 患者・利用者の価値中心：アウトカム、情報提供や相談支援、患者の選択、患者参加、患者教育など

* QOL：Quality of Life 生命の質ばかりではなく、特に患者・利用者の生活（在宅生活、入院生活、入所生活）の質を考えよう。そして、職員の生活の質も考えよう。

TQM 発表大会（董仙会）

■前期 第14回 2017年9月30日（土）コスモアイル羽咋 大ホール

セッション1 『患者・利用者のQOL』 座長：恵寿総合病院 薬剤部長、泌尿器科科長 川村 研二

サークル・部署	テーマ
原点回帰（3-2、救急外来、中央手術室）	超緊急手術患者の受け入れを迅速に行う
内視鏡課	大腸内視鏡検査・腸管洗浄液飲用における新たな取り組み ～1年を経過して～
ケアサポートすみれ	がんサポート看護外来の活動
つなげ隊	スピーディに返書をお届けする為に
◎POS	生活行為向上に向けたリハビリプログラムの推進～生活行為向上リハ加算取得に向けたシステムの構築～

セッション2 『高齢社会をリードする』 座長：恵寿総合病院 診療部長 内科科長 山崎 雅英

サークル・部署	テーマ
3rdGで看護の質をみなおし隊！	第三者評価にむけて整備する
◎スノードロップ(恵寿金沢病院2階病棟)	移植看護の標準化にむけての取り組み
ひまわり(5-4・5-5・MSW・居宅支援事業所)	面倒見の良い退院支援 ～他職種との連携～
Team中能登(リハビリテーション部)	中能登町での介護予防・日常生活総合事業への取り組み ～訪問・通所一休型短期集中予防サービス「スーパー元気アップ塾」～
臨床検査課	臨床検査課におけるBCPマニュアル整備、そしてBCMへ

セッション3 『患者・利用者・職員のQOL』 座長：恵寿総合病院 事務長 森下 毅

サークル・部署	テーマ
ラダーGO (本院看護部、金沢病院、HCU、5西、5東)	日本看護協会版看護師のクリニカルラダーへの転換 ～恵寿式地域包括ケアシステムを支え、当法人内で働くすべての看護師のために～
◎内服管理実践チーム	シンプルで確実な内服管理を行う！ ～新たな仕組みの構築～
E・G・G医事課（恵寿金沢病院 医事課）	外国人患者に慌てない窓口対応
PMS（医療福祉相談課、医療秘書課）	患者QOL重視のために、退院支援体制を充実させよう！
董仙会 管理栄養士	施設間の連携のために栄養情報を正確に伝達する

◎：優秀サークル

■後期 第15回 2018年3月17日（土）コスモアイル羽咋 大ホール

セッション1 『顧客のQOL』 座長：恵寿金沢病院 事務長 森田 均

サークル・部署	テーマ
◎恵寿総合病院 看護部 3病棟2階	災害時でもお母さん赤ちゃんを守ります～地域とのネットワークづくり その第一歩～
恵寿総合病院 臨床工学課	患者のQOL向上のために、透析患者の筋肉量減少予防の取り組み ～患者教育～
サービス課、地域連携課、医事課、医療秘書課	満足感のある外来受診のために、本館での待ち時間の短縮
ビューティ・ケア（鳩ヶ丘・鶴友苑・和光苑）	施設入所の受け入れ対象者拡大のための取り組み
恵寿総合病院 放射線課	患者不安解消のための検査説明業務の取組み

セッション2 『職員のQOL』 座長：恵寿金沢病院 内科科長 村田 了一

サークル・部署	テーマ
恵寿金沢病院 看護部 2階病棟	患者の退院後の生活を整えるためにできること～当病棟における退院支援・調整方法の現状を振り返って～
総務部、介護事業統括部、健康管理センター	職員のQOL向上のためにホワイト500、プラチナくるみん等認定を目指す
◎「ふやし隊」パート2	ポイント制の導入により夜勤人員を確保する一人でも1回でも夜勤ができる看護師を増やす～
恵寿総合病院看護部 6東、6西、5西、5-5、3-3	看護の質を上げ、患者もスタッフも笑顔に！～ロールプレイによりマインドを理解し、PNS定着を図る～
笑顔で介護！全介護事業所	介護キャリア段位制度の推進～アセッサー及び被評価者養成による仕事の質の向上～

セッション3 『QOL経営』 座長：恵寿総合病院 耳鼻咽喉科科長 山田 和宏

サークル・部署	テーマ
◎BEANSサークル(恵寿総合病院 地域連携課)	連携医療機関エリア拡大による医療、介護のあるまちづくり ～能越自動車道を利用した氷見市への営業拡大～
DPC連合（事務部、看護部 本部 企画部）	増収のためのDPCデータの理解と有効活用
インベントリー（経理課、用度課、臨床工学課）	医療機器の棚卸し
Healthy（健康管理センター、本部）	NEW健診プログラムの見直しとPET健診予約ツールを拡張し、健診を充実させる
「訪問看護に行こう。そだね」 (恵寿金沢病院外来・3階病棟・地域連携課)	退院後の患者さんの生活を支えるために、訪問看護を立ち上げる

◎：優秀サークル

事例研究大会（徳充会）

■ 大会テーマ『質の向上を目指して ～利用者・職員の笑顔のために～』

■ 日 時：2018年2月24日（土）青山彩光苑内

第1部

所属	発表者	タイトル
エレガントなぎの浦	柿島 栄美子・刀祢 千恵・石本 すみ江・山本 眞実枝	音楽教室で脳と身体をリフレッシュ
もみの木苑 庵 実里		笑顔ある時間を ～精神的不安を軽減するために～
ローレルハイツ恵寿 土田 智己		サ高住での生活を継続したい ～自分らしい生活スタイル～
☆青山彩光苑ライフサポートセンター	加島 宏祐・岩木 峰香	その屋外散歩は本当に楽しいの？ ～ストレス測定してわかったこと～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	高見 翼	ポッチャにかけける思い ～更なる高みへの挑戦～
石川県精育園 町中 可織		自分で決めたい ～自己選択・自己決定を支援する～
◎青山彩光苑リハビリテーションセンター	山科 ゆかり	杖を自分の目にして活かす ～自由に動きたい～
石川県精育園 堀内 潤		こだわりを持つ利用者様への良き支援
◎エレガントなぎの浦 諸谷 百合子		施設での看取りを考える
青山彩光苑ライフサポートセンター	橋本 拓也・坂下 美雪	利用者が新しい体験をする取り組み ～季節を感じ、楽しみを求めて～
○青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	西谷 愛	障がい者週間・福祉教育 ～達成感を得るために～
石川県精育園 水口 恵美・濱谷 江美・米屋 能利子・土場 悦子・畑介 津江・平譯 麻理		ウォシュレットの使用練習を通じて、排泄への識が高まり、失禁の減少につながった1事例

第2部

所属	発表者	タイトル
エレガントなつるはま 藤澤 恵		穏やかに過ごして頂く為に～暴言のある利用者と他利用者の関係性について～
ふれあいの里 谷口 美帆・久保 由美子・出村 陽子		バリデーションを通して ～言葉だけじゃない～
エレガントなぎの浦 大坂 直美		業務の効率化
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	碓井 求・大町 みずき	東京旅行 ～楽しく旅行に行こう～
健康増進センターアスロン		快適な空間づくり ～ストレスフリーなトレーニングジム～
茅崎 雅孝・谷口 ひとみ・松本 雅予・宮本 佳奈		
青山彩光苑ライフサポートセンター	浦上 智和	釣りクラブの活動について ～安全に楽しんでもらうために～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	船山 和浩	利用の安定から心身機能の向上を目指して ～成功体験によって取り戻した自信～
エレガントなぎの浦 山口 直美・久岡 タ子		摂食嚥下評価から新たな取り組みに向けて
☆青山彩光苑リハビリテーションセンター		自分の大切な人を利用させたい施設づくり
中村 智子・佐竹 綾乃		～介護のあり方検討委員会として今、担うべき役割～
☆エレガントなぎの浦 前澤 小百合・安田 美和子		排泄グループ支援 ～排泄体操をととして～
○ふれあいの里		中重度者ケアへの取り組み ～大人の塗り絵展に参加して～
中田 智美・室木 睦・谷口 由美子・西川 繁子		
ローレルハイツ恵寿 中川 千恵		ポケットのある褥瘡処置について ～治癒を目指す～

第3部

所属	発表者	タイトル
青山彩光苑ライフサポートセンター	松柳 満城子	生活の質の向上を目指して
石川県精育園 谷口 秀人		言葉が表出できない最重度知的障害者に対し、行動から意思を汲み取り、支援に結びつけた一事例
障害者生活支援センター	越田 美喜子	医療的ケア児の支援 ～家族の負担の大きさと地域課題～
事務局経営企画部	川北 良太	社会福祉充実残額の算定について
ワークセンター	田鶴浜 古木 勉	安定した水耕栽培を目指して ～農薬使用について～
石川県精育園 栃木 和美		いつか一人暮らしをしてみたい ～グループホーム入居者への自立支援～
石川県精育園 森本 郁・水端 郁枝・平譯 麻理・岡峰 悦子		「利用者ニーズ」を曲として表現する取り組み ～歌に想いをのせて～
青山彩光苑ライフサポートセンター	松田 望	QOL 向上を目指した支援 ～可能性を求めて～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	宮西 竜太郎	脱！！ オムツ
もみの木苑 柿島 善浩・津崎 智美		季節を感じる施設づくりを目指して ～制作支援を通じて～
ヘルパーステーションローレル	大畠 博美	三つの夢を叶えたい ～向上心を持って～
☆エレガントなぎの浦		ついに発足！ 接遇向上委員会 ～職員一人一人のスキルアップへの道～
佐々木 路香・西田 恵・順毛 沙弥香・受川 いづみ		

【障がい者事業局・高齢者事業局】◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：苑長賞

第2章 法人方針・事業報告

メディア掲載（董仙会）

日付	内容	掲載媒体
2017.4.2	病院の実力～石川編 脳腫瘍 2016 年治療実績	読売新聞
2017.4.4	新任式	北國新聞
2017.4.18	七尾商工会議所新副会頭 神野正博理事長 新任挨拶	北國新聞・北陸中日新聞
2017.4.26	ムラタ(福井市)より車いす寄贈（在宅複合施設ほのぼの）	北國新聞
2017.4.29	「花嫁のれん」フラッグが院内を彩る	北國新聞
2017.5.11	ななおあいじこども園 35 人 プチナース・ふれあい看護体験	北國新聞
2017.5.21	ふれあい看護体験（助産師体験）	北國新聞
2017.6.3	スーパー元気アップ塾開設	北國新聞・北陸中日新聞
2017.6.23	寄り合い処カフェ「みらい Café」オープン	北國新聞・北陸中日新聞
2017.6.29	全国 49 社 イクボス宣言	北國新聞
2017.7.6	県内初の喀痰吸引等研修センター開講	北國新聞・北陸中日新聞
2017.7.15	恵寿総合病院 100 歳お祝い	北國新聞
2017.7.22	大腸がんリスク採血検査 北陸初導入	北國新聞・北陸中日新聞
2017.8.3	「栄養の日」イベント開催	北國新聞
2017.8.8	高齢者向け健康教室（介護老人保健施設 鶴友苑）	北國新聞
2017.8.10	ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業	北國新聞
2017.8.11	七尾高校生 病院見学、若手職員と交流	北陸中日新聞
2017.8.24	自分のカルテをスマホで確認できるサービス導入	北國新聞
2017.8.30	七尾高校で出前授業開催	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.4	自分のカルテをスマホで確認できる「カルテコ」導入	北陸朝日放送「スーパー」チャンネル 石川テレビ「みんなのニュース」
2017.9.5	自分のカルテをスマホで確認できる「カルテコ」導入	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.6	自分のカルテをスマホで確認できる「カルテコ」導入	読売新聞
2017.9.10	全日本病院学会 in 石川が開幕	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.12	鶴友苑 100 歳お祝い	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.25	七尾海上保安部の洋上救急慣熟訓練	石川テレビ「県内 NEWS PICKUP」
2017.9.26	七尾海上保安部の洋上救急慣熟訓練	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.30	特定行為研修センター修了式 特定行為看護師 5 名誕生	北國新聞・北陸中日新聞
2017.10.4	グッドデザイン賞 北陸 3 県で 31 件	日本経済新聞
2017.10.5	「ユニバーサル外来」グッドデザイン賞ベスト 100 に選出	北國新聞・北陸中日新聞
2017.10.5	「ユニバーサル外来」グッドデザイン賞ベスト 100 に選出	NHK「NHK ニュース」
2017.10.17	カラダの経済学 健康管理は自ら行う時代～データヘルス計画	BS ジャパン「日経モーニングプラス」
2017.10.19	一本杉 Café 「振り込め詐欺防止講座」	北國新聞

日付	内容	掲載媒体
2017.10.20	再就業支援セミナーを恵寿総合病院で開催	北國新聞
2017.10.20	石川県健康増進事業推進功労者表彰 宮森弘年 医師	北國新聞
2017.10.31	七尾市長杯争奪市民軟式野球大会 3回戦進出	北國新聞
2017.11.2	「ユニバーサル外来」グッドデザイン特別賞を受賞	北國新聞
2017.11.10	グッドキャリア企業アワード 2017 イノベーション賞受賞	北國新聞
2017.11.11	グッドキャリア企業アワード 2017 董仙会が選出	北陸中日新聞
2017.11.19	羽咋高校「医志未来塾」を開催	北國新聞
2017.11.27	医療ルネサンス「新米ママ見守る看護師」	読売新聞
2017.11.28	グッドキャリア企業アワード表彰式	北陸中日新聞
2017.11.29	在宅複合施設ほのぼの 100歳お祝い	北國新聞、北陸中日新聞
2017.12.14	「カルテコ」で診断画像をいつでも確認できる機能を追加	北國新聞
2017.12.15	家庭医療専門医 2名が合格 能登初	北國新聞
2017.12.16	「カルテコ」スマホで検査画像を確認できる機能を追加	北陸中日新聞
2018.1.1	災害時に医療情報放送 ラジオななおと協定	北國新聞
2018.1.5	恵寿総合病院 新年互礼会、出初め式	北國新聞
2018.1.6	和光苑 100歳お祝い	北國新聞・北陸中日新聞
2018.1.17	グッドデザイン賞を受賞した診察室って...	日経デジタルヘルス
2018.1.30	ラジオななおで災害時医療情報協定について紹介	北國新聞
2018.2.21	健康経営優良法人に認定	北國新聞
2018.2.26	2018 マリンカップフットサル大会 恵寿 FC が優勝	北國新聞
2018.2.27	中央大学（東京）で Uターン就職について PR	北國新聞
2018.3.1	中央大学（東京）で Uターン就職について PR	読売新聞
2018.3.9	能登地域の産科医療について	北國新聞
2018.3.20	山田邦子さんチャリティーコンサート告知	北國新聞
2018.3.23	山田邦子さんチャリティーコンサート開催	北國新聞・北陸中日新聞
2018.3.23	臨床研修修了式	北國新聞
2018.3.24	臨床研修修了式	北陸中日新聞
2018.3.31	「カルテコ」妊婦向けサービス勉強会	北國新聞

メディア掲載（徳充会）

日付	内容	掲載媒体
2017.5.16	七尾鹿島安全運転協議会 平成 28 年度優良事業所表彰 (青山彩光苑)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.5.16	天皇皇后両陛下のお手播きされた種から育った苗木を植樹(石川県精育園)	北國新聞
2017.5.25	ポッチャ県大会でメダル(穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞
2017.7.15	グラウンドの無料開放(ふれあいの里)	北國新聞
2017.7.26	エレガンテナぎの浦 納涼祭(エレガンテナぎの浦)	北陸中日新聞
2017.7.27	障がい者施設防犯対策整備状況(石川県精育園)	北陸中日新聞
2017.7.27	モバイルデバイスのための携帯電話等の寄付 NTT ドコモへ(青山彩光苑)	北國新聞
2017.7.30	夏祭り(穴水ライフサポートセンター)	北國新聞
2017.9.7	青山彩光苑入居者の桶屋氏、冊子「車椅子目線からめぐる七尾の旅」製作 (青山彩光苑)	北陸中日新聞
2017.9.9	救命講習徐行優良証交付式(青山彩光苑)	北陸中日新聞
2017.9.15	平成 29 年自衛消防隊訓練大会参加メンバー紹介(青山彩光苑)	七鹿防災
2017.9.18	フライングディスク 穴水ライフ利用者優勝(穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞
2017.10.5	穴水で障がい者が仕事体験(穴水ライフサポートセンター)	北國新聞
2017.10.15	北陸ポッチャオープン大会 穴水ライフ利用者優勝(穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞
2017.10.16	北陸ポッチャオープン大会 穴水ライフ利用者優勝(オープンの部) (穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞・北國新聞
2017.10.21	穴水の施設から優勝者 2 人も(穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞
2017.11.7	石川県精育園利用者らが作詞作曲した歌を精育園祭に披露 (石川県精育園)	北陸中日新聞
2017.11.9	障がい者週間の啓蒙活動(七尾駅でクリアファイル配布)(青山彩光苑)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.11.12	健康麻雀交流大会(穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞
2017.11.23	障がい者週間イベント(徳田小学生 4 年生児童との交流) - 青山彩光苑 -	北國新聞・北陸中日新聞
2017.11.23	青山彩光苑 防犯訓練 - 青山彩光苑 -	北國新聞
2017.12.3	石川県精育園で公開講座を開催	北陸中日新聞
2017.12.9	石川県精育園利用者の作品展、穴水町立図書館にて	北陸中日新聞
2017.12.10	障がい者週間イベント～講演会を含む各種イベントについて～ (青山彩光苑)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.12.10	障がい者週間イベント～講演会を含む各種イベントについて～ (穴水ライフサポートセンター)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.12.16	石川県精育園 防犯訓練(石川県精育園)	北陸中日新聞
2018.1.11	石川県精育園利用者の作品展、のと共栄信用金庫穴水支店にて	北陸中日新聞
2018.3.27	自立ホームけいじゅ 竣工式	北陸中日新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	来訪者	見学内容
2017.4.12	横浜市南部病院（副院長他、計6名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.4.18	社会医療法人天神会（法人本部長他、計7名）	セントラルキッチン、コールセンター
2017.4.25	社会医療法人帰巖会みえ病院（本部医療事業部長他、計3名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.5.18	河北総合病院（3名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.5.23	東海北陸厚生局（1名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.5.26	社会福祉法人石龍会（4名）	セントラルキッチン
2017.6.1	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス（6名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.6.5	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院（2名）	広報
2017.6.6	一般財団法人竹田健康財団（5名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.6.16	公立大学法人 福島県立医科大学 医学部 教授	けいじゅヘルスケアシステム
2017.8.9	石川県立七尾高等学校（9名）	病院見学
2017.9.8	学会前日エクスカージョン（5団体13名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.9.11	山本記念病院（理事長他、2名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.9.22	湘南医療大学（4名）	リハビリテーション部
2017.10.10	公益財団法人日本デザイン振興会（1名）	ユニバーサル外来
2017.10.26	浜脇整形外科病院（理事長他、計8名）	電子カルテシステム
2017.11.1	大阪滋慶医療科学大学院大学（特任教授他、計2名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.16	医療法人社団 晴山会（法人本部長他、計2名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.17	京都府病院協会（理事長・病院長 計16名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.18	石川県立羽咋高等学校2年生（34名）	病院見学、医療職体験
2017.11.20	学校法人七尾鵬学園 鵬学園高校1年生（23名）	病院見学
2017.11.20	フロスト&サリバンジャパン（プリンシパルコンサルタント他、計1名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.24	三菱商事 生活流通本部 ヘルスケア部（計4名）	けいじゅヘルスケアシステム セントラルキッチン
2017.12.11	田主丸中央病院（理事長他、計6名）	けいじゅヘルスケアシステム セントラルキッチン
2018.1.4	戸田建設（執行役員他、計4名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.1.31	社会福祉法人 恩賜財団 東京都済生会中央病院（2名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.3.2	JAHIS 保健医療福祉情報システム工業会（4名）	PHR、コールセンター
2018.3.7	大阪市立大学大学院医学研究科（1名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.3.17	公益財団法人日本デザイン振興会（2名）	ユニバーサル外来

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2017.4.12	恩賜財団済生会横浜市南部病院（6名）	ローレルハイツ恵寿
2017.4.25	社会医療法人帰巖会えみ病院（3名）	ローレルハイツ恵寿
2017.5.24	石川県田鶴浜高等学校衛生看護科専攻科 （教員2名、2年生37名 計39名）	青山彩光苑案内
2017.6.5	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.6.6	一般財団法人竹田健康財団（5名）	ローレルハイツ恵寿
2017.7.6	羽咋市社会福祉協議会（15名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	医療法人社団まほし会 真星病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	平山病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	山鹿中央病院（4名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	東京海上日動火災保険株式会社医療福祉法人部（3名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	浅井病院（3名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.11	山元記念病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.14	能登地区 居宅ケアマネージャー（6名）	ローレルハイツ恵寿
2017.10.13	七尾国際医療福祉専門学校 介護福祉学科（教員、生徒7名）	青山彩光苑内
2017.10.24	浜脇整形外科病院（理事長他、計8名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.1	大阪滋慶医療科学大学院大学（特任教授他、計2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.1	生活・介護支援サポーター養成講座受講者（28名）	ふれあいの里内
2017.11.8	七尾国際医療福祉専門学校 作業療法学科（教員、生徒計10名）	青山彩光苑内
2017.11.16	医療法人社団 晴山会（法人本部長他、計2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.17	京都府病院協会（理事長・病院長 計16名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.24	三菱商事 生活流通本部 ヘルスケア部（計4名）	ローレルハイツ恵寿
2017.12.11	田主丸中央病院（6名）	ローレルハイツ恵寿
2017.12.22	戸田建設（執行役員他、計4名）	ローレルハイツ恵寿
2017.12.23	中能登町社会福祉法人 居宅事業所（3名）	ローレルハイツ恵寿
2018.1.31	能登島地区民生委員（10名）	青山彩光苑内

■ 継続的基本方針

法人が社会に選ばれ続けるために、「石川県と言えば恵寿である」と全国から評価される法人を創ってきた。しかし、そのことを恵寿の膝下である地域住民に理解されているだろうか？その前に職員は理解しているのだろうか？職員は、恵寿フィロソフィに則り素晴らしい恵寿、一流の恵寿となるために常に創造して欲しい。そして新たな恵寿ブランドを創って行かなければならない。

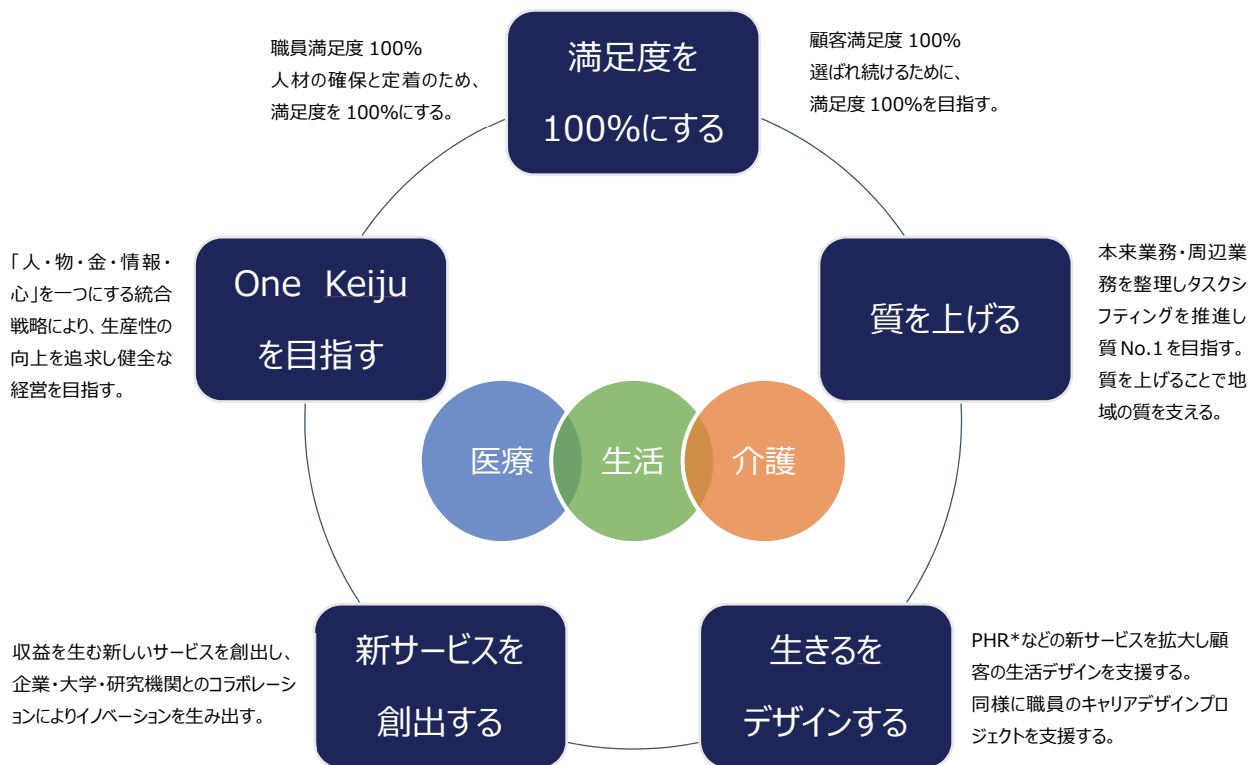
□ 継続的基本方針を達成するための基本戦略

【チャレンジ精神を持ち常に創造する】

今、顧客の価値観が変わってきている。これに対応して私たちは新しい価値を見出していかなければならない。かかりたい病院、家族を利用させたい施設を創り出すことに邁進しなければならない。今までのサービスを全く新しいものに作り直すくらいの気概が必要である。

【恵寿ブランドの創出】（ブランディング）

法人は、これから ①満足度を 100%にする ②One Keiju を目指す ③生きるをデザインする ④質を上げる ⑤新サービスを創出する 以上を実現し、新たな恵寿ブランドを創って行く。



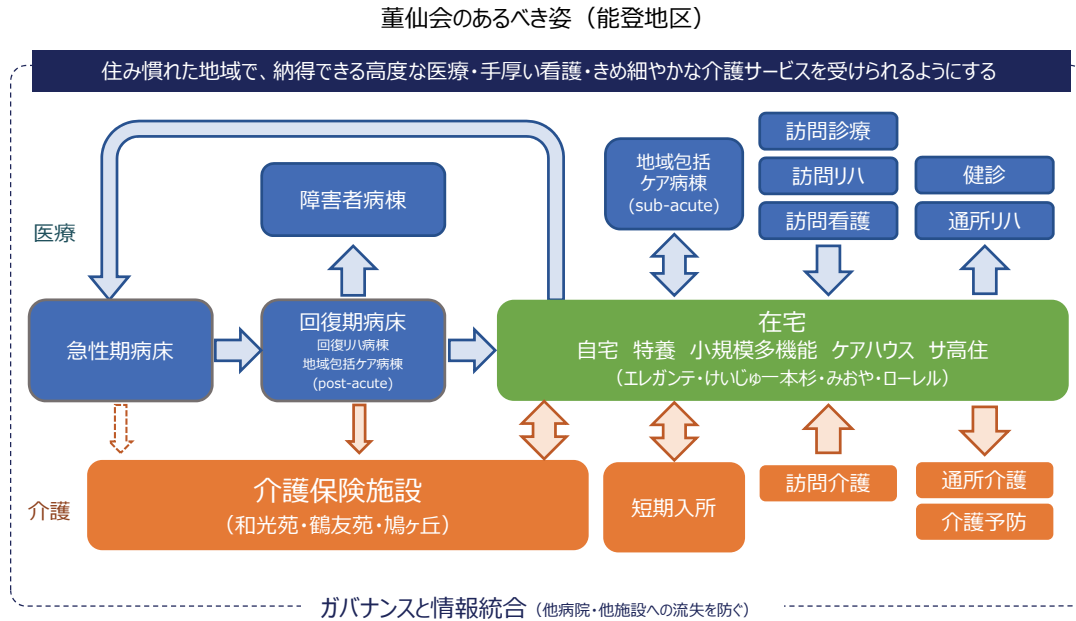
PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質 (QOL) 維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会では MDV 社の「カルテコ」を導入。

■ 法人のあるべき姿・顧客のあるべき流れ

基本戦略、施策を達成する前提として、能登地域・金沢地域の方針・顧客のあるべき流れを図に示す。すべての職員が理解し、業務を遂行しなければならない。

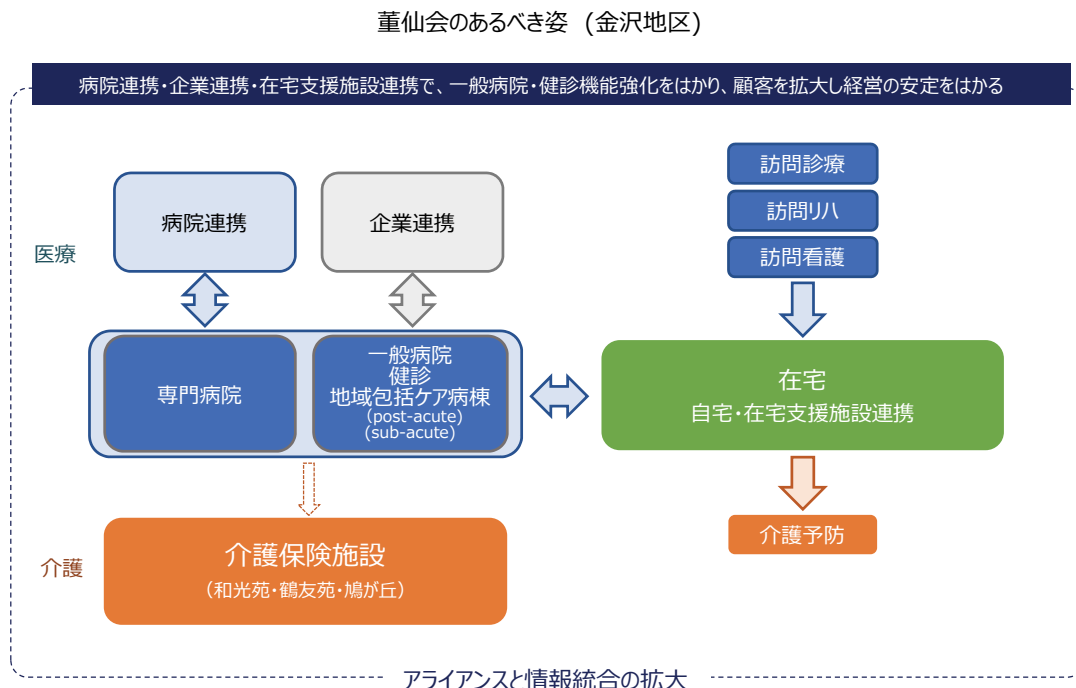
□ 能登地区方針

住み慣れた地域で、納得できる高度な医療・手厚い看護・きめ細かな介護サービスを受けられるようにする。
職員は既存の施設・サービスを最大限に活用し顧客の流出を防ぎ、けいじゅヘルスケアシステム内で完結するようにガバナンスと情報統合を強化する。



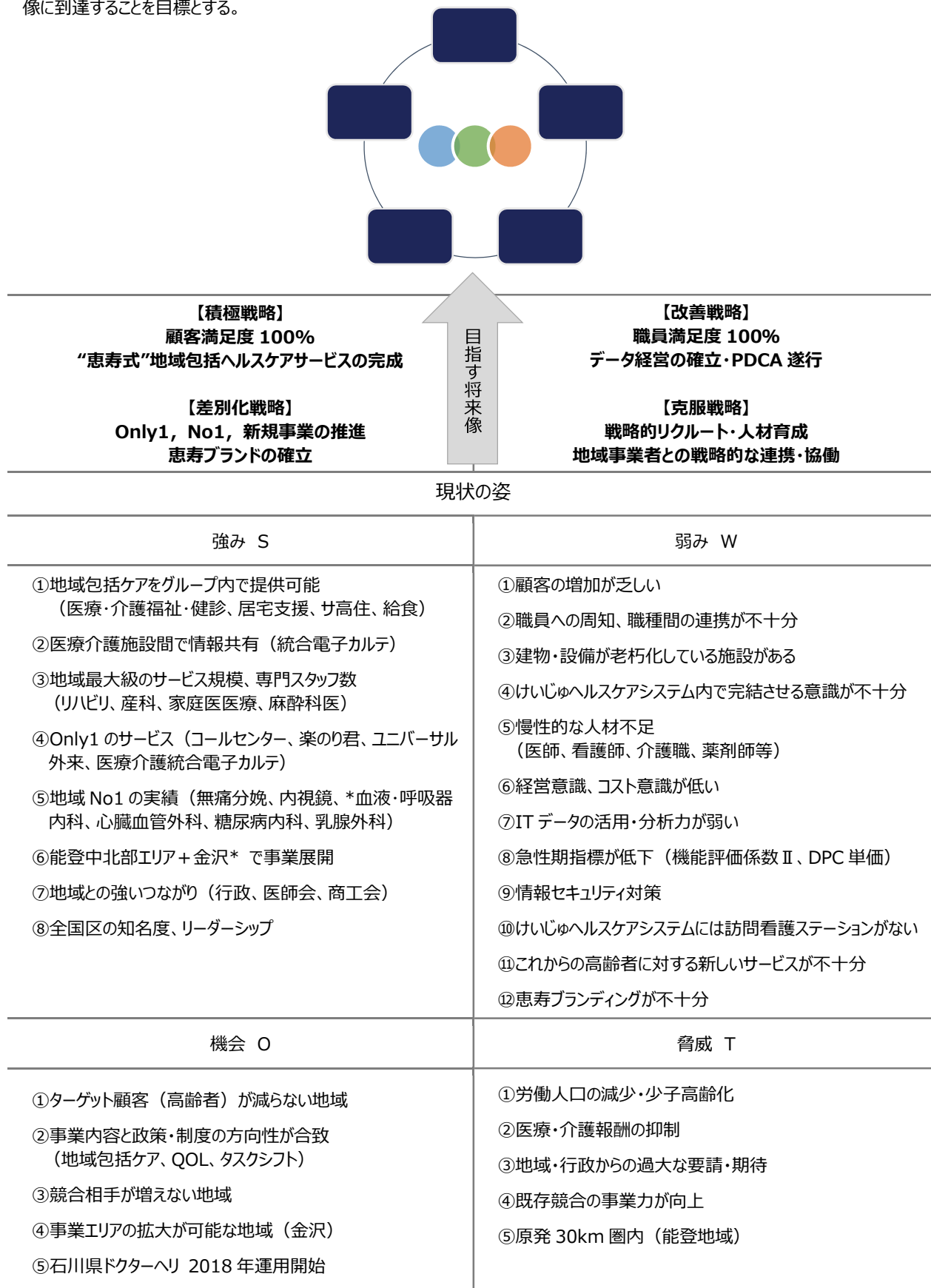
□ 金沢地区方針

病院連携・企業連携・在宅支援施設連携で、一般病院・健診機能強化をはかり、顧客を拡大し経営の安定をはかる。



■ 継続的基本方針を実現する方法

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT 分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら 3 年間で目指す将来像に到達することを目標とする。



■ 継続的基本方針の実施計画

2020 年度までの 3 カ年実施計画を以下に示す。

初年度は主に改善・克服戦略、次年度は積極・差別化戦略を遂行し、3 年後の目指す将来像を完成させる。

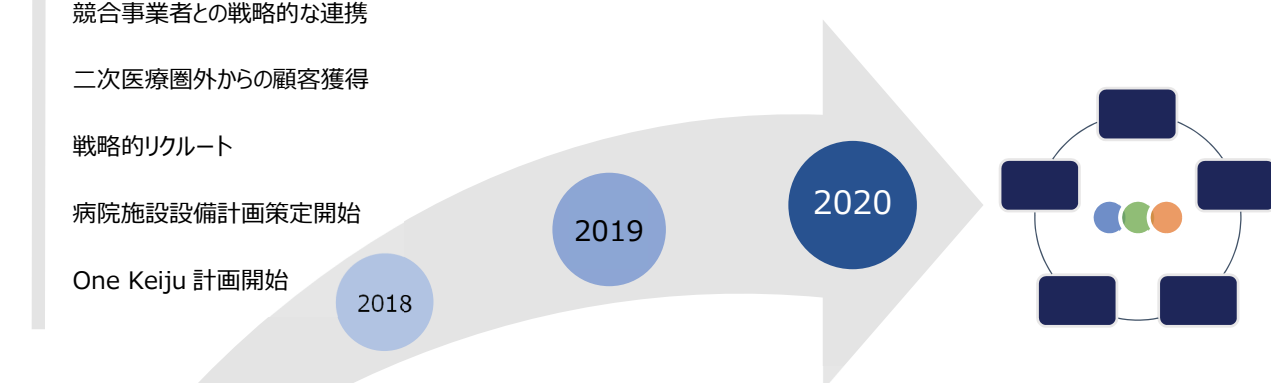
2018 (改善・克服) 「創れ、恵寿バリュー！」 社会構造の変化への対応を 見据え、職員と顧客が共有 できる価値を創造する

- 恵寿式チーム医療の完成
- 職員満足度 100%達成
- データ経営の確立
- 高度医療・専門医療の強化
- PHR 事業の拡大
- 顧客に選ばれる仕組みづくり
- 他病院・施設への流出防止
- 競合事業者との戦略的な連携
- 二次医療圏外からの顧客獲得
- 戦略的リクルート
- 病院施設設備計画策定開始
- One Keiju 計画開始

2020 「経営品質の高さ」 × 「顧客による社会的評価」 恵寿ブランド力の向上

- ①満足度を 100%にする
- ②One Keiju をつくる
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する

上記 5 施策の完成
→「石川=恵寿」の完成



2019 (積極・差別化)

- 病院・施設の設備計画の完成
- 七尾+金沢 One Keiju (統合戦略) による
経営資源の最大活用
- 顧客満足度 100%達成
- サービスの質の進化によるシェア拡大
- 産学連携コラボレーションによるサービス開発

■ 継続的基本方針 戦略目標



2020 年度までに継続的基本方針を達成するための 5 施策

- ①満足度を 100%にする
- ②One Keiju を目指す
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する に対する具体的な戦略目標例を示す

財務の視点

1. 顧客の生涯健康維持をサポート

リテンションマーケティングを行い既存利用者との結びつきを強めるとともに、新規利用者の獲得を行う

患者、利用者とのつながりを強化するために PHR を拡充する

2. 将来にわたる事業の発展、地域への貢献

経営の健全性を維持するため、生産性を向上させ、医業収入の黒字化、医業外収入の増加を目指す

サービスの質で競合を超越し、金沢での拡大、能登での充実を図る。人件費率（医療、介護）の適正化を行う

顧客の視点

1. 顧客満足度 100%

顧客の価値観の変化に則した魅力ある医療・介護施設群へとゼロからの転換を図り満足度 100%を目指す

2. 職員満足度 100%

職員の健康と幸せを築くために「健康経営×キャリアデザイン・プロジェクト」を推し進め満足度 100%を目指す

3. 患寿ブランドの創出

選ばれ続けるために、「七尾=患寿」、「石川=患寿」となるようなコーポレートアイデンティティ=ブランディングの完成を目指す

4. “患寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成

徹底した顧客満足度向上のためにサービスをいつでも 安心して受けられるようにする

「どうすれば利用してもらえるのか」「継続的な利用をどうやって実現するか」をデザイン思考で完成させる

5. 専門技術・知識、現場力の蓄積 成長・やりがいの実感

医師・看護師・その他医療技術職の専門性を発揮するためにタスクシフティングやキャリアチェンジを推進する

業務プロセスの視点

1. 顧客参画型患寿式チーム医療の完成

既存サービス + 患者利用者の参画、職員のお互い様意識を醸成（多様性理解）し合う環境作りを行う

2. 事業競争力の強化・差別化

急性期機能・高度医療（救急・がん・脳卒中・心臓・呼吸器外科・整形外科・健診）を強化するために医師の招聘を（3年後100名体制）行い患者・利用者の流出を防ぐ

3. 経営資源の効果的・効率的な運用

経営資源「人・物・金・情報・心」の効率的な運用を行い、生産性の向上を目指す
限られた人的資源を最大限に活かす統合戦略を行い遠隔診療・テレワークなどの働き方改革を行う

4. Only1、No1 領域の確立

恵寿の絶対的な強みである「医療介護統合電子カルテ」、「セントラルキッチン」、「コールセンター」、「樂のり君」、「ユニバーサル外来」、「産科」、「家庭医療」、「無痛分娩」、「内視鏡」、「血液内科」、「乳腺外科」、「呼吸器内科」、「心臓血管外科」、「糖尿病内科」、「回復期リハビリテーション」を確立し収益事業化する

5. データ経営の確立・PDCA 遂行

原価管理、DPC ベンチマーキング、Quality Indicator などデータに基づく経営を確立する

6. 将来への事業基盤の構築

老健施設、金沢病院の改修計画、病床・病棟の再編・医療機器、IT 投資計画等 BCM として病院・施設設備計画を完成させる

7. 収益を生むイノベーションの創出

企業・大学・研究機関との AI、IoT を利活用した「既存サービス×医療」コラボレーションによる収益を生む新たなサービス開発を行う

学習と成長の視点

1. 事業環境の精緻な分析と情報共有

競合環境やマーケットシェアを分析し、既存顧客の流出防止と新規獲得を行う

2. BSC 目標管理の徹底革新とチャレンジ精神の醸成

全ての職員が、法人のミッション・ビジョン・戦略テーマを納得・理解し BSC の定着と PDCA を推進する
職員自身が自発的に考え行動することを目指す

3. 戦略的リクルート・連携・協働

戦略的なブランディング、広報による優秀な医師・看護師・介護職獲得のためのリクルート活動を行う
競合事業者との（急性期リハビリ、介護事業者、小児科、婦人科、精神、歯科）Win-Win な連携を行う

4. 人材マネジメントの強化

キャリアビジョンの提示、全体最適を図る人材育成を組織を挙げて取り組み次世代リーダーを育成する

董仙会本部

■部門代表者

神野 厚美（常務理事） 進藤 浩美（本部長）

■2017年度のトピックス、実績

人事評規程の刷新と董仙会中期計画の策定
「今こそ QOL 経営を実践しよう」という方針に向けて、基本に立ち返った BSC をもとに、戦略マップを作成し、人事評価規程を刷新した。2018-2020 董仙会中期計画も策定した。

質の向上、職員確保のための第三者評価 認定

審査機関	受賞名	賞分類
公益社団法人 日本デザイン振興会	グッドデザイン賞	ベスト100 特別賞【未来づくり】 審査員賞「一品展」
厚生労働省	グッドキャリア企業アワード	イノベーション賞
経済産業省	健康経営優良法人 (ホワイト500)	

認証	ISO9001：2015 取得 いしかわ魅力ある福祉職場
宣言	いしかわ健康企業宣言 イクボス宣言

■事業報告

- ① 支出統制を図り、共同購入還元金・補助金の獲得など医業外収益の増収に努め、経常利益の黒字化実現。
- ② 「第59回全日本病院学会 in 石川」では、準備から運営までを主導し、黒字開催を実現した。発表は70演題以上に上り、患寿の知名度を上げる良い機会となった。
- ③ 「ユニバーサル外来」が、2017年グッドデザイン賞ベスト100・特別賞【未来作り】・審査委員賞「一品展」受賞。ビジネスデザインの範としてグッドデザインラボに参画。総理官邸における生産性向上国民運動推進協議会にて、発表。
- ④ 目標管理の仕組みを改めバランススコアカードを導入した。自学自習により仕組みを構築し、戦略マップ、業績指標や重要業績達成指標を明確にし、2018年計画を策定した。仕組みの強化をはかり、コミュニケーションツールとして活用する予定。さらに中期計画（2018-2020）を作成した。
- ⑤ 看護から介護へのタスクシフティングの一環として、介護職員の喀痰吸引研修を実施した。
- ⑥ 地域貢献事業として、熊本地震支援、小学校、中学校、高校生に医療の魅力を伝えるイベントを企画実施。

総務部・総務課

- 部長 ■ 課長
坂下 純司 河合 隆志

■ 2017 年度のトピックス、実績

職員の健康と健全な経営を維持していく体制構築のため、第三者評価認定を目指し、中でも、『いしかわ健康企業宣』を行い、経済産業省の『健康経営優良法人ホワイト 500』に認定され、総合評価では、上位 20～40%以内で、施策の効果検証改善では偏差値 60.9 という高い数値だった。下記は、2015 年協会けんぽ事業所カルテの抜粋で、全国、石川県平均よりも、非常によい結果だった。

	メタボリックシンドロームの リスク保有率	1 人当たり 月平均医療費
全国平均	13.9%	14,202 円
石川県	12.8%	14,305 円
董仙会	8.7%	11,694 円

■ 事業報告

- ① 第三者評価について、トピックス記載の他、ISO9001:2015、『いしかわ魅力ある福祉職場』に認定された。
→職員の健康診断受診率 100%をクリアした。
- ②教育・雇用に関する補助金・助成金獲得を目指し、障害者雇用の必要数もクリアした。
→県高度医療人材育成、介護資格取得者支援、人材開発支援、キャリアアップ、特定求職者雇用開発などである。
- ③育児、介護の法改正に伴い、就業規則を変更した。無期転換職員就業規則はすでに整備してあったが、継続雇用高齢者対応も実施した。
- ④BCM Ver.2.0 にバージョンを上げた。
→2016 年から開始した人的資源確保ツールとしての人員召集、安否確認メール、水資源の確保のための使用可能水量算定式、燃料の優先供給協定などを追記した。雪害があり、定めた BCM・BCP を検証した。

財務部

- 部長
安井 智美

■ 2017 年度のトピックス、実績

ISO9001 の更新と 2015 年度版への移行、適用範囲に恵寿総合病院事務部を含める拡大審査を同時に行った。内部監査員を 2 名増員し、PDCA を回す体制を強化した。下記が、2017 年度内部監査項目である。

対象部署	監査項目
総務課	新規採用職員選考試験の実施状況、職員異動手続き、規定管理メンテナンス状況、ストレスチェック体制、給与計算
経理課	業者への支払い、用度課請求書データ受入、用度課請求データ受入、消費税区分設定手順、非常勤医師の給与支払い、出張費関係
用度課	職員制服関係、応研入力およびチェック体制、物品供給手順、入札手順、CAFM 台帳

■ 事業報告

- ①2017 年度は、公益法人改革の元、新しい寄付行為ののっとり、11 月 29 日 中間報告、補正予算の理事会を開催した。医業収入、人件費の下方修正、材料費の増額、会計基準変更による一時的な経費の増加や控除対象外消費税の減額などの説明を行い、収入・支出計画の補正を実施した。税理士契約も見直し、監査法人とも継続契約を結び、健全な経営状態で管理することが出来た。
- ②医療機器購入交渉、出張規程の見直しなど大幅な経費削減を行い、特別交付税などの多額の補助金申請を行った。
- ③QOL 経営、データ経営のために、原価管理ソフトを導入し、入力すべき各種データの規定、検証作業を実施した。
- ④「第 59 回全日本病院学会 in 石川」の事務局として、予算管理、協賛金管理を行い、赤字になることなく学会を終えることが出来、精算業務、収支報告業務などを行った。
- ④経理課、用度課業務共に、属人化することなく、新人も手順書に基づき業務できる体制を構築した。

財務部（経理課）

■ 財務部次長

松田 久良

■ 2017 年度のトピックス、実績

出張旅費の精算方法の変更

規定額支給から、実費精算支給に変更した。業務量の削減、経費の節減に繋がった。

DC 拠出金残高の管理手順を見直し

退職給付費用を見積もり時期を前倒しできた。

■ 事業報告

①業務において是正処置に至る前の“気づき”対策により、業務の共有化がはかれた。

②新人教育ツールとして日報を用いた結果、上司への報告だけでなくコミュニケーションツールとなった。

③用度課と協働し、医療機器の棚卸しを行った。

財務部（用度課）

■ 課長

池岡 一彦

■ 2017 年度のトピックス、実績

医療機器の棚卸し

固定資産台帳（800 台）と突合せ、リース品データの CAFM 入力を完了した。臨床工学課と共同して、医療機器 4,300 台のうち 3,500 台の点検は完了した。リース物件が一目で判別できるように、識別シールを添付した。

■ 事業報告

① I S O 内部監査員の認定資格 2 名取得、他課の第三者評価を実行した。

②次年度の予算申請書を採算見込み記載方式に変更し、予算統制した。

③全日病学会準備に課員全員参加し、1 演題発表した。

企画部

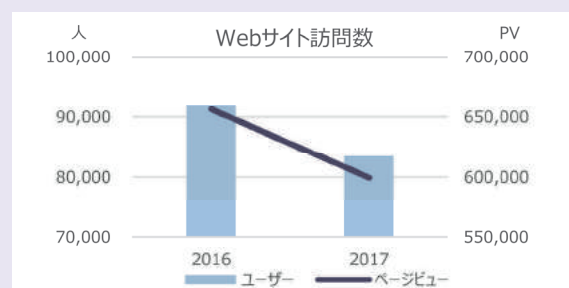
■ 部長代理

村守 隆史

■ 2017 年度のトピックス、実績

TQM 活動として、従来の目標管理シートを BSC（バランス・スコアカード）に改めるためプロジェクトチームとして活動し 2018 年度より開始した。関連して「董仙会中期計画 2018-2020」の策定に関わった。

Web サイト訪問ユーザー数は 83,469 と前年の 92,011 を 9% 下回る結果となり、ターゲットユーザーの選定や広報内容の対策を行う。



■ 事業報告

①「第 59 回 全日本病院学会 in 石川」の事務局として協賛金や製作物の準備を進めた。

→協賛企業はランチョンセミナー 21 社、広告 129 社、展示 61 社等計 292 社、参加者は合計 3,247 名と目標予算を達成した。

②TQM 活動として、従来の目標管理シートを BSC（バランス・スコアカード）に改めるためプロジェクトチームとして活動した。

→課長、係長、医師への説明会や勉強会を開催し 2018 年度より開始した。

③董仙会の取り組みについて対外的にニュースリリースを発信し、新聞、雑誌、テレビ等のメディアに掲載された回数は延べ 63 回。

④董仙会の中期計画策定プロジェクトに関わる。

→2017 年 12 月 20 日に次年度理事長方針とともに職員へ公開した。

⑤日本デザイン振興会主催 2017 年度グッドデザイン賞プロジェクト、グッドキャリア企業アワードプロジェクトに参画。

情報部・情報管理課

■ 部長

山野辺 裕二

■ 課長

小澤 竹夫

■ 2017 年度のトピックス、実績

今年度はマンモビューワの新規導入や画像関係のモダリティ接続などの画像診断関係のシステム案件に数多く対応してきた。またカルテコ導入サポートや原価管理システムの導入サポート、術中管理システム等、数多くの部門システムの導入にも対応した。

■ 事業報告

- ①PHR（カルテコ）や原価管理システムについてはシステム稼働はしたが、システム展開が今後の課題になっている。
- ②施設間ネットワークの見直しを行い、費用対効果を高めたうえで、冗長化などの通信システムの安定化も図るなど、システム全体の安定度を高めることができた。
- ③術中管理、看護支援システムの導入支援を行い、導入スケジュール通りに問題なく本稼働できた。

病院・施設会議

■委員長

吉田 茂和

■2017年度のトピックス、実績

- ・患者や利用者の治療や療養が、できるだけ迅速かつ円滑に実施できるよう、定期的に情報共有を行った。
- ・各施設の強みや弱みを相互に理解し、これまで困難とされてきた利用者の受け入れを積極的に検討した。

■事業報告

①介護連携指導料算定数

→634件で前年度より - 4件

②介護事業所

CPAP療法 - 受け入れ3名, HOT - 受け入れ1名

地球温暖化対策推進委員会

■委員長

安井 智美

■2017年度のトピックス、実績

照明器具の更新、蒸気ボイラー他の修理・更新が必要な場合はエネルギー使用量削減効果を期待して、原則、高効率のものを採用した。

■事業報告

冬の平均気温が前年を下回った影響が大きく（12月の前年比 $\Delta 2.5^{\circ}\text{C}$ 、1月・2月の前年比 $\Delta 1.2^{\circ}\text{C}$ ）、動力使用量が大幅に増加してしまった。

外国人職員受入れプロジェクト会議

■委員長

進藤 浩美

■2017年度のトピックス、実績

IMSグループとの連携、瀋陽医学院プロジェクトにより、中国人看護師が9名となった。

	2015	2016	2017	合計
IMS	3	3	1	7
瀋陽	0	2	0	2

■事業報告

①瀋陽医学院看護学科に訪中し、2018年来日者を面接し、2019年採用6名を決定した。また、2019年来日予定者の日本語能力を確認した。すでに日本語1級をとったものが、2名いた。

②IMSグループにおいては、2018就職2名予定である。

けいじゅ FM 委員会

■委員長

坂下 純司

■2017年度のトピックス、実績

施設管理（改修・修繕・保守）に関わる議題は、269にのぼり、法人施設の管理を行なっている。

■事業報告

- ①本院3病棟3階廊下の壁面を新しく白のクロス貼りにし、明るい環境となった。
- ②鶴友苑のトイレ3箇所を洋式に改修した。
- ③恵寿鳩ヶ丘の居室のうち24部屋の壁紙の張替を行った。
- ④恵寿総合病院内の案内表示に英語表記を取り入れ、外国人利用者にも対応。

けいじゅ清掃委員会

■委員長

坂下 純司

■2017年度のトピックス、実績

オリックス清掃員の制服が今年度より刷新され、チョコレート色のポロシャツ、エプロン、帽子となった。

■事業報告

- ①日常清掃のほか、各施設においても床洗浄、ワックスかけの特別清掃を年間予定を立てて実行。
- ②本院の退院・転室に伴う病室清掃は、月平均 903 件であった。（前年度比 8.4%増）
- ③本館の床メンテナンスを毎週日曜日に実施中。

けいじゅヘルスケアシステム給食戦略会議

■委員長

進藤 浩美

■2017年度のトピックス、実績

- ・セントラルキッチンデリカでは、メニュー変更を行い、食材調理方法を見直し、水光熱費と包装材費の大幅削減を行った。
- ・米の高騰により、本院は「新潟こしひかり」から、石川県産「夢みずほ」に変更した。

■事業報告

- ①グルメプラザ恵寿の健康食を検討した。
- ②デリカサブライセンターの生産性を上げるため、増築検討、省エネルギー検討した。
- ③日帰りデイサービス「いこい」についても地域住民の避難所となり得るため、非常時の食事備蓄を整備した。

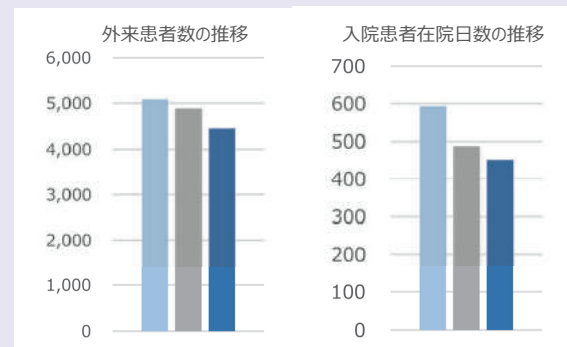
形成外科

■所属医師

山野辺 裕二

■2017年度のトピックス、実績

過去3年間の外来受診患者数（左）、入院患者在院日数（右）は減少傾向であるが、手術件数や診療点数は従来と同等もしくは漸増しており、外来・入院の効率化を進めた結果、通院回数や待ち時間等の減少を実現した。



■事業報告

- ①手術用顕微鏡を使ったマイクロサージャリーの手術件数が増加した。
- ②外来でのクレームや待ち時間増による受診断念患者ゼロを達成した。
- ③局所の写真撮影にタブレット端末を利用することで、カルテへの写真貼り付けを容易にするとともに、患者へ写真を見せながらの説明ができるようになった。
- ④非常勤医師による手術件数を増やす試みが効果を発揮してきた。
- ⑤看護師向けに創傷処置等を指示する内容の定型化、具体化により看護師へのタスクシフトを推進することができた。

整形外科

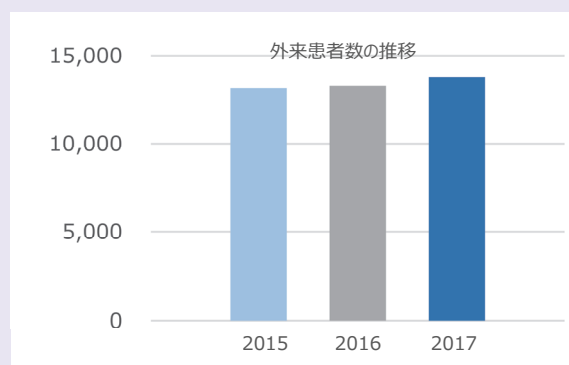
■所属医師

津山 健、森永 敏生、藤巻 芳寧、宮田 岳人
金山 智之

■2017年度のトピックス、実績

今後も増加する、骨粗鬆症患者の受け入れを積極的に行った。高齢者が多い地域でもあるため、重症でなくとも、入院加療を提供できるよう、精査入院の手順などを作成した。また、病院が持つリハビリ、栄養、医師のインフォームドコンセントなどのリソースを最大限に利用した。

外来患者数は増加傾向にある。手術、保存的加療など患者さんの納得が得られる治療方針を決定している。



■事業報告

9月末と3月末で医師の交代があったため、外来診療枠や手術の受け入れに影響がでてしまった。

疾患の大半をしめるのは、大腿骨近位骨折、脊椎圧迫骨折である。手術治療の対応と、骨粗鬆症患者の受け入れを積極的に行っている。

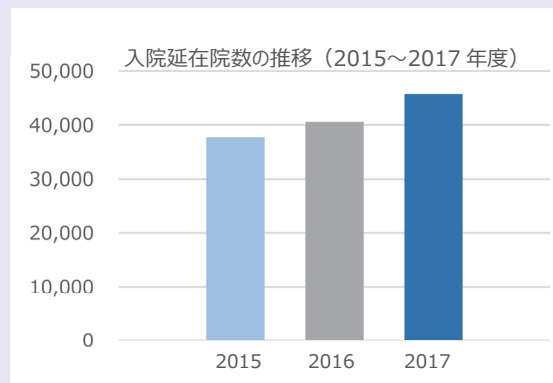
内科

■所属医師

山崎雅英、宮森弘年、宮本正治、羽山智之、足立浩樹、酒井珠美、材木義隆、笠田篤郎、小西正剛、松浦寿一、久保幸美、加瀬一政、小川尚彦

■2017年度のトピックス、実績

- ①日本内科学会総合内科専門医（2名）、日本老年医学会指導医（2名）、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）（1名）が新たに誕生
- ②外来受診者数も3.3万人とここ3年で最も多く、入院延在院数も4.58万人と飛躍的に増加



■事業報告

- ① 地域連携（紹介・逆紹介）の推進、
- ② 消化器内科、循環器内科、神経内科、血液浄化センター、家庭医療科と連携、専門的医療の質の向上→外来受診者数も3.3万人とここ3年で最多、入院延在院数も4.58万人と飛躍的に増加。
- ③ 呼吸器内科、血液内科など、能登地区で当院にしかない専門内科の充実
- ④ 代謝内科と腎臓内科の連携による糖尿病性腎症進行予防、透析導入症例の減少を目指した活動の推進
- ⑤ 七尾地区に唯一の内分泌代謝内科専門医による診療
- ⑥ 専門性の高い臓器別内科、他診療科との密な連携により、金沢に行かなくても高度な診療ができるよう推進→糖尿病性腎症患者の透析導入率の低下
- ⑦ 今後は内科医師の増員を要望するとともに、限られた人的資源を有効利用するため、医師補助者へのタスクシフティングを積極的に進めていき、地域から求められる医療を積極的に推進していきたい。

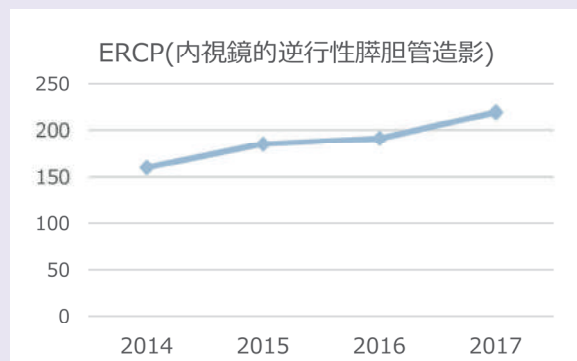
消化器内科

■所属医師

瀧崎 宇一郎、松田 昌悟、宮澤 正樹

■2017年度のトピックス、実績

- ・内視鏡総件数は昨年を上回った。特に治療内視鏡（胆膵系・ERCP 関連手技）は大きく増加した。
- ・総合内科専門医を取得した（2名）
- ・学会発表（地方会、消化器病総会、米国 DDW）
- ・論文掲載（PloS One、Gastroenterology）



■事業報告

- ① 内科（血液内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科）、家庭医療科および他診療科との緊密な連携のもとに的確な診断、専門的な治療を行っている。
- ② 今年度も講演会・勉強会を開催した。
講師：金沢大学消化器内科教授 金子 周一、同准教授 水腰 英四郎、厚生連高岡病院総合診療科診療部長 狩野 恵彦、日本大学医学部消化器肝臓内科学教授 後藤田 卓志、富山県立中央病院内科部長 松田 耕一郎、国立国際医療研究センター国際感染症センター 忽那 賢志、NTT 東日本関東病院内視鏡部長 大圃 研、日本医科大学消化器内科学教授 岩切 勝彦先生をお招きして講演会・意見交換会を行い、最新の情報や治療について学んだ。
- ③ 能登地区において専門的治療を行うセンターとしての役割を担っている。消化器内科として地域に根ざした信頼される医療を提供していくと同時に、今後も積極的に先進的な治療を導入して地域に貢献できるように努力していきたい。

耳鼻咽喉科

■所属医師

山田 和宏

■2017年度のトピックス、実績

総外来患者数が7,422人に増加(前年度7,125人)。
新患者数が885人に増加(前年度766人)。



■事業報告

- ① 必要な検査を積極的に行う。
→ファイバースコープ：1,344件(前年度1,252件)
→聴力検査：1,179件(前年度919件)
→MRI：200件(前年度174件)
- ② 他科や各部署との連携をはかり安全で信頼される医療を提供する。
→臨床工学課と連携し鼻内視鏡手術を11件行った。

<今後の課題>

引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科との連携をはかり、安全で適切な医療を提供する。
ファイバースコープ、各種画像検査、聴力検査など、必要な検査を積極的に行い、診断の精度を向上させる。

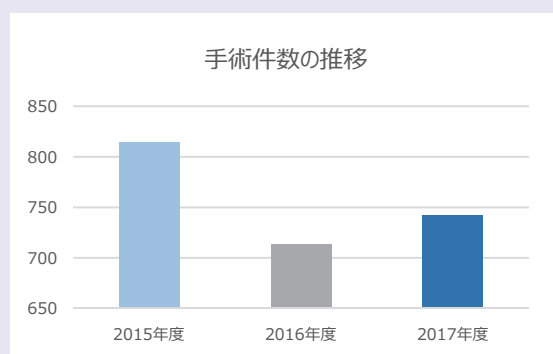
眼科

■所属医師

馬渡 嘉郎

■2017年度のトピックス、実績

白内障手術以外の眼科手術の充実。具体的には硝子体、眼瞼、緑内障手術の定期的実施が定着しつつある。能登地区で唯一上記手術を定期的実施している。そのなかでも特に硝子体手術に注力することができた。



■事業報告

- ①手術件数総数（主に白内障） 約700件
- ②硝子体手術 約30件、眼瞼の手術 約10件、
緑内障手術 3件
- ③今後は硝子体手術を中心に白内障手術以外の手術に注力。また片眼1泊2日や日帰り白内障手術を多く実施していく予定。

泌尿器科

■所属医師

川村 研二

■2017年度のトピックス、実績

術後回復強化プログラム（ERAS）を2012年から750例行い、患者満足度調査 QOR40J アンケート調査を行った。結果は満足度93%であり、泌尿器科内視鏡手術、腎臓癌・前立腺癌の内視鏡・開腹手術では患者が満足していることが明らかとなった。上記について、金沢医科大学氷見市民パス大会講演、全国規模の学会座長2回、学会発表17回/年等で、全国の泌尿器科において指導的立場としてERAS手術の啓発活動を行っている。

また、恵寿総合病院において恵寿総合病院医学雑誌で論文執筆指導（6編）を行い、学術的な知識の向上を目指す活動を継続できた。

■事業報告

手術件数 136件（手術室のみ）、ESWL38件、外来手術 8件 合計182件であり、手術件数も維持している。能登半島の過疎化地域である七尾においても、最新の手術手技、がん治療を行えることが重要である。今後の課題は、過疎化地域における人口減少で手術対象患者の急激な減少が予測される。奥能登地域では、男性高齢者の人口がすでに減少しており、当地域でも3-5年後には、男性高齢者が減少して、泌尿器科診療対象患者も減少する。現在、奥能登からの高齢手術依頼患者の70%以上が女性であり、七尾地区でも同様の推移が予測される。新たな診療として、性同一性障害、排尿自立支援について2018年度に取り組む予定である。

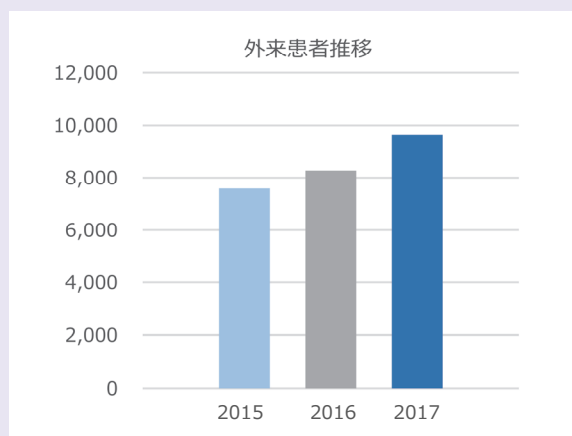
循環器内科

■所属医師

内山 勝晴、宝達 明彦、東 雅也

■2017年度のトピックス、実績

常勤医3名体制により、24時間・365日の受入れを行った。外来患者数、延在院患者数とも増加傾向で推移している。能登北部からの紹介や緊急搬送も多く、同地域医療機関との連携も積極的に行っている。



■事業報告

今期目標と達成度

今年度も地域連携室の協力の下、輪島地区・宇出津地区の各病院/診療所と連携の会を開催したい。

虚血性心疾患のみならず、循環器疾患全般において対応を強化している。

His 束ペースングやリードスペースメーカー挿入など、当地域においては初となる技術を導入している。

救急患者の受入れや紹介症例を増やし、ロータブレータの施設基準となる PCI 200 症例以上を何とか達成したい。

心臓血管外科

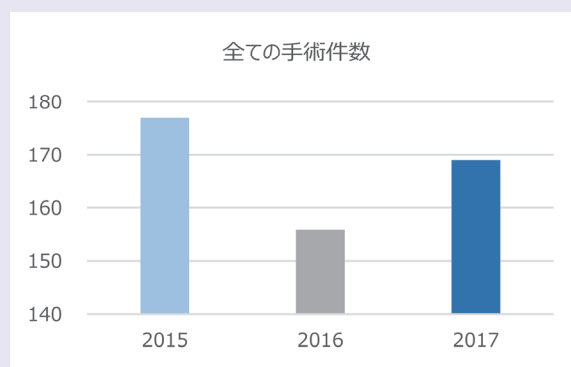
■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2017年度のトピックス、実績

能登地区唯一の血管外科として、心臓バイパス手術をはじめ、弁置換術や下肢静脈瘤手術に力を入れている。また、透析患者におけるシャント血管増設や急性閉塞にも対応している。

開心術をはじめとするすべての手術件数は増加している。



■事業報告

・開心術は増加しているが、透析患者など高リスク患者の割合も増加している。入院に数は長くなる傾向は否めないが、患者の安全を第一に心がけており、ハートセンター病棟のスタッフ、心臓リハビリのスタッフとともに慎重な術後ケアを行っている。

・循環器内科との連携により、虚血性心疾患やペースメーカー対象疾患などに対して、最善の治療方法を提供している。

・レーザーを使用した下肢静脈瘤手術も積極的に行っている。地元でも出来る治療方法として広くPRしていきたい。

・超高齢者人口はここしばらく増加が見込まれる。弁膜症や虚血性心疾患の手術の需要も見込まれるが、難易度も上がることが予想される。高齢者に対しても安全な治療を提供するために努力を続けていく。

麻酔科

■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦、三好 怜美奈

■2017年度のトピックス、実績

〈トピックス〉手術期管理システムを本格運用を開始し、麻酔記録等がペーパーレス化「患者に背を向けない」診療を行った。また、院内他部署から手術の進行が確認でき情報の共有が行えるようになった。

〈実績〉手術麻酔

麻酔科管理数 855 件（前年 995 件）

総麻酔時間数 2882 時間（2989 時間）

周産期医療

帝王切 64 件（68 件）無痛分娩 25 件（33 件）

ペインクリニック、緩和医療

ペインクリニック外来患者数 587 名（625 名）

緩和ケアチーム対応患者数 32 名（34 名）

■事業報告

外来患者数は増加傾向が続いている。超音波検査、ダーモスコピーなど生体検査も増加している。薬剤による皮膚障害（薬疹、点滴漏れなど）への対応の依頼も多数あり、迅速に対応するようにしている。

ナローバンド UVB 照射装置への入れ替えも特にトラブルなく、患者増加傾向。

外来で手いっぱいでもあり、当科入院患者が少なかったため総売上が上がらず。外来入院ともかなり他科より対診が多く、併診している患者が多いため、医療の質としては高くなるのだろうが、業績として数字にむすびつかない。

他科入院患者のスキンケア・フットケアは要望が多く、生活指導も丁寧に行うようにしている。

リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

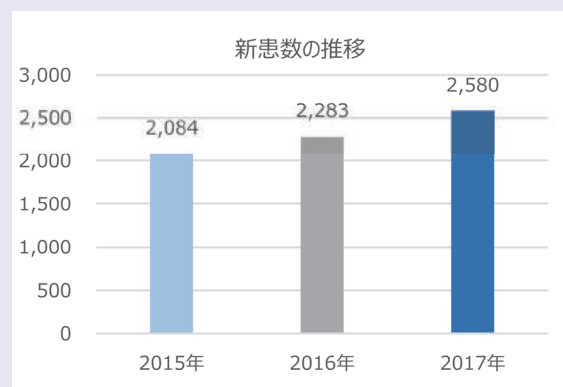
■2017年度のトピックス、実績

認知症ケアチーム加算（月約 100 件維持）

リハ処方数の増加（グラフ）疾患の変化あり

回復期リハビリ病棟専従医師加算

回復期病棟紹介入院患者増加（年間 50 例）



■事業報告

① リハビリ新患患者処方数

月平均 200 件（週平均 50 件：脳外科減少）

② ものわすれ外来紹介数

月約 2 人：横ばい

③ ボツリヌス注射施行数

月平均 6 人：横ばい

④ 嚥下造影（VF）数

月平均 6 人：横ばい

⑤ 自動車運転評価数

月平均 9 人：横ばい

⑥ 認知症ケア回診

月平均 7 人

⑦ 回復期病棟転院

月平均 4 人で増加

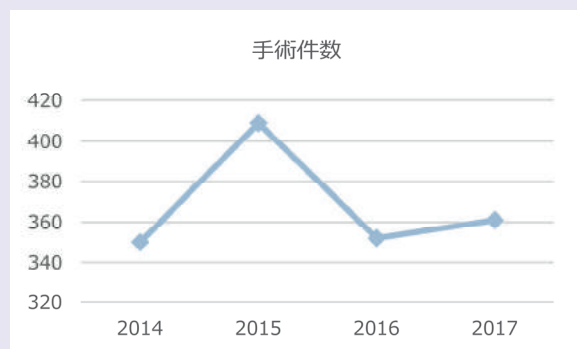
消化器外科

■所属医師

佐藤 就厚、高井 優輝、中山 啓

■2017年度のトピックス、実績

今期目標の中で、肝切除数を除いて、腹腔鏡を中心とした目標手術件数に到達できた。消化器外科医が少なく、一人当たりの業務、拘束時間が増え、時間内外の業務負担が増大している中でも、入院治療に集中できる環境整備に努めた成果と考えられた。



■事業報告

今期目標と達成度

- ① 全麻手術件数を 250 件→2 月まで 228 件（前年度計 240 件）でほぼ達成（消化器外科・乳腺外科計）
- ② ①のうち腹腔鏡手術割合を 70%→2 月まで 70.7%（乳腺手術を除く）で達成濃厚
- ③ 肝切除術を 5 件/年→2 月まで 2 件で未到達
- ④ ヘルニア（鼠径・大腿・閉鎖）手術のうち、腹腔鏡下手術を 80%→2 月まで 85%で達成確実

来期目標

- ① 消化器外科として全麻手術を 210 件→
- ② 腹腔鏡手術を 160 件→
- ③ 肝切除術を 5 件/年→
- ④ 腹腔鏡下ヘルニア（鼠径・大腿・閉鎖）手術を 40 件

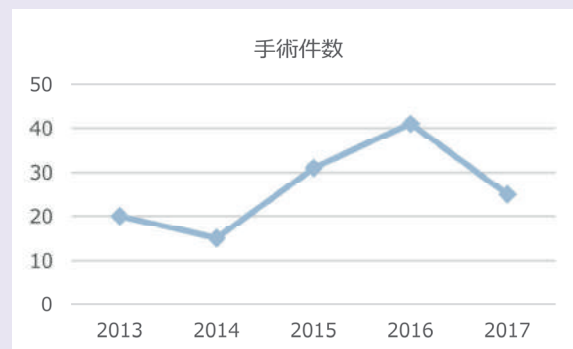
乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹

■2017年度のトピックス、実績

2016 年度から乳腺外科を専門科として独立し、評判向上を図っている。乳癌手術例（4 月～3 月）は昨年 2017 年度 41 例に対して、今年度は 25 例と大幅に減少した（下図）。しかし、外来患者数は横ばいで、外来化学療法件数が増加したためと考えられる（下記）。



■事業報告

- ① 乳がんの手術件数、化学療法件数、放射線治療件数を増やす。
乳がん手術件数は前述した（図参照）。外来化学療法件数は 164 件から 191 件に増加、放射線治療件数は 27 件から 26 件と不変。
- ② 講演会・学会参加などにより標準治療・ガイドラインを熟知する。
2017 年 6 月に日本乳癌学会にて発表した。
- ③ その他
2017 年 3 月からフラットパネル式のマンモグラフィが導入され、画像の質向上・被爆量減少・撮影時間短縮などが計られている。

脳神経外科

■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

■2017年度のトピックス、実績

100人規模の多職種によるSU(Stroke Unit)カンファレンスを継続的に実施した。医師以外は、PT、OT、ST、MSW、看護師、管理栄養士、薬剤師などが参加した。

SUカンファレンス実施一覧

疾患名	件数
アテローム血栓性脳梗塞	9
心原性脳塞栓	2
ラクナ梗塞	2
その他脳梗塞	5
脳出血	11
その他	4
合計	33

■事業報告

- ① 医師数減の中で、外来、救急医療を継続し入院患者数を25-30名で維持してきた。
- ② SUカンファレンスを脳外科だけでなく、リハビリ科23例、神経内科4例、その他透析科や家庭医療科の症例も多職種で、検討した。

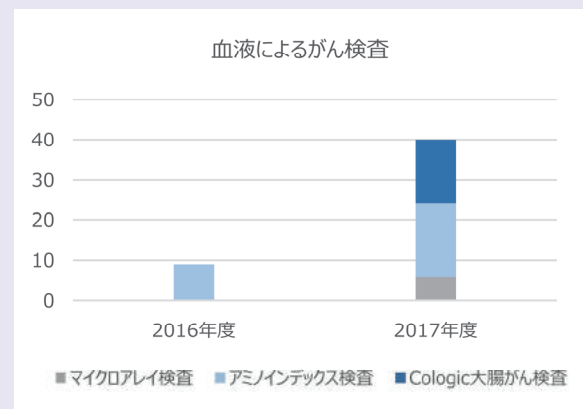
健康管理センター

■所属医師

倉知 圓、泉谷 麻子

■2017年度のトピックス、実績

7月より、血液によるがん検査として、「マイクロアレイ検査」、「アミノインデックス検査」に加え、「Cologic大腸がん検査」を新たに導入した。血液によるがん検査として、前年度に比べ3倍以上の件数となった。



■事業報告

- ① 血液によるがん検査拡張
「Cologic大腸がん検査」を新たに導入したことで、前年度比3倍以上の件数に増加。
- ② 行政との連携強化
七尾市ふるさと納税返礼品受入れに関して、HP上で1社から2社へ拡張したことで、前年度比7倍以上の件数に増加。
- ③ 健康診断後のフォローアップ体制構築
ここ数年行えなかった特定保健指導に関して、全国健康保険協会石川支部と契約し、該当者へ面接指導などを実施した。現在5名程度継続実施中。
- ④ 外国人受入れ体制構築
受入れルール整備、コミュニケーションツール使用などにより属人化しない受入れ体制を構築。語学力向上とし、一般社団法人日本医療通訳協会の医療通訳士1級(英語)を取得。
- ⑤ かがやき健康宣言、健康経営優良法人取得に向けて、協会けんぽとの連携を密にした。

小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、白橋 徹志郎

■2017年度のトピックス、実績

外来患者数 5,511人→5,939人：7.8%の増加

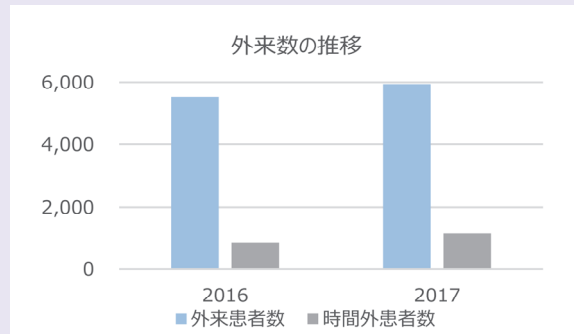
平日外来 4,645人→4,786人：3%の増加

夜間休日時間外 866人→1,153人：33.1%の増加

時間外外来診療患者が著しく増加。

一般小児科入院患者 2人→18人増加

紹介患者 52人→79人 51.9%増加



皮膚科

■所属医師

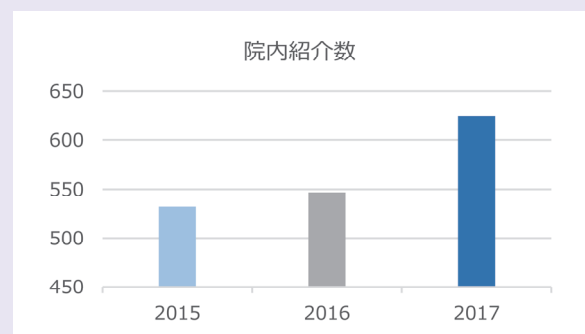
南部 昌之

■2017年度のトピックス、実績

外来患者は増加。細菌・真菌検査やダーモスコープ検査は積極的にを行う。大学等との病診連携は問題なく行えている。

生物学的製剤使用患者数は残念ながら横ばい。しかしバイオスイッチや免疫調整薬の導入も行い患者満足度は増加。

皮膚科としての入院患者は増数してはいないが他科入院で併診の患者多数認めており迅速な対応は行なえている。



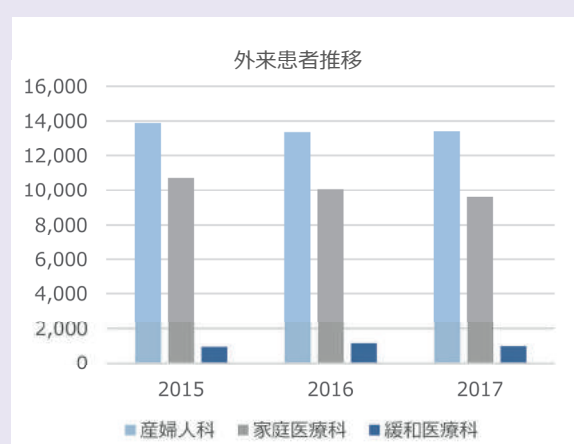
家族みんなの医療センター

■所属医師

新井 隆成、吉岡 哲也、伊達岡 要、高藤 早苗、

安田 豊、高多 祐佳、宮田 康一、宮田 潤

■2017年度のトピックス、実績

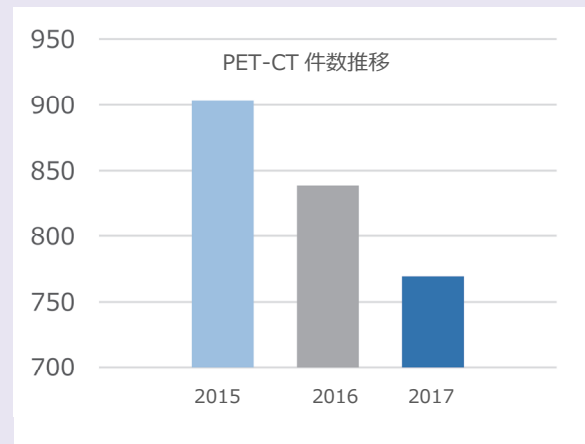


放射線科

■所属医師

角 弘諭

■2017年度のトピックス、実績



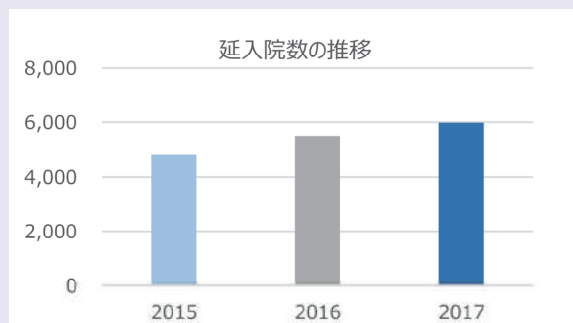
神経内科

■所属医師

木元 一仁

■2017年度のトピックス、実績

1名体制で、脳神経外科と協力し、救急・紹介患者を受け入れた。認知症外来もリハ医、非常勤医師とともに実施、認知症回診は月平均のべ1,960件実施、NST回診も月平均66件を実施した。七尾市在宅医療・介護連携推進協議会、紫蘭の会、能登神経筋疾患難病ネットワークなどに積極的に参加した。



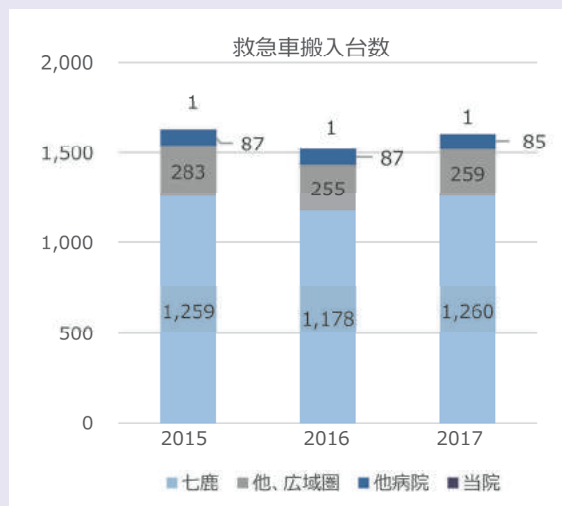
救命救急科

■所属医師

米田 高宏

■2017年度のトピックス、実績

「断らない救急」の体制で患者受け入れを行った。
入院率は51～66%で推移した。



中央手術部

■部門代表者

長谷川 公一、金森 敦志

■2017年度のトピックス、実績

手術期管理システム本格運用を開始

麻酔、看護記録等が電子化し「患者に背を向けない」医療を実践できるようになった。患者入退室管理や、スケジューリングが、安全に効率よくでき、ベッド稼働率の向上が期待できる。また、院内他部署と、患者情報や手術進行状況などの情報がリアルタイムに共有でき、術前から術中、術後へ、患者中心のシームレスな管理が可能になった。

〈実績〉

手術総数 1,567 件（前年 1,748 件）

麻酔科管理数 855 件（前年 995 件）

緊急手術率 33%（前年 30%）

■事業報告

- ①周術期管理システムを本年度より運用開始した。周術期医療の安全と質のさらなる向上を目指したい。
- ②手術数は 10%減少した。しかし、手術時間の総時間数は変化していない。これは高度な手術や内視鏡手術の増加のため、午前からの手術開始や手術室数の増加が対策として考えられる。
- ③手術看護師の休日拘束体制をとったが緊急手術の受け入れも円滑に行われ、急性期医療体制に貢献できている。

血液浄化センター

■部門代表者

羽山 智之、菅野 則之

■2017年度のトピックス、実績

透析システムの I T 化によるデータ管理の実現と透析コントロールと電子カルテの連動させていくための準備(2018 年度に実現予定)

■事業報告

I T 化を進め実現させていくことが 2017 年度の目標であった。トピックスにもあるように透析システムの I T 化で確実なデータ管理が可能となったが、スタッフの仕事量の軽減に繋がるような I T 化の実現には至らなかった。

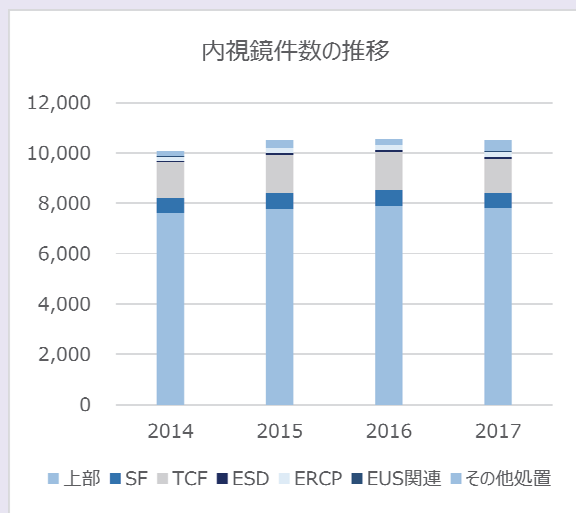
電子カルテへの転記作業がなくなり、記録時間が短縮され、その分質の高い透析看護が提供できる環境を 2018 年度透析管理システム導入で作り上げていく。

内視鏡部（内視鏡課）

■ 課長

松田 栄美子

■ 2017 年度のトピックス、実績



■ 事業報告

① 内視鏡総件数昨年と同等数維持している。

能登最先端の治療を提供している。

EUS-FNA 35 件（昨年 10 件）

ERCP 関係 221 件（昨年 165 件）

② 大腸検査の自宅飲みの推奨。

2017 168 件

2018 357 件

患者満足度の向上と大腸検査に伴うランニングコストの減少に繋がった。

③ マンパワー不足により遅番性を取り入れた勤務体制の構築ができなかった。しかしマンパワー不足でありながら昨年と同等 1 万件達成できた。

④ 全日本病院学会で発表

「消化器看護「がん・化学療法・内視鏡」で

「緊急内視鏡的異物除去術の介助のポイント」執筆。

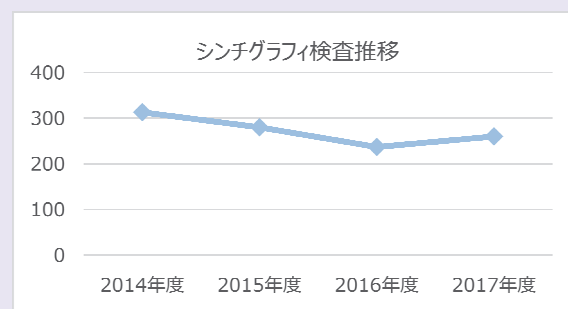
放射線部（放射線課）

■ 課長

三味 篤

■ 2017 年度のトピックス、実績

ガンマカメラを更新し、操作性が向上し、画質も格段に上がっている。安全機能も備わっており、より安心して核医学検査を受けられるようになっている。3 年連続減少傾向であった核医学検査は上昇に転じている。



■ 事業報告

① ガンマカメラの更新で画質向上により診断能が向上。

骨シンチグラフィの診断支援ソフト BONENAVI の導入により経過観察に効果的となった。

② 外科用イメージを更新し、透視画質が向上したことにより、手術中の手技をスムーズに支援できるようになった。

③ 画像カンファレンスを実施し、放射線技師の読影力を強化を進めた。画像所見レポートが入る前に緊急的な報告を積極的に行い、また放置された異常所見を指摘することにより、6 症例が緊急的な検査および手術につながった。

④ 全日本病院学会 in 石川で学会発表 3 演題発表。また、拡大業務講習会受講者 1 名、健診マンモグラフィ認定技師 2 名、肺がん CT 検診認定技師 1 名が取得。

⑤ 造影剤同意書取得の業務見直しを行い、検査説明書と問診票の取得を行った。同意書書式の変更と院内全体の実運用化へ向けて整備してゆく。

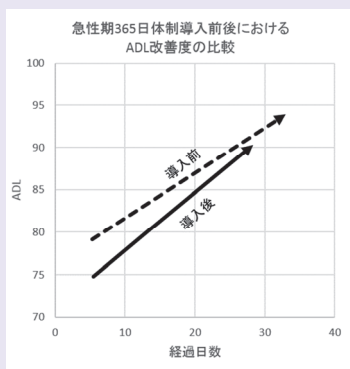
リハビリテーション部（理学療法課）

■課長

井舟 正秀

■2017年度のトピックス、実績

全日本病院学会 in 石川を含め学会発表は8題発表し、そのうち、1題は論文投稿に繋ぎ、他の論文と合わせて2編となった。投稿論文の一つである急性期リハ 365 日体制導入効果の検証ではADL改善度を保ちつつ在院日数が6日短縮するという結果であった。



■事業報告

【学習と成長の視点】

全日本病院学会 in 石川には一般演題発表、学会運営にも関わった。他の学会も含め8題発表。その内、論文作成に繋がったのは1題、論文投稿1題。研修会参加142件、周辺資格取得15件、勉強会53件を実施し個々で自己研鑽を図った。今後も継続していきたい。

【業務の視点】

急性期から生活期の連携をさらに充実されるべく、老健一日研修、能登脳卒中地域連携症例検討会実施した。またTQMを通して通所リハ、訪問リハへの紹介・連携について取り組み、訪問リハへの紹介が向上した。

医療機能評価の準備として主な疾患の標準プログラムを追加・作成した。

【顧客の視点】

顔面神経麻痺や長下肢装具使用マニュアル等、各種説明資料の見直しにより患者・職員満足度の向上を図った。

総体的にはほぼ目標に達した。

リハビリテーション部（作業療法課）

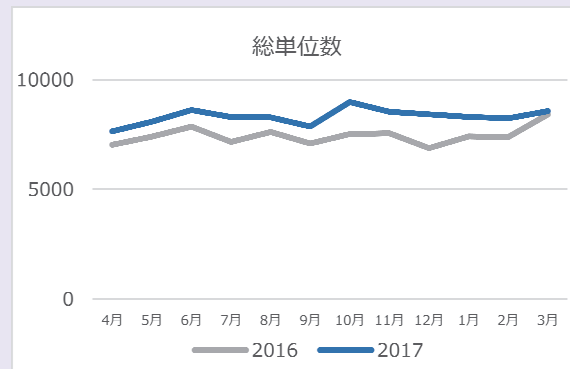
■課長

川上 直子

■2017年度のトピックス、実績

スタッフ2名増員し、急性期（本館）の土日祝日が3名体制で作業療法を提供できるようになった。

これにより、そう単位数はもちろん、作業療法士1名当たりの月平均単位数も2016年352単位→2017年369単位と増加した。



■事業報告

①1名あたりの取得単位 18単位/日→18.2単位/日

②日曜祝日の急性期 OT 開始→3名体制で開始

③回復期リハビリ病棟取得単位 7.5単位/患者（1日）→7.4単位/患者（1日）

④患者、家族への治療の納得・理解向上

→自動車運転支援、CI療法の説明資料を修正

⑤医療リハと介護リハとの連携拡大、急性期、回復期、生活期の連携充実

→生活行為向上加算やスーパー元気アップ塾を通じての勉強会開催や対象者紹介等の連携

老健1日研修：6名

⑥全日本病院学会 in 石川へ積極的参加

発表だけでなく、論文を作成する意欲を奨励する

→全日病学会発表3題、他の学会等でも7題発表

論文投稿2題

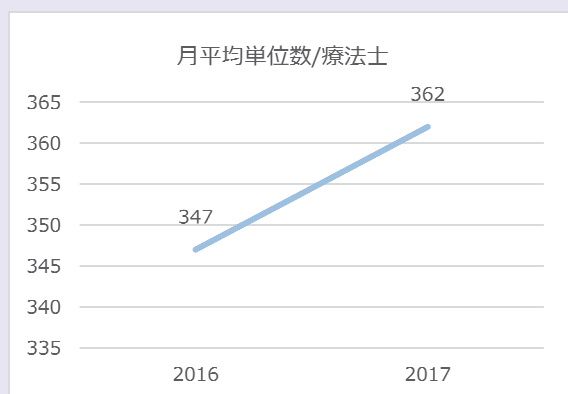
リハビリテーション部（言語療法課）

■ 課長

諏訪 美幸

■ 2017 年度のトピックス、実績

回復期リハ病棟の患者一人当たりの取得単位数を 7.5 とし取り組んだ結果、7.95（達成率 106%）であった。言語聴覚士 1 名当たりの月平均単位数は、前年度 347→今年度は 362 単位（4.3%）と増加した。



■ 事業報告

- ① スタッフ 2 名増員→3 名退職→5 名
- ② 回復期リハ病棟の取得単位数：目標→7.5 単位/患者→7.95 単位/患者（106%増）取得月単位数/療法士：347 単位→362 単位（4.3%増）
- ③ 日単位数/療法士：17 単位→18 単位
- ④ 摂食機能療法総件数：8817 件→8809 件（0.1%減）
- ⑤ 心理：心身医学療法など：52 件/月（達成率 70%）、心理検査件数：38 件（達成率 71.6%）
- ⑥ 患者・家族の理解度向上：嚥下評価結果などを理解度評価シートを用いて説明→全て理解できたと返答があった件数は 51/51 例（100%）。
- ⑦ 論文：日本音声言語医学会誌 1 編投稿、発表：全日本病院学会 in 石川：1 題、参加 3/7 名、アジア環太平洋音声言語聴覚学術集会：1 題、他：全国学会：2 題、北陸：3 題 県：1 題、研究会：1 題
- ⑧ 今後の課題：経験年数が浅い ST が半数以上を占める為、人材育成を重視し顧客満足度に繋げていくことが課題である。

第 2 章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

薬剤部・薬剤課

■ 部長

川村 研二

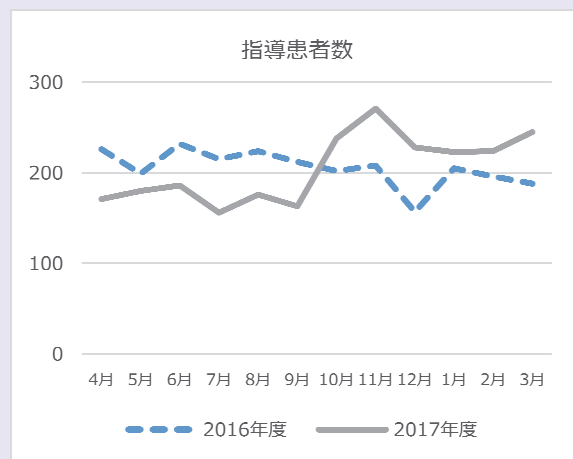
■ 課長

藤田 昌雄

■ 2017 年度のトピックス、実績

服薬指導患者数

2016 年 2,464 名→2017 年 2,461 名



■ 事業報告

目標と達成度

- ① 服薬指導患者数
2016 年 2464 名→2017 年 2461 名
- ② 病棟薬剤業務件数
2016 年 17508 件→2017 年 17502 件
- ③ 持参薬鑑別件数
2016 年 5719 件→2017 年 5238 件
- ④ 糖尿病薬物療法准認定薬剤師 1 名
実務実習指導薬剤師 1 名
病院薬剤師生涯認定薬剤師予定 2 名
学会発表 3 件、
論文 1 編

※新人教育しながら指導患者数を増やした。
※厳しい人数の中で病棟薬剤管理業務の継続
※すべての入院患者の持参薬の鑑別を行った
※12 月から 3 月にかけて薬学生の実習を受け入れた

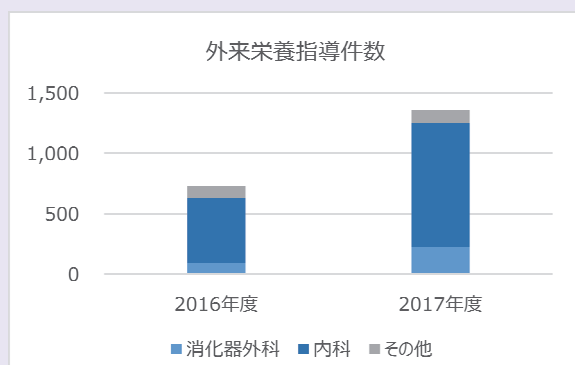
臨床栄養部（臨床栄養課）

■ 課長

前田 美穂

■ 2017 年度のトピックス、実績

外来の栄養指導の件数増加を図った。特に、消化器外科の術前術後と、外来化学療法の患者も対象として介入した。従来の糖尿病等の内科疾患の件数を低下させないよう努めた。



■ 事業報告

① 外来の栄養指導件数の増加

→ 外来全体の件数は前年度 731 件から 1,357 件 1.8 倍の増加となった

② 消化器外科の術前術後の栄養指導介入

→ 消化器外科の栄養指導件数は 2.3 倍の増加

③ がん化学療法の患者への栄養指導介入

→ 呼吸器内科、血液内科の患者を対象とすることで、代謝疾患が大半だった内科の件数を増加させた。

④ 外来担当栄養士の配置

→ 前年度までは病棟の担当を曜日ごとに当番制にしていたが、今年度は外来に専念するための 1 名の担当を配置したことで業務改善、および実績に対しても効果を得た。

臨床検査部（臨床検査課）

■ 課長

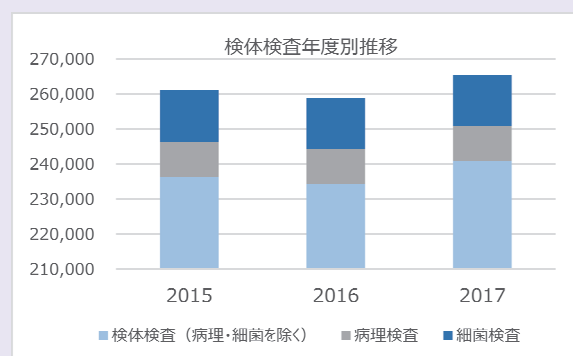
谷内 正人

■ 2017 年度のトピックス、実績

検体検査全体としては、増加傾向に有った。

検体検査（外注検査を含む）総数では 265,545 件で昨年実績より 2.6% の増加を認める。

I&A 輸血認証取得を取得した。



■ 事業報告

1) 検体検査件数、昨年実績比較（詳細）

① 検体検査（細菌・病理を除く） 240,948 件 2.9% 増

② 細菌検査 14,611 件 0.1% 微増

③ 病理検査 9,986 件 0.8% 増

2) 本年度は、病院機能評価 3rdG を受審した。受審に連動して輸血機能評価認定制度（I&A 制度）を受審した。輸血療法委員会と協働で認定証を頂いた。

3) 医師の事務的作業軽減の一つとして用紙依頼の検査項目を電子カルテから入力出来る様に検査マスターを更新した。（特に血液疾患関連や遺伝子検査など）

4) 超音波検査の待ち時間の軽減として予約サーバーの活用を医師事務秘書と共有したルールを取り決めた。

また、婦人科超音波（胎児エコー）は毎週月曜日の午後を腹部エコー室を共同利用している。

5) 当直マニュアルの整備、BCP 対応として TQM 活動の一環としてマニュアルをビデオ化した。

6) 病院最適化として放射線技師の業務拡大として腹部エコー検査を協働出来る様に研修した。2 月より検診センターで腹部エコー検査をローテーションで実施している。

臨床工学部（臨床工学課）

■ 課長

四蔵 勇一

■ 2016 年度のトピックス、実績

OPE 室、内視鏡室の技術サポートの拡大とスタッフの養成を目標としていたが、スタッフの減少によりサポートが不十分となっていました。

また、2017 年度中に医療機器の棚卸を実施すべく調査、準備を行ってきたが、棚卸を実施することができなかった。

■ 事業報告

- ① 病院 BCP に基づいた行動計画指標の充実
→病棟用災害時アクションカードの作成をサポート
達成度 100%
- ② 医療機器の棚卸
→登録機器の資産分類まで済。棚卸未実施。
達成度 20%
- ③ 学術集会での 4 演題以上の研究発表
→日本透析医学会学術集会に 1 演題、
全日本病院学会に 4 演題、発表を行った。
達成度 100%
- ④ 手術部門・内視鏡部門への人材投入と、そのための教育の実施
→スタッフ現象によりサポートが不十分となっている。
達成度 0%

今後の課題：引き続き各部門技術サポートの為の人材育成。引き続き医療機器の棚卸の今年度中の実施

看護部

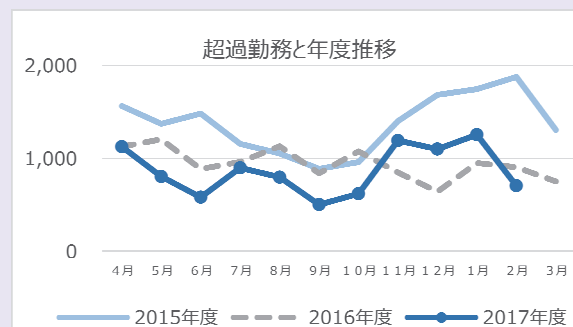
■ 部門代表者

本橋 敏美

■ 2017 年度のトピックス、実績

WLB 取り組み：2 交代勤務 10 病棟で実施、

- * 働き方改革：賞与ポイント制導入、働き方制限者減少
- * 看護方式：PNS 導入 2 年目、成果発表実施
- * 超過勤務減少（応援体制、2 交代勤務、人材育成）
- * 災害時対応アクションカード作成、訓練実施



■ 事業報告

- ① WLB を考える
→HCU 以外の病棟は、2 交代勤務（10/11）実施。
申し送りや記録にかかる時間が短縮され、超過勤務が減少した。また、正循環勤務実施により、勤務と勤務の間隔が 11 時間以上空き、疲労感が軽減している。勤務シフトでは、まとまった休みが多くなった。
- ②働き方改革：賞与に加算ポイント制を導入。
→働き方に制限がない職員に手厚い処遇。49 名の職員が、何らかの制限を解除した。
- ③PNS 看護方式 2 年目
→PNS プロジェクトチームの活動、PNS マインドの研修。成果発表。PNS の定着が先行している部署による、他部署職員の研修受け入れを実施。
- ④退院支援看護師の育成
→法人内老健施設への研修を実施し、急性期病院から、老健施設へ退院する時の退院支援を強化。
- ⑤災害時アクションカード作成と訓練の実施
→主任が中心となり、各部署の災害時アクションカードを作成。災害時、リーダー・誘導・応援者の役割の明確化。
※次年度の継続課題：育休中の職員へアプローチし、夜勤人員の減少をくい止める。

恵寿金沢病院

■ 病院長

上田 幹夫

■ 2017 年度のトピックス、実績

・ジェネリック医薬品の更なる導入を進め、後発医薬品使用割合は 90%以上を維持している。

・当院を退院された患者さんに向けた訪問看護をスタートさせ、在宅での生活支援にあたっている。

(訪問看護事業開始)

・人間ドックセンター受検者に向けた環境整備を進めるとともに、受検者に向けたオプションメニュー 10 項目に加え新たなオプションメニュー 3 項目を追加し、サービス向上を図った。

追加オプションメニュー：腹部 CT 検査、大腸がんリスク検査 (コロジック)、アレルギー検査 (View アレルギー-39)

■ 事業報告

目標と達成度

- ① 入院患者数：2.5 万人 (達成率：88.1%)
- ② 外来患者数：3.5 万人 (達成率：88.5%)
- ③ 人間ドック受検者数：1,614 件
(対前年比：96.8%)
- ④ 全身麻酔手術件数：247 件
(対前年比：115.4%)
- ⑤ 化学療法実施件数：4,199 件
(対前年比：111.7%)
- ⑥ 無菌室利用件数：4,304 件
(対前年比：88.3%)
- ⑦ 紹介件数：814 件 (対前年比：99.0%)
- ⑧ 救急車受入件数：102 件 (対前年比：86.4%)
- ⑨ 巡回インフルエンザ予防接種件数：1,582 件
(対前年比：105.1%)

内科（恵寿金沢病院）

■所属医師

村田了一、佐賀務、山下剛史、宗本早織、松浦絵里香

■2017年度のトピックス、実績

新薬の投入が目覚ましい多発性骨髄腫に関して、金沢大学をはじめとした様々な大学や医療機関との間で複数の多施設共同研究に参加している。常に最新の治療レジメンを提供するとともに、日本独自の治療エビデンス蓄積に貢献している。豊富な治療経験と患者数によって、当院は同疾患の研究において国内で重要な施設の一つになりつつある。

■事業報告

- ① 入院患者数：19,600人（対前年比：97.7%）
- ② 外来患者数：11,300人（対前年比：98.8%）
- ③ 入院単価：対前年比：102.7%
- ④ 外来単価：対前年比：126.3%
- ⑤ 化学療法実施件数：4,199件
（対前年比：111.7%）
- ⑥ 無菌室利用件数：4,304件
（対前年比：88.3%）

整形外科（恵寿金沢病院）

■所属医師

横山 光輝、平田 寛明

■2017年度のトピックス、実績

病診連携をより密にすることで、金沢市内に限らず多くの医療機関より手術適応の方を紹介していただき、これまでで最も多くの手術件数を行うことができました。紹介患者は可能な限り早期に手術・処置を行い、その後、紹介元に速やかに患者さんを逆紹介させていただくスピードのある医療を当科の特徴として、今後も病診連携を強めていきたいと思っております。

■事業報告

- ② 入院患者数：5,700人（対前年比：125.1%）
- ③ 外来患者数：16,100人（対前年比：101.2%）
- ④ 入院単価：対前年比：103.9%
- ⑤ 外来単価：対前年比：98.3%
- ⑥ 全身麻酔手術件数：247件
（対前年比：115.4%）

眼科（恵寿金沢病院）

■所属医師

線納 勉

■2017年度のトピックス、実績

新たに加齢黄斑変性症、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬硝子体注射治療（9件）に対応した。

医業収入は外来単価の伸びであり、前年比 5%増加した。

■事業報告

- ① 入院患者数：270人（対前年比：94.7%）
- ③ 外来患者数：2,480人（対前年比：102.1%）
- ④ 入院単価：対前年比：100%
- ⑤ 外来単価：対前年比：122.3%
- ⑥ 局所麻酔手術件数：169件
（対前年比：114.2%）

看護部（恵寿金沢病院）

■部長

前大道 綾子

■2017年度のトピックス、実績

訪問事業を開始。開始当初は、外来師長、2月以降は、病棟看護師の訪問看護も実施。訪問看護に関する研修も取り入れた。看護師卒後教育を5年とし、当院の目指す看護師像を掲げプログラムを見直し実施した。

■事業報告

- ① 働き続けられる環境づくり
→PNS 継続 定着までに時間をかなり要する。現在の所は、仕掛けをすることでパートナーを意識するよう各部署が取り組んでいる。達成度 50%
- ② 患者の生活背景を考えた関わり方
→卒後教育に訪問看護を取り入れたが実践できなかった。各病棟で患者の生活背景を考えたカンファレンスの展開、訪問事業を行う看護師長からの講義など生活へ目を向ける取り組みを推進した。達成度 60%
- ③ スタッフ教育
→感染管理認定看護師資格取得
緩和ケア認定看護師資格取得のため研修へ
全日病学会 看護部から2 第発表
卒後教育体系変更 達成度 80%
- ④ 院内の協力体制の構築
→看護部内での外来、病棟の連携を推進。処置の手伝いなど行っていたが、システムづくりが基盤になく持続しなかった。達成度 20%

田鶴浜診療所

■部門代表者

和田 汪

■2017年度のトピックス、実績

収支の安定に向けた取り組みとして、投薬のみ希望の患者に対し、診療を積極的に勧めてきた。

診療者数は、6,270名、前年比2.8%増。

■事業報告

① 鶴友苑と共同で地域へPRし受診や健康診断、予防接種を勧めてきた。

→ 外来新患者数 514名、前年比25%増。

② 併設施設とのコミュニケーション・情報交換に気を配り、地域の健康・安心に貢献できるよう不測の事態にも備えてきた。

恵寿ローレルクリニック

■部門代表者

吉岡 哲也

■2017年度のトピックス、実績

患者数は9,483人で前年比95.8%となった。

訪問診療の件数は471件で、前年度の258件を大きく上回った。

■事業報告

妊婦健診や乳幼児健診、訪問診療など地域の幅広いニーズに対し、家庭医療という強みを活かしながら診療を行った。

家庭医療専門医に2名が合格し、今後も地域に根差した医療を強化していく。

鳥屋診療所

■部門代表者

斎藤 靖人、中谷 茂和

■2017年度のトピックス、実績

患者数 内科：3,214名 小児科：4,317名

計：7,531名（前年7,443名）

紹介 75名（恵寿総合病院61名、その他14名）

いきいき 総利用者数3,498名

稼働率75.9%（目標75.0%）

■事業報告

中能登町で唯一の小児科として、順調に患者数が増えている。

いきいき：要介護認定者の通所リハ（午前・午後3時間）

若手のPT・OTの勤務で、顧客満足度が上昇。

高齢者サロンで2回（3回予定だったが雪のため1回中止）

介護予防事業実施。

鳩ヶ丘クリニック

■部門代表者

宮本 正俊

■2017年度のトピックス、実績

年間患者数は969人であった。

（前年比104.9%、45人増加）

■事業報告

介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘の入所者のCT撮影、胃ろう交換、外来の予防接種等を主に行った。

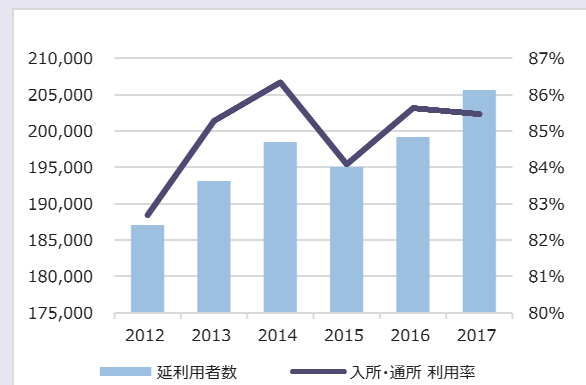
介護事業統括部

■部門代表者

吉田 茂和

■2017年度のトピックス、実績

入所・通所・訪問等、すべてを含む利用者の延べ人数は、205,639名で、前年の199,128名に比べ、約3.3%の増加がみられた。ただ、入所及び通所事業のみに着目すると平均稼働率は85.5%となり、一部の通所の苦戦が響き、前年度をわずか(0.1ポイント)ながら下回った。



■事業報告

- ① 施設利用者の満足度を上げる
→デイケア等を中心に QOL 重視のプログラムを実施した
- ② とことんお世話をを行う
→サービスの導入から看取りに至るまで、「けいじゅ」が最後まで責任を持つという姿勢で取り組んだ
- ③ キャリア段位制度による実践的技術認定者を増やす
→アセッサー（評価者）育成の継続 7名増員
被評価者の認定に苦戦（レベル3の難易度 高）
- ④ 特定行為認定者を増やす
→喀痰吸引研修受講者 32名
医療的処置（喀痰等）を必要とする利用者の受け入れ幅を広げた
- ⑤ キャリアアップ関係
→介護福祉士実務者研修受講者 10名
→ユマニチュード研修 延べ99名参加
→排泄研修 延べ37名参加

介護老人保健施設 和光苑

■所属医師

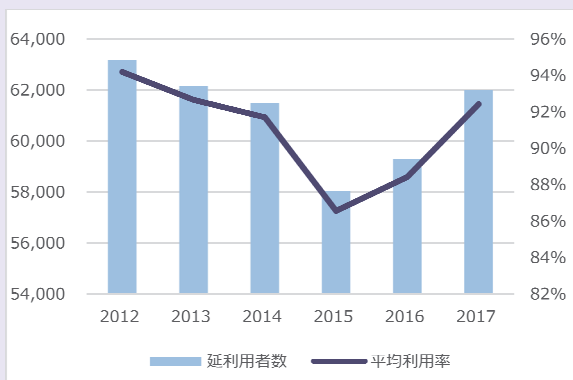
平井 洋

■2017年度のトピックス、実績

入所では在宅復帰よりも入所の稼働率アップ、通所も営業力による稼働率アップにアップに努めた結果、利用者数は昨年度よりプラス4%を超えることが出来た。

延べ通所者数は前年比 453名増 (+4.6%)

延べ入所者数は前年比 2,366名増 (+4.8%)



■事業報告

目標と達成度

- ① 通所目標 達成率 101.7%
- ② 入所目標 達成率 101.0%
- ③ 在宅復帰強化と利用者満足の向上を図る
→ 在宅復帰支援加算は算定出来なかったが、7名の方が在宅復帰することが出来た。
- ④ 生活行為向上リハビリテーションの実施
→ 通所の利用者 7名が生活行為向上プログラムの実施にて、通所リハビリを卒業することが出来た。
- ⑤ 介護キャリアアップ段位制度のアセッサー増員及び認定特定行為従事者（喀痰吸引実施者）の増員
→ 新たにアセッサーを 3名誕生することが出来た。また、認定特定行為従事者も新たに 7名誕生させることが出来た。

介護老人保健施設 鶴友苑

■所属医師

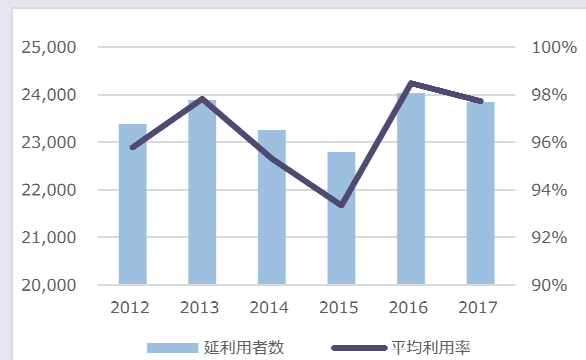
和田 汪

■2017年度のトピックス、実績

老人保健施設本来の機能を発揮するために在宅復帰率向上に注力した。年間を通して50%を維持でき、強化型老健として継続できた。空床期間はショートステイでの稼働を強化したことで安定した稼働率につながった。

・在宅復帰率 64% (2017年度末現在)

・入所稼働率 平均95.3%、前年比0.8%増。



■事業報告

- ① 入所 目標稼働率 95%
→95.3% 入院や特養への急な退所時には、ショートステイで対応してきた。
- ② 通所 目標稼働率 89%
→83.2% 入院や施設入所者が多く、達成度としては93.5%。加算取得を意識し、生活行為向上リハビリテーションプログラムを3名実施できた。
- ③ 老健としての役割を果たす取り組みを強化する
→年間を通して延べ56名が在宅復帰し、在宅復帰率は50%以上を維持、強化型老健として継続できた。老健本来の機能の確保と顧客満足の両立に取り組んだ。
- ④ 個々にチャレンジ精神を持ち、様々な研修会参加、資格取得を目指す。
→介護キャリアアップ段位制度のアセッサーを2名増員。全国老人保健施設大会での事例発表に取り組んだ。

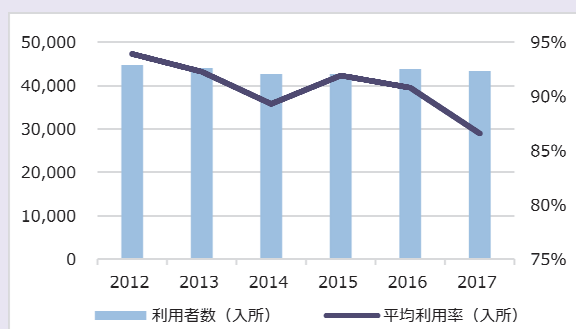
介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘

■所属医師

宮本 正俊

■2017年度のトピックス、実績

マンパワーの課題から、利用者延べ人数は、49,636名で前年の51,885名に比べ、約4.2%減少したが、利用者満足度を上げる取組みとして、入所サービスを中心にボランティアの積極的活用、通所サービスを中心に各種文化活動の実施。吸痰等必要な医療ニーズへの対応として特定行為認定者の増加を図った。



■事業報告

①利用者の満足度を上げる

→行事委員会を中心に外出や毎月の誕生会等を企画、18組の地域ボランティアに積極的に協力いただき、多種多様な文化活動に触れていただくことができた。

→コミュニケーションノートの活用でご家族からは「普段の様子が見える」退所時には「思い出になる」などの感謝の言葉をいただいた。

→通所サービスを中心に園芸、手芸、書道、囲碁などQOL重視のプログラムを行った。

②キャリア段位制度による実践的技術認定者を増やす

新たにアセッサー資格 2名取得

被評価者（レベル2-2）1名認定手続き中。

③特定行為認定者を増やす

喀痰吸引研修修了3名、実地研修5名修了。指導看護師2名増。他施設からの実地研修の受け入れ実施。

④地域へのアピール

介護医療院への転換準備。

恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」

■部門代表者

諏訪 勝志

■2017年度のトピックス、実績

自立支援を考慮したケアプラン作成で、利用者が質の高い在宅生活を継続できるよう支援した。介護から支援への改善者15名、介護度改善者51名で全体の10.3%に改善がみられた。全日病学会で1演題発表。

■事業報告

今期目標は、請求件数500件/月であったが、請求件数は457.3件/月（91.3%）で目標を下回った。8月以降ケアマネ実人数0.4減だが、困難事例も含め積極的に新規依頼を受け入れ、利用者増に努めていく。

恵寿訪問リハビリテーション事業所「けいじゅ」

■部門代表者

諏訪 勝志

■2017年度のトピックス、実績

病院内リハビリスタッフに訪問リハの勉強会、紹介の働きかけを行い、病院退院時の紹介者増につなげた。社会参加支援加算取得により、質の高い訪問リハビリ提供をアピールし、ケアマネからの依頼も増えた。

■事業報告

今期目標は、利用者数400件/月であったが、利用者数377.7件/月（94.4%）で目標を下回った。退院後の集中的短期介入でスムーズな在宅復帰が促せるように病院スタッフに働きかけ、新規獲得を積極的に行っていく。

恵寿訪問看護事業所「けいじゅ」

■ 部門代表者

諏訪 勝志

■ 2017 年度のトピックス、実績

5 月より専任の訪問看護師が配属となり、頻回の訪問看護、より専門性を活かした訪問看護が提供できるようになり、病院内からの紹介が増加した。

■ 事業報告

今期目標は利用件数 70 件/月であったが、利用件数は 73 件/月（104.3%）と目標を達成した。病院から退院後で状態不安定な利用者もあり、家族・利用者の不安軽減のために土日などの緊急連絡時の対応が今後の課題。

在宅複合施設 ほのぼの

■ 部門代表者

石渡 利浩

■ 2017 年度のトピックス、実績

施設内でのプロジェクトチーム活動に重点を置き（夢をかなえる、収支達成、学校とのコラボ、ユマニチュード）の施設内発表大会を実施し 1 年間の活動・今後の展望について発表し検証することができた。

■ 事業報告

今期目標の達成度：財務業務面は 90%、顧客の視点は 60%、仕事の進め方は 90%、学習と成長は 70%でした。今後の課題：BSC の考え方にのっとり下級者に目標をカスケードし法人全体の目標を達成できるように方向付けをする。

恵寿福祉用具貸与事業所「けいじゅ」

■ 部門代表者

諏訪 勝志

■ 2017 年度のトピックス、実績

福祉用具専門相談員資格を 1 名取得。担当者会議等に参加し、適切な福祉用具選択の助言を行っている。また、スムーズな対応に心がけ、貸与品の搬入を希望日にほぼ行っていた。

■ 事業報告

今期目標は、利用件数 200 件/月であったが、利用件数 170.2 件/月（85.1%）で目標を下回った。法人内ケアマネからの新規依頼は継続してあるが、利用者増のために法人外の居宅支援事業所へも営業活動を行っていく。

けいじゅ一本杉

■ 部門代表者

福久 典子

■ 2017 年度のトピックス、実績

・7 月まで登録者が伸びず低迷していたが、8 月以降は 25 名～26 名を維持することができている。
・困難な事例も七尾市・地域包括支援センター・地域の方とも連携し受け入れ、利用増に繋がった。

■ 事業報告

①目標登録人数 26 名 平均 24.3 名 達成率 93.4%
②目標稼働率 80% 平均 81.8%
③訪問体制加算は 200 件を大きく上回り、毎月取れている課題としては訪問と通いのバランスをとり、業務の安定を図る

デイサービスセンター いこい!

■部門代表者

高松 由紀子

■2017年度のトピックス、実績

- ・地域交流会では、利用者家族を主に開催（17名参加）
いこいでの活動内容を理解してもらい、満足度を高めることができた。
- ・ユマニチュード研修会に全員参加し、認知症利用者の対応について理解を深めることができた。

■事業報告

業務・財務の視点では、目標を大幅に下回り、達成することができなかった。利用者・家族の満足度を高め、PR活動を行い、顧客の拡大に努めていく。

医療福祉ショップ めぐみ!

■部門代表者

池岡 一彦

■2017年度のトピックス、実績

- 総売り上げ金額 : -96.8% (対昨年度)
- 総販売件数 : 102.2% (対昨年度)

■事業報告

- ① 総売り上げ金額 : -96.8% (対昨年度)
- ② 販売件数 平均 505 件/月 (昨年平均 496 件)
- ③ POP に英語表示を併記。外国人対応。

恵寿みおや・楽らく

■部門代表者

愛徳 亜矢

■2017年度のトピックス、実績

- 通い延人数 8,086 名 (昨年 7,188 名)
- 訪問延人数 8,866 名 (昨年 10,272 名)
- 泊まり延人数 516 名 (昨年 1,893 名)
- 前年比 -1%
- 6月にみらいカフェをオープン 3月に楽らくを廃止

■事業報告

稼働率目標 92%
⇒85.6% 達成率 93.0%

さいこうえんの障害者生活支援センター

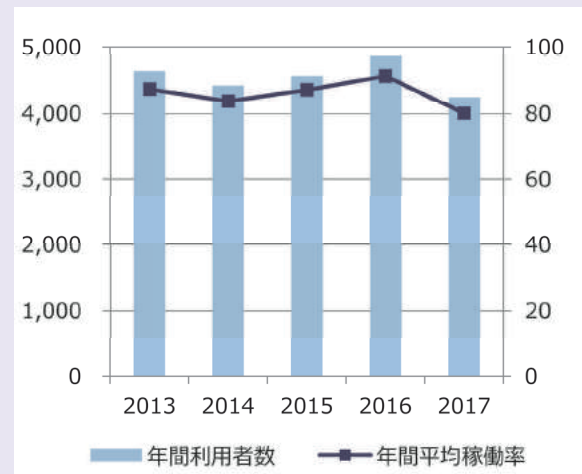
■部門代表者

前田 晋

■2017年度のトピックス、実績

年間利用者数 4,249 名、前年度比 12.6%減であった。

平均稼働率 80.1%、前年度比 12.3%減であった。



■事業報告

地域活動支援センター課では、七尾市・中能登町からの委託を受け、障害者就業・生活支援センター I 型事業を実施している。地域にお住いの障がい者が日中通所され、さまざまな活動を実施している。生活支援員 3 名を配置し、主に生産活動（作業）や季節行事（花見会やクリスマス会など）調理プログラムやレクスポなど余暇活動も行った。今年度は地域の一員として事業所所在町内の美化活動（除草作業）にも取り組んだ。

相談支援事業（指定特定・指定一般・視程障害児）は、障がいのある人の様々な課題についての相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数 3,217 件:前年度比 16%増）。障害者就業・生活支援センター事業は、障がい者（または企業等）からの求職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数 1,667 件・就職件数 30 件・職場実習件数 21 件）。

バリアフリーホーム セレーナ青山

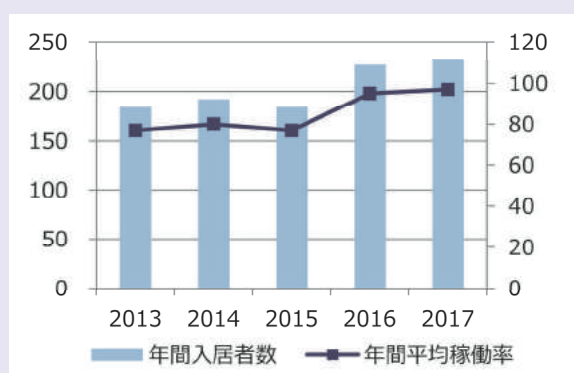
■部門代表者

瀧野 利徳

■2017年度のトピックス、実績

青山彩光苑の敷地内に立地しており、障がいを抱えた方の住まいの場として機能し満床となる。

必要な方は、併設施設での食事サービスや入浴サービスを有料で受けることが可能である。



■事業報告

新規2名の入居があり、満床の状況が継続している。相談支援専門員や介護支援専門員との連携のもと、入居者全員が法人内の何らかのサービスを利用しており、住居の提供だけでなく活動と生活の両面を法人全体で支えている。

<法人内サービス利用の内訳> ※重複利用を含む

(障がい者活動系)

リハビリテーションセンター	10名
ワークセンター田鶴浜	11名
ライフサポートセンター	1名
障害者生活支援センター	1名

(高齢者活動系)

エレガントなぎの浦	1名
ふれあいの里	1名

(生活支援系)

ローレルハイツ恵寿(ホームヘルプ)	6名
-------------------	----

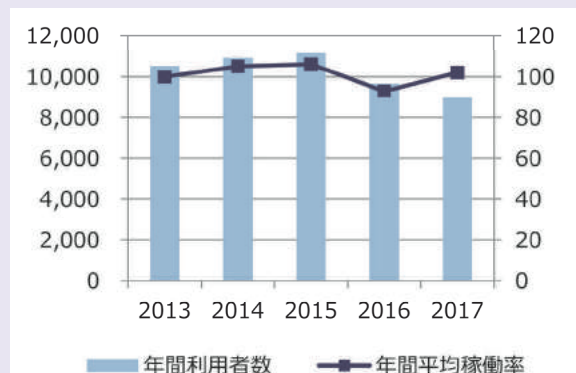
青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2017年度のトピックス、実績

2017年4月より、一般就労者の輩出を目的とした就労移行支援事業を開始した。実際には8名の利用があり、内1名が法人内事業所の支援員として就職するに至った。また、一般企業へ出向いての作業訓練(施設外就労)も行った。



■事業報告

目標と達成度

- ① 入所稼働率(短期入所含む)を90%以上とする。
→76.2%であったため、達成度としては84.7%
- ② 機能訓練稼働率を100%以上とする。
→101.8%であったため、達成度としては101.8%
- ③ 就労移行支援稼働率を80%以上とする。
→94.6%であったため、達成度としては118.3%
- ④ 新規事業
→就労移行支援事業(定員6名)
- ⑤ 総括

日中活動系において、機能訓練の延べ利用者数は減少したが、新たに就労移行支援事業を開始したことで、全体では前年度比106.9%の利用結果となった。地域において、就労移行支援の主対象となっている知的、精神、発達障害者の支援ニーズが高まっている。

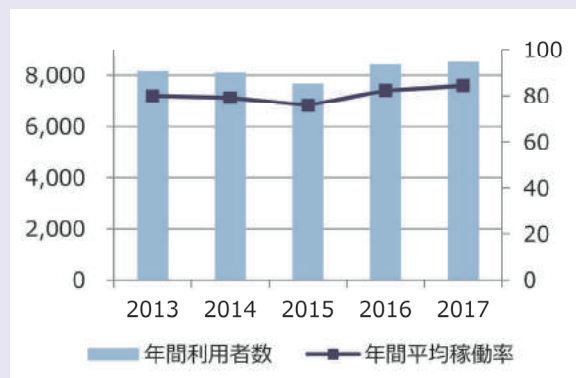
青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

池田 浩

■2017年度のトピックス、実績

利用実績は、稼働率目標 82%に対し、85%昨年対比 3.7%増、延べ利用者数は 8,531 名で昨年対比 96 名増となった。事業総売上高は、昨年対比 4.2%減となったが、行政からの委託作業も増え、安定収入増となった。



■事業報告

経営の安定化と常に成長を目指す

年間開所日数が昨年より 3 日間少なく、なおかつ年間を通じて 5 名の退所者に対し、4 名の新規利用者しか確保できなかったが、健康管理・支援等の充実により、稼働率のアップ、延べ利用者数の増につながった。登録者数は、1 減となり目標の 45 名には届かなかった。利用者の高齢化の問題とともに、今後も利用者確保について継続課題として取り組む。授産事業においては、今年度より行政からの委託である家具等解体分別作業の業務を締結し、作業を開始した。必要経費が少なく安定収入となっている。現行の自主生産事業における作業においては、予定通り遂行した。安定した収入を維持するために、新規の定番商品が不可欠であり、開発し続ける予定である。

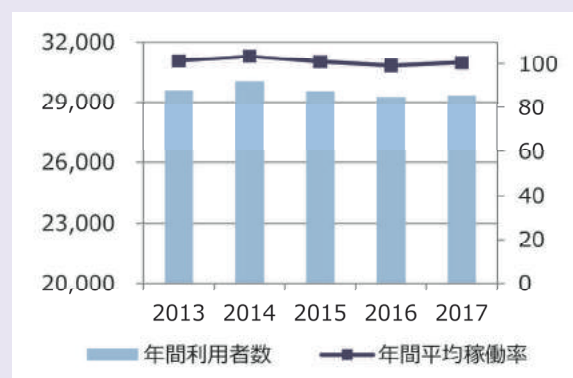
青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

■2017年度のトピックス、実績

新しい体験に取り組む。知的に支援を必要とする利用者には、①のと鉄道乗車、②海水浴、③縁日（苑内）等を行った。延べ 40 人参加。電車の揺れや海水に触れることで戻込みすることも見られたが、笑顔も多くみられた。ご家族にも写真や動画で様子をご覧いただき好評を得た。



■事業報告

テーマは「楽しみのある私らしい生活」。個人の生活に視点をあて、興味に寄り添って支援。①図書館に出かける、②写真を撮り展示、③買い物に行く、④外食を楽しむ、⑤釣りに行くなど(延べ 323 人)。また、交流が好きな方を対象にカラオケ交流会も 2 回実施した。(延べ 83 人)。栄養面では、調理を通して、間食について学び、意識の変化が生まれた(24 回実施、延べ 116 人)。今後も個人の意向を支援に生かしていく。また、誕生日に背広やワンピース姿で写真撮影(24 人)を行い、新たな一面を記録に残し、ご家族にも好評をいただいた。

職員の資質向上として、各委員会主催の勉強会を開催。嚙下・口腔ケア(ソフト食を体験)、権利擁護委(不適切ケアとは)、移乗(リフター操作)、感染予防などを実施。勉強会参加職員は延べ 243 人。また、認定特定行為業務従事者は、介護職員の 38%となった。

年間稼働率：生活介護事業 117.3% 施設入所支援事業 100.5% 短期入所事業 66.3%。

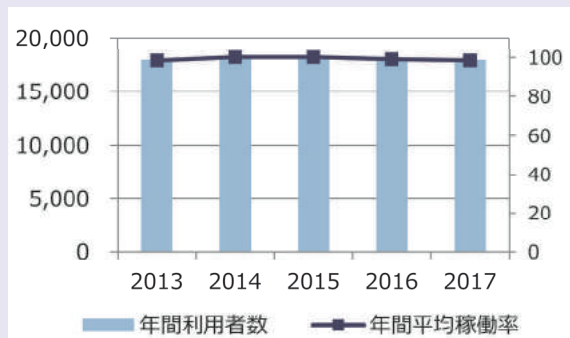
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

細木 俊逸

■2017年度のトピックス、実績

能登北部初の全室個室で、障がいのある方が利用する生活介護施設である。短期入所（ショートステイ）の受け入れでは、3障害（身体・知的・精神）を受け入れている。日中活動は、作業活動（箆袋、シューズキーパーなど）、スポーツ（ポッチャ：北陸大会出場、ゴロ卓球、風船バレー他）、余暇支援（園芸、調理、釣り、旅行）などを行っている。



■事業報告

作業活動では、延べ 236 名が参加し、外部での自主製品の販売を9回行った。地元の企業から仕事をもらい、年間工賃支給総額 203,081 円。慰労会を開催し 17 名参加。地元の中学校に出向き、ポッチャの交流、車椅子体験、目の不自由な方の擬似体験を行い、障がいへの理解を深めてもらうことができた。介助サービスを利用し、東京旅行を実施した。（利用者6名家族1名参加）ポッチャ交流会を企画運営し七尾・穴水の事業所から計 16 名の参加があり、ポッチャを通して交流を図ることができた。個別支援計画の作成に際して、利用者参加のサービス会議を計 16 回開催、本人の思いを計画に持ち込むことができた。

食事支援では、季節メニュー、特別メニューを計 36 回実施。経口維持、療養食の取り組みを他職種と連携して行う（経口維持 2 名、療養食 21 名）。

健康支援では、入所者 51 名が健康診断を受け、受診結果をご当事者、ご家族に伝え、助言・指導を行った。食事場面（窒息・心肺停止を想定）の訓練を介護職員延べ 17 名に実施。相談員・看護師が入所者の退院時カンファレンスに参加。（9 名）退院後の受入態勢を取ることができた。

石川県精育園

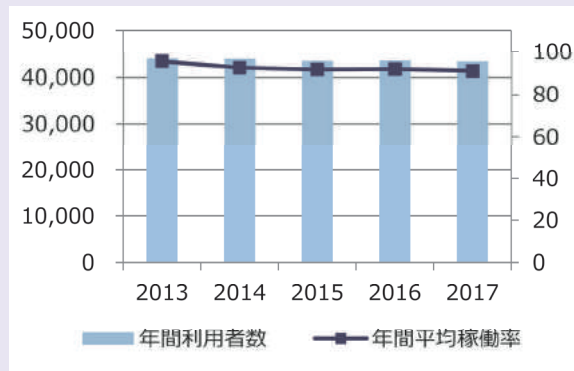
■部門代表者

今寺 忠造

■2017年度のトピックス、実績

平均障害支援区分 4.6、平均年齢 54 歳。生活介護稼働率 99.4%（前年 97.4%）施設入所支援稼働率 90.9%（前年 91.6%）施設入所の稼働率は前年比に比べて減となった。生活介護については、生活介護のみを利用する通所利用者が常時 7 名の他に、長期短期の利用となり微増。

グループホームけいじゅ（定員 20 名）を新設した。併設事業として、短期入所（定員 4 名）、相談支援キララ、ヘルパーステーション銀河（居宅支援）、地域交流スペース等など多機能型の事業を展開し、地域課題に対応できる体制を整備した。



■事業報告

60 歳以上が 36%を占め、高齢化と考えられる利用者の機能低下が顕在化し、機能の維持向上を図るための対策として作業療法士、管理栄養士、看護師、生活支援員のチームアプローチによる支援を強化し転倒予防・便秘対策・嚥下評価など事業所全体として健康支援に取り組んだ。また、感染症の予防についても職員一丸となって取り組んだ。

また、重度障害者加算対象者が利用者全体の 35%を占める中で、障害の重い方に対する支援力を高めるための研修、人材育成に取り組むとともに、利用者の余暇活動の充実に努め、QOL の向上として廊下の空調、ウォシュレットの整備等の改善を行った。一方で、家族、利用者に対する施設運営についての満足度調査では、居室の個室化など設備面の充実に希望する意見が多く寄せられた。

施設の防犯体制は、昨年度から、防犯カメラの設置や安全講習会実施するなど職員・利用者の意識向上に努めた。また、防災についても避難訓練の実施や救急救命の訓練などを継続的に取り組んでいる。

第 2 章 法人方針・事業報告（徳充会）

エレガテナぎの浦・アンジェリナぎの浦

■部門代表者

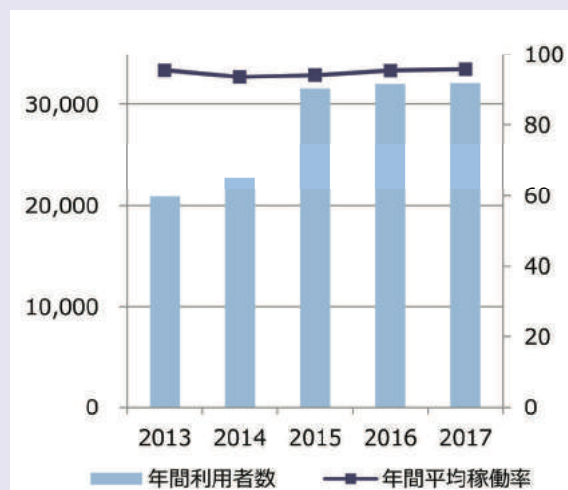
江沢 恵太

■2017年度のトピックス、実績

特養にて看取り介護を実施し、終末期における利用者様の選択肢拡大につながった。看取り介護の実績は4名であった。

口腔衛生管理、摂食・嚥下機能への支援を行い、機能維持・向上を図り、肺炎等による入院者の減少につながった。

介護キャリア段位制度を活用した人材育成を実施した。



■事業報告

目標と達成度

①目標稼働率は、特養 98%、ショートステイ 95%、ケアハウス 100%、デイサービス 85%。

→平均稼働率実績は、特養 95.7%、ショートステイ 95.5%、ケアハウス 95.8%、デイサービス 84.8%。

特養については、上半期の入院が平均 5.39 床であったが、看取り介護、口腔衛生、摂食嚥下への支援を強化し結果、平均 2.41 床に減少した。ケアハウスは、利用者の重度化により、入退居が頻繁であったため、目標には至っていないが、その他の事業は、昨年の稼働を上回った。

②人材育成の一環で介護キャリア段位制度による段位認定を1名取得。

③エレガテナぎの浦（特養）との連携を目的に相談業務を中心に情報共有と業務の標準化を実施。業務改善や効率化につながった。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

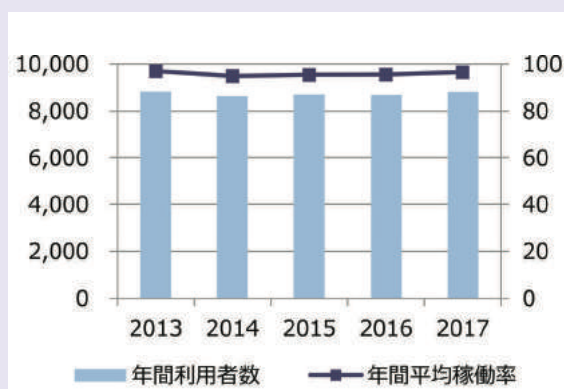
エレガテナぎの浦・もみの木苑

■部門代表者

江沢 恵太

■2017年度のトピックス、実績

エレガテナぎの浦までは、看取り介護を実施し、利用者様の終末期における選択肢拡大につながった。もみの木苑では、利用目的の大半を占める入浴に力を入れ、視覚、臭覚でも楽しんでいただけるよう、変わり湯、壁画など銭湯の雰囲気を取り入れた環境整備を実施し、好評であった。



■事業報告

目標と達成度

① 目標稼働率は、エレガテナぎの浦（特養）99%、デイサービスセンターもみの木苑 93%。

→平均稼働率実績は、エレガテナぎの浦 96.6%、入院による空床が、平均 0.7 床。もみの木苑は、81.6%であった。

看取り介護を実施し、これまで入院していた方が、施設内での生活を継続し、最期を迎えられるようになった。結果的に入院日数の減少にもつながった。

② エレガテナぎの浦、もみの木苑では、地域密着型施設として、地域の介護支援サポーターに行事や支援のサポートをしていただき、地域交流が図られた。また、施設から地域へ出向いての支援も実施し、交流を図った。

③ エレガテナぎの浦（特養）との連携を目的に相談業務を中心に情報共有と業務の標準化を実施。業務改善や効率化につながった。

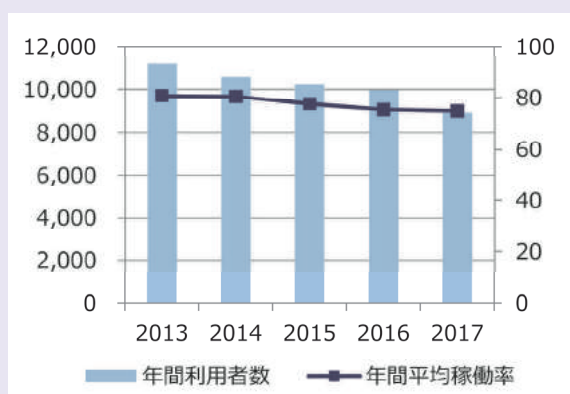
ふれあいの里

■部門代表者

芳原 哲弥

■2017年度のトピックス、実績

介護度別ケアの提供を図るべく、中重度・認知症・軽度、自立の3つのプロジェクトチームを立ち上げ、専門性を高めるための取組を実施した。2017年4月より基準緩和通所型サービス（交流型：定員10名）の提供を開始。延184名が利用された。



■事業報告

目標と達成度

① 通所介護の年間稼働率目標は90%

→達成度は74.8%

死亡や入所、長期ショートステイ利用などによる利用の休止や中止が多く稼働率は伸び悩む結果となった。新規事業である基準緩和通所型サービスは7名の利用者が毎週月曜日に利用している。

② 訪問入浴は90件/月以上の提供

→達成度は77.9件/月

職員の離職等により、営業日を縮小せざるを得ない状況が続いた。新規はターミナルケア対象者のみとし、2017年度は4名に留まった。

③ 配食サービスの目標配達件数2,200件/月

→達成度は2,036件/月

サービス利用の受付基準の厳格化により七尾市からの委託件数が年々減少している。

ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

内田 かおり

■2017年度のトピックス、実績

オープンして2年目。ケアハウスは満室状態を毎月維持した。サ高住は2年目8カ月の12月に満室とした。その後も入居希望の方の問い合わせは続いている。



■事業報告

目標と達成度

① 全体入居率95%

・ケアハウス 目標稼働率100%

→結果：99.7%（入退去をスピーディーに行う事を意識した結果100%に近い数字であった。）

・サ高住 目標入居率94%

→結果：12月より入居率100%。49人/49人VIP501号室契約有。

② 『医』『食』『住』安心のメディカルホーム作り

・『医』医療連携加算は全員から取得した。

医療連携を通して、情報を共有し安心して過ごせる環境づくりを整えた。

・『食』健康管理を行う。

医療と連携し、治療食からの健康維持を整える環境づくりを整えた。

・『住』家族会の開催・勉強会を行う

家族会は委員会を行ったが、開催までには至らなかった。勉強会は、感染、食中毒を入居者対象に行った。参加率は82%。関心を高めた。

③ 安定した収支の維持

ケアハウスは1年間毎月1日には満床とした。

サ高住は12月より満室とした。ヘルパーは職員減を調整し、1人あたりの現場時間を増やした。

④ 職員の質の向上

接遇を日頃から意識させ、苦情はなし。

毎日の朝礼に、フィロソフィを取り入れ、職員周知に努めた。

健康増進センターアスロン

■部門代表者

一谷 真澄

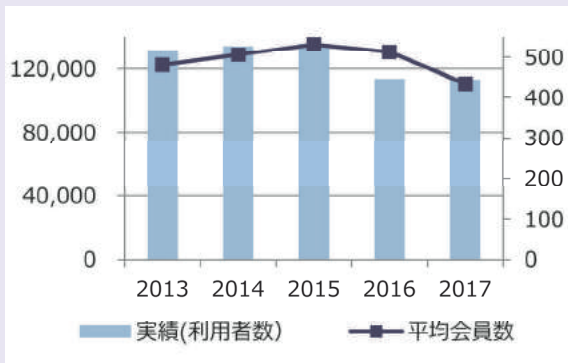
■2017年度のトピックス、実績

会員利用料金の改定・新料金への取組みによる利用収入増への取組み。

増加率	個人正会員	36%増
	平日会員	39%増
	土日会員	45%増
	小人会員	60%増

年会費から月会費（口座引落）への変更

上記の取組みにより、前年度と比較すると、利用料収入が約57%増となった。



■事業報告

- ① 施設営業時間の改定。(1時間増への取組み)
10:00~20:00→10:00~21:00
- ② 介護事業【基準緩和通所型サービス(運動型)事業】開始。2017年4月6日～開始。
対象者：
要支援者及び基本チェックリストによる事業対象者
内容：
運動プログラムを活用した機能訓練・レクリエーション等
定員：10名
- ③ 中能登町との連携
対象者：65～85歳未満の高齢者
運動機能向上プログラム3ヶ月(2クール)
- ④ 七尾市との連携
対象者：65歳の方
七尾市無料クーポン券配布事業の受け入れ

第2章 法人方針・事業報告(徳充会)

徳充会 総務部

■部門代表者

山下 賢、畑中 浩樹

■2017年度のトピックス、実績

- ① 確定拠出年金制度の導入
- ② 無期転換職員の就業規則制定
- ③ 石川県高等学校教育研究会福祉部会との人材確保に向けた意見交換会
- ④ 「いしかわ魅力ある福祉職場」認定制度への申請

■事業報告

- ① 確定拠出年金制度の導入、無期転換職員の就業規則制定。→福利厚生制度の充実と職員の働き方の選択肢を広げることができた。
- ② 人材確保にむけた取組。→石川県より「いしかわ魅力ある福祉職場」として認定を受ける。(2018年4月10日)

徳充会 経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

■2017年度のトピックス、実績

- ① 2017年度より会計監査人を設置。それにより会計監査の受入れ体制の整備を行った。(事前調査への対応、専門知識のスキルアップ)
- ② 情報公開の強化が行われ、「財務諸表等電子開示システム」への対応やHPへの公開対応を行う。
- ③ 社会福祉法人制度改革に伴う新しい役員構成と会議の運営対応。

■事業報告

- ① 会計業務
- ② 社会福祉法人制度改革への対応
- ③ 理事会・評議員会開催(6月、9月、3月)
- ④ 法人登記手続き(資産総額変更、理事長登記)
- ⑤ 指導監査の対応
実地監査8施設、書面監査3施設
- ⑥ 請求業務(就労移行事業開始、補助金等)

アドボカシー室

■ 部門代表者

池田 まり子

■ 2017年度のトピックス、実績

今年度も昨年同様「あいさつに一声添えて安心感」を標語に掲げ、利用者・家族等の意見等を吸い上げる心構えを周知した。

■ 事業報告

アドボカシー室には 20 件の意見が寄せられ部長会議において報告をした。

職員の話を聴く姿勢についての指摘、また職員間の相談に関わり、事業所に引き継ぎ対応して頂いたケースがあり解決に至った。現場での受け止める姿勢・環境が整っていることにより即対応、即実践ができています。

徳充会 教育研修委員会

■ 委員会代表者

芳原 哲弥

■ 2017年度のトピックス、実績

2017年度 委員会回数 5回

- ① 介護福祉士受験対策講座
 - ・国家試験対策模擬試験（4回）17名受験
 - ・フォローUP勉強会（6回）
 - ・国家試験結果6名合格
- ② ノーリフト推進のための視察研修（金津サンホーム）
- ③ キャリア段位制度の普及（3名受講）

■ 委員会検討内容

- 第1回 2017年7月12日（水）
 - 年間事業計画の検討・決定
 - 4つの事業を実施することを決議する
- 第2回 2017年8月24日（木）
 - 国家試験対策講座の概要の確認
 - キャリア段位制度の受講者数の確認
 - 生涯学習単位の活用方法の確認
- 第3回 2017年10月19日（木）
 - 第1回模擬試験結果の確認
 - フォローUP勉強会の確認
 - ノーリフトの推進にむけた視察研修の検討
 - 生涯学習単位の活用方法の確認
- 第4回 2017年12月4日（木）
 - ノーリフト視察研修の報告
 - 第2回模擬試験の結果報告
 - フォローUP勉強会の開催日程の確認
 - キャリア段位制度受講終了報告（3名）
- 第5回 2018年3月22日（木）
 - 介護福祉士国家試験自己採点報告
 - 次年度の取組についての意見交換

徳充会 福利厚生委員会

■委員会代表者

田口 茂美

■2017年度のトピックス、実績

2017年度 委員会回数 6回

① 2017年7月8日(土)

レク企画ソフトバレーボール大会&BBQ(参加者56名)

② 2017年9月30日(土)～10月1日(日)

旅行企画 有馬温泉・神戸大阪散策(参加者38名)

③ 2017年10月21日(土)～10月22日(日)

旅行企画 東京フリータイムorTDR(参加者家族含21名)

④ 2018年2月24日(土)

レク企画 ボウリング大会(参加者55名)

■委員会検討内容

第1回 2017年5月10日(水)

- ・各事業所への行事助成金の取り扱いについて
- ・昨年度の活動報告及び今年度の事業予定について

第2回 2017年6月12日(月)

- ・ソフトバレーボール大会&BBQ企画について
- ・旅行企画について

第3回 2017年7月24日(月)

- ・ソフトバレーボール大会&BBQ企画報告及び反省
- ・旅行企画参加状況報告

第4回 2017年11月20日(月)

- ・旅行企画実施報告
- ・ボウリング大会企画について

第5回 2018年1月15日(月)

- ・ボウリング大会企画参加状況報告
- ・ボウリング大会景品等準備について

第6回 2018年3月12日(月)

- ・ボウリング大会企画報告・及び反省
- ・今年度の反省・まとめ

事例研究大会

■委員会代表者

順毛 沙弥香

■2017年度のトピックス、実績

事例研究大会 2018年2月24日(土)

会場…青山彩光苑

多目的ホール、談話室、会議室、研修室

大会テーマ

「質の向上を目指して～利用者・職員の笑顔のために～」

提出事例数 事例(36当日発表、234紙面発表)

参加人数 180名、前年比6.25%減

部門(障害者・高齢者)ごとに最優秀賞、優秀賞、
苑長賞を設け、職員会議で表彰を行う。

■委員会検討内容

第1回…開催日、大会テーマ、事例選出など基本要綱に
関する事項について検討する。(2017.7.25)

第2回…座長、評価表、アンケート内容見直しについて検
討する。(2017.10.12)

第3回…大会当日の対応、事例収集方法の確認を行う。
(2017.12.14)

第4回…当日役割分担、冊子印刷方法、必要物品の確
認を行う。(2018.2.13)

第5回…事例研究大会の振り返り、次年度委員会に向け
て意見交換会を実施する。(2018.3.15)

①今年度新規取り組み内容

- ・座長への事例評価表の基準の作成
- ・事例作成の為要綱の規格サイズに設定したサンプルを作成
- ・苑長賞2事例ずつの選出、表彰

②課題

- ・発表環境整備のさらなる推進(大きい会場での実施の検
討)
- ・より充実した大会を目指すための事例数や大会の取り組み
方の検討



第 3 章

医療部門

診療統計・医療の質

外来患者数

外来患者数の推移

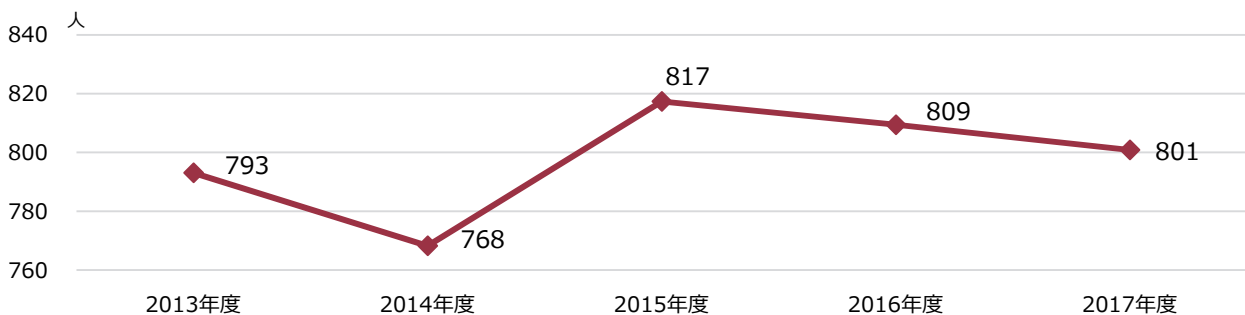
※上段：患者延数

下段：1日当たりの平均患者数

単位：人

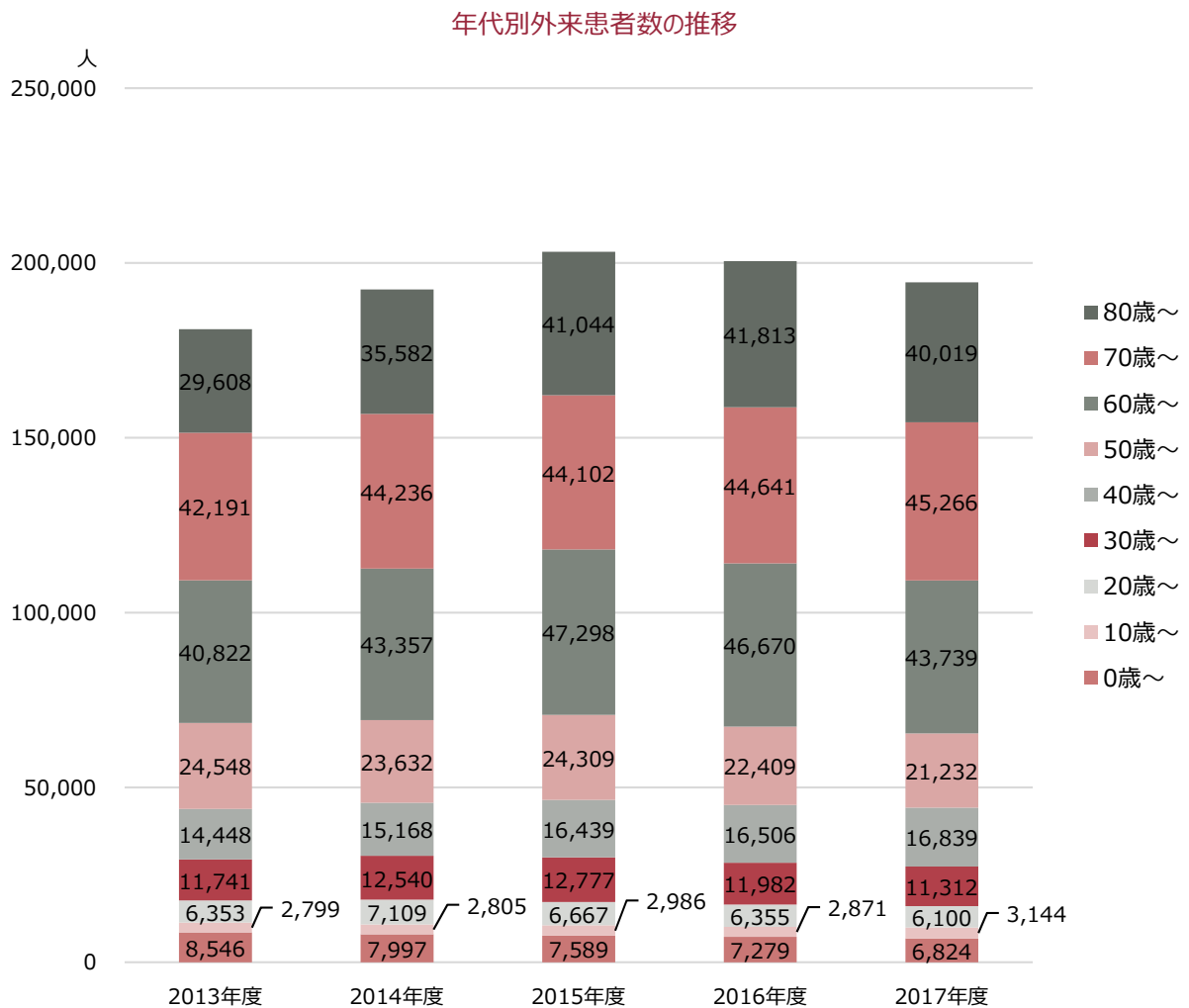
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
形成外科	5,014 21	4,019 17	5,087 21	4,885 20	4,443 18
脳神経外科	7,288 30	6,915 28	6,976 29	6,145 25	4,738 19
心臓血管外科	3,058 13	2,733 11	2,940 12	2,855 12	2,773 11
消化器外科	17,131 70	8,073 33	8,247 34	8,017 33	7,584 31
整形外科	14,803 61	12,721 52	13,160 54	13,292 55	13,763 57
内科	36,586 151	36,469 150	34,161 141	33,219 137	33,748 139
産婦人科	14,474 60	14,479 60	13,887 57	13,375 55	13,420 55
耳鼻咽喉科	8,088 33	7,123 29	6,715 28	7,125 29	7,422 31
眼科	14,140 58	13,361 55	13,396 55	12,792 53	13,325 55
泌尿器科	8,792 36	8,968 37	8,937 37	9,664 40	9,707 40
小児科	7,667 32	6,661 27	6,058 25	5,577 23	6,030 25
麻酔科	2,418 10	2,014 8	2,274 9	2,215 9	1,887 8
透析科	16,844 69	16,887 69	18,644 77	18,170 75	18,207 75
神経内科	4,524 19	4,549 19	4,656 19	4,770 20	5,024 21
皮膚科	10,096 42	10,154 42	10,642 44	10,550 43	8,511 35
循環器内科	7,263 30	7,445 31	7,582 31	8,275 34	9,645 40
リハビリテーション科	12,305 51	11,756 48	12,248 51	13,790 57	13,460 55
家庭医療科	-	2,916	10,720	10,071	9,585
放射線科	609 3	841 3	606 3	440 2	396 2
胸部呼吸器外科	726 3	416 2	373 2	439 2	437 2
緩和医療科	887 3	942 4	930 4	1,174 5	971 4
消化器内科	-	7,240 30	9,559 40	9,039 37	9,530 39
合計	191,105	186,682	197,798	195,879	194,606
日当たり合計	786	768	817	809	801
稼働日	243	243	242	242	243

外来患者数 1日あたり平均



第3章 医療部門：診療統計・医療の質(患寿総合病院)

年代別(男女別)外来患者数

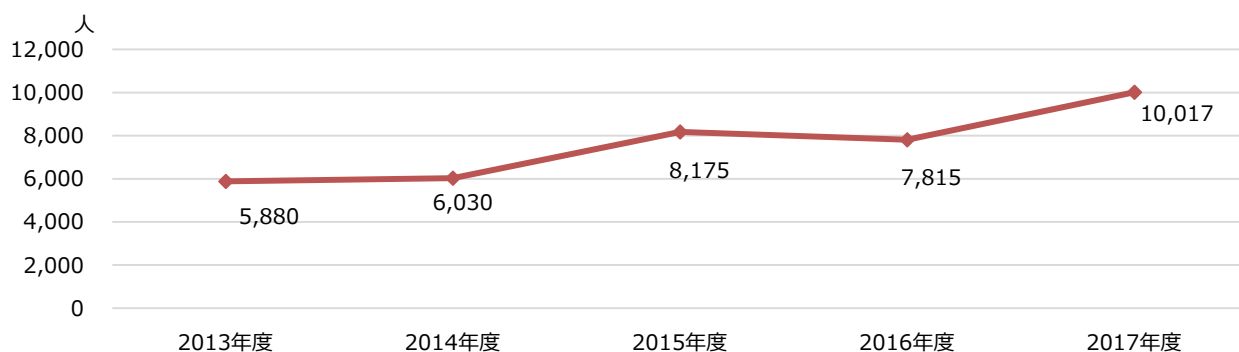


救急外来患者数(恵寿総合病院)

救急外来患者数の推移

単位：人

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
形成外科	314	336	445	483	503
脳神経外科	338	291	576	596	645
心臓血管外科	11	20	22	29	46
消化器外科	577	113	112	110	250
整形外科	559	623	937	918	1,202
内科	1,679	1,878	2,469	2,707	3,432
産婦人科	189	176	160	106	196
耳鼻咽喉科	201	186	302	239	302
眼科	45	37	45	33	51
泌尿器科	130	159	141	201	242
小児科	1,352	1,272	1,280	854	1,187
麻酔科	4	0	83	4	2
透析科	13	2	0	0	0
神経内科	48	60	107	82	169
皮膚科	271	221	320	291	327
循環器科	135	173	283	320	451
リハビリテーション科	2	0	0	0	0
家庭医療科	-	36	216	121	99
胸部呼吸器外科	4	1	0	0	1
緩和医療科	8	15	37	25	23
消化器内科	-	431	640	696	889
総計	5,880	6,030	8,175	7,815	10,017



救急車受け入れ台数の推移!

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
救急搬送件数 (件)	1,429	1,528	1,630	1,521	1,605
入院率 (%)	56%	58%	55%	59%	60%

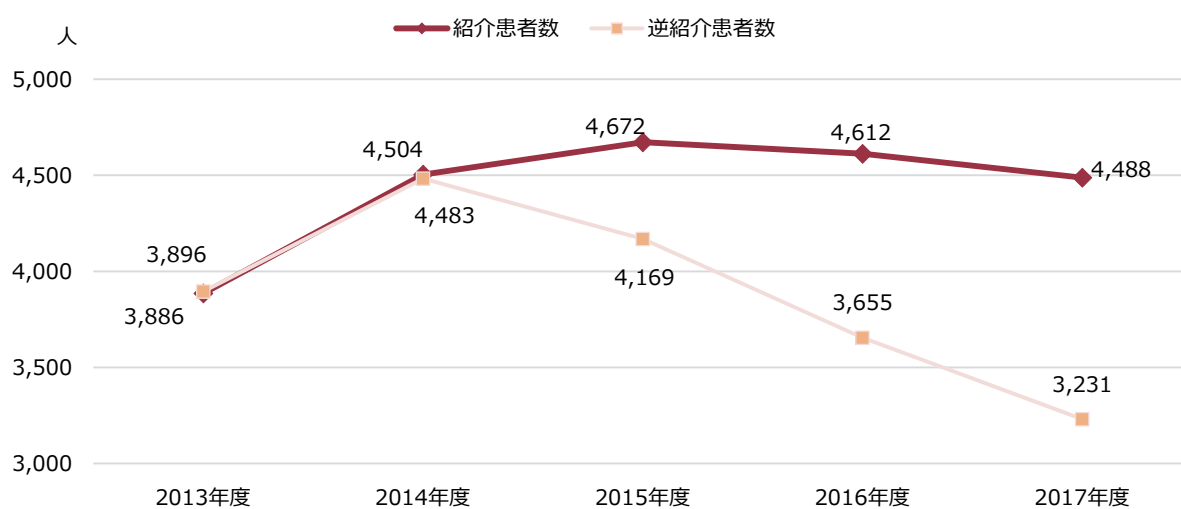
第3章 医療部門：診療統計・医療の質(恵寿総合病院)

紹介患者数(恵寿総合病院)

紹介患者数・逆紹介患者数の推移

単位：％

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
紹介率	45.84	46.05	49.97	53.84	55.77
逆紹介率	29.16	35.38	29.98	28.23	25.73

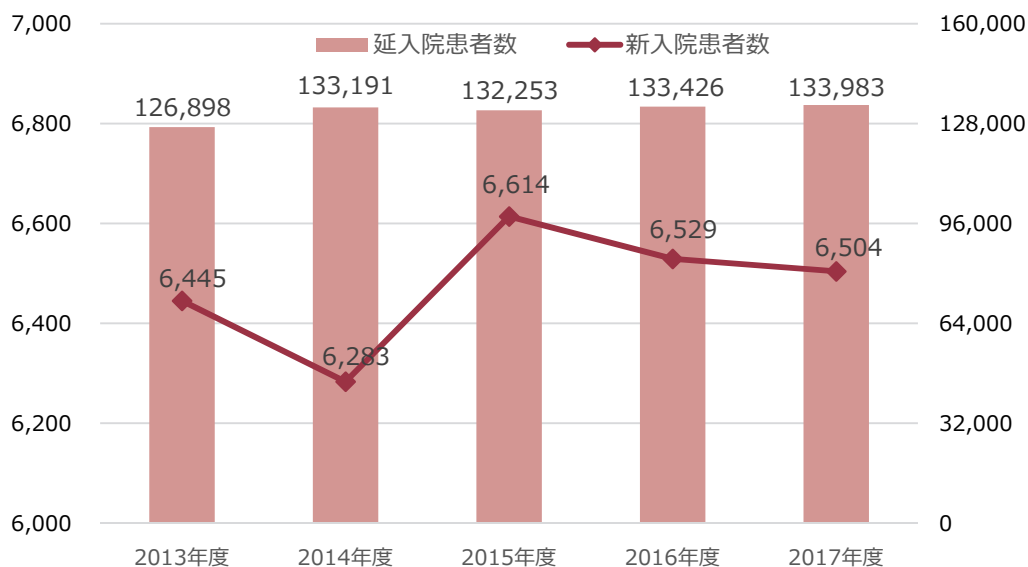


入院患者数(恵寿総合病院)

新入院患者数・延入院患者数の推移

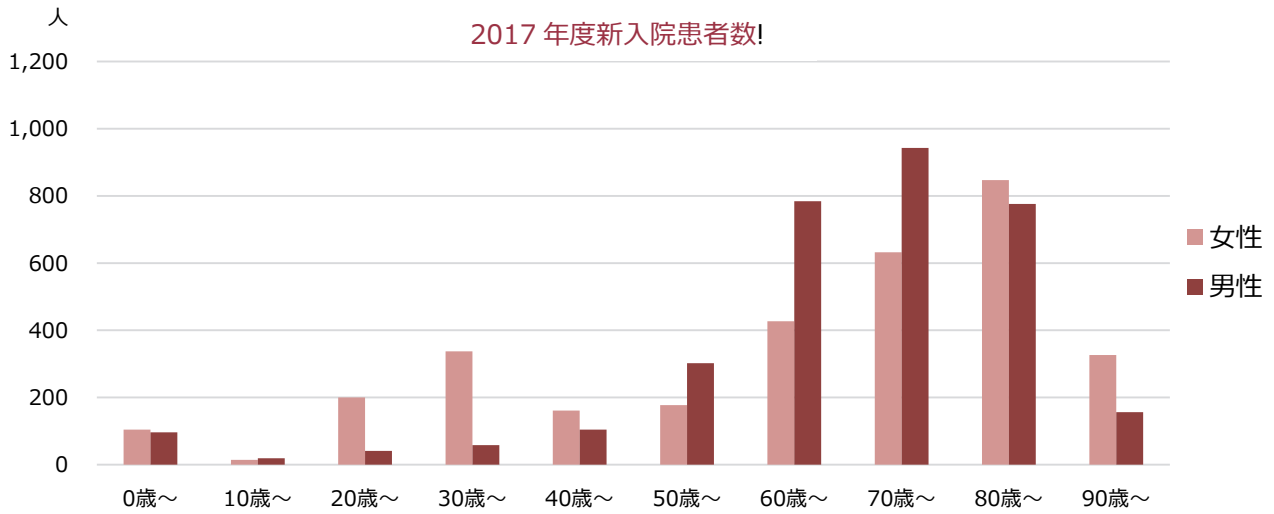
単位：人

	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
形成外科	82	1,456	34	907	51	544	53	435	60	392
脳神経外科	289	12,673	284	15,669	297	12,842	223	11,166	209	8,886
心血管外科	206	2,399	142	2,332	216	2,496	176	2,047	162	2,335
消化器外科	1,215	18,380	404	7,296	426	6,308	414	6,361	440	6,397
整形外科	595	18,078	454	18,885	493	19,365	550	22,526	503	21,861
内科	1,403	40,379	1,288	38,564	1,253	36,540	1,520	39,091	1,684	44,227
産婦人科	554	5,720	674	6,553	632	6,611	599	6,415	570	5,708
耳鼻咽喉科	109	657	83	482	115	731	128	1,076	109	747
眼科	468	1,422	587	1,449	652	1,443	560	1,335	521	1,266
泌尿器科	262	1,810	236	1,505	201	1,096	228	1,190	253	1,271
小児科	227	1,487	211	1,457	224	1,537	184	1,237	189	1,063
麻酔科	3	25	4	53	1	38	0	0	0	0
神経内科	104	4,925	112	5,127	98	4,802	116	5,492	101	5,983
皮膚科	33	363	28	473	30	360	15	276	28	252
循環器科	706	5,334	678	5,815	606	6,051	617	6,406	544	8,041
リハビリテーション科	118	8,284	41	6,219	41	6,146	55	4,841	51	6,135
家庭医療科	1	-	203	6,872	365	11,397	225	9,249	173	6,580
緩和医療科	70	3,506	73	3,072	86	3,560	61	3,586	38	2,604
消化器内科	-	-	747	10,461	827	10,386	805	10,697	869	10,235
合計	6,445	126,898	6,283	133,191	6,614	132,253	6,529	133,426	6,504	133,983
月当たり平均/日当たり平均	537 / 348		524 / 365		551 / 362		544 / 366		542 / 367	



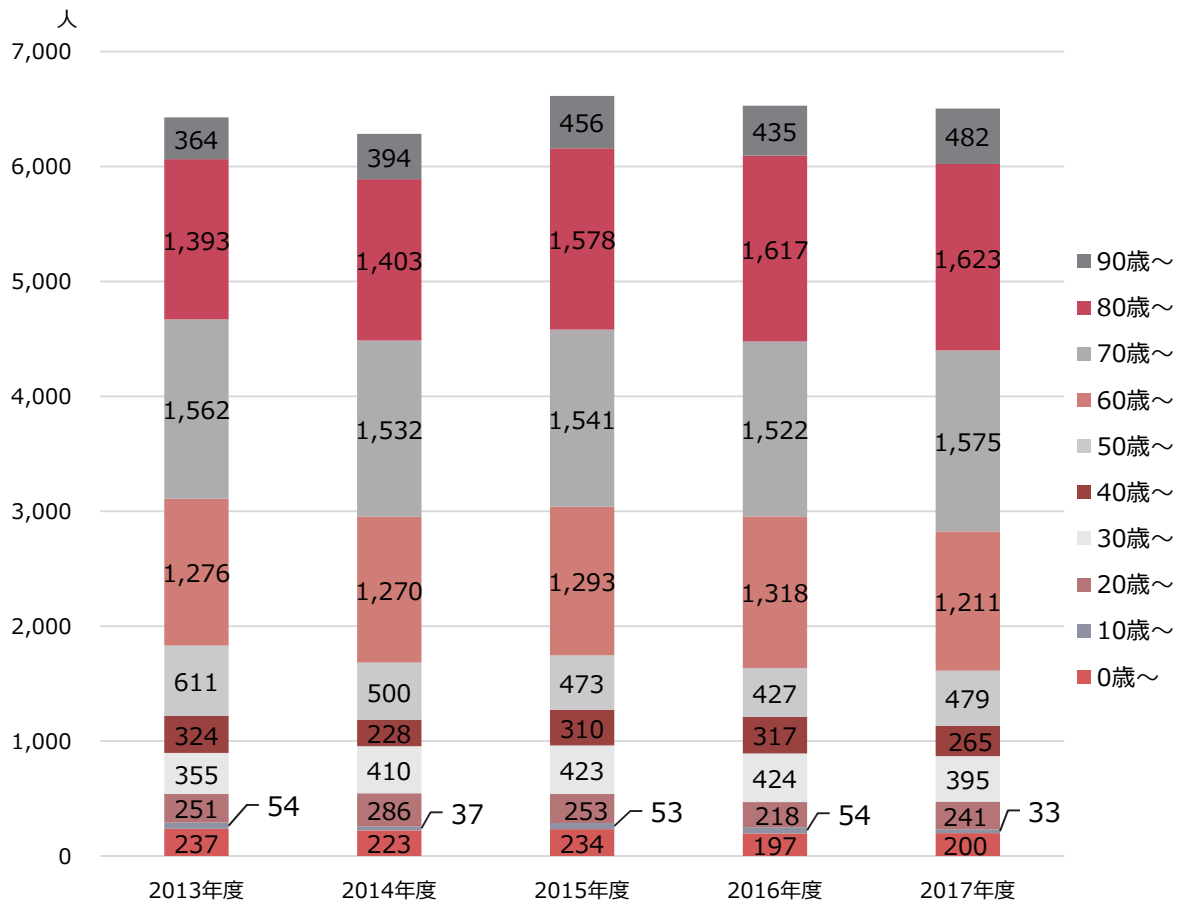
第3章 医療部門：診療統計・医療の質(恵寿総合病院)

年代別(男女別)新入院患者数



男性は70歳代、女性は80歳代の新入院が最も多い。

年代別新入院患者数の推移!



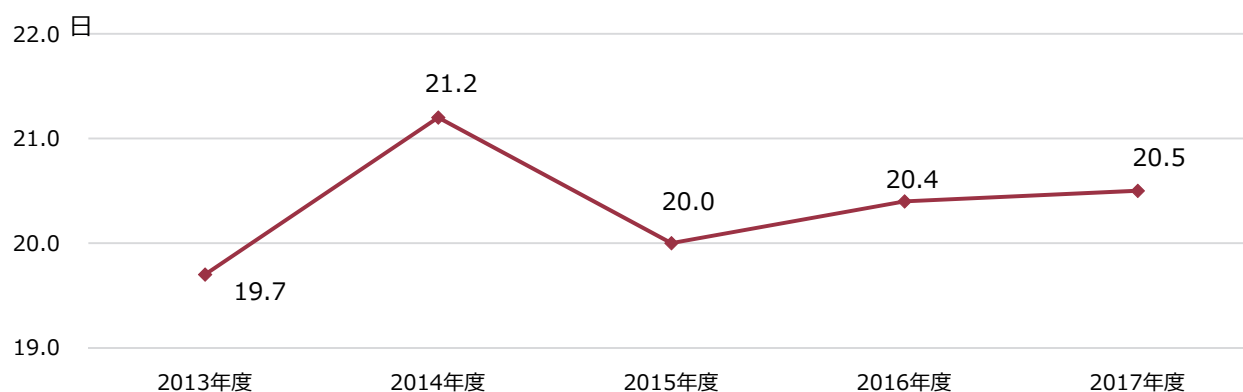
過去5年間で70歳代、80歳代、90歳以上の新入院が最も多い。

平均在院日数・病床稼働率

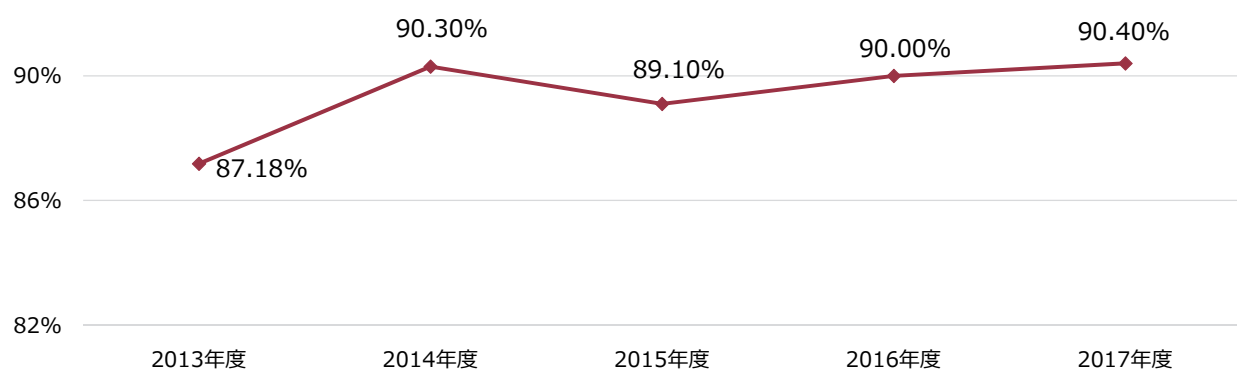
■ 平均在院日数(全病棟)

単位：日

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
形成外科	19.4	25.5	10.9	8.2	6.6
脳神経外科	46.0	56.4	44.9	51.3	44.1
心臓血管外科	12.3	15.7	11.6	11.6	14
消化器外科	16.3	17.9	14.8	15.4	14.2
整形外科	32.9	43.0	41.8	42.3	42.6
内科	24.1	31.0	29.7	26.3	26.8
産婦人科	10.4	9.8	10.5	10.7	9.9
耳鼻咽喉科	6.4	5.7	6.5	8.4	6.9
眼科	3.0	2.5	2.2	2.4	2.4
泌尿器科	7.3	6.3	5.4	5.1	5
小児科	6.7	6.9	6.8	6.7	5.6
麻酔科	12.5	15.1	25.3	-	-
神経内科	51.8	44.8	46.2	46.3	56.7
皮膚科	11.9	17.8	13.1	16.7	9.5
循環器内科	8.0	8.8	9.9	10.4	14.8
リハビリテーション科	99.2	96.4	87.0	82.1	110.5
家庭医療科	-	32.0	30.8	37	36.8
緩和医療科	64.9	32.9	35.8	47.2	45.7
消化器内科	-	13.9	12.7	13.2	11.7
月当たり平均	19.7	21.2	20.0	20.4	20.5



■ 病床稼働率(全病棟)



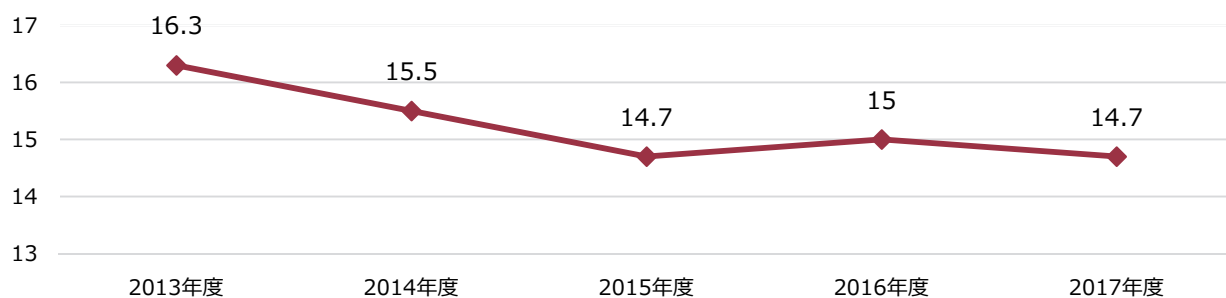
第3章 医療部門：診療統計・医療の質(患寿総合病院)

病床機能別在院日数

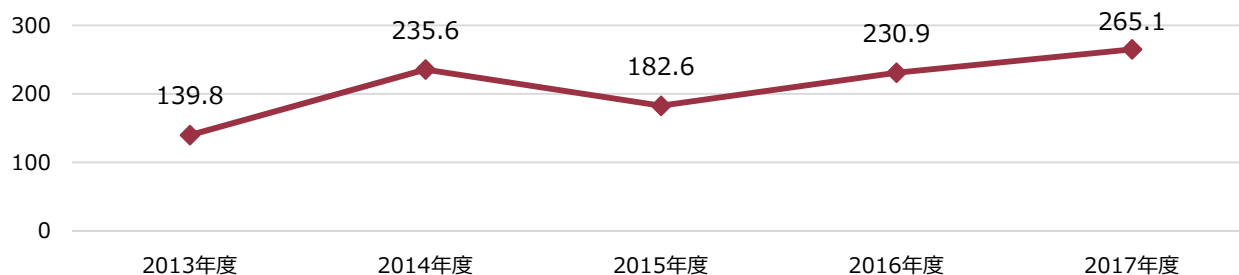
単位：日

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
一般（7：1）	16.3	15.5	14.7	15.0	14.7
障害者	139.8	235.6	182.6	230.9	265.1
地域包括ケア	—	36.1	39.1	36.0	41.3
回復期リハビリテーション	122.0	117.4	107.3	99.5	104.6

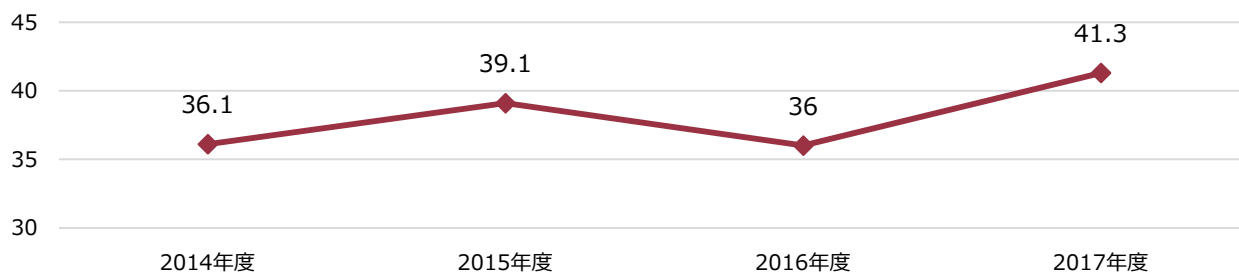
■ 平均在院日数（一般）



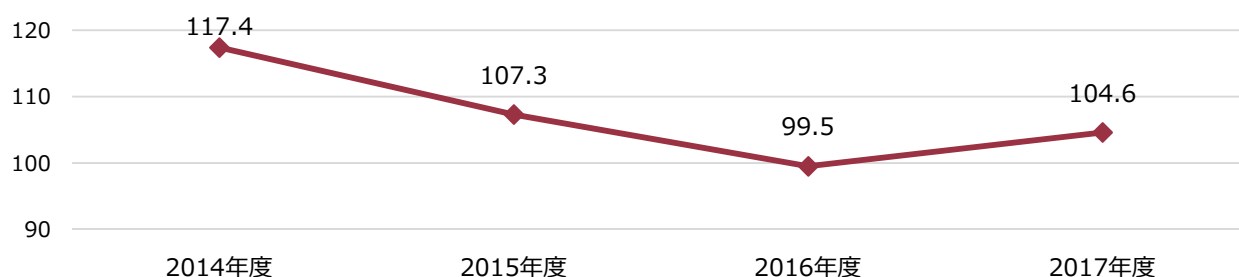
■ 平均在院日数（障害者）



■ 平均在院日数（地域包括ケア）



■ 平均在院日数（回復期リハビリテーション）



手術件数(恵寿総合病院)

手術件数・麻酔件数の推移

■手術件数

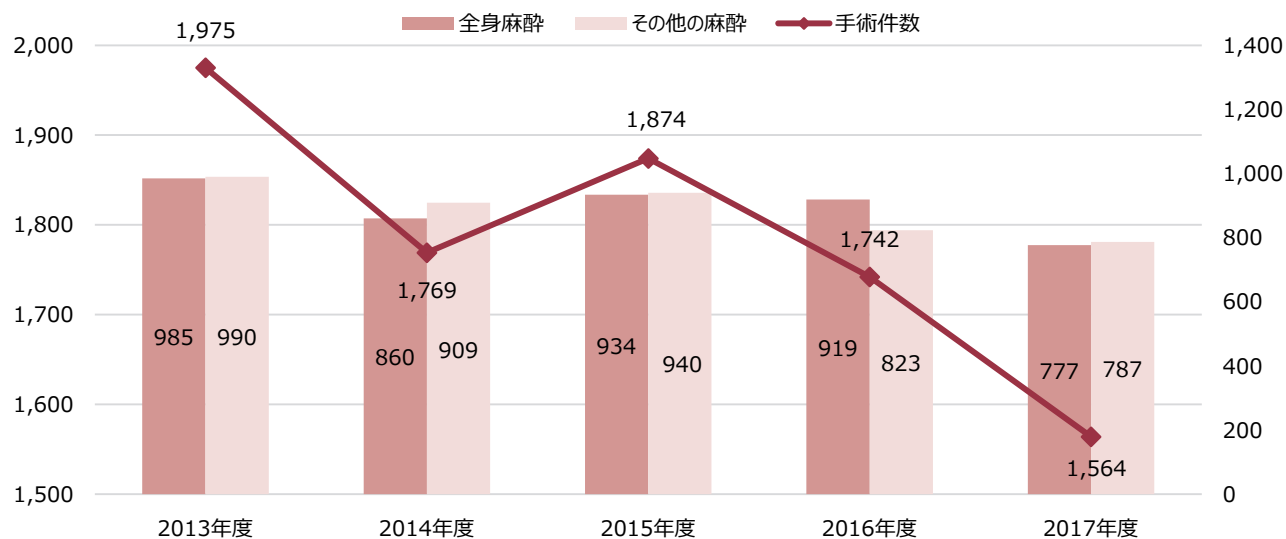
※手術室での件数 単位：件

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
消化器外科	294	280	326	275	274
整形外科	364	304	297	283	235
形成外科	117	55	73	72	77
眼科	660	638	655	573	531
胸部呼吸器外科	0	0	0	0	0
産婦人科	156	147	138	145	127
耳鼻咽喉科	15	21	31	41	26
脳神経外科	42	52	44	33	18
泌尿器科	158	144	130	164	137
心臓血管外科	169	126	177	156	138
麻酔科	0	0	0	0	0
その他	0	2	3	0	1
合計	1,975	1,769	1,874	1,742	1,564

■麻酔件数

単位：件

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
全身麻酔	985	860	934	919	777
その他の麻酔	990	909	940	823	787

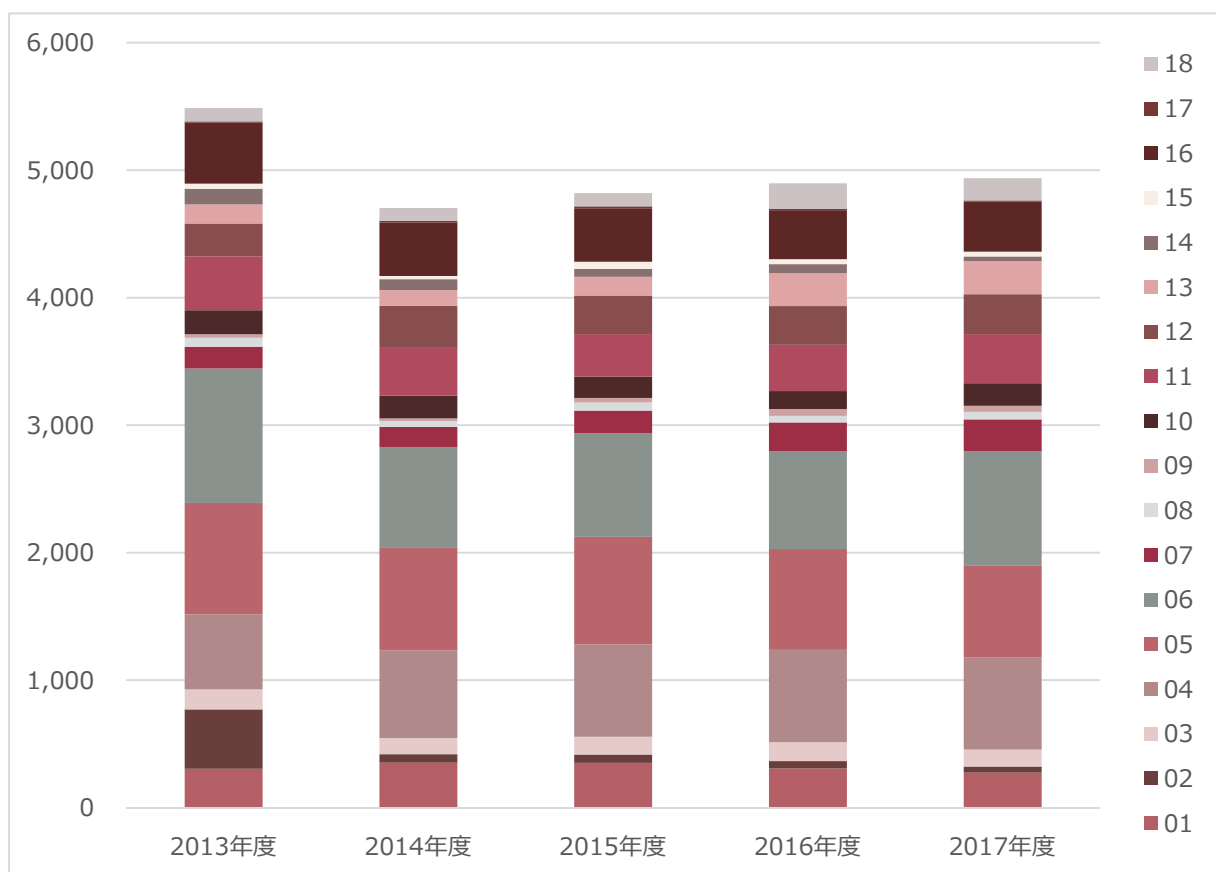


MDC 別(恵寿総合病院)

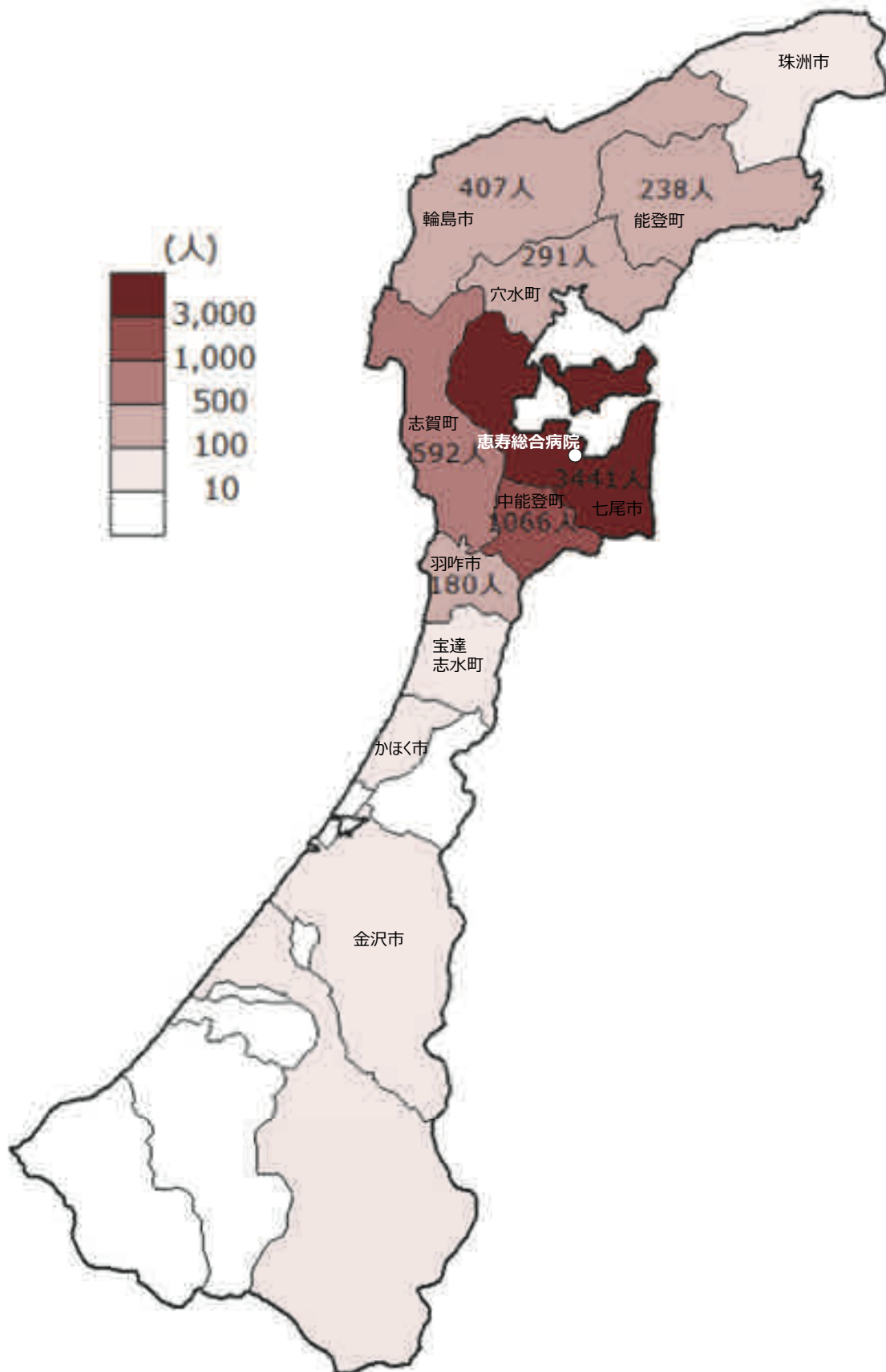
MDC 別件数

単位：件

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
01 神経系疾患	305	353	351	308	275
02 眼科系疾患	466	66	66	57	48
03 耳鼻咽喉科系疾患	157	127	139	149	133
04 呼吸器系疾患	588	687	725	724	721
05 循環器系疾患	874	805	843	790	720
06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1055	790	814	766	897
07 筋骨格系疾患	170	158	177	228	252
08 皮膚・皮下組織の疾患	71	47	64	51	59
09 乳房の疾患	27	20	35	54	47
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	189	178	167	140	177
11 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	422	382	334	364	385
12 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	258	323	302	303	313
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	149	124	147	259	260
14 新生児疾患、先天性奇形	123	85	63	70	36
15 小児疾患	40	25	55	39	38
16 外傷・熱傷・中毒	479	418	419	384	394
17 精神疾患	10	14	15	10	8
18 その他	105	102	104	201	174
集計	5,488	4,704	4,820	4,897	4,937



入院患者マップ(恵寿総合病院)



疾病分類別患者数(恵寿総合病院)

単位：人

コード	大分類（基本体系）項目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
I	感染症および寄生虫	179	173	168	183	136
II	新生物	949	1,036	988	1,164	1,206
III	血液、造血管の疾患並びに免疫	45	40	55	36	32
IV	内分泌・栄養および代謝疾患	188	181	142	125	128
V	精神および行動の障害	14	31	25	19	29
VI	神経系の疾患	126	137	157	131	148
VII	眼および付属器の疾患	467	573	648	558	520
VIII	耳および乳様突起の疾患	71	73	59	75	92
IX	循環器系の疾患	1,205	1,220	970	971	884
X	呼吸器系の疾患	480	562	576	574	551
X I	消化器系の疾患	810	786	895	819	928
X II	皮膚および皮膚組織の疾患	48	31	50	40	46
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	183	152	159	168	187
X IV	尿路性器系の疾患	352	382	350	432	440
X V	妊娠、分娩および産褥	445	509	480	435	439
X VI	周産期に発生した病態	185	196	219	181	174
X VII	先天奇形・変形および染色体異常	5	8	7	9	12
X VIII	症状・症候および異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	48	37	8	22	9
X IX	損傷・中毒およびその他の外因の影響	591	528	563	551	579
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	376	48	411	358	361
	合計	6,767	6,703	6,930	6,851	6,901

年代別死亡退院患者数(恵寿総合病院)

2017 年度

単位：人

国際分類	性別 年齢階層(歳)	男性							計	女性							計
		20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
I	感染症および寄生虫					1	1	2					1	1		2	
II	新生物			6	20	26	34	86		4	3	8	18	28	61		
III	血液、造血器の疾患並びに免疫						1	1									
IV	内分泌・栄養および代謝疾患						1	1					1		1		
V	精神及び行動の障害						1	1						2	2		
VI	神経系の疾患				1		2	3						1	1		
IX	循環器系の疾患			1	4	11	12	28				1	3	20	24		
X	呼吸器系の疾患				1	12	27	40		1			1	19	21		
XI	消化器系の疾患		1		2	1	7	11				1	1	12	14		
XII	皮膚及び皮膚組織の疾患					1		1									
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患					1		1					1	3	4		
XIV	尿路性器系の疾患						2	2		1			1	11	13		
XVI	周産期に発生した病態																
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常											1			1		
XVIII	症状・症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの					2	14	16						11	11		
XIX	損傷・中毒およびその他の外因の影響					1	3	4									
XX	傷病および死亡の外因																
合計			1	1	6	28	56	105	197		5	4	12	27	107	155	

疾病分類(中分類)別上位疾病(恵寿総合病院)

2017 年度

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
H25	老人性白内障	479	6.9%
K63	腸のその他の疾患	251	3.6%
C34	気管支および肺の悪性新生物	220	3.2%
I50	心不全	182	2.6%
I63	脳梗塞	163	2.4%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	147	2.1%
Z13	その他の疾患および障害の特殊スクリーニング検査	144	2.1%
C16	胃の悪性新生物	142	2.1%
J18	肺炎, 病原体不詳	138	2.0%
K80	胆石症	118	1.7%
	その他	4,917	71.3%
合計		6,901	100.0%

2016 年度

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
H25	老人性白内障	503	7.3%
K63	腸のその他の疾患	243	3.5%
C34	気管支および肺の悪性新生物	203	3.0%
I63	脳梗塞	180	2.6%
Z13	その他の疾患および障害の特殊スクリーニング	172	2.5%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	166	2.4%
I50	心不全	159	2.3%
I20	狭心症	154	2.2%
C16	胃の悪性新生物	140	2.0%
O70	分娩における会陰裂傷(laceration)	108	1.6%
	その他	4,823	70.4%
合計		6,851	100.0%

2015 年度

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
H25	老人性白内障	408	6.0%
I20	狭心症	327	4.8%
K63	腸のその他の疾患	258	3.8%
O70	分娩における会陰裂傷<laceration>	181	2.7%
I50	心不全	178	2.6%
C34	気管支および肺の悪性新生物	159	2.3%
C16	胃の悪性新生物	140	2.1%
I63	脳梗塞	134	2.0%
S32	腰椎および骨盤の骨折	125	1.8%
J18	肺炎, 病原体不詳	120	1.8%
	その他	4,737	70.0%
合計		6,767	100.0%

2014 年度

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
H25	老人性白内障	503	7.5%
I20	狭心症	349	5.2%
K63	腸のその他の疾患	239	3.6%
C34	気管支および肺の悪性新生物	187	2.8%
I63	脳梗塞	181	2.7%
I50	心不全	167	2.5%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	161	2.4%
O70	分娩における会陰裂傷<laceration>	150	2.2%
J18	肺炎, 病原体不詳	139	2.1%
C16	胃の悪性新生物	136	2.0%
	その他	4,491	67.0%
合計		6,703	100.0%

2013 年度

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
H25	老人性白内障	581	8.3%
K63	腸のその他の疾患	260	3.8%
C34	気管支および肺の悪性新生物	221	3.2%
Z13	その他の疾患および障害の特殊スクリーニング	218	3.1%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	178	2.6%
I63	脳梗塞	159	2.3%
I50	心不全	157	2.3%
C16	胃の悪性新生物	123	1.8%
O70	分娩における会陰裂傷<laceration>	121	1.7%
P36	新生児の細菌性敗血症	120	1.7%
	その他	4,792	69.2%
合計		6,930	100.0%

悪性新生物の国際疾病別 退院数及び内死亡数(恵寿総合病院)

単位：人

中分類項目	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡
C02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
C03	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-
C05	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
C06	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
C07	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-
C08	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
C10	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-
C11	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-
C13	2	1	3	-	8	2	1	-	-	-
C15	12	3	23	9	15	4	10	3	19	5
C16	140	23	136	24	123	21	140	21	142	17
C17	2	0	4	-	3	-	6	1	4	1
C18	80	13	118	14	109	6	85	13	115	11
C19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C20	23	2	28	7	21	2	38	8	26	5
C21	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
C22	26	13	27	5	22	2	39	5	41	4
C23	14	6	8	2	13	7	4	1	7	4
C24	23	10	25	7	20	4	10	3	23	3
C25	15	10	36	9	30	12	58	18	48	12
C30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C31	1	1	-	-	-	-	2	-	2	-
C32	2	1	6	1	6	1	4	1	1	1
C33	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
C34	159	30	187	33	221	45	203	34	220	39
C37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C38	1	0	-	-	1	-	-	-	-	-
C41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C44	8	2	1	-	2	-	1	-	2	-
C45	-	-	1	-	6	3	5	1	-	-
C48	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1
C49	-	-	-	-	-	-	3	-	5	1
C50	26	2	30	1	35	2	67	1	59	4
C51	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-
C52	1	0	-	-	-	-	-	-	2	2
C53	3	2	3	-	5	1	8	-	7	4
C54	11	2	8	1	10	4	14	2	6	-
C55	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
C56	7	3	6	3	3	-	3	2	12	5
C60	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
C61	64	6	68	1	31	-	42	3	63	4
C62	1	0	4	-	-	-	1	-	-	-
C63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C64	4	2	9	-	8	-	3	-	3	2
C65	5	0	-	1	4	-	4	1	2	1
C66	14	1	5	-	6	3	7	4	7	-
C67	56	2	62	1	52	2	52	2	62	2
C68	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
C71	6	2	6	4	3	1	1	-	2	-
C73	1	0	3	-	3	1	2	-	5	1
C74	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-
C75	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
C76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C77	1	0	3	-	3	-	3	-	-	-
C78	13	0	29	-	31	3	5	-	10	1
C79	6	0	7	-	10	-	16	1	5	1
C80	1	2	3	-	-	1	2	1	3	-
C81	-	-	2	-	3	-	11	-	10	-
C82	4	0	10	-	5	-	15	-	29	-
C83	36	0	12	-	37	-	107	-	112	-
C84	-	-	-	-	2	-	5	-	6	-
C85	19	6	22	6	7	5	15	9	6	6
C88	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
C90	18	1	14	3	18	5	16	2	29	3
C91	2	1	3	-	4	1	3	1	3	-
C92	14	6	11	1	18	3	35	7	15	1
C93	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
C94	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-
C95	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
C96	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
D04	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-
D06	4	0	4	-	1	-	1	-	1	-
合計	831	155	931	136	910	141	1,052	146	1,127	142

第3章 医療部門：診療統計・医療の質(恵寿総合病院)

48 時間以内死亡患者数(恵寿総合病院)

単位：人

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
退院患者数	6,069	6,283	6,589	6,537	6,572
死亡患者数	370	376	383	359	370
入院後 48H 以内 死亡患者数	54	38	49	54	45

2017 年度死亡要因上位件数(中分類) (恵寿総合病院)

全体

コード	病名	死亡患者数 (人)	構成比 (%)
C34	気管支および肺の悪性新生物	39	10.5%
J18	肺炎, 病原体不詳	25	6.8%
R54	老衰	25	6.8%
C16	胃の悪性新生物	17	4.6%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	16	4.3%
I50	心不全	14	3.8%
C25	膵の悪性新生物	12	3.2%
C18	結腸の悪性新生物	11	3.0%
I61	脳内出血	10	2.7%
J84	その他の間質性肺疾患	9	2.4%
	その他	192	51.9%
合計		370	100.0%

男性

コード	病名	患者数 (人)	構成比 (%)
C34	気管支および肺の悪性新生物	31	15.3%
J18	肺炎, 病原体不詳	14	6.9%
R54	老衰	13	6.4%
C16	胃の悪性新生物	10	4.9%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	10	4.9%
J84	その他の間質性肺疾患	9	4.4%
I50	心不全	7	3.4%
C18	結腸の悪性新生物	6	3.0%
C25	膵の悪性新生物	5	2.5%
I63	脳梗塞	5	2.5%
	その他	93	45.8%
合計		203	100.0%

女性

コード	病名	患者数 (人)	構成比 (%)
R54	老衰	12	7.2%
J18	肺炎, 病原体不詳	11	6.6%
C34	気管支および肺の悪性新生物	8	4.8%
C16	胃の悪性新生物	7	4.2%
C25	膵の悪性新生物	7	4.2%
I50	心不全	7	4.2%
I61	脳内出血	6	3.6%
I71	大動脈瘤および解離	6	3.6%
J69	固形物および液状物による肺臓炎	6	3.6%
N18	慢性腎不全	6	3.6%
	その他	91	54.5%
合計		167	100.0%

医療 Quality Indicator(恵寿総合病院)

区分	項目	2015年度		2016年度		2017年度		計算式
		件数	母数	件数	母数	件数	母数	
		率		率		率		
基本情報	新入院患者数		6,614		6,529		6,504	
	述べ入院患者数		132,253		133,426		133,983	
	退院患者数		6,589		6,537		6,572	
(1) 病院全体	①死亡退院患者率	356	6,589	344	6,537	352	6,572	死亡退院患者数/ 月間退院患者
			5.4%		5.3%		5.4%	
	②退院後2週間以内の入院サマリ完成率	6,753	6,930	6,701	6,851	6,635	6,901	退院後2週間以内の入院サマリ完成件数/ 退院患者件数(転科含む)
			97.4%		97.8%		96.1%	
	③バス適用率	3,581	6,614	3,396	6,529	3,129	6,504	電子バス適用件数/ 新入院患者数
			54.1%		52.0%		48.1%	
	④入院24時間以内の死亡	32	6,614	33	6,529	36	6,054	24時間以内の死亡数/ 新入院患者数
			0.5%		0.5%		48.1%	
	⑤紹介率	6,949	13,906	6,969	12,943	7,005	12,578	紹介患者数+救急患者数+二次健診数/ 初診患者数
			50.0%		53.8%		0.6%	
⑥逆紹介率	4,169	13,906	3,654	12,943	3,232	12,578	逆紹介患者数/初診患者数	
		30.0%		28.2%		25.7%		
(2) 医療安全	⑦職員の健診受診率(全職員)	716	724	747	754	766	766	全職員健診受診件数/全職員数(休職者を除く)
			98.9%		99.1%		100.0%	
	(医師)	58	60	62	62	62	62	医師健診受診件数/常勤医師数
			96.7%		100.0%		100.0%	
	⑧苦情件数率(全体)	154	300	100	221	92	197	苦情件数/相談件数 (アドボカシー相談件数)
			51.3%		45.2%		46.7%	※内容によっては複数職種の場合有
	(診療部)	24	54	19	50	21	43	
			44.4%		38.0%		48.8%	
	(看護部)	30	58	38	72	26	58	
			51.7%		52.8%		44.8%	
(事務部)	34	41	17	24	9	15	苦情件数/相談件数 (アドボカシー相談件数)	
		82.9%		70.8%		60.0%		
(医療技術部)	12	16	5	13	7	12		
		75.0%		38.5%		58.3%		
(その他)	54	110	21	62	29	69		
		49.1%		33.9%		42.0%		
⑨医師返書作成日数		3.1		3.4		3.7	返書作成平均日数	
⑩救急車受け入れ不能件数(月平均数)、率	19(1.6)	1,562	20(1.7)	1,453	6(0.5)	1,521	救急車受け入れ不能件数(月平均)/ 救急車受け入れ要請件数	
		1.2%		1.4%		0.4%		
⑪入院患者のリハビリ実施率	59,716	13,253	74,188	133,426	81,099	133,983	リハビリ実施延べ人数/延べ入院患者数	
		45.2%		55.6%		60.5%		
(3) 感染対策	①転倒転落件数、転倒転落率	355(27)	132,253	350(20)	133,426	369(8)	133,983	延べ転倒転落数(リスクレベル3b以上)/ 延べ入院患者
			0.27%(0.02%)		0.26%(0.01%)		0.28%(0.01%)	
	②アクシデントレポート提出件数、提出率	946	132,253	885	133,426	866	133,983	アクシデントレポート提出件数/ 延べ入院患者数
			0.72%		0.66%		0.65%	
	③24時間以内の再手術率	8	1,877	4	1,747	3	1,567	24時間以内の再手術患者数/ 手術実施患者数
		0.43%		0.23%		0.19%		
④手術後24時間以内の死亡率	5	1,877	2	1,747	6	1,567	手術24時間以内の死亡患者数/ 手術実施患者数	
		0.27%		0.11%		0.38%		
⑤褥瘡推定発生率	29	4,253	23	4,362	25	4,239	褥瘡保有者数-新規自宅発症件数/ 患者数(月末)	
		0.7%		0.5%		0.6%		
(4) 栄養	①MRSA感染症新規発生率	10	6,614	2	6,529	0	6,504	MRSA感染症新規発生患者数/ 新入院患者
			0.15%		0.03%		0%	
	②中心静脈カテーテル関連血流感染(CLABSI)発生率	0	476	0	283	1	388	(中心静脈カテーテル関連血流感染患者数/ カテーテル延べ使用日数)×1000(本館4階東)
			0		0		2.6	
	③緑膿菌の薬剤耐性率(MDRP)	1	495	3	530	7	493	緑膿菌の各種薬剤に対する耐性株数/ 緑膿菌検出件数
			0.2%		0.6%		1.4%	
④擦式アルコール手指消毒剤使用量	1423.9ℓ	132,253	1097.0ℓ	133,426	937.5ℓ	133,983	擦式アルコール手指消毒剤使用量/ 延べ入院患者数	
		10.8ml		8.2ml		7.0ml		
⑤血液・体液暴露(針刺し)件数		12		9		25		
⑥特定抗生剤届出率	253	289	373	395	275	291	特定抗生剤届出数/特定抗生剤処方患者数	
		87.5%		94.4%		94.5%		
(4) 栄養	①特別食比率	208,947	346,074	215,146	338,873	205,059	338,935	特別食提供件数/食事提供件数
			60.4%		63.5%		60.5%	

外来患者数（恵寿金沢病院）

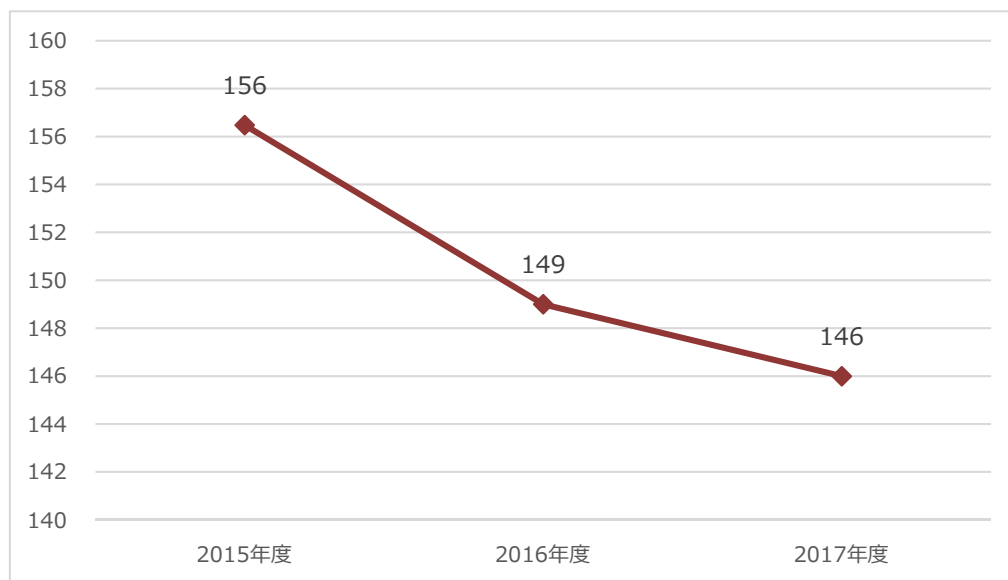
外来患者数の推移

※上段：患者延数 下段：1日当たりの平均患者数 単位：人

	2015年度	2016年度	2017年度
内科	12,866	12,662	12,584
	53	52	52
外科	2,956	2,334	1,019
	12	10	4
整形外科	18,377	17,694	17,767
	76	73	73
眼科	3,253	3,152	3,167
	13	13	13
耳鼻咽喉科	415	405	456
	4	4	5
合計	37,867	36,400	34,993
日当たり合計	156	149	146
稼働日	242	244	243

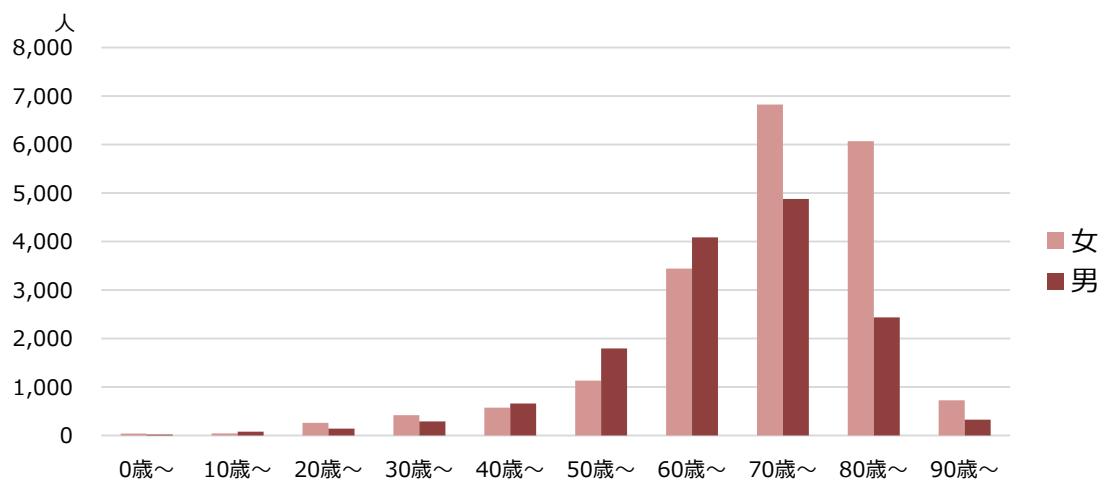
2017年4月より、外科外来診療体制は週3日(午前のみ)に変更した。

1日当たり平均患者数

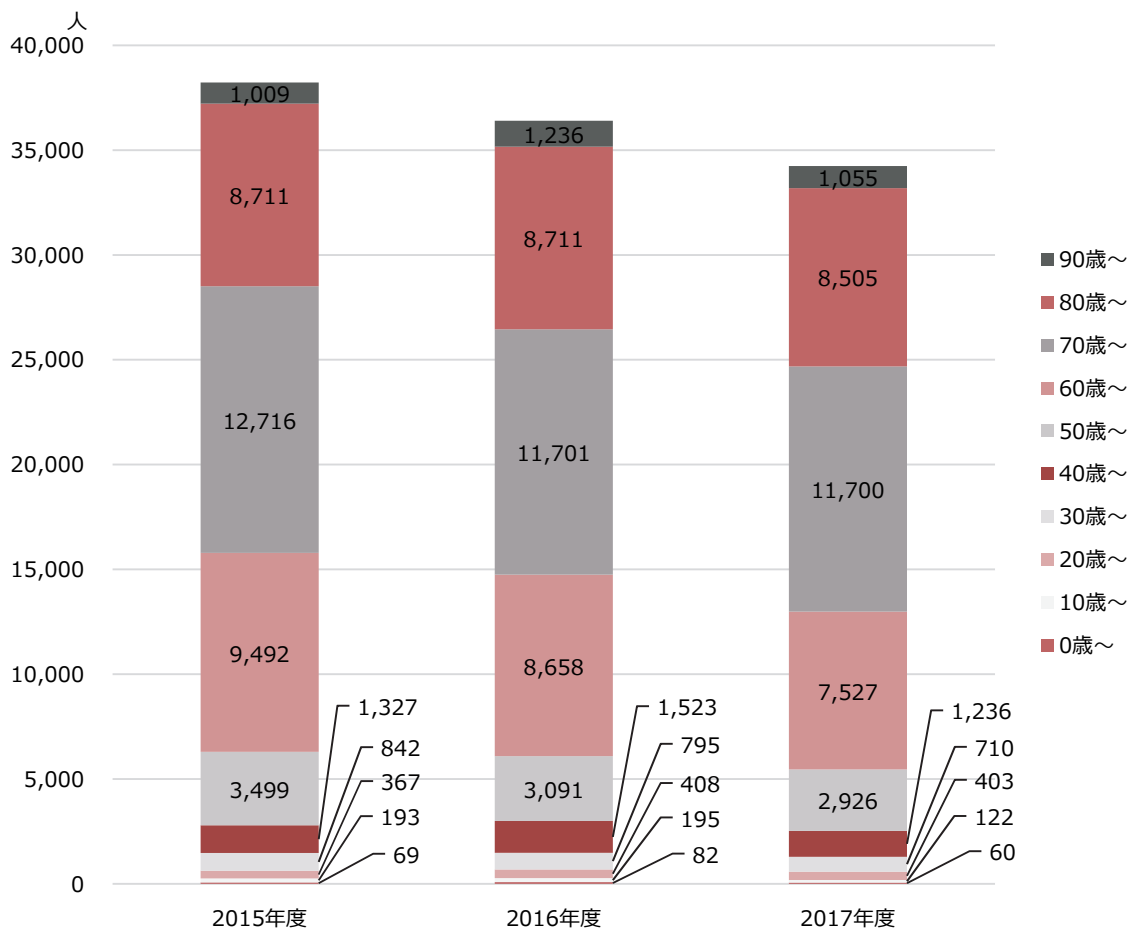


年代別(男女別)外来患者数

■ 2017年4月～2018年3月 外来患者延数



■ 年代別外来患者数の推移

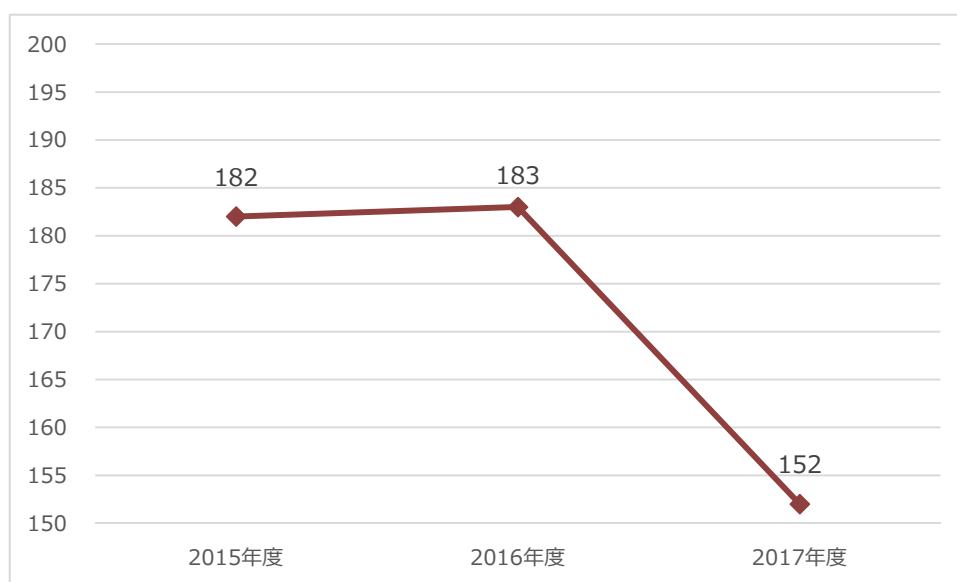


救急外来患者数（恵寿金沢病院）

救急外来患者数の推移

単位：人

	2015年度	2016年度	2017年度
内科	86	110	82
外科	31	24	12
整形外科	58	45	58
眼科	7	4	0
総計	182	183	152



救急者受け入れ台数の推移

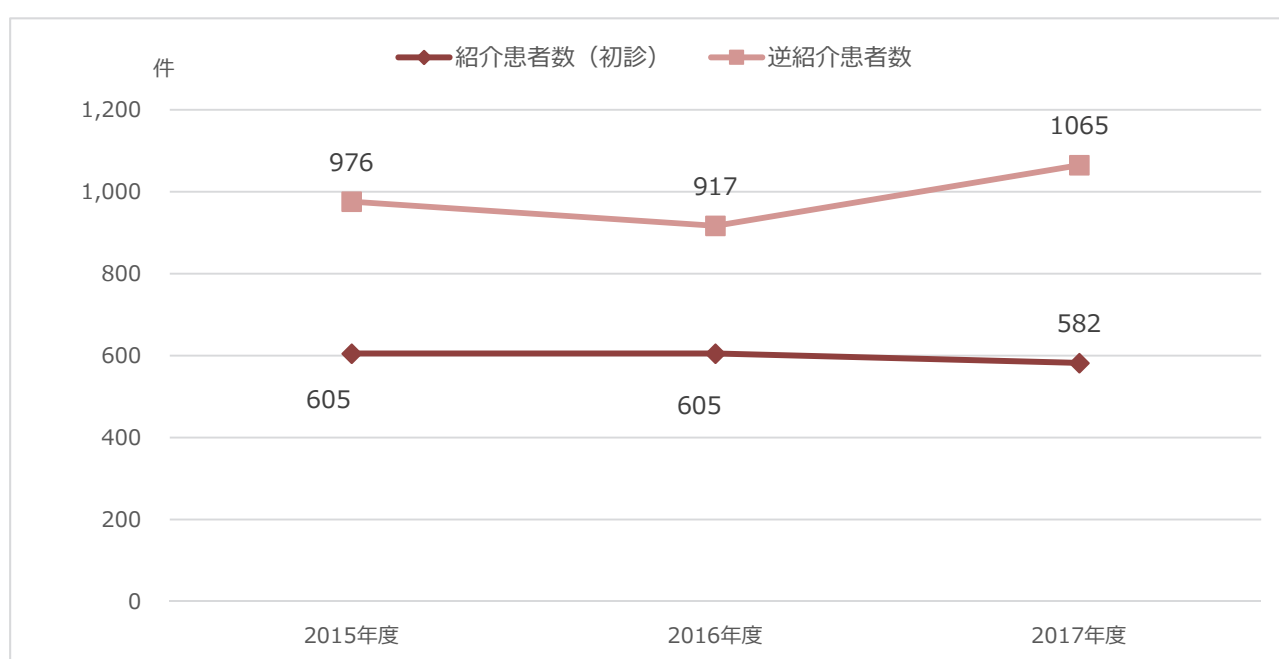
	2015年度	2016年度	2017年度
救急搬送件数（件）	99	118	102
入院率（％）	59.6%	61.0%	58.8%

紹介患者数（恵寿金沢病院）

紹介患者数・逆紹介患者数の推移

単位：%

	2015年度	2016年度	2017年度
紹介率	29.6	32.2	32.9
逆紹介率	41.1	40.8	50.9

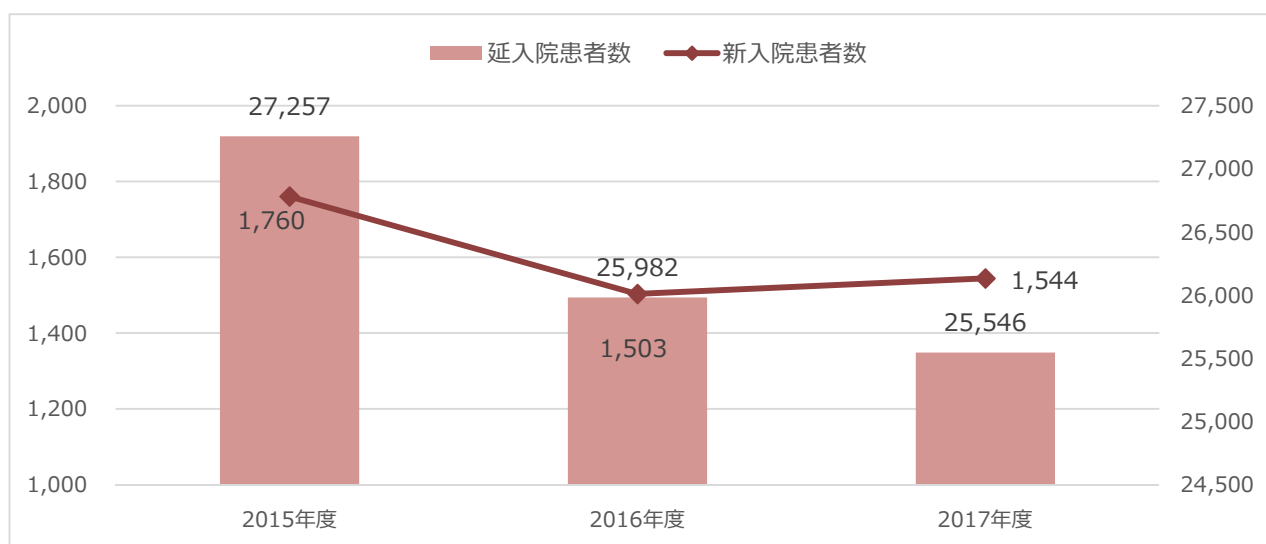


入院患者数（恵寿金沢病院）

新入院患者数・延入院患者数の推移

単位：人

	2015年度		2016年度		2017年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
内科	1,092	19,926	1,005	20,090	1,108	19,574
外科	277	2,418	97	1,047	-	-
整形外科	271	4,650	276	4,561	313	5,706
眼科	120	263	125	284	123	266
合計	1,760	27,257	1,503	25,982	1,544	25,546
月当たり平均／日当たり平均	147 / 74		125 / 71.2		129 / 70	

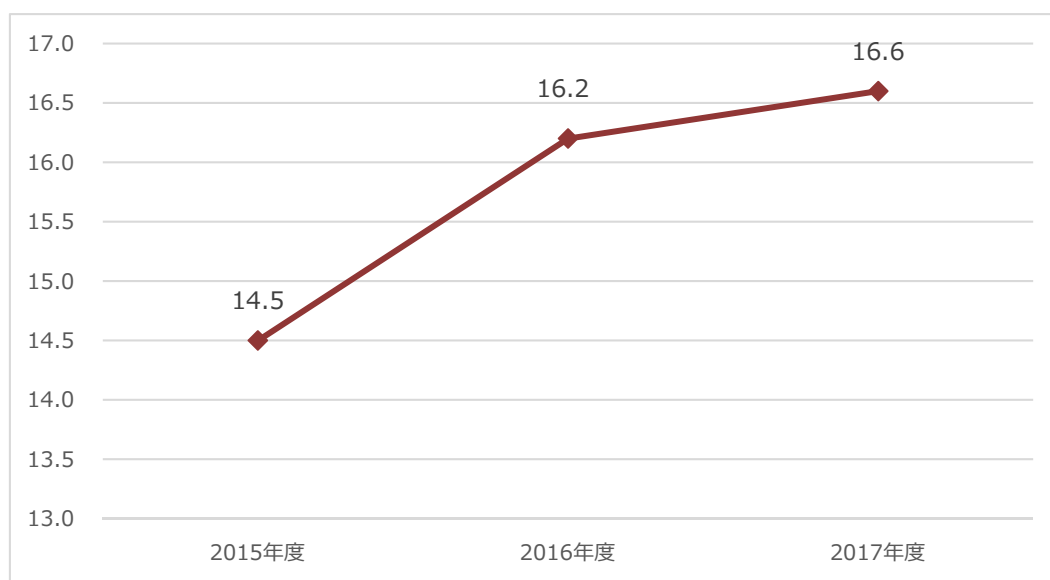


平均在院日数・病床稼働率

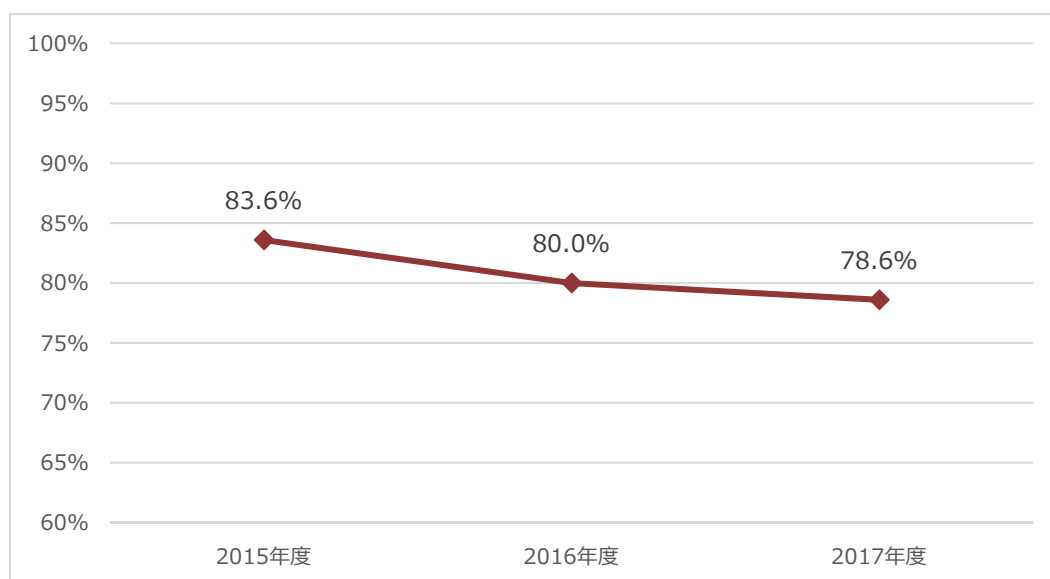
■ 平均在院日数(全病棟)

単位：日

	2015年度	2016年度	2017年度
内科	17.2	19.0	17.6
外科	7.8	9.6	-
整形外科	16.0	15.2	18.6
眼科	1.1	1.2	2.2
月当たり平均	14.5	16.2	16.6

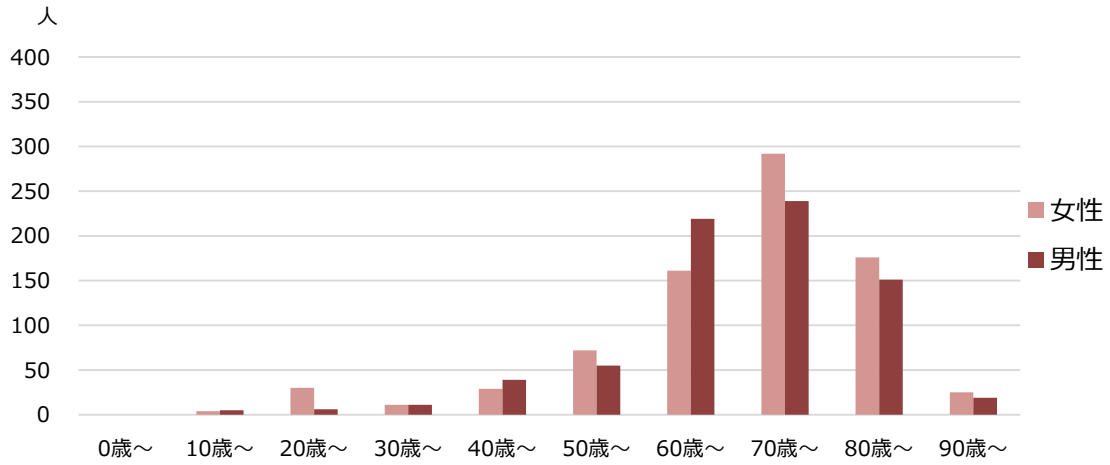


■ 病床稼働率(全病棟)

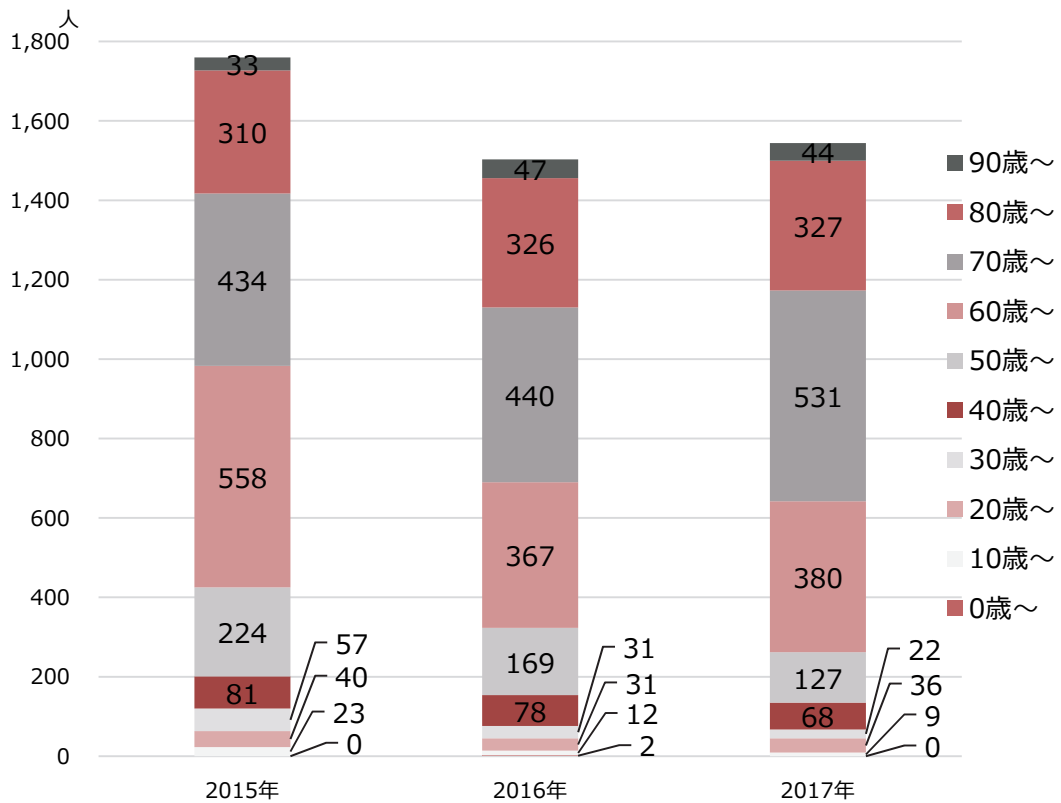


年代別(男女別)新入院患者数

■ 2017 年度新入院患者数



■ 年代別新入院患者数の推移



手術件数（恵寿金沢病院）

手術件数・麻酔件数の推移

■手術件数

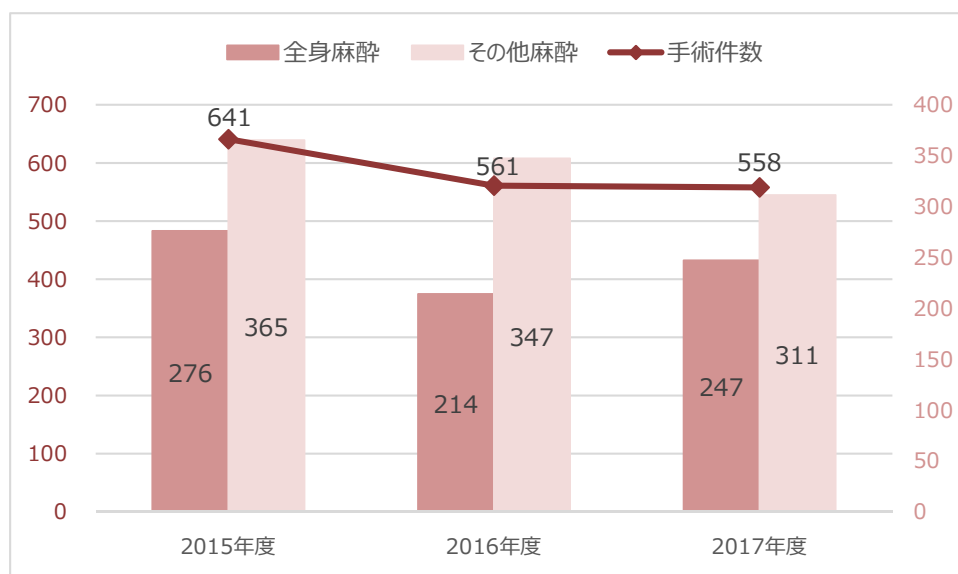
※手術での件数 単位：件

	2015年度	2016年度	2017年度
外科	169	101	35
整形外科	317	312	354
眼科	155	148	169
合計	641	561	558

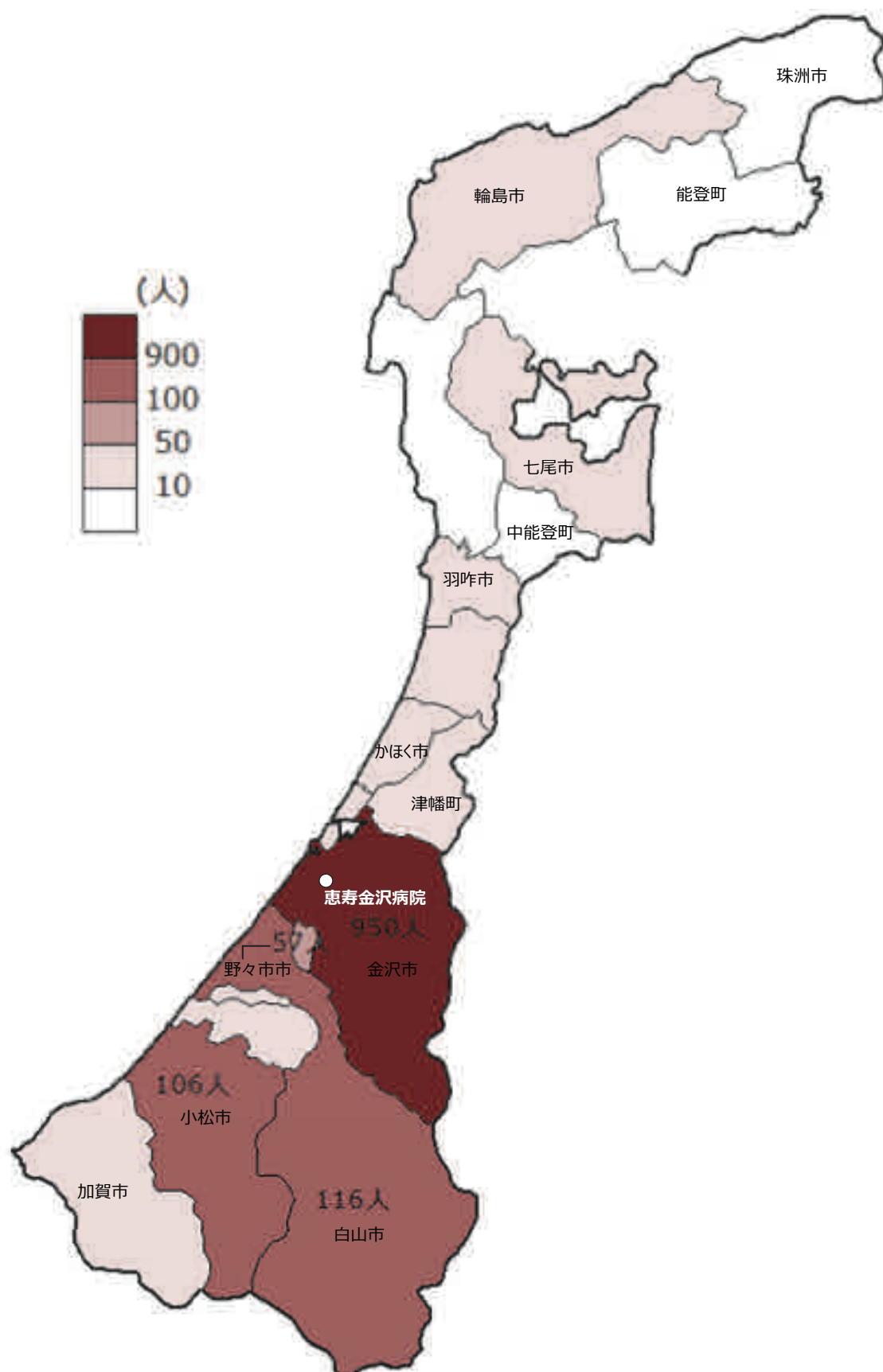
■麻酔件数

単位：件

	2015年度	2016年度	2017年度
全身麻酔	276	214	247
その他麻酔	365	347	311



入院患者マップ（恵寿金沢病院）



疾病分類別患者数（恵寿金沢病院）

単位：人

コード	大分類（基本体系）項目	2015年度	2016年度	2017年度
I	感染症および寄生虫	35	35	17
II	新生物	1,145	891	984
III	血液、造血器の疾患並びに免疫	32	16	17
IV	内分泌・栄養および代謝疾患	9	16	10
V	精神および行動の障害	6	10	4
VI	神経系の疾患	6	9	6
VII	眼および付属器の疾患	120	125	121
VIII	耳および乳様突起の疾患	1	3	6
IX	循環器系の疾患	18	20	12
X	呼吸器系の疾患	47	61	42
X I	消化器系の疾患	73	50	9
X II	皮膚および皮膚組織の疾患	3	4	9
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	98	87	104
X IV	尿路性器系の疾患	5	7	14
X V	妊娠、分娩および産褥	0	0	0
X VI	周産期に発生した病態	0	0	0
X VII	先天奇形・変形および染色体異常	1	0	0
X VIII	症状・症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	4	9
X IX	損傷・中毒およびその他の外因の影響	162	189	196
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	2	0	1
合計		1,775	1,527	1,561

年代別死亡退院患者数（恵寿金沢病院）

2017 年度

単位：人

国際分類	性別	男性									女性						
		年齢階層(歳)										計					
		20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
A04	その他の細菌性腸管感染症			1					1								
C24	その他および部位不明の胆道の悪性新生物															1	1
C25	脾の悪性新生物															2	2
C34	気管支および肺の悪性新生物							1	1								
C83	非ろく濾胞性リンパ腫					1			1								
C85	非ホジキン(non-Hodgkin)リンパ腫のその他および詳細不明の型					2	2	1	5						2	2	4
C90	多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物							1	1						1	1	2
C91	リンパ性白血病					1			1							1	1
C92	骨髄性白血病							3	1	4						2	2
D46	骨髄異形成症候群					1	3	1	5						2	1	3
J69	固形物及び液状物による肺臓炎								1	1							
J96	呼吸不全、他に分類されないもの							1	1								
	合計			1		5	10	5	21						5	10	15

疾病分類(中分類)別上位疾病 (恵寿金沢病院)

2017 年度

単位：人

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
C85	非ホジキンリンパ腫	478	30.6%
C90	多発性骨髄腫	162	10.4%
D46	骨髄異形成症候群	96	6.1%
C82	濾胞性非ホジキンリンパ腫	71	4.5%
H25	老人性白内障	67	4.3%
C92	骨髄性白血病	50	3.2%
H04	涙器の障害	47	3.0%
S52	前腕の骨折	44	2.8%
C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	37	2.4%
C81	ホジキン病	30	1.9%
	その他	479	30.7%
合計		1,561	100.0%

2016 年度

単位：人

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
C85	非ホジキンリンパ腫	430	28.2%
D46	骨髄異形成症候群	95	6.2%
H25	老人性白内障	69	4.5%
C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	69	4.5%
C92	骨髄性白血病	69	4.5%
C90	多発性骨髄腫	67	4.4%
H04	涙器の障害	53	3.5%
C82	濾胞性非ホジキンリンパ腫	53	3.5%
J18	肺炎	39	2.6%
K63	大腸ポリープ	33	2.2%
	その他	550	36.0%
合計		1,527	100.0%

2015 年度

単位：人

コード	病名	患者数(人)	構成比(%)
C85	非ホジキンリンパ腫	521	29.4%
D46	骨髄異形成症候群	105	5.9%
C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	96	5.4%
C90	多発性骨髄腫	73	4.1%
K63	大腸ポリープ	70	3.9%
H25	老人性白内障	70	3.9%
C82	濾胞性非ホジキンリンパ腫	64	3.6%
C16	胃の悪性新生物	54	3.0%
H04	涙器の障害	44	2.5%
C92	骨髄性白血病	38	2.1%
	その他	640	36.1%
合計		1,775	100.0%

48 時間以内死亡患者数（恵寿金沢病院）

単位：人

	2015 年度	2016 年度	2017 年度
退院患者数	1,757	1,514	1,542
死亡患者数	59	44	36
入院後 48H 以内 死亡患者数	1	0	0

2017 年度死亡要因上位件数(中分類)（恵寿金沢病院）

全体

コード	病名	死亡患者数(人)	構成比(%)
C85	非ホジキンリンパ腫	9	25.0%
D46	骨髄異形成症候群	8	22.2%
C92	骨髄性白血病	6	16.7%
C90	多発性骨髄腫	3	8.3%
	その他	10	27.8%
	合計	36	100.0%

男性

コード	病名	死亡患者数(人)	構成比(%)
C85	非ホジキンリンパ腫	5	23.8%
D46	骨髄異形成症候群	5	23.8%
C92	骨髄性白血病	4	19.0%
	その他	7	33.3%
	合計	21	100.0%

女性

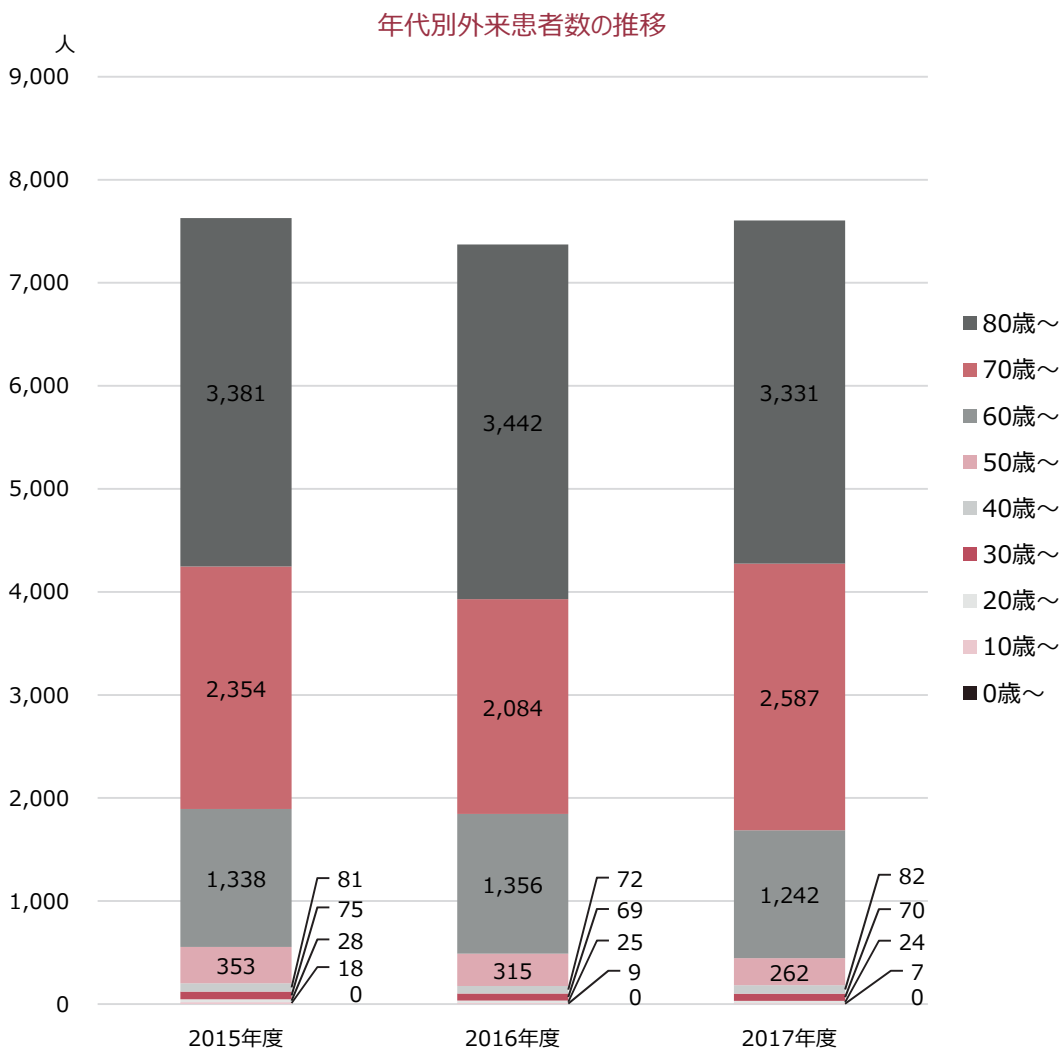
コード	病名	死亡患者数(人)	構成比(%)
C85	非ホジキンリンパ腫	4	26.7%
D46	骨髄異形成症候群	3	20.0%
C90	多発性骨髄腫	2	13.3%
C92	骨髄性白血病	2	13.3%
	その他	4	26.7%
	合計	15	100.0%

医療 Quality Indicator(恵寿金沢病院)

区分	項目	2015年度		2016年度		2017年度		計算式	
		件数	母数	件数	母数	件数	母数		
		率		率		率			
基本情報	新入院患者数(ドック除く)		1,760	1,503		1,544			
	述べ入院患者数		27,243	25,999		25,546			
	退院患者数(ドック除く)		1,757	1,514		1,542			
(1) 病院全体	①死亡退院患者率	59	1,757 3.4%	44	1,514 2.9%	36	1,542 2.3%	死亡退院患者数/ 月間退院患者(ドック除く)	
	②退院後2週間以内の入院サマリ完成率	1,477	1,775 83.2%	1,395	1,527 91.4%	1,406	1,562 90.0%	退院後2週間以内の入院サマリ完成件数/ 退院患者件数(転科含む)	
	③パス適用率	-	-	-	-	-	-	電子パス適用件数/ 新入院患者数(ドック除く)	
	④入院24時間以内の死亡	0	1,760 0.0%	0	1,503 0.0%	0	1,544 0.0%	24時間以内の死亡数/ 新入院患者数(ドック除く)	
	⑤紹介率	704	2,377 29.6%	725	2,247 32.3%	688	2,094 32.9%	紹介患者数+救急患者数+二次健診数/ 初診患者数	
	⑥逆紹介率	976	2,377 41.1%	917	2,247 40.8%	1,065	2,094 50.9%	逆紹介患者数/初診患者数	
	⑦職員の健診受診率(全職員)	134	134 100.0%	137	137 100.0%	142	142 100.0%	全職員健診受診件数/全職員数(休職者を除く)	
	(医師)	11	11 100.0%	11	11 100.0%	10	10 100.0%	医師健診受診件数/常勤医師数	
	⑧苦情件数率(全体)	-	-	-	-	-	-	-	アドボカシー室
	⑨医師返書作成日数		3.6日		2.3日		3.1日	返書作成平均日数	
⑩救急車受け入れ不能件数(月平均数)、率	-	-	-	-	-	-	救急車受け入れ不能件数(月平均)/ 救急車受け入れ要請件数		
⑪入院患者のリハビリ実施率	8,838	27,243 32.4%	11,053	25,999 42.5%	12,365	25,546 48.4%	リハビリ実施延べ人数/延べ入院患者数		
(2) 医療安全	①転倒転落件数、転倒転落率	1	27,243 0.00%	3	25,999 0.01%	2	25,546 0.01%	延べ転倒転落数(リスクレベル3b以上)/ 延べ入院患者	
	②アクシデントレポート提出件数、提出率	193	27,243 0.7%	242	25,999 0.9%	173	25,546 0.7%	アクシデントレポート提出件数/ 延べ入院患者数	
	③24時間以内の再手術率	0	641 0%	0	561 0%	1	556 0.2%	24時間以内の再手術患者数/ 手術実施患者数	
	④手術後24時間以内の死亡率	0	641 0%	0	561 0%	0	556 0%	手術24時間以内の死亡患者数/ 手術実施患者数	
	⑤褥瘡推定発生率	8	781 1.0%	15	809 1.8%	8	787 1.0%	褥瘡保有者数-新規自宅発生件数/ 患者数(月末)	
(3) 感染対策	①MRSA感染症新規発生率	3	1,760 0.17%	4	1,503 0.27%	1	1,544 0.6%	MRSA感染症新規発生患者数/ 新入院患者(ドック除く)	
	②中心静脈カテーテル関連血流感染(CLABSI)発生率	4	5,523 0.07%	13	5,977 0.22%	4	4,803 0.08%	(中心静脈カテーテル関連血流感染患者数/ カテーテル延べ使用日数)×1000	
	③緑膿菌の薬剤耐性率(MDRP)	0	9 0%	0	8 0%	0	7 0%	緑膿菌の各種薬剤に対する耐性株数/ 緑膿菌検出件数	
	④擦式アルコール手指消毒剤使用量	-	-	-	-	-	-	擦式アルコール手指消毒剤使用量/ 延べ入院患者数	
	⑤血液・体液暴露(針刺し)件数		1		2		2		
	⑥特定抗生剤届出率	-	-	-	-	-	-	特定抗生剤届出数/特定抗生剤処方患者数	
(4) 栄養	①特別食比率	31,379	66,310 47.3%	35,067	66,205 53.0%	30,430	65,673 46.3%	特別食提供件数/食事提供件数	

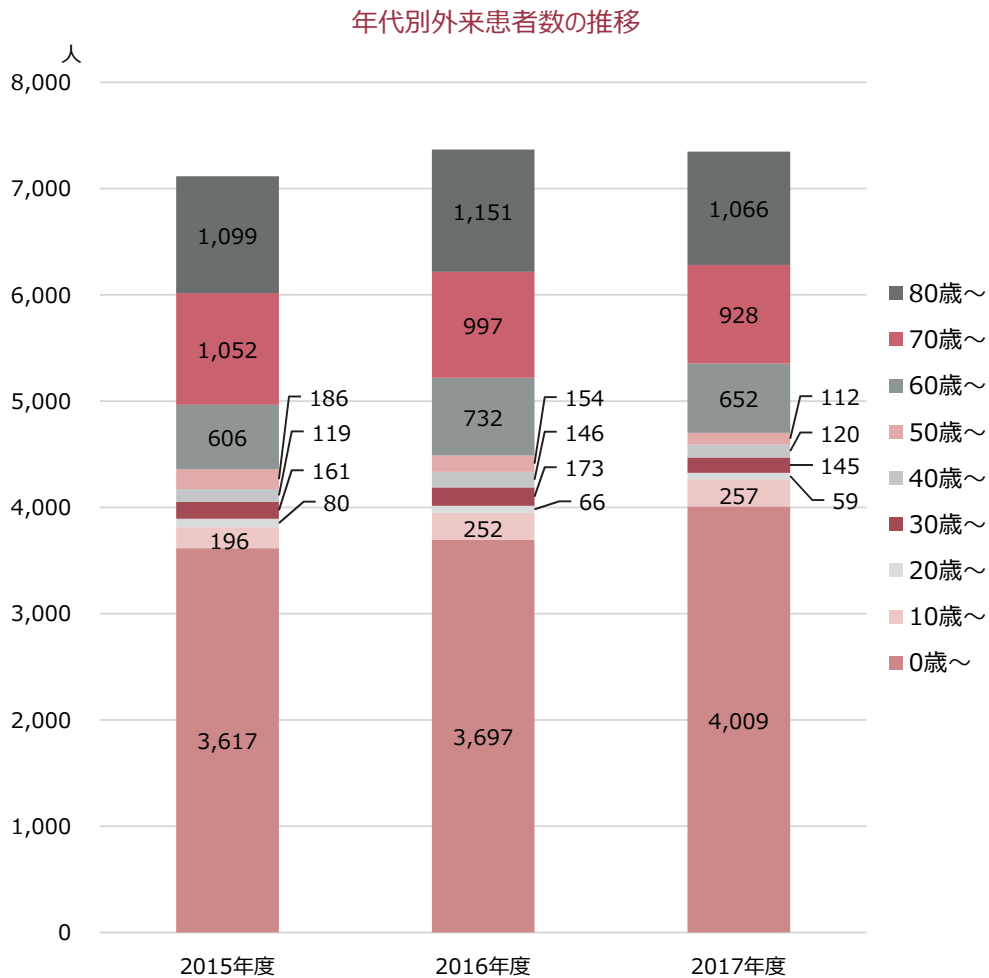
田鶴浜診療所

年代別(男女別)外来患者数



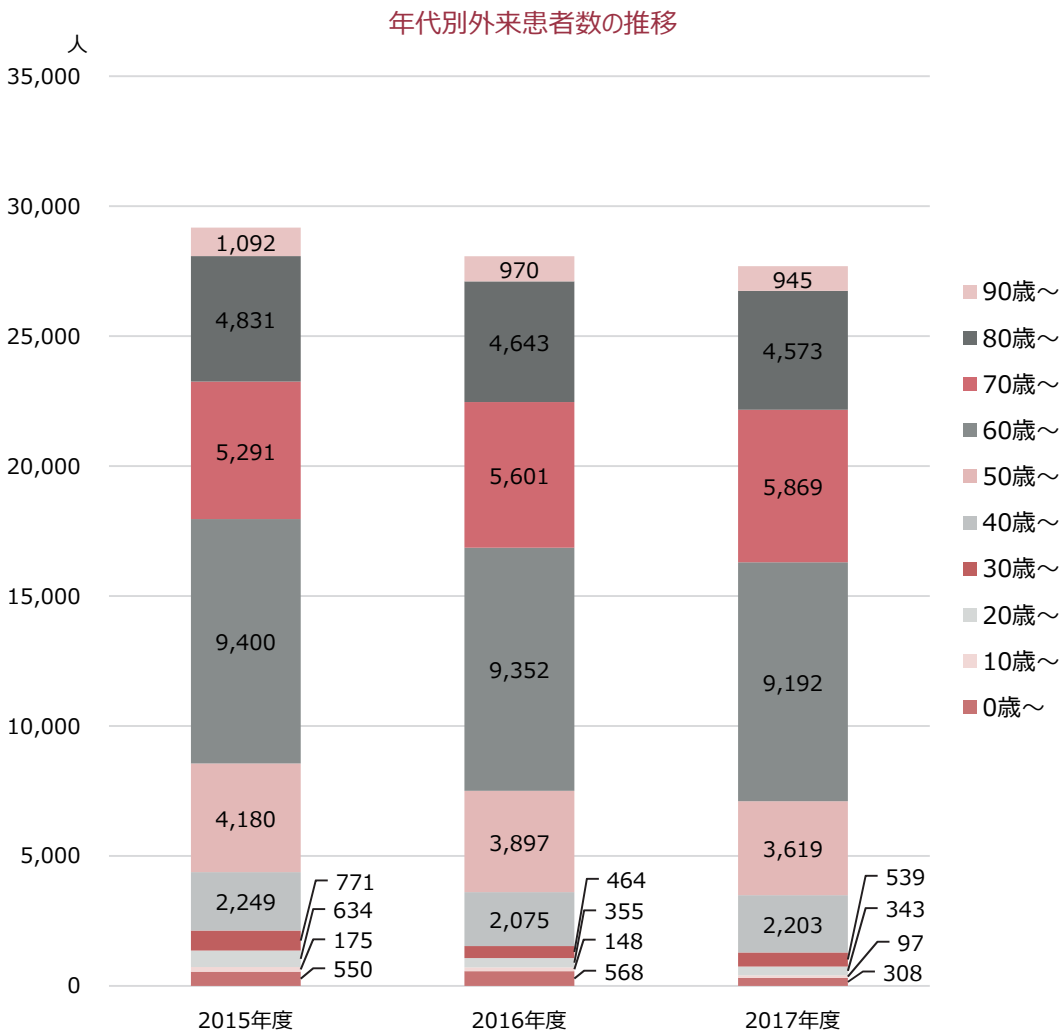
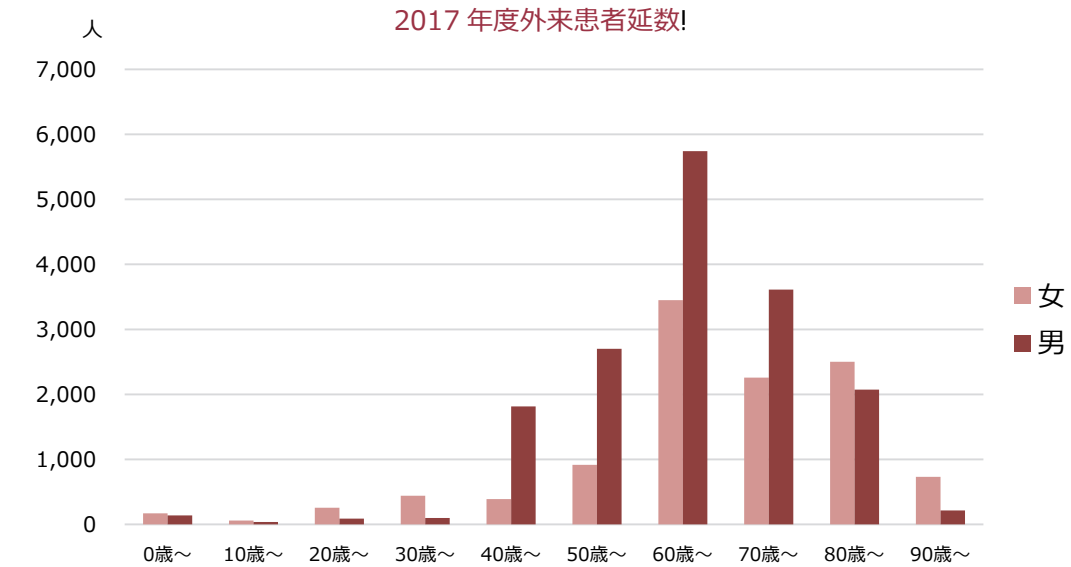
鳥屋診療所

年代別(男女別)外来患者数



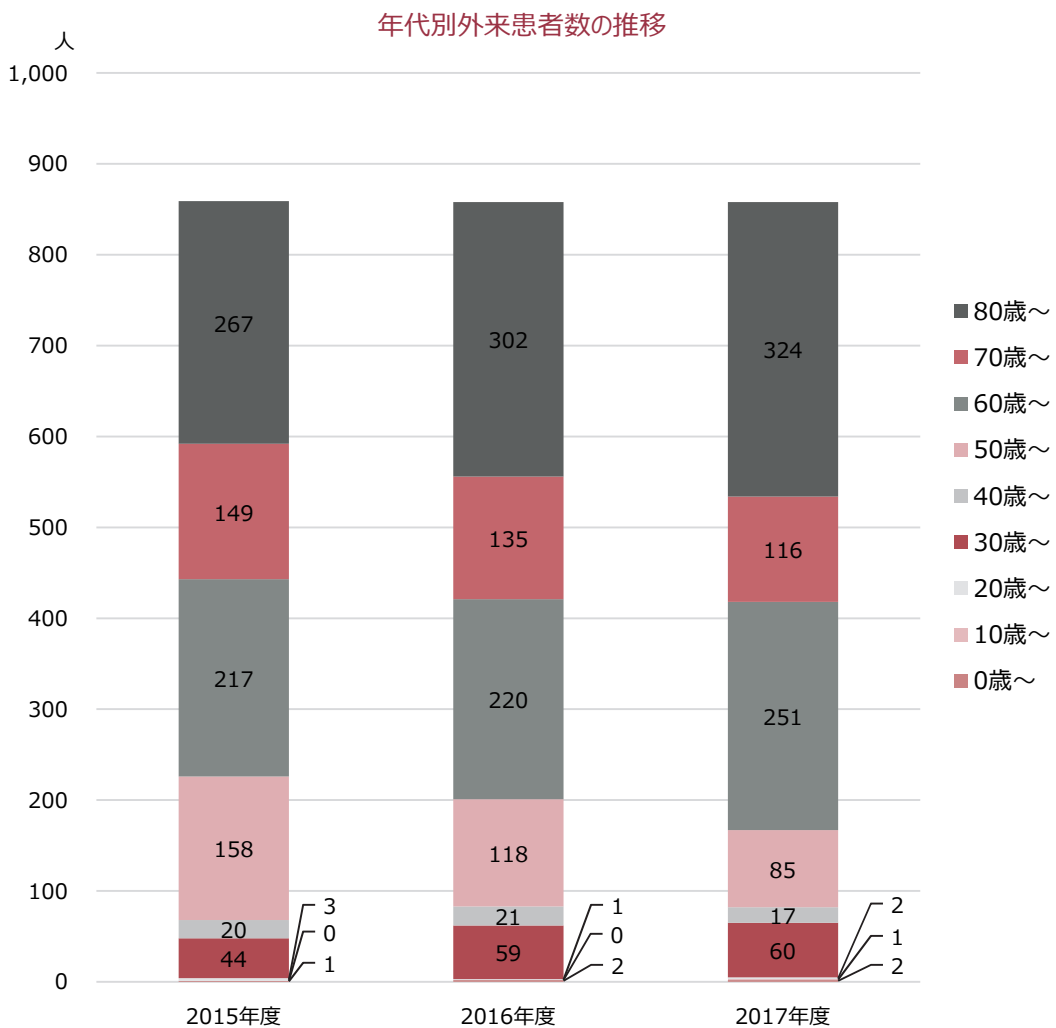
恵寿ローレルクリニック

年代別(男女別)外来患者数 (再掲)



恵寿鳩ヶ丘クリニック

年代別(男女別)外来患者数





2017年9月9-10日 全日本病院学会 in 石川



第 4 章

介護・福祉部門
利用統計・介護の質

利用統計

入所の推移

単位：人

延人数	2015年度	2016年度	2017年度
恵寿鳩ヶ丘（143床）	47,769	47,176	45,180
鶴友苑（50床）	16,012	15,874	15,993
和光苑（150床）	47,962	49,217	51,583
エレガントなぎの浦	31,617	32,067	32,149
アンジェリイなぎの浦	10,569	10,656	10,493
エレガントたつるはま	8,734	8,723	8,847
ローレルハイツ恵寿（ケアハウス）	7,264	7,272	7,298
ローレルハイツ恵寿（特定ケアハウス）	10,424	10,942	10,935
ローレルハイツ恵寿（サ高住）	9,494	13,641	15,610
総計	189,845	195,568	198,088

短期入所の推移

単位：人

延人数	2015年度	2016年度	2017年度
ほのぼの	8,854	9,231	9,600
恵寿鳩ヶ丘	91	97	155
鶴友苑	699	1,378	1,411
和光苑	170	230	89
エレガントなぎの浦	4,037	4,225	4,530
エレガントたつるはま	113	23	18
総計	13,964	15,184	15,803

通所リハビリテーションの推移

単位：人

延人数	2015年度	2016年度	2017年度
恵寿鳩ヶ丘	4,405	4,612	4,301
鶴友苑	6,114	6,787	6,451
和光苑	9,848	9,854	10,307
いきいき	3,223	3,145	3,498
総計	23,590	24,398	24,557

通所介護の推移

単位：人

延人数	2015年度	2016年度	2017年度
ほのぼの	9,304	9,499	9,538
いこい	7,832	8,057	6,987
エレガントなぎの浦	9,347	9,764	9,795
もみの木苑	8,179	7,898	7,138
ふれあいの里	10,245	9,962	8,882
総計	44,907	45,180	42,340

小規模多機能型居宅介護（延べ登録人数）の推移

単位：人

延人数	2015年度	2016年度	2017年度
恵寿みおや	8,187	8,761	8,359
楽らく	5,776	6,058	6,033
けいじゅ一本杉	7,596	6,843	8,655
総計	21,559	21,530	23,047

介護 Quality Indicator(恵寿鳩ヶ丘)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式	
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率			
(1)施設全体	在宅復帰率	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.9%	在宅退所者数/月間退所者数	
		10	5	2	6	8	3	7	6	5	3	9	6			
		10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%			
	短期集中リハビリ(認知症短期集中リハビリ含)	221	330	356	333	333	305	260	211	220	276	273	288	7.5%	リハ実施延人数/延入者数	
		3,583	3,682	3,720	3,926	3,920	3,840	3,864	3,653	3,861	3,887	3,450	3,794			
		6.2%	9.0%	9.6%	8.5%	8.5%	7.9%	6.7%	5.8%	5.7%	7.1%	7.9%	7.6%			
	重度者(介護4・5)割合率	101	102	102	105	104	103	101	99	96	95	97	95	83.7%	要介護4・5の人数/実利用者数	
		125	123	127	132	134	131	130	129	129	129	130	131			
		80.8%	82.9%	80.3%	79.5%	77.6%	78.6%	77.7%	76.7%	74.4%	73.6%	74.6%	72.5%			
	認知症Ⅲa以上の割合率	3,107	3,210	3,199	3,342	3,310	3,287	3,311	3,080	3,266	3,268	2,884	3,193	85.1%	認知症Ⅲa以上延人数/延入者数	
		3,583	3,682	3,720	3,926	3,920	3,840	3,864	3,653	3,861	3,887	3,450	3,794			
		86.7%	87.2%	86.0%	85.1%	84.4%	85.6%	85.7%	84.3%	84.6%	84.1%	83.6%	84.2%			
	ターミナルケア率	3	0	0	0	4	1	5	1	3	0	3	1	1.5%	ターミナル実人数/月間実人数	
		125	123	127	132	134	131	13	129	129	129	130	131			
		2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.8%	38.5%	0.8%	2.3%	0.0%	2.3%	0.8%			
	介護福祉士率	32	33	33	33	34	34	33	33	34	34	33	32	82.2%	介護福祉士資格者数/介護職員数	
		40	41	40	40	41	41	39	39	40	42	41	40			
		80.0%	80.5%	82.5%	82.5%	82.9%	82.9%	84.6%	84.6%	85.0%	81.0%	80.5%	80.0%			
介護実習指導者率	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	22.3%	介護実習指導者数/全介護職員数		
	40	41	40	40	41	41	39	39	40	42	41	40				
	22.5%	22.0%	22.5%	22.5%	22.0%	22.0%	23.1%	23.1%	22.5%	21.4%	22.0%	22.5%				
A入所者の転倒・転落発生率	2	4	8	5	6	3	6	7	10	3	13	7	0.2%	転倒転落件数/延入者数		
	3,583	3,682	3,720	3,926	3,920	3,840	3,864	3,653	3,861	3,887	3,450	3,794				
	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	0.2%				
B入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル2以上)	1	2	3	0	2	0	3	1	2	0	1	1	0.0%	転倒転落件数(レベル2以上)/延入者数		
	3,583	3,682	3,720	3,926	3,920	3,840	3,864	3,653	3,861	3,887	3,450	3,794				
	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%				
C入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	転倒転落件数(レベル3以上)/延入者数		
	3,583	3,682	3,720	3,926	3,920	3,840	3,864	3,653	3,861	3,887	3,450	3,794				
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
インシデント・アクシデントレポート提出件数(提出率)	2	4	8	5	6	3	6	7	10	3	13	7	0.2%	提出件数/延入者数		
	3,583	3,682	3,720	3,926	3,920	3,840	3,864	3,653	3,861	3,887	3,450	3,794				
	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	0.2%				
褥瘡推定発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	褥瘡保有者数/入所者数		
	116	118	126	126	128	128	123	123	125	126	122	125				
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
(3)感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.2%	インフルエンザ罹患職員数/全職員数	
		83	83	81	82	83	83	79	79	80	83	82	81			
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	1.2%			
(4)栄養	インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	69	4	0	1	0	91.4%	ワクチン接種者数/全職員数	
		81														
		血液・体液暴露(針刺し)件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
経口維持I比率	34	34	35	34	33	33	33	32	33	33	33	33	27.9%	経口維持I数/延実人数		
	125	123	127	132	134	131	130	129	129	129	130	131				
	27.2%	27.6%	27.6%	25.8%	24.6%	25.2%	25.4%	24.8%	25.6%	25.6%	25.4%	25.2%				
療養食比率	1,715	1,761	1,760	1,812	1,903	1,842	1,770	1,749	1,817	1,776	1,623	1,770	48.2%	特食回数/食事回数		
	3,534	3,629	3,604	3,807	3,834	3,784	3,746	3,602	3,769	3,808	3,356	3,690				
	48.5%	48.5%	48.8%	47.6%	49.6%	48.7%	47.3%	48.6%	48.2%	46.6%	48.4%	48.0%				

介護 Quality Indicator(鶴友苑)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 施設全体	在宅復帰率	5	4	2	5	8	3	7	6	7	0	3	6	58.3%	在宅退所者数/月間退所者数
		7	9	8	9	9	9	12	8	9	2	3	11		
		71.4%	44.4%	25.0%	55.6%	88.9%	33.3%	58.3%	75.0%	77.8%	0.0%	100.0%	54.5%		
	短期集中リハビリ(認知症短期集中リハビリ含)	274	337	293	240	227	194	180	147	106	129	79	146	14.7%	リハ実施延人数/延入所者数
		1,303	1,412	1,388	1,321	1,286	1,300	1,332	1,167	1,334	1,375	1,351	1,424		
		21.0%	23.9%	21.1%	18.2%	17.7%	14.9%	13.5%	12.6%	7.9%	9.4%	5.8%	10.3%		
	重度者(介護4・5)割合率	24	23	18	16	15	17	17	18	16	16	14	15	34.4%	要介護4・5の人数/実利用者数
		53	53	50	51	49	53	48	49	50	50	49	52		
		45.3%	43.4%	36.0%	31.4%	30.6%	32.1%	35.4%	36.7%	32.0%	32.0%	28.6%	28.8%		
	認知症Ⅲa以上の割合率	720	810	743	713	653	720	682	713	653	620	560	360	49.7%	認知症Ⅲa以上の延人数/延入所者数
		1,303	1,412	1,388	1,321	1,286	1,300	1,332	1,167	1,334	1,375	1,351	1,424		
		55.3%	57.4%	53.5%	54.0%	50.8%	55.4%	51.2%	61.1%	49.0%	45.1%	41.5%	25.3%		
	ターミナルケア率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	ターミナルケア人数/月間実人数
		53	53	50	51	49	53	48	49	50	50	49	52		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
介護福祉士率	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	89.9%	介護福祉士資格者数/介護職員数	
	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	19			
	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	89.5%	89.5%			
介護実習指導者率	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	37.1%	介護実習指導者数/全介護職員数	
	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20			
	35.0%	35.0%	35.0%	35.0%	35.0%	35.0%	35.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%			
A入所者の転倒・転落発生率	8	10	7	9	8	9	11	6	8	6	5	8	0.6%	転倒転落件数/延入所者数	
	1,303	1,412	1,388	1,321	1,286	1,300	1,332	1,167	1,334	1,375	1,351	1,424			
	0.6%	0.7%	0.5%	0.7%	0.6%	0.7%	0.8%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.6%			
B入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル2以上)	8	10	7	9	8	9	11	6	8	6	5	8	0.6%	転倒転落件数(レベル2以上)/延入所者数	
	1,303	1,412	1,388	1,321	1,286	1,300	1,332	1,167	1,334	1,375	1,351	1,424			
	0.6%	0.7%	0.5%	0.7%	0.6%	0.7%	0.8%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.6%			
C入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	転倒転落件数(レベル3以上)/延入所者数	
	1,303	1,412	1,388	1,321	1,286	1,300	1,332	1,167	1,334	1,375	1,351	1,424			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
インシデント・アクシデントレポート提出件数(提出率)	26	24	11	17	18	20	16	18	18	13	13	17	1.3%	提出件数/延入所者数	
	1,303	1,412	1,388	1,321	1,286	1,300	1,332	1,167	1,334	1,375	1,351	1,424			
	2.0%	1.7%	0.8%	1.3%	1.4%	1.5%	1.2%	1.5%	1.3%	0.9%	1.0%	1.2%			
褥瘡推定発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	褥瘡保有者数/入所者数	
	53	53	50	51	49	53	48	49	50	50	49	52			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患職員数/全職員数
		28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	100%	ワクチン接種者数/全職員数	
	27														
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(4) 栄養	経口維持I比率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	発生件数
		22	23	19	18	16	18	18	19	17	20	19	20		
		53	53	50	51	49	53	48	49	50	50	49	52		
療養食比率	41.5%	43.4%	38.0%	35.3%	32.7%	34.0%	37.5%	38.8%	34.0%	40.0%	38.8%	38.5%	37.7%	経口維持I数/延実人数	
	917	979	1,018	1,006	897	904	948	812	898	946	932	954			
	3,385	3,688	3,680	3,622	3,406	3,511	3,635	3,155	3,647	3,810	3,708	4,005			
27.1%	26.5%	27.7%	27.8%	26.3%	25.7%	26.1%	25.7%	24.6%	24.8%	25.1%	23.8%	25.9%	特食回数/食事回数		

第4章 介護・福祉部門：利用統計・介護の質

介護 Quality Indicator(和光苑)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 施設全体	在宅復帰率	0	3	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0	6.3%	在宅退所 者数/月間 退所者数
		16	14	19	15	12	8	18	6	8	10	2	16		
		0.0%	21.4%	10.5%	6.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%		
	短期集中リハビリ(認知症短期集中リハビリ含)	398	448	446	377	486	445	456	510	469	471	409	334	10.2%	リハ実施延 入人数/延入 者数
		4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476		
		9.4%	10.5%	10.6%	9.0%	11.3%	10.3%	10.3%	12.3%	10.6%	10.6%	9.9%	7.5%		
	重度者(介護4・5)割合率	109	109	107	110	113	110	111	109	110	113	116	116	74.2%	要介護4・ 5の人数/ 実利用者 数
		149	151	151	148	141	150	150	148	150	151	152	155		
		73.2%	72.2%	70.9%	74.3%	80.1%	73.3%	74.0%	73.6%	73.3%	74.8%	76.3%	74.8%		
	認知症Ⅲa以上の割合率	3,570	3,751	3,780	3,813	3,782	3,690	3,782	3,540	3,782	3,782	3,416	3,844	86.3%	認知症延 入以上延 入人数/延入 者数
		4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476		
		84.6%	87.7%	89.9%	91.3%	88.0%	85.5%	85.7%	85.2%	85.1%	84.8%	82.4%	85.9%		
	ターミナルケア率	0	0	0	1	0	1	3	0	1	2	1	3	0.7%	ターミナル 実人数/ 月間実 人数
		149	151	151	148	141	150	150	148	150	151	152	155		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	2.0%	0.0%	0.7%	1.3%	0.7%	1.9%		
介護福祉士率	42	42	42	42	42	42	42	43	43	43	43	43	71.5%	介護福祉 士資格者 数/介護職 員数	
	59	59	59	59	59	59	59	60	60	60	60	59			
	71.2%	71.2%	71.2%	71.2%	71.2%	71.2%	71.2%	71.7%	71.7%	71.7%	71.7%	72.9%			
介護実習指導者率	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	0.2%	介護実習 指導者数/ 全介護職 員数	
	59	59	59	59	59	59	59	60	60	60	60	59			
	18.6%	18.6%	18.6%	18.6%	18.6%	18.6%	18.6%	18.3%	18.3%	18.3%	18.3%	18.6%			
A入所者の転倒・転落発生率	13	4	10	8	10	13	8	7	7	12	14	12	0.4%	転倒転落 件数/延入 者数	
	4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476			
	0.3%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%			
B入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル2以上)	25	9	14	14	19	20	14	12	13	16	17	16	0.0%	転倒転落 件数(ワケ レベル2以 上)/延入 者数	
	4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476			
	0.6%	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%			
C入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	1	1	0.5%	転倒転落 件数(ワケ レベル3以 上)/延入 者数	
	4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
インシデント・アクシデントレポート提出件数(提出率)	33	17	20	19	21	26	17	15	18	21	21	22	0.0%	提出件数/ 延入者数	
	4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476			
	0.8%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%			
褥瘡推定発生率	17	16	9	12	5	5	8	5	6	6	6	6	5.9%	褥瘡保有 者数/入所 者数	
	142	137	141	138	138	142	144	135	142	145	147	150			
	12.0%	11.7%	6.4%	8.7%	3.6%	3.5%	5.6%	3.7%	4.2%	4.1%	4.1%	4.0%			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2%	インフルエ ンザ罹患 職員数/全 職員数
		78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%		
インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	31	44	0	0	0	96.2%	ワクチン接 種者数/全 職員数	
	78														
	血液・体液暴露(針刺し)件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0			0
(4) 栄養	経口維持I比率	79	78	77	77	74	78	80	76	82	83	81	79	52.6%	経口維持 I数/延実 人数
		149	151	151	148	141	150	150	148	150	151	152	155		
		53.0%	51.7%	51.0%	52.0%	52.5%	52.0%	53.3%	51.4%	54.7%	55.0%	53.3%	51.0%		
療養食比率	2,322	2,434	2,418	2,324	2,394	2,474	2,615	2,482	2,587	2,460	2,308	2,520	56.9%	特食回数/ 食事回数	
	4,222	4,278	4,204	4,175	4,297	4,315	4,414	4,154	4,444	4,458	4,146	4,476			
	55.0%	56.9%	57.5%	55.7%	55.7%	57.3%	59.2%	59.7%	58.2%	55.2%	55.7%	56.3%			

介護 Quality Indicator(エレガントなぎの浦)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式	
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率			
(1)施設全体	重度者(介護4・5)割合率	80	80	82	78	80	81	80	83	82	81	81	83	86.9%	要介護4・5の人数/実利用者数	
		94	94	96	92	93	93	92	93	92	92	92	94			
		85.1%	85.1%	85.4%	84.8%	86.0%	87.1%	87.0%	89.2%	89.1%	88.0%	88.0%	88.3%			
	認知症Ⅲa以上の割合率	58	65	67	65	66	67	68	70	69	69	70	72	72.2%	認知症Ⅲ以上延入人数/延入所者数	
		94	94	96	92	93	93	92	93	92	92	92	94			
		61.7%	69.1%	69.8%	70.7%	71.0%	72.0%	73.9%	75.3%	75.0%	75.0%	76.1%	76.6%			
	介護福祉士率	31	31	31	31	31	32	32	32	32	32	32	31	31	72.2%	介護福祉士資格者数/介護職員数
		43	43	44	44	43	44	44	44	44	44	42	43			
		72.1%	72.1%	70.5%	70.5%	72.1%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	73.8%	72.1%			
介護実習指導者率	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	9.2%	介護実習指導者数/全介護職員数	
	43	43	44	44	43	44	44	44	44	44	42	43				
	9.3%	9.3%	9.1%	9.1%	9.3%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.5%	9.3%				
(2)安全・安心対策	入所者の転倒・転落発生率	5	2	1	5	8	0	5	4	4	4	1	5	0.1%	転倒転落件数/延べ通所者数	
		2,624	2,665	2,449	2,702	2,721	2,682	2,803	2,726	2,783	2,761	2,449	2,733			
		0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%			
	入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル2以上)	19	8	10	10	12	4	11	13	6	14	10	8	0.4%	事故件数(LV2以下)/月間利用延べ人数	
		2,624	2,665	2,449	2,702	2,721	2,682	2,803	2,726	2,783	2,761	2,449	2,733			
		0.7%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.1%	0.4%	0.5%	0.2%	0.5%	0.4%	0.3%			
	入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.0%	事故件数(LV3以上)/月間利用延べ人数	
		2,624	2,665	2,449	2,702	2,721	2,682	2,803	2,726	2,783	2,761	2,449	2,733			
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
インシデント・アクシデントレポート提出件数(提出率)	20	9	11	10	12	4	11	13	6	15	10	10	0.4%	提出件数/月間利用延入人数		
	2,624	2,665	2,449	2,702	2,721	2,682	2,803	2,726	2,783	2,761	2,449	2,733				
	0.8%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.1%	0.4%	0.5%	0.2%	0.5%	0.4%	0.4%				
褥瘡推定発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	褥瘡保有者数/入所者数(月末)		
	94	94	96	92	93	93	92	93	92	92	92	94				
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
(3)感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0.7%	インフルエンザ罹患職員数/全職員数	
		60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	1.7%	3.3%	0.0%			
インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	96.7%	ワクチン接種者数/全職員数		
(4)栄養	経口維持I比率	39	40	39	42	41	41	42	42	42	43	44	47	44.9%	経口維持I数/延べ実人数(月)	
		94	94	96	92	93	93	93	93	92	92	92	94			
	41.5%	42.6%	40.6%	45.7%	44.1%	44.1%	45.2%	45.2%	45.7%	46.7%	47.8%	50.0%				
療養食比率	1,590	1,633	1,412	1,590	1,511	1,196	1,503	1,565	1,520	1,602	1,439	1,587	56.5%	特食回数/食事回数		
	2,624	2,665	2,449	2,702	2,721	2,682	2,803	2,726	2,783	2,761	2,449	2,733				
60.6%	61.3%	57.7%	58.8%	55.5%	44.6%	53.6%	57.4%	54.6%	58.0%	58.8%	58.1%					

介護 Quality Indicator(エレガントたつるはま)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1)施設全体	重度者(介護4・5)割合率	23	25	23	24	24	24	24	24	25	24	24	26	94.8%	要介護4・5の人数/ 実利用者数
		26	27	25	25	25	25	25	25	26	25	25	27		
		88.5%	92.6%	92.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.2%	96.0%	96.0%	96.3%		
	認知症Ⅲa以上の割合率	17	17	17	18	18	18	18	18	19	18	19	20	70.9%	認知症Ⅲ以上延 人数/延入 所者数
		26	27	25	25	25	25	25	25	26	25	25	27		
		65.4%	63.0%	68.0%	72.0%	72.0%	72.0%	72.0%	72.0%	73.1%	72.0%	76.0%	74.1%		
介護福祉士率	12	12	12	13	12	12	12	12	12	12	13	13	91.4%	介護福祉 士資格者 数/介護職 員数	
	14	14	13	14	13	13	13	13	13	14	14	14			
	85.7%	85.7%	92.3%	92.9%	92.3%	92.3%	92.3%	92.3%	92.3%	92.9%	92.9%	92.9%			
介護実習指導者率	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	22.2%	介護実習 指導者数/ 全介護職 員数	
	14	14	13	14	13	13	13	13	13	14	14	14			
	21.4%	21.4%	23.1%	21.4%	23.1%	23.1%	23.1%	23.1%	23.1%	21.4%	21.4%	21.4%			
(2)安全・安心対策	入所者の転倒・転落発生率	3	8	4	5	3	3	3	3	3	1	4	3	0.5%	転倒転落 件数/延べ 通所者数
		715	752	747	770	759	750	768	716	756	736	653	733		
		0.4%	1.1%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.1%	0.6%	0.4%		
	入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル2以上)	7	16	23	16	6	19	16	13	11	13	15	18	2.0%	事故件数 (LV2以下)/月間 利用延べ 人数
		715	752	747	770	759	750	768	716	756	736	653	733		
		1.0%	2.1%	3.1%	2.1%	0.8%	2.5%	2.1%	1.8%	1.5%	1.8%	2.3%	2.5%		
入所者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0.0%	事故件数 (LV3以上)/月間 利用延べ 人数	
	715	752	747	770	759	750	768	716	756	736	653	733			
	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%			
インシデント・アクシデントレポート提出件数(提出率)	7	17	23	17	6	19	16	13	12	13	15	18	2.0%	提出件数/ 月間利用 延人数	
	715	752	747	770	759	750	768	716	756	736	653	733			
	1.0%	2.3%	3.1%	2.2%	0.8%	2.5%	2.1%	1.8%	1.6%	1.8%	2.3%	2.5%			
褥瘡推定発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	褥瘡保有 者数/入所 者数(月 末)	
	26	27	25	25	25	25	25	25	26	25	25	27			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(3)感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.9%	インフルエン ザ罹患職 員数/ 全職員数
		18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18		
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	5.6%	0.0%		
インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	94.4%	ワクチン接 種者数/ 全職員数	
(4)栄養	経口維持I比率	13	13	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	49.0%	経口維持 I数/延べ 実人数 (月)
		26	27	25	25	25	25	25	25	26	25	25	27		
	50.0%	48.1%	48.0%	48.0%	48.0%	48.0%	48.0%	48.0%	50.0%	52.0%	52.0%	48.1%			
療養食比率	368	373	357	367	358	360	372	360	396	386	343	375	49.9%	特食回数/ 食事回数	
	715	752	747	770	759	750	768	716	756	736	653	733			
	51.5%	49.6%	47.8%	47.7%	47.2%	48.0%	48.4%	50.3%	52.4%	52.4%	52.5%	51.2%			

介護 Quality Indicator(恵寿鳩ヶ丘通所リハ)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所リハビリ事業	介護度改善率	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	12.5%	認定改善者数/月間認定更新者数
		1	4	3	6	5	3	5	0	2	6	4	1		
		0.0%	25.0%	33.3%	16.7%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	リハビリマネジメント加算Ⅰ	36	36	35	37	37	36	36	34	34	34	32	32	86.4%	算定者数/月間要介護者数
		40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39		
		90.0%	90.0%	87.5%	90.2%	88.1%	85.7%	85.7%	85.0%	82.9%	85.0%	84.2%	82.1%		
	リハビリマネジメント加算Ⅱ	4	4	5	4	5	6	6	6	7	6	6	7	13.6%	算定者数/月間要介護者数
		40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39		
		10.0%	10.0%	12.5%	9.8%	11.9%	14.3%	14.3%	15.0%	17.1%	15.0%	15.8%	17.9%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ(認知症短期集中リハビリ含)	1	2	2	4	5	5	4	2	2	0	0	0	5.6%	算定者数/月間要介護者数
		40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39		
		2.5%	5.0%	5.0%	9.8%	11.9%	11.9%	9.5%	5.0%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ(認知症短期集中リハビリ含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数
		40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
中重度者比率(介護度3以上)	10	9	9	9	11	12	11	9	8	9	10	11	24.3%	要介護度3・4・5の人数/月間要介護者数	
	40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39			
	25.0%	22.5%	22.5%	22.0%	26.2%	28.6%	26.2%	22.5%	19.5%	22.5%	26.3%	28.2%			
認知症自立度Ⅲa以上の割合	10	10	8	8	8	7	7	5	9	8	8	8	17.3%	認知症自立度Ⅲa以上の数/月間利用実人数	
	47	46	45	46	47	49	48	46	46	46	44	44			
	21.3%	21.7%	17.8%	17.4%	17.0%	14.3%	14.6%	10.9%	19.6%	17.4%	18.2%	18.2%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数	
	40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅱ	0	0	0	0	2	3	4	0	0	0	1	1	2.3%	算定者数/月間要介護者数	
	40	40	40	41	42	42	42	40	41	40	38	39			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	7.1%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	2.6%			
介護福祉士率	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	73.0%	介護福祉士数/介護職員総数	
	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0			
	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	71.4%	71.4%	71.4%	71.4%	71.4%	71.4%	71.4%			
通所者の転倒・転落発生率	1	0	3	1	0	0	5	1	0	2	1	0	0.3%	転倒転落件数/延べ通所者数	
	342	394	372	363	387	380	406	374	349	289	289	356			
	0.3%	0.0%	0.8%	0.3%	0.0%	0.0%	1.2%	0.3%	0.0%	0.7%	0.3%	0.0%			
通所者の事故発生による損傷発生率(レベル2以下)	0	0	1	0	0	0	5	1	0	2	1	0	0.2%	事故件数(レベル2以下)/月間利用延べ人数	
	342	394	372	363	387	380	406	374	349	289	289	356			
	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.3%	0.0%	0.7%	0.3%	0.0%			
通所者の事故発生による損傷発生率(レベル3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(レベル3以上)/月間利用延べ人数	
	342	394	372	363	387	380	406	374	349	289	289	356			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
インテント・アクトレポート提出率	1	0	3	1	0	0	5	1	0	2	1	0	0.3%	提出件数/月間利用延べ人数	
	342	394	372	363	387	380	406	374	349	289	289	356			
	0.3%	0.0%	0.8%	0.3%	0.0%	0.0%	1.2%	0.3%	0.0%	0.7%	0.3%	0.0%			
インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3.4%	インフルエンザ罹患患者数/通所職員数	
	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%			
インフルエンザ罹患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0.9%	インフルエンザ罹患患者数/月間利用実人数	
	47	46	45	46	47	49	48	46	46	46	44	44			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.4%	0.0%			
栄養改善取組率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	改善取組者数/月間利用実人数	
	47	46	45	46	47	49	48	46	46	46	44	44			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
口腔機能向上取組率	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2.2%	向上取組者数/月間利用実人数	
	47	46	45	46	47	49	48	46	46	46	44	44			
	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%	2.1%	2.0%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%	2.3%	2.3%			

第4章 介護・福祉部門：利用統計・介護の質

介護 Quality Indicator(鶴友苑通所Ⅷ)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所リハビリ事業	介護度改善率	1	0	1	0	1	1	2	0	0	3	0	0	16.7%	認定改善者数/月間認定更新者数
		6	7	4	6	2	7	4	4	3	4	2	5		
		16.7%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	14.3%	50.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%		
	リハビリマネジメント加算Ⅰ	60	60	58	58	57	58	56	55	48	48	47	47	83.1%	算定者数/月間要介護者数
		66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61		
		90.9%	90.9%	86.6%	89.2%	85.1%	82.9%	81.2%	82.1%	70.6%	80.0%	79.7%	77.0%		
	リハビリマネジメント加算Ⅱ	4	6	7	6	9	11	11	11	10	10	11	11	13.6%	算定者数/月間要介護者数
		66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61		
		6.1%	9.1%	10.4%	9.2%	13.4%	15.7%	15.9%	16.4%	14.7%	16.7%	18.6%	18.0%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ(認知症短期集中リハビリ含)	22	22	16	7	16	18	16	3	8	6	0	0	17.1%	算定者数/月間要介護者数
		66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61		
		33.3%	33.3%	23.9%	10.8%	23.9%	25.7%	23.2%	4.5%	11.8%	10.0%	0.0%	0.0%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ(認知症短期集中リハビリ含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数
		66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	中重度者比率(介護度3以上)	23	24	24	26	27	27	29	26	24	23	24	22	38.1%	要介護度3・4・5の人数/月間要介護者数
		66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61		
		34.8%	36.4%	35.8%	40.0%	40.3%	38.6%	42.0%	38.8%	35.3%	38.3%	40.7%	36.1%		
認知症自立度Ⅲa以上の割合	13	12	13	13	13	14	14	14	13	13	12	13	20.0%	認知症自立度Ⅲa以上の数/月間利用実人数	
	66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61			
	19.7%	18.2%	19.4%	20.0%	19.4%	20.0%	20.3%	20.9%	19.1%	21.7%	20.3%	21.3%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅰ	0	0	0	0	1	2	3	3	3	2	0	0	1.8%	算定者数/月間要介護者数	
	66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	2.9%	4.3%	4.5%	4.4%	3.3%	0.0%	0.0%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.3%	算定者数/月間要介護者数	
	66	66	67	65	67	70	69	67	68	60	59	61			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%			
介護福祉士率	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	85.7%	介護福祉士数/介護職員総数	
	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0			
	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%			
(2) 安全・安心対策	通所者の転倒・転落発生率	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.0%	転倒転落件数/延べ通所者数
		522	580	554	540	549	565	572	555	509	471	484	550		
	通所者の事故発生による損傷発生率(レベル2以下)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(以下)2以下/月間利用延べ人数
		522	580	554	540	549	565	572	555	509	471	484	550		
	通所者の事故発生による損傷発生率(レベル3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%	事故件数(以下)3以上/月間利用延べ人数
		522	580	554	540	549	565	572	555	509	471	484	550		
インシデント・アクシデントレポート提出率	0	0	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0.1%	提出件数/月間利用延べ人数	
	522	580	554	540	549	565	572	555	509	471	484	550			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患患者数/通所職員数
		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
インフルエンザ罹患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.2%	インフルエンザ罹患患者数/月間利用実人数	
	80	79	77	75	77	79	80	78	80	72	70	72			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.4%			
(4) 栄養	栄養改善取組率	21	22	23	26	28	27	26	26	17	18	17	17	29.2%	改善取組者数/月間利用実人数
		80	79	77	75	77	79	80	78	80	72	70	72		
		26.3%	27.8%	29.9%	34.7%	36.4%	34.2%	32.5%	33.3%	21.3%	25.0%	24.3%	23.6%		
	口腔機能向上取組率	14	14	13	14	12	12	10	10	8	9	8	9	14.5%	向上取組者数/月間利用実人数
		80	79	77	75	77	79	80	78	80	72	70	72		
		17.5%	17.7%	16.9%	18.7%	15.6%	15.2%	12.5%	12.8%	10.0%	12.5%	11.4%	12.5%		

介護 Quality Indicator(和光苑通所八)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所リハビリ事業	介護度改善率	4	5	1	1	1	1	2	4	1	5	2	4	26.1%	認定改善者数/月間認定更新者数
		11	15	9	8	5	10	10	14	7	12	11	7		
		36.4%	33.3%	11.1%	12.5%	20.0%	10.0%	20.0%	28.6%	14.3%	41.7%	18.2%	57.1%		
	リハビリマネジメント加算Ⅰ	63	66	64	61	62	60	62	61	61	61	57	55	70.8%	算定者数/月間要介護者数
		81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85		
		77.8%	75.9%	72.7%	70.9%	71.3%	71.4%	70.5%	70.1%	69.3%	68.5%	66.3%	64.7%		
	リハビリマネジメント加算Ⅱ	18	21	23	25	25	24	26	26	28	28	29	30	29.2%	算定者数/月間要介護者数
		81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85		
		22.2%	24.1%	26.1%	29.1%	28.7%	28.6%	29.5%	29.9%	31.8%	31.5%	33.7%	35.3%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ(認知症短期集中リハビリ含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数
		81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ(認知症短期集中リハビリ含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数
		81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	中重度者比率(介護度3以上)	25	28	25	23	22	23	26	28	29	26	24	26	29.4%	要介護度3・4・5の人数/月間要介護者数
81		87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85			
30.9%		32.2%	28.4%	26.7%	25.3%	27.4%	29.5%	32.2%	33.0%	29.2%	27.9%	30.6%			
認知症自立度Ⅲa以上の割合	13	15	14	11	10	12	13	16	14	12	12	10	14.7%	認知症自立度Ⅲa以上の数/月間利用実人数	
	81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85			
	16.0%	17.2%	15.9%	12.8%	11.5%	14.3%	14.8%	18.4%	15.9%	13.5%	14.0%	11.8%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅰ	0	1	3	4	3	1	0	1	2	2	2	1	1.9%	算定者数/月間要介護者数	
	81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85			
	0.0%	1.1%	3.4%	4.7%	3.4%	1.2%	0.0%	1.1%	2.3%	2.2%	2.3%	1.2%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅱ	0	0	0	0	2	3	4	0	0	0	1	1	1.1%	算定者数/月間要介護者数	
	81	87	88	86	87	84	88	87	88	89	86	85			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	3.6%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%			
介護福祉士率	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	72.7%	介護福祉士数/介護職員総数	
	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0			
	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%			
(2) 安全・安心対策	通所者の転倒・転落発生率	1	0	0	0	0	3	0	0	3	0	1	1	0.1%	転倒転落件数/延べ通所者数
		788	876	879	883	892	861	856	835	905	810	822	903		
		0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%		
	通所者の事故発生による損傷発生率(レベル2以下)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(以下)2以下/月間利用延べ人数
		788	876	879	883	892	861	856	835	905	810	822	903		
		0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	通所者の事故発生による損傷発生率(レベル3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(以下)3以上/月間利用延べ人数
		788	876	879	883	892	861	856	835	905	810	822	903		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	インシデント・アクシデントレポート提出率	1	0	3	2	2	6	2	1	3	3	2	3	0.3%	提出件数/月間利用延べ人数
		788	876	879	883	892	861	856	835	905	810	822	903		
		0.1%	0.0%	0.3%	0.2%	0.2%	0.7%	0.2%	0.1%	0.3%	0.4%	0.2%	0.3%		
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患率/通所職員数
		11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
インフルエンザ罹患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患率/月間利用実人数	
	107	113	113	110	110	109	114	113	114	113	105	110			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(4) 栄養	栄養改善取組率	16	15	15	12	12	12	11	13	14	11	12	11	11.6%	改善取組者数/月間利用実人数
		107	113	113	110	110	109	114	113	114	113	105	110		
		15.0%	13.3%	13.3%	10.9%	10.9%	11.0%	9.6%	11.5%	12.3%	9.7%	11.4%	10.0%		
	口腔機能向上取組率	18	18	16	16	17	17	18	18	18	16	15	14	15.1%	向上取組者数/月間利用実人数
		107	113	113	110	110	109	114	113	114	113	105	110		
		16.8%	15.9%	14.2%	14.5%	15.5%	15.6%	15.8%	15.9%	15.8%	14.2%	14.3%	12.7%		

介護 Quality Indicator(鳥屋診療所いきいき)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所リハビリ事業	介護度改善率	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	3	1	20.9%	認定改善者数/月間認定更新者数
		2	6	4	3	5	1	3	5	5	4	4	1		
		0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	25.0%	75.0%	100.0%		
	リハビリマネジメント加算Ⅰ	26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27	100%	算定者数/月間要介護者数
		26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27		
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
	リハビリマネジメント加算Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数
		26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ(認知症短期集中リハビリ含)	0	0	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	3.8%	算定者数/月間要介護者数
		26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27		
		0.0%	0.0%	3.3%	3.7%	7.1%	7.7%	6.7%	3.2%	3.3%	3.6%	3.8%	3.7%		
	短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ(認知症短期集中リハビリ含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数
		26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	中重度者比率(介護度3以上)	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	10.3%	要介護度3-4-5の人数/月間要介護者数
		26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27		
		11.5%	10.0%	10.0%	11.1%	7.1%	11.5%	10.0%	9.7%	10.0%	10.7%	11.5%	11.1%		
	認知症自立度Ⅲa以上の割合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	認知症自立度Ⅲa以上の数/月間利用実人数
		26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27		
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数	
	26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
生活行為向上リハビリテーション実施加算Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	算定者数/月間要介護者数	
	26	30	30	27	28	26	30	31	30	28	26	27			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
介護福祉士率	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	75.0%	介護福祉士数/介護職員総数	
	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0			
	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%			
通所者の転倒・転落発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%	転倒転落件数/延べ通所者数	
	278	342	286	310	278	312	308	312	294	277	238	263			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.4%			
通所者の事故発生による損傷発生率(レベル2以下)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%	事故件数(レベル2以下)/月間利用延べ人数	
	278	342	286	310	278	312	308	312	294	277	238	263			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%			
通所者の事故発生による損傷発生率(レベル3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(レベル3以上)/月間利用延べ人数	
	278	342	286	310	278	312	308	312	294	277	238	263			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
インデント・アカウントレポート提出率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%	提出件数/月間利用延べ人数	
	278	342	286	310	278	312	308	312	294	277	238	263			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.4%			
インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患患者数/通所職員数	
	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
インフルエンザ罹患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患患者数/月間利用実人数	
	45	49	49	44	42	44	49	49	47	46	42	43			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			

介護 Quality Indicator(ほのぼの通所介護)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所介護事業	通所介護 利用率	734	780	788	778	808	827	848	817	810	722	736	890	87.9%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)
		875	945	910	910	945	910	910	910	910	840	840	945		
		83.9%	82.5%	86.6%	85.5%	85.5%	90.9%	93.2%	89.8%	89.0%	86.0%	87.6%	94.2%		
	要支援者比率	12	14	16	15	15	15	17	17	16	16	17	15	17.5%	要支援者数/ 月間利用実 人数
		84	85	84	79	84	86	92	93	91	92	91	96		
		14.3%	16.5%	19.0%	19.0%	17.9%	17.4%	18.5%	18.3%	17.6%	17.4%	18.7%	15.6%		
	要介護者比率	72	71	68	64	69	71	75	76	75	76	74	85	82.9%	要介護者数/ 月間利用実 人数
		84	85	84	79	84	86	92	93	91	92	91	96		
		85.7%	83.5%	81.0%	81.0%	82.1%	82.6%	81.5%	81.7%	82.4%	82.6%	81.3%	88.5%		
	中重度比率 (介護度3以 上)	32	32	28	26	29	29	29	32	31	31	29	32	41.3%	要介護度3 以上人数/ 月間要介護 者数
		72	71	68	64	69	71	75	76	75	76	74	81		
		44.4%	45.1%	41.2%	40.6%	42.0%	40.8%	38.7%	42.1%	41.3%	40.8%	39.2%	39.5%		
認知症自立 度Ⅲa以上の 割合	17	19	20	18	18	18	18	18	18	18	20	19	20.9%	認知症自立 度Ⅲa以上 の人数/月間 利用実人数	
	84	85	84	79	84	86	92	93	91	92	91	96			
	20.2%	22.4%	23.8%	22.8%	21.4%	20.9%	19.6%	19.4%	19.8%	19.6%	22.0%	19.8%			
介護度改善率	2	1	1	3	2	0	1	0	0	1	0	0	14.1%	認定改善者 数/月間認定 更新者数	
	8	2	10	6	4	7	6	8	5	5	7	10			
	25.0%	50.0%	10.0%	50.0%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%			
介護福祉士率	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	62.5%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)	
	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13			
	64.3%	64.3%	64.3%	64.3%	61.5%	61.5%	61.5%	61.5%	61.5%	61.5%	61.5%	61.5%			
通所者の転倒・ 転落発生率	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0.0%	転倒転落件 数/延べ通所 者数	
	734	780	788	778	808	827	848	817	810	722	736	890			
	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(2) 安全・安心対策	通所者の事故 発生による損傷 発生率(レベル 2以下)	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0.1%	事故件数(以 外レベル2以 下)/月間利 用延べ人数
		734	780	788	778	808	827	848	817	810	722	736	890		
		0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%		
通所者の事故 発生による損傷 発生率(レベル 3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(以 外レベル3以 上)/月間利 用延べ人数	
	734	780	788	778	808	827	848	817	810	722	736	890			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹 患率(職員)	1	1	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0.1%	提出件数/月 間利用延人 数
		734	780	788	778	808	827	848	817	810	722	736	890		
		0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%		
インフルエンザ罹 患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.4%	インフルエンザ 罹患人数/通所 職員数	
	19	19	19	19	18	18	18	18	20	19	19	19			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%			
(4) 栄養	栄養改善取 組率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.2%	インフルエンザ 罹患人数/月間 利用実人数
		84	85	84	79	84	86	92	93	91	92	91	96		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.0%		
口腔機能向 上取組率	20	22	20	18	16	18	19	19	19	19	16	16	20.7%	改善取組者 数/月間利用 実人数	
	84	85	84	79	84	86	92	93	91	92	91	96			
	23.8%	25.9%	23.8%	22.8%	19.0%	20.9%	20.7%	20.4%	20.9%	17.4%	17.6%	16.7%			
	口腔機能向 上取組率	2	2	4	3	5	6	6	6	6	5	5	6	5.3%	向上取組者 数/月間利用 実人数
		84	85	84	79	84	86	92	93	91	92	91	96		
		2.4%	2.4%	4.8%	3.8%	6.0%	7.0%	6.5%	6.5%	6.6%	5.4%	5.5%	6.3%		

介護 Quality Indicator(デイサービスセンターいこい通所介護)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式	
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率			
(1) 通所介護事業	通所介護 利用率	623	641	610	609	550	541	575	612	579	493	514	640	64.4%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)	
		875	945	910	910	945	910	910	910	910	910	840	840			945
		71.2%	67.8%	67.0%	66.9%	58.2%	59.5%	63.2%	67.3%	63.6%	58.7%	61.2%	67.7%			
	要支援者比率	15	15	14	13	12	10	11	13	11	11	13	13	20.7%	要支援者数/ 月間利用実 人数	
		65	64	61	59	56	56	59	62	61	60	61	65			
		23.1%	23.4%	23.0%	22.0%	21.4%	17.9%	18.6%	21.0%	18.0%	18.3%	21.3%	20.0%			
	要介護者比率	50	49	47	46	44	46	48	49	50	49	48	52	79.3%	要介護者数/ 月間利用実 人数	
		65	64	61	59	56	56	59	62	61	60	61	65			
		76.9%	76.6%	77.0%	78.0%	78.6%	82.1%	81.4%	79.0%	82.0%	81.7%	78.7%	80.0%			
	中重度比率 (介護度3以 上)	16	15	14	13	9	9	8	10	11	12	11	11	19.1%	要介護度3 以上人数/ 月間要介護 者数	
		65	64	61	59	56	56	59	62	61	60	61	65			
		24.6%	23.4%	23.0%	22.0%	16.1%	16.1%	13.6%	16.1%	18.0%	20.0%	18.0%	16.9%			
認知症自立 度Ⅲa以上の 割合	7	6	6	5	5	4	4	4	4	5	6	6	8.9%	認知症自立 度Ⅲa以上 の数/月間利 用実人数		
	65	64	61	59	56	56	59	62	61	60	61	65				
	10.8%	9.4%	9.8%	8.5%	8.9%	7.1%	6.8%	6.5%	8.2%	10.0%	9.8%	10.8%				
介護度改善率	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	2	16.3%	認定改善者 数/月間認定 更新者数		
	2	5	2	2	1	8	5	2	5	3	3	5				
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	25.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%				
介護福祉士率	5	4	5	5	4	5	5	5	5	4	5	7	61.5%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)		
	8	8	9	8	7	8	8	8	8	8	6	10				
	62.5%	50.0%	55.6%	62.5%	57.1%	62.5%	62.5%	62.5%	62.5%	66.7%	62.5%	70.0%				
通所者の転倒・ 転落発生率	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0.1%	転倒転落件 数/延べ通所 者数		
	623	641	610	609	550	541	575	612	579	493	514	640				
	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%				
通所者の事故 発生による損傷 発生率(レベル 2以下)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%	事故件数(以 外レベル2以 下)/月間利 用延べ人数		
	623	641	610	609	550	541	575	612	579	493	514	640				
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%				
通所者の事故 発生による損傷 発生率(レベル 3以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数(以 外レベル3以 上)/月間利 用延べ人数		
	623	641	610	609	550	541	575	612	579	493	514	640				
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
インデント・アカ デントレポート 提出率	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	6	0.2%	提出件数/月 間利用延人 数		
	623	641	610	609	550	541	575	612	579	493	514	640				
	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.9%				
(3) 感染対策	インフルエンザ罹 患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ 罹患率/通所 職員数	
		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15			
	インフルエンザ罹 患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%	インフルエンザ 罹患率/月間 利用実人数	
		65	64	61	59	56	56	59	62	61	60	61	65			
(4) 栄養	口腔機能向 上取組率	22	24	21	16	14	14	14	14	14	14	14	12	26.5%	向上取組者 数/月間利用 実人数	
		65	64	61	59	56	56	59	62	61	60	61	65			
		33.8%	37.5%	34.4%	27.1%	25.0%	25.0%	23.7%	22.6%	23.0%	23.3%	23.0%	18.5%			

介護 Quality Indicator(エレガントなぎの浦通所介護)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所介護事業	通所介護 利用率	751	849	799	828	859	813	838	865	828	784	754	826	84.8%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)
		925	1,020	980	965	1,020	940	1,005	980	940	900	900	980		
		81.2%	83.2%	81.5%	85.8%	84.2%	86.5%	83.4%	0.0%	88.1%	87.1%	83.8%	84.3%		
	要支援者比率	29	28	28	26	26	26	28	30	30	29	29	31	26.4%	要支援者数/ 月間利用実 人数
		108	107	107	107	106	103	107	110	108	111	105	107		
		26.9%	26.2%	26.2%	24.3%	24.5%	25.2%	26.2%	27.3%	27.8%	26.1%	27.6%	29.0%		
	要介護者比率	79	79	79	81	80	77	79	80	78	82	76	76	73.6%	要介護者数/ 月間利用実 人数
		108	107	107	107	106	103	107	110	108	111	105	107		
		73.1%	73.8%	73.8%	75.7%	75.5%	74.8%	73.8%	72.7%	72.2%	73.9%	72.4%	71.0%		
	中重度比率 (介護度3以 上)	18	18	19	17	18	17	19	18	18	16	14	16	22.0%	要介護度3 以上人数/ 月間要介護 者数
		79	79	79	81	80	77	79	80	78	82	76	76		
		22.8%	22.8%	24.1%	21.0%	22.5%	22.1%	24.1%	22.5%	23.1%	19.5%	18.4%	21.1%		
認知症自立 度Ⅲa以上の 割合	17	34	17	19	18	19	18	17	15	16	14	14	17.0%	認知症自立 度Ⅲa以上 の人数/月間利 用実人数	
	108	107	107	107	106	103	107	110	108	111	105	107			
	15.7%	31.8%	15.9%	17.8%	17.0%	18.4%	16.8%	15.5%	13.9%	14.4%	13.3%	13.1%			
介護度改善率	2	3	0	1	1	1	2	0	0	2	1	2	13.2%	認定改善者 数/月間認定 更新者数	
	10	18	15	11	9	4	7	8	4	10	9	9			
	20.0%	16.7%	0.0%	9.1%	11.1%	25.0%	28.6%	0.0%	0.0%	20.0%	11.1%	22.2%			
介護福祉士率	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	63.6%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)	
	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			
	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%	63.6%			
(2) 安全・安心対策	通所者の転倒・ 転落発生率	0	1	0	0	1	1	1	2	1	0	1	2	0.1%	転倒転落件 数/延べ通所 者数
		751	849	799	828	859	813	838	865	828	784	754	826		
		0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%		
	通所者の事故 発生による損傷 発生率(LV2以下)	3	5	5	9	12	12	6	6	4	1	5	6	0.8%	事故件数 (LV2以下)/ 月間利用延 べ人数
		751	849	799	828	859	813	838	865	828	784	754	826		
		0.4%	0.6%	0.6%	1.1%	1.4%	1.5%	0.7%	0.7%	0.5%	0.1%	0.7%	0.7%		
	通所者の事故 発生による損傷 発生率(LV3 以上)	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0.0%	事故件数 (LV3以上)/ 月間利用延 べ人数
		751	849	799	828	859	813	838	865	828	784	754	826		
		0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%		
	インシデント・アカ デントレポート 提出率	3	6	5	9	12	13	6	6	4	1	6	6	0.8%	提出件数/月 間利用延人 数
		751	849	799	828	859	813	838	865	828	784	754	826		
		0.4%	0.7%	0.6%	1.1%	1.4%	1.6%	0.7%	0.7%	0.5%	0.1%	0.8%	0.7%		
(3) 感染対策	インフルエンザ罹 患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1.1%	インフルン ザ罹患 患者数/通所 職員数
		16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%		
インフルエンザ罹 患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1%	インフルン ザ罹患 患者数/月間 利用実人数	
	108	107	107	107	106	103	107	110	108	111	105	107			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%			
(4) 栄養	栄養改善取 組率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	改善取組者 数/月間利用 実人数
		108	107	107	107	106	103	107	110	108	111	105	107		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
口腔機能向 上取組率	12	16	16	16	16	14	11	9	10	10	8	9	11.4%	向上取組者 数/月間利用 実人数	
	108	107	107	107	106	103	107	110	108	111	105	107			
	11.1%	15.0%	15.0%	15.0%	15.1%	13.6%	10.3%	8.2%	9.3%	9.0%	7.6%	8.4%			

介護 Quality Indicator(もみの木苑通所介護)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所介護事業	通所介護 利用率	587	660	682	649	633	602	651	602	543	503	484	542	81.8%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)
		700	770	740	730	770	710	760	740	710	680	680	740		
		83.9%	85.7%	92.2%	88.9%	82.2%	84.8%	85.7%	0.0%	76.5%	74.0%	71.2%	73.2%		
	要支援者比率	6	6	6	6	6	5	3	5	4	6	5	7	8.1%	要支援者数/ 月間利用実 人数
		69	72	73	75	69	68	64	66	60	63	61	62		
		8.7%	8.3%	8.2%	8.0%	8.7%	7.4%	4.7%	7.6%	6.7%	9.5%	8.2%	11.3%		
	要介護者比率	63	66	67	69	63	63	61	61	56	57	56	55	91.9%	要介護者数/ 月間利用実 人数
		69	72	73	75	69	68	64	66	60	63	61	62		
		91.3%	91.7%	91.8%	92.0%	91.3%	92.6%	95.3%	92.4%	93.3%	90.5%	91.8%	88.7%		
	中重度比率 (介護度3以 上)	21	21	22	24	22	22	23	23	22	21	18	18	34.9%	要介護度3 以上人数/ 月間要介護 者数
		63	66	67	69	63	63	61	61	56	57	56	55		
		33.3%	31.8%	32.8%	34.8%	34.9%	34.9%	37.7%	37.7%	39.3%	36.8%	32.1%	32.7%		
認知症自立 度Ⅲa以上の 割合	23	24	21	21	20	19	20	20	19	18	17	19	30.0%	認知症自立 度Ⅲa以上 の人数/月間利 用実人数	
	69	72	73	75	69	68	64	66	60	63	61	62			
	33.3%	33.3%	28.8%	28.0%	29.0%	27.9%	31.3%	30.3%	31.7%	28.6%	27.9%	30.6%			
介護度改善率	1	0	0	0	2	1	1	1	2	1	2	1	20.0%	認定改善者 数/月間認定 更新者数	
	5	2	5	5	7	7	10	3	4	2	5	5			
	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	10.0%	33.3%	50.0%	50.0%	40.0%	20.0%			
介護福祉士率	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	88.0%	月間利用延 べ人数/(通 所定員×營 業日数)	
	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9			
	87.5%	87.5%	87.5%	87.5%	87.5%	87.5%	87.5%	87.5%	88.9%	88.9%	88.9%	88.9%			
(2) 安全・安心対策	通所者の転倒・ 転落発生率	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0.1%	転倒転落件 数/延べ通所 者数
		587	660	682	649	633	602	651	602	543	503	484	542		
		0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%		
	通所者の事故 発生による損傷 発生率(LV2以下)	6	6	7	5	4	4	1	3	1	5	5	1	0.7%	事故件数 (LV2以下)/ 月間利用延 べ人数
		587	660	682	649	633	602	651	602	543	503	484	542		
		1.0%	0.9%	1.0%	0.8%	0.6%	0.7%	0.2%	0.5%	0.2%	1.0%	1.0%	0.2%		
	通所者の事故 発生による損傷 発生率(LV3 以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	事故件数 (LV3以上)/ 月間利用延 べ人数
		587	660	682	649	633	602	651	602	543	503	484	542		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	インシデント・アカ デントレポート 提出率	6	6	7	5	4	4	1	3	1	5	5	1	0.7%	提出件数/月 間利用延人 数
		587	660	682	649	633	602	651	602	543	503	484	542		
		1.0%	0.9%	1.0%	0.8%	0.6%	0.7%	0.2%	0.5%	0.2%	1.0%	1.0%	0.2%		
(3) 感染対策	インフルエンザ罹 患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.6%	インフルエンザ 罹患数/通所 職員数
		14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%		
	インフルエンザ罹 患率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.2%	インフルエンザ 罹患数/月間 利用実人数
		69	72	73	75	69	68	64	66	60	63	61	62		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%		
栄養改善取 組率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	改善取組者 数/月間利用 実人数	
	69	72	73	75	69	68	64	66	60	63	61	62			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(4) 栄養	口腔機能向 上取組率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	向上取組者 数/月間利用 実人数
		69	72	73	75	69	68	64	66	60	63	61	62		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

介護 Quality Indicator(ふれあいの里通所介護)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 通所介護事業	通所介護 利用率	728	855	794	786	765	717	731	751	727	671	641	716	74.8%	月間利用延べ人数/(通所定員× 営業日数)
		950	1,040	1,000	990	1,040	990	1,000	1,000	990	920	920	1,030		
		76.6%	82.2%	79.4%	79.4%	73.6%	72.4%	73.1%	0.0%	73.4%	72.9%	69.7%	69.5%		
	要支援者比率	16	16	13	14	13	12	12	15	14	13	13	17	16.7%	要支援者数/月間 利用実人数
		86	88	86	87	86	76	79	81	83	83	82	86		
		18.6%	18.2%	15.1%	16.1%	15.1%	15.8%	15.2%	18.5%	16.9%	15.7%	15.9%	19.8%		
	要介護者比率	70	72	73	73	73	64	67	66	69	70	69	69	83.3%	要介護者数/月間 利用実人数
		86	88	86	87	86	76	79	81	83	83	82	86		
		81.4%	81.8%	84.9%	83.9%	84.9%	84.2%	84.8%	81.5%	83.1%	84.3%	84.1%	80.2%		
	中重度比率(介 護度3以上)	27	26	24	23	24	17	19	18	20	22	22	22	31.6%	要介護度3以上 人数/ 月間要介護者数
		70	72	73	73	73	64	67	66	69	70	69	69		
		38.6%	36.1%	32.9%	31.5%	32.9%	26.6%	28.4%	27.3%	29.0%	31.4%	31.9%	31.9%		
認知症自立度Ⅲ a以上の割合	26	26	25	25	24	22	22	24	25	24	22	22	28.6%	認知症自立度Ⅲ a以上の数/月間 利用実人数	
	86	88	86	87	86	76	79	81	83	83	82	86			
	30.2%	29.5%	29.1%	28.7%	27.9%	28.9%	27.8%	29.6%	30.1%	28.9%	26.8%	25.6%			
介護度改善率	2	1	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0	12.3%	認定改善者数/月 間認定更新者数	
	8	6	2	5	4	4	8	6	10	9	6	5			
	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
介護福祉士率	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	8	53.2%	月間利用延べ人数/(通所定員× 営業日数)	
	11	11	12	12	12	12	12	11	11	11	11	13			
	54.5%	54.5%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	54.5%	54.5%	54.5%	54.5%	61.5%			
(2) 安全・ 安心対策	通所者の転倒・転 落発生率	1	1	3	0	1	1	3	2	2	3	0	1	0.2%	転倒転落件数/延 べ通所者数
		728	855	794	786	765	717	731	751	727	671	641	716		
		0.1%	0.1%	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%	0.1%		
通所者の事故発生 による損傷発生率 (LV2以下)	2	1	4	1	1	2	4	5	8	5	1	1	0.4%	事故件数(LV2 以下)/月間利用 延べ人数	
	728	855	794	786	765	717	731	751	727	671	641	716			
	0.3%	0.1%	0.5%	0.1%	0.1%	0.3%	0.5%	0.7%	1.1%	0.7%	0.2%	0.1%			
通所者の事故発生 による損傷発生率 (LV3以上)	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%	事故件数(LV3 以上)/月間利用 延べ人数	
	728	855	794	786	765	717	731	751	727	671	641	716			
	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%			
インシデント・アカウン ティビリティ 提出率	4	1	4	2	1	2	4	5	8	5	2	1	0.4%	提出件数/月間利 用延べ人数	
	728	855	794	786	765	717	731	751	727	671	641	716			
	0.5%	0.1%	0.5%	0.3%	0.1%	0.3%	0.5%	0.7%	1.1%	0.7%	0.3%	0.1%			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患 率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患 者数/通所職員数
		15	15	16	16	16	16	16	15	15	15	15	15		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	インフルエンザ罹患 率(利用者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.3%	インフルエンザ罹患 者数/月間利用実 人数
		86	88	86	87	86	76	79	81	83	83	82	86		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	2.3%		
(4) 栄養	栄養改善取組率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	改善取組者数/月 間利用実人数
		86	88	86	87	86	76	79	81	83	83	82	86		
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
口腔機能向上取 組率	11	10	10	9	8	7	7	7	8	6	7	8	9.8%	向上取組者数/月 間利用実人数	
	86	88	86	87	86	76	79	81	83	83	82	86			
		12.8%	11.4%	11.6%	10.3%	9.3%	9.2%	8.9%	8.6%	9.6%	7.2%	8.5%	9.3%		

福祉 Quality Indicator(青山ライフサポートセンター)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式	
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率			
(1) 施設全体	重度者(支援区分5・6)割合率	81	80	79	79	78	77	80	81	81	81	81	81	96.3%	支援区分5・6の人数/実利用者数	
		84	83	82	82	81	81	83	84	84	84	84	84			
		96.4%	96.4%	96.3%	96.3%	96.3%	95.1%	96.4%	96.4%	96.4%	96.4%	96.4%	96.4%			
	介護福祉士率	33	33	33	33	32	31	31	31	31	31	31	30	29	60.6%	介護福祉士資格者数/介護職員数
		53	53	53	53	53	51	51	52	52	52	51	50			
		62.3%	62.3%	62.3%	62.3%	60.4%	60.8%	60.8%	59.6%	59.6%	59.6%	58.8%	58.0%			
喀痰吸引資格取得率	13	13	16	16	16	16	16	16	16	16	16	19	19	30.8%	喀痰吸引資格者数/全介護職員数	
	53	53	53	53	53	51	51	52	52	52	51	50				
	24.5%	24.5%	30.2%	30.2%	30.2%	31.4%	31.4%	30.8%	30.8%	30.8%	37.3%	38.0%				
(2) 安全・安心対策	入所者の転倒・転落発生率	3	3	4	6	3	5	8	6	5	7	7	3	0.2%	転倒転落件数/延べ入所者数	
		2,379	2,474	2,410	2,420	2,446	2,423	2,534	2,412	2,505	2,489	2,292	2,543			
		0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.1%			
	入所者の転倒・転落による損傷発生率(LV3以上)	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2	2	0	0	0.0%	転倒転落件数(LV3以上)/延べ入所者数
		2,379	2,474	2,410	2,420	2,446	2,423	2,534	2,412	2,505	2,489	2,292	2,543			
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%			
褥瘡推定発生率	3	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0.9%	褥瘡保有者数/入所者数(月末)	
	84	83	82	82	81	81	83	84	84	84	84	84				
	3.6%	1.2%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	1.2%	1.2%				
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0.5%	インフルエンザ罹患患者数/延職員数	
		68	68	68	68	68	68	68	68	66	66	66	66			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%			
インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	64	0	0	0	0	94.1%	ワクチン接種者数/延職員数	
								68								
(4) 栄養	経口維持I比率	5	5	5	6	6	4	3	3	3	3	3	3	4.9%	経口維持I数/延実人数(月)	
		84	83	82	82	81	81	83	84	84	84	84	84			
	6.0%	6.0%	6.1%	7.3%	7.4%	4.9%	3.6%	3.6%	3.6%	3.6%	3.6%	3.6%	3.6%			
療養食比率	49	49	48	48	50	50	51	51	51	51	51	51	51	60.2%	特食人数/実利用者数	
	84	83	82	82	81	81	83	84	84	84	84	84				
		58.3%	59.0%	58.5%	58.5%	61.7%	61.7%	61.4%	60.7%	60.7%	60.7%	60.7%	60.7%			

福祉 Quality Indicator(穴水ライフサポートセンター)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率		
(1) 施設全体	重度者(支援区分5・6)割合率	33	32	32	32	31	31	31	31	30	30	30	30	60.9%	支援区分5・6の人数/実利用者数
		51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51		
		64.7%	62.7%	62.7%	62.7%	60.8%	60.8%	60.8%	60.8%	58.8%	58.8%	58.8%	58.8%		
	介護福祉士率	23	24	23	23	23	23	23	23	24	24	24	24	72.1%	介護福祉士資格者数/介護職員数
		33	33	32	32	32	32	32	32	33	33	33	33		
		69.7%	72.7%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%		
喀痰吸引資格取得率	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	14	34.8%	喀痰吸引資格者数/全介護職員数	
	33	33	32	32	32	32	32	32	33	33	33	33			
	30.3%	30.3%	34.4%	34.4%	34.4%	34.4%	34.4%	34.4%	33.3%	33.3%	33.3%	42.4%			
(2) 安全・安心対策	入所者の転倒・転落発生率	6	3	7	4	9	4	5	11	5	5	8	2	11.3%	転倒転落件数/延べ入所者数
		51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51		
		11.8%	5.9%	13.7%	7.8%	17.6%	7.8%	9.8%	21.6%	9.8%	9.8%	15.7%	3.9%		
	入所者の転倒・転落による損傷発生率(LV3以上)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0.5%	転倒転落件数(LV3以上)/延べ入所者数
		51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%	0.0%		
褥瘡推定発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	褥瘡保有者数/入所者数(月末)	
	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51			
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.6%	インフルエンザ罹患患者数/延職員数
		45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	44		
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	4.5%		
インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	95.6%	ワクチン接種者数/延職員数	
							45								
(4) 栄養	経口維持I比率	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3.8%	経口維持I数/延実人数(月)
		51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51		
	2.0%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%		
療養食比率	23	22	22	21	22	22	22	21	21	21	21	21	42.3%	療養食実人数/入所者数	
	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51			
		45.1%	43.1%	43.1%	41.2%	43.1%	43.1%	43.1%	41.2%	41.2%	41.2%	41.2%	41.2%		

福祉 Quality Indicator(精育園)

区分	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計算式	
		件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率	件数 母数 率			
(1) 施設全体	重度者(区分5・6)割合率	57	56	56	58	60	60	62	64	64	65	65	65	48.2%	支援区分5・6の人数/実利用者数	
		128	127	127	127	127	127	126	126	126	126	126	126			
		44.5%	44.1%	44.1%	45.7%	47.2%	47.2%	49.2%	50.8%	50.8%	51.6%	51.6%	51.6%			
	介護福祉士率	22	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20	29.7%	介護福祉士資格者数/介護職員数	
		70	70	69	69	70	70	72	70	68	68	70	68			
		31.4%	30.0%	30.4%	30.4%	30.0%	30.0%	29.2%	28.6%	29.4%	29.4%	28.6%	29.4%			
	喀痰吸引資格取得率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1%	喀痰吸引資格者数/全介護職員数	
		70	70	69	69	70	70	72	70	68	68	70	68			
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%			
(2) 安全・安心対策	入所者の転倒・転落発生率	2	3	0	4	1	1	3	1	0	3	3	2	0.1%	転倒転落件数/延べ入所者数	
		3,498	3,627	3,561	3,711	3,407	3,629	3,778	3,644	3,621	3,587	3,592	3,817			
		0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%			
	入所者の転倒・転落による損傷発生率(LV3以上)	0	1	0	2	0	1	1	1	1	0	1	3	1	0.0%	転倒転落件数(LV3以上)/延べ入所者数
		3,498	3,627	3,561	3,711	3,407	3,629	3,778	3,644	3,621	3,587	3,592	3,817			
		0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%			
	褥瘡推定発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	褥瘡保有者数/入所者数(月末)	
		126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126			
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
(3) 感染対策	インフルエンザ罹患率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	インフルエンザ罹患患者数/延職員数	
		84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84			
	インフルエンザワクチン接種率(職員)	0	0	0	0	0	0	0	82	0	0	0	0	97.6%	ワクチン接種者数/延職員数	
(4) 栄養	経口維持I比率	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.2%	経口維持I数/延実人数(月)	
		128	127	127	127	127	127	126	126	126	126	126	126			
	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.2%	3.2%	3.2%	3.2%	3.2%	3.2%				
	療養食比率	29	29	29	28	28	30	30	30	30	30	30	30	23.2%	療養食実人数/入所者数	
		128	127	127	127	127	127	126	126	126	126	126	126			
22.7%	22.8%	22.8%	22.0%	22.0%	23.6%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%				



2017年11月1日 グッドデザイン賞 2017 授賞式



第 5 章
研究・業績

【理事長 神野 正博】

論文

1. 地域単位での医療の質と健康の確保
日本クリニカルパス学会誌 Vol.19 No.2:168-172, 2017
2. いまなぜ病院が「生きる」デザインするのか
病院 Vol.76 No.6:18-22, 2017.
3. 2035 年に向けた病院での持続可能な戦略を説く
新医療 No.517:24-25, 2017.
4. “10 年後”への舵取り～社会・医療・介護はどこに漂着する
のか～“10 年後”に向けていかに舵を取るか
月刊保険診療 Vol.73 No.1:32-35, 2018.
5. デザイン・シンキング～病院をデザインし、生活をデザインする
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 1-4, 2018.

寄稿

1. 巻頭言
病院 Vol.70 No.9:17, 2017.
2. 巻頭言
病院 Vol.76 No.6:17, 2017.
3. 追い風に慢心することなかれ 備えよ常に！
金沢大学第二外科同門会誌 2017:42-43, 2017.
4. 第 59 回全日本病院学会 in 石川を開催して
日本医科大学同窓会報第 404 号
5. グッドデザイン賞を受賞して
十全同窓会会報 第 168 号 (2018.1.22)

インタビュー

1. 迫り来る大変革に病院はどう立ち向かう
機関誌 JAHMC vol.28 No.4:1-5, 2017.
2. 入院・外来・在宅医療の注目ポイントはココだ！病棟群単位
の延長・拡充を 7 対 1 病棟からの転換の有力な選択肢に
日経ヘルスケア No.331 :31, 2017.
3. 独自の「地域包括ケアシステム」を展開 石川の医療の課題
について、神野正博氏に聞く
m3.com 地域版 (web サイト 2017.5.19 掲載)
4. 病院の枠を超え、“生きること”を支える医療へ 医療・介護・
福祉、多様な生活サービスの一体的な提供を目指して
Medical Communication 2017 年 夏号 :53-54,
2017.
5. 医療経営士は人間力を高め次のステップを目指そう
月刊「医療経営士」No.37:28-29, 2017.
6. 第 59 回全日本病院学会 in 石川に向けて一若手起業医
師に期待することとは
Medical Note (web サイト 2017.8.15 掲載)
7. 未来の日本の病院経営のあり方とは？一恵寿総合病院 神
野理事長と考える
Medical Note (web サイト 2017.9.20 掲載)

8. システムの持続可能性を有し「参加型医療」に活路を開く
最新医療経営 Phase3 Vol.399:76-77, 2017.
9. 病院トップの経営者魂 医療職内にとどめないキャリアプランを
提示するなど「新しい働き方」を提言する
最新医療経営 Phase3 Vol.404:1-3, 2018.

対談・鼎談・座談会

1. 生きるをデザインする病院に求められるものとは (河北博文
社会医療法人河北医療財団理事長×神野正博)
病院 Vol.76 No.9:1-6, 2017.
2. 災害医療のこれまでとこれから (山本保博 一般財団法人
救急振興財団会長×神野正博)
病院 Vol.76 No.6:1-6, 2017.
3. 今、病院が『生きるをデザイン』すべき理由 (猪口雄二 全日
本病院学会学会長×神野正博)
最新医療経営 Phase3 Vol.396: 16-21, 2017.
4. 2018 年度の医療改革を展望する (武田俊彦 厚生労働
省医政局長×猪口雄二 全日本病院協会会長×神野正
博)
全日病ニュース No.910:4-5, 2018.
5. プレスセミナー「患者がカルテを管理する時代」診療情報の開
示に医師・患者はどう向き合うか (山口育子 認定 NPO 法
人ささえあい医療人権センターCOML 理事長×神野正博)
最新医療経営 PHASE3 Vol.403:80-81, 2018.

講演録

1. HMS 政策研究集会 2018 年同時改定と病院経営シンポ
ジウム 地域穂活ケアシステムを拡大した「地域包括ヘルスケ
アシステム」が必須 (2017.4.23 講演)
月刊 Vision と戦略 No.160 :10-11, 2017.
2. 「“恵寿式”地域包括ヘルスケアサービス」(2016.7.12 講
演)
サービス産業生産性協議会 経営者の声 (web サイト
2017.5.22 掲載)
3. 時期改定の議論の焦点～入院医療 (2017.10.23 講演)
日経ヘルスケア No.338 :79, 2017.
4. 地域医療構想をめぐって 地域医療・その実情と課題
(2016.9.16 講演)
医療と社会 Vol.26 No.3 :314-324, 2017.
5. 医療経済フォーラム・ジャパン 第 80 回定例研修会から (上)
恵寿式地域包括ヘルスケアシステムについて(2016.11.30
講演)
社会保険旬報 No.2665 :14-21, 2017.
6. 医療経済フォーラム・ジャパン 第 80 回定例研修会から (下)
恵寿式地域包括ヘルスケアシステムについて(2016.11.30
講演)
社会保険旬報 No.2666 :18-23,2017.

けいじゅマンズリーライター執筆

- 2017年4月号 「一期一会と余情残心」
5月号 「タスクシフティング」
6月号 「Choosing Wisely」
7月号 「不安な個人、立ちすくむ国家～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～」
8月号 「生活の場」
9月号 「Singularity 2029」
10月号 「大変化前夜に挑め！
～今こそ生きるをデザインせよ～」
11月号 「デザイン・シンキング」
12月号 「バイキングとルームサービス」
2017年1月号 「トリプル改定から Value 創出へ」
2月号 「Transcendence」
3月号 「活機応変」

【本部 常務理事 神野 厚美】

インタビュー

1. 多様な人材を活用し、モチベーションを高める職場づくり
メディカルコミュニケーション 2017年夏号: 56, 2017

【本部 本部長 進藤 浩美】

論文

1. 進藤 浩美、安井 智美、神野 正博
民間病院が行政補助を受けるには
病院 Vol.76 No.12:49-52, 2017.

インタビュー

1. 多様な人材を活用し、モチベーションを高める職場づくり
メディカルコミュニケーション 2017年夏号: 56, 2017

【本部 情報部長 山野辺 裕二】

論文

1. 電子カルテの「添付ファイル」で独自機能を実現する
月刊新医療・vol.44 No.7: 35-39, 2017.
2. これからの中小規模病院にいちばん相応しい医療 IT の形
月刊新医療・vol.45 No.1 別冊: 3-5, 2018.

コラム

1. 書類の扱いにスマートフォンを活用する方法について教えてください
月刊新医療・vol.44 No.5: 106-107, 2017.
2. 個人情報保護法はどのように改正されたのか、医療機関への影響はあるのかを教えてください
月刊新医療・vol.44 No.6: 120-121, 2017.
3. 臓器移植ネットワークのコンピューターシステムのプログラムミスで、心臓移植を待つ患者が順番をとばされた原因を教えてください
月刊新医療・vol.44 No.7: 66-67, 2017.
4. 今後の診療報酬改定の項目の中に、遠隔医療の推進が盛

り込まれると聞きました。どのような状況になっているのか教えてください

月刊新医療・vol.44 No.8: 68-69, 2017.

5. 医師にも「働き方改革」を進めようという動きが出ているようです。普通の企業ではIT活用手段がいろいろとありそうですが、医師にはどんなIT活用があるのでしょうか
月刊新医療・vol.44 No.9: 56-57, 2017.
6. 最近「ビッグデータ」という言葉をよく見聞きます。「大きなデータ」ということだと思いますが、どのくらい大きければ「ビッグデータ」と呼べるのでしょうか
月刊新医療・vol.44 No.10: 64-65, 2017.
7. 大学病院のシステム調達に絡んで、大学側に十数億円の損害賠償支払いを命じる判決が出ましたが、なぜこのようなことが起こったのでしょうか
月刊新医療・vol.44 No.11: 52-53, 2017.
8. 地方厚生局の適時調査で担当官から電子カルテの3原則はご存じですかと尋ねられたと聞きました。その答えと、なぜこのような質問をされるのか教えてください
月刊新医療・vol.44 No.12: 92-93, 2017.
9. 職員にワープロの基礎を徹底させたいのですが、どんな内容を押さえるべきでしょうか
月刊新医療・vol.45 No.1: 104-105, 2018.
10. 病院機能評価や監査に備え同意書を増やすべきとの意見がありますが、事務部門が難色を示します。そもそも同意書はどういう場合に必要なのでしょうか
月刊新医療・vol.45 No.2: 56-57, 2018.
11. ほとんどの職員がスマートフォンを持っている現在、院内の通信手段は未だ古くさいPHSです。代替手段はないのでしょうか
月刊新医療・vol.45 No.3: 60-61, 2018.
12. 新年度の繁忙期、便利で扱いやすいことから多用しているExcelの上手な使い方を教えてください
月刊新医療・vol.45 No.4: 64-65, 2018.

【本部 財務部長 安井 智美】

インタビュー

1. チーム医療経営士 医療経営士の連携により組織に横串を通す役割に期待 データに基づく経営を推進へ
月間医療経営士 No.45: 1-3, 2018.

【恵寿総合病院 病院長 山本 健】

寄稿

1. 編集後記
石川医報 第1644号: 32, 2017.
2. 病院長から一言
患者安全推進ジャーナル No.50 :67-71, 2017.
3. 看護師特定行為研修修了生誕生
第168号: 6, 2018.
4. 施薬院全宗子息への加療を求める前田利家朱印状(七尾

市本行寺蔵)が書かれた年代について
北陸医史第 40 号: 3-8, 2018.

5. 巻頭言

恵寿総合病院医学雑誌 vol.6, 2018.

【恵寿総合病院 整形外科】

論文

1. 黒川 恵梨、木村 昭子、竹端 義子、船山 真理子、前浜 静香、本橋 敏美、宮田 岳人
胸椎圧迫骨折に呼吸不全を合併した高齢者の回復に向けた多職種と家族の関わり
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:41-43, 2018.

【恵寿総合病院 消化器内科】

論文

1. Uichiro Fuchizaki, Masaki Miyazawa, Akira Nakayama. Vanishing Pancreas. Gastroenterology. 2018 [Epub ahead of print].
2. Masaki Miyazawa, Uichiro Fuchizaki, et al. Prognosis of type 1 autoimmune pancreatitis after corticosteroid therapy-induced remission in terms of relapse and diabetes mellitus. PLoS One. 2017 Nov 22;12(11):e0188549.

【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 産婦人科】

論文

1. 渡邊 直子、丸山 嘉一、勝見 敦、新井 隆成
災害時の妊産婦支援の課題と提案
J. J. Disast. Med. Vol. 22 November 2017

【恵寿総合病院 産婦人科】

寄稿

1. 小濱 隆文
〈最新医療レポート〉ピクノジェノールによる精子状態の改善について
週刊ポスト 第 50 巻 第 1 号

【恵寿総合病院 泌尿器科】

論文

1. 二川 真子、松浦 寿一、川村 研二
女性における膀胱タンポナーデの背景因子に関する検討
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 5-7, 2018.
2. 室宮 智彦、川村 研二、堀井 雄之介、青谷 梨加、竹津 理奈、四十澤 健人、望月 友美、新田 真緒、池島 健広、梅田 友子、浜田 信太郎、新谷 信幸、藤田 昌雄
経尿道的膀胱腫瘍切除術の周術期感染予防 - 抗菌薬無投与の妥当性 -
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 8-10, 2018.

3. 田中 瑞栄、川村 研二、吉田 佳織、三浦 有紀、菅野 真佐子、堀内 礼子、柴田 智里、三浦 基嗣、森下 毅
DPCデータを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術における急性期期間の判定
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:33-37, 2018.

【恵寿総合病院 循環器内科】

論文

1. Masaya Higashi, Akihiko Hodatsu, Katsuharu Uchiyama, Hayato Tada, Mika Mori, Miho Ohira, Kenshi Hayashi, Masa-aki Kawashiri
Huge right ventricular mass lesion associated with genital malignant tumor: a case report.
J Med Case Rep. 2017 Oct 3;11(1):282.

【恵寿総合病院 リハビリテーション科】

論文

1. 川北 慎一郎
麻痺・痙縮に対するリハビリテーションの効果 - 最近の新しい治療法の効果
Journal of CLINICAL REHABILITATION 別刷 第 26 巻・第 7 号:2017 年 7 月号
2. 川北 慎一郎
リハビリテーション医療における認知症治療の意義
The Japanese Journal Rehabilitation Medicine vol.54 No.10 2017 年 10 月
3. 北谷 渉、近畑 惟、生田 隆倫、高間 達也、川上 直子、川北 慎一郎
脳損傷者に対する自動車運転再開支援の現況〜ドライビングシミュレーションと実車評価の実績報告〜
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 20-23, 2018.
4. 松本 康嗣、白山 真由子、柴田 真行、山下友美、生田 隆倫、小谷 恭平、梅木 祐子、田中 秀明、井舟 正秀、平井 文彦、川北 慎一郎
急性期病棟での 365 日リハビリテーション導入による効果の検討
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 24-27, 2018.

【恵寿総合病院 消化器外科】

論文

1. 佐藤 就厚、中山 啓、高井 優輝、鎌田 徹
HER2 陽性切除不能進行胃癌に対して Capecitabine, Oxaliplatin+Trastuzumab 療法を行った 1 例
癌と化学療法 44(12): 1266-1268, 2017.

【恵寿総合病院 内視鏡課】

寄稿

1. 水口 賢、中川 弘美、松田 栄美子

第 5 章 研究・業績

緊急内視鏡的異物除去術の介助のポイント
消化器看護がん・化学療法・内視鏡 第22巻第2号: 88-92, 2017.

【恵寿総合病院 理学療法課】

論文

1. 松本 康嗣、白山 真由子、柴田 真行、山下友美、生田 隆倫、小谷 恭平、梅木 祐子、田中 秀明、井舟 正秀、平井 文彦、川北 慎一郎
急性期病棟での 365 日リハビリテーション導入による効果の検討
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 24-27, 2018.
2. Hideaki Tanaka, Masami Yokogawa, Takao Nakagawa, Masahide Ibune, Toshihiro Ishiwatari, Shinichirou Kawakita
Key function for obstacle crossing in hemiplegic persons with varied degrees of spasticity
The Journal of Physical Therapy Science.29: 1381-1386, 2017.

【恵寿総合病院 作業療法課】

論文

1. 五十嵐 満哉
転倒をくり返しながらも訪問リハビリテーションにて強みを生かした関わりにより生活目標を達成出来た一症例
石川県作業療法学会誌 26 : 17~23, 2017.
2. 北谷 渉
脳損傷者に対する自動車運転再開支援の現況～ドライビングシミュレーションと実車評価の実績報告～
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 20-23, 2018.
3. 高間達也
コラム⑧ 脳血管損傷者の自動車運転再開支援
解剖学・生理学・運動学に基づく動作分析：医歯薬出版株式会社.384-385

インタビュー

1. 川上 直子、高間 達也
医療機関と自動車学校で目指す、高齢者の安全運転
メディカルコミュニケーション 2017 年夏号: 57, 2017

【恵寿総合病院 言語療法課】

論文

1. 松本 康嗣、白山 真由子、柴田 真行、山下友美、生田 隆倫、小谷 恭平、梅木 祐子、田中 秀明、井舟 正秀、平井 文彦、川北 慎一郎
急性期病棟での 365 日リハビリテーション導入による効果の検討
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 24-27, 2018.

【恵寿総合病院 薬剤課】

論文

1. 室宮 智彦、川村 研二、堀井 雄之介、青谷 梨加、竹津 理奈、四十澤 健人、望月 友美、新田 真緒、池島 健広、梅田 友子、浜田 信太郎、新谷 信幸、藤田 昌雄
経尿道的膀胱腫瘍切除術の周術期感染予防－抗菌薬無投与の妥当性－
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 8-10, 2018.
2. 室宮 智彦、望月 友美、竹津 理奈、堀井 雄之介、青谷 梨加、四十澤 健人、新田 真緒、池島 健広、梅田 友子、浜田 信太郎、新谷 信幸、藤田 昌雄
持参薬鑑別ソフト導入による入力ミス減少効果と入力時間短縮効果
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 11-15, 2018.

【恵寿総合病院 臨床栄養課】

論文

1. Kokura Yoji, et al
Impact of a multidisciplinary rehabilitation nutrition team on evaluating sarcopenia, cachexia and practice of rehabilitation nutrition
J Med Invest64 : 140-145, 2017.
2. 小蔵 要司
急性期高齢脳卒中患者において脳卒中病型は栄養状態に影響をおよぼすか
日本病態栄養学会誌 20 : 111-118, 2017.
3. 小蔵 要司
脳出血後の栄養障害と顎関節脱臼合併例に対するリハビリテーション栄養チームによる介入：症例報告
めざせリハビリテーション栄養の NST48 : 36-42, 2017.
4. 中山 由子、小蔵 要司、前田 美穂、上田 幹夫
高齢整形外科患者の摂取エネルギー量と身体計測値の変化
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 28-32, 2018.

寄稿

1. 小蔵 要司
栄養素摂取の過不足：栄養素の摂取過剰・栄養素摂取過剰の予測
日本リハビリテーション栄養学会誌 1 : 74-79, 2017.
2. 小蔵 要司
半側空間無視症状で食べられない患者の摂取量アップ対策
ニュートリションケア 10 : 550-552, 2017.
3. 小蔵 要司
失敗症例から学ぶリハ栄養 underfeeding を推奨
リハビリテーション栄養 UPDATE : 230-235, 2017.
4. 本殿 美紗子
在宅に向け、家族と同じご飯を
全国老人保健施設協会機関誌 老健 Vol.28 No.2:64-65, 2017.

【恵寿総合病院 臨床工学課】

論文

1. 渡邊 友浩、池岡 一彦、川村 研二、関戸 満里奈、吉田 大史、佐々木 理恵、大灘 郁弥、石島 宏彰、森下 貢成、四蔵 勇一
臨床工学技士から見た泌尿器科術前カンファレンスの有用性について
恵寿総合病院医学雑誌 vol.5: 43-45, 2017.

【恵寿総合病院 看護部】

論文

1. 左近 みゆき、大湯静、坂下一美、竹端 敏、船山 真理子、前浜 静香、本橋 敏美、山崎 雅英
学会認定・自己血輸血看護師による貯血式自己血輸血の推進に向けて－医師への勉強会およびアンケート調査を行った－
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 16-19, 2018.
2. 田中 瑞栄、川村 研二、吉田 佳織、三浦 有紀、菅野 真佐子、堀内 礼子、柴田 智里、三浦 基嗣、森下 毅
DPCデータを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術における急性期期間の判定
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 33-37, 2018.
3. 黒川 恵梨、木村 昭子、竹端 義子、船山 真理子、前浜 静香、本橋 敏美、宮田 岳人
胸椎圧迫骨折に呼吸不全を合併した高齢者の回復に向けた多職種と家族の関わり
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 41-43, 2018.
4. 竹端 義子
運動器看護において高齢者を支える多職種連携と退院支援
日本運動器看護学会誌（解説論文） vol.12, 2017.
5. 本橋 敏美
地域包括ケアシステム実現のための病院と地域との連携プロセスを見る⑦／地域で情報を共有し住み慣れた地域でその人らしく暮らすことを目指す
看護展望,2017-7 ,Vol.42 NO8,46-51, 2017.

寄稿

1. 竹端 義子
「月刊 となりの施設のケアをのぞき見！」DVT 予防の方法
手術前の禁飲食の時間、許可している飲み物
整形外科看護雑誌 vol.22 2017.

【恵寿総合病院 医療安全管理部】

寄稿

1. 梅田 信一、山本 健
連載 医療安全に向けた会員病院の取り組み
患者安全推進ジャーナル No.50 :67-71, 2017.

【恵寿総合病院 事務長 森下 毅】

論文

1. 田中 瑞栄、川村 研二、吉田 佳織、三浦 有紀、菅野 真佐子、堀内 礼子、柴田 智里、三浦 基嗣、森下 毅
DPCデータを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術における急性期期間の判定
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:33-37, 2018.
2. 鷲尾 留美、瀬戸 亜矢、三浦 有紀、森下 毅
外来ユニバーサル化に伴う医療秘書課の業務改善
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:38-40, 2018.

【恵寿総合病院 医療福祉相談課】

論文

1. 柴田 絵里香
“連携・タスクシフト”と“ペア制の導入”で充実した患者支援を目指す
医療事務 第25巻 533号:19-21, 2017.

【恵寿総合病院 医事課】

論文

1. 田中 瑞栄、川村 研二、吉田 佳織、三浦 有紀、菅野 真佐子、堀内 礼子、柴田 智里、三浦 基嗣、森下 毅
DPC データを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術における急性期期間の判定
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:33-37, 2018.

【恵寿総合病院 医療秘書課】

論文

1. 田中 瑞栄、川村 研二、吉田 佳織、三浦 有紀、菅野 真佐子、堀内 礼子、柴田 智里、三浦 基嗣、森下 毅
DPCデータを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術における急性期期間の判定
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:33-37, 2018.
2. 鷲尾 留美、瀬戸 亜矢、三浦 有紀、森下 毅
外来ユニバーサル化に伴う医療秘書課の業務改善
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6:38-40, 2018.

【恵寿金沢病院 病院長 上田 幹夫】

論文

1. Yaegashi H, Shigehara K, Itoda I, Ohkado M, Nakashima K, Kawaguchi S, Ueda M, Izumi K, Kadono Y, Ikeda H, Namiki M, Mizokami A.
Human papilloma virus prevalence in the anus and urine among HIV-infected Japanese men who have sex with men.
Journal of Infection and Chemotherapy. Sep(9): 621-626, 2017

2. 中山 由子、小蔵 要司、前田 美穂、上田 幹夫
高齢整形外科患者の摂取エネルギー量と身体計測値の変化
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 28-32, 2018.

【恵寿金沢病院 リハビリテーション科】

1. 畠山 智行
大腿骨頸部前捻角が股関節屈曲可動域に及ぼす影響
理学療法科学 32(6): 855-860, 2017.

【恵寿金沢病院 臨床栄養課】

1. 中山 由子、小蔵 要司、前田 美穂、上田 幹夫
高齢整形外科患者の摂取エネルギー量と身体計測値の変化
恵寿総合病院医学雑誌 vol.6: 28-32, 2018.

学会発表

【本部 総務部】

1. 坂下 純司
法人本部としての BCM 策定 ～必要な基礎資料～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 河合 隆志
補助金獲得への取組について
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【本部 財務部】

1. 安井 智美
法人本部としての BCM 策定 ～職員の安否確認と人員招
集～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 池岡 一彦
医療技術職から事務系管理者への転身 – 用度課業務に
ついて –
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【本部 企画部】

1. 村守 隆史
法人業績集（年報）作成の時間短縮とコスト削減の取り
組み
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 磯野 和香
洗練された病院見学対応を目指して
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【本部 情報部】

1. 山野辺 裕二
業務中断や注意散漫を避けつつケアスタッフに情報伝達する
手段としての音楽・音声の応用
第 11 回 IT ヘルスクエア学会学術大会
2017.5.27-28 名古屋市
2. 小澤 竹夫
診療情報システムの BCP 対策（遠隔地バックアップの必要
性）
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 病院長 山本 健】

1. 施薬院全宗子息への加療を求める前田利家書状（七尾市
本行寺蔵）が書かれた年代について
第 39 回北陸医史学会例会
2017.7.2 金沢市
2. 特別講義「手術療法」
七尾看護専門学校 2 年生 2017.10.19 七尾市

【恵寿総合病院 形成外科】

1. 山野辺 裕二
看護師特定行為研修の開始について
第 103 回長崎形成外科懇話会 2017.5.13 長崎市

【恵寿総合病院 内科】

1. 小西 正剛
サブクリニカルクッシング症候群及びクッシング症候群における
循環器動態の差異
第 90 回日本内分泌学会学術総会
2017.4.20-22 京都市
2. 酒井 珠美
気管支平滑筋収縮による咳嗽反応における
prostaglandin (PG)I₂ の役割
第 57 回日本呼吸器学会学術講演会
2017.4.21-23 東京都
3. 加瀬 一政
ニボルマブによる薬剤性肺障害に関する臨床画像学的検討
第 57 回日本呼吸器学会学術講演会
2017.4.21-23 東京都
4. 酒井 珠美
Bronchoconstriction induces PGI₂, which causes
bronchodilation and cough reduction in guinea
pigs.
ATS(American Thoracic Society) International
Conference 2017
2017.5.22 ワシントン D.C (アメリカ)
5. 山崎 雅英
高齢者多発性骨髄腫に対する pomalidomide (Pom) +
dexamethasone (DEXA) 療法 (Pd 療法) の有用性と
問題点
第 59 回日本老年医学会学術集会
2017.6.14-16 名古屋市
6. 酒井 珠美
当科におけるオマリズマブ投与中止後症例の予後に関する検
討（後方視的検討）
第 66 回アレルギー学会学術大会 2017.6.16 東京都

- 10.山崎 雅英
クラウド型救急医療連携システムを用いた僻地における急性冠症候群患者診断・救急搬送の試み
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 11.宮本 正治
糖尿病治療で起こってはならないこと - メトホルミン使用し乳酸アシドーシスで死亡した症例を考える
平成 30 年度七緒の会 第 1 回症例検討会
2017.9.27 七尾市
- 12.小西 正剛、尾山 量子、宮本 正治
メトホルミン関連乳酸アシドーシスで死亡した高齢 2 型糖尿病の 1 例
第 91 回日本糖尿病学会中部地方会
2017.10.14 金沢市
- 13.山崎 雅英
Lenalidomide による甲状腺機能低下症発症頻度と自己抗体の関連
第 79 回日本血液学会学術集会
2017.10.20-22 東京都
- 14.笠田 篤郎
アザシチジンに不応であったが ATG 療法で回復した骨髄不全の一例
第 79 回日本血液学会学術集会
2017.10.20-22 東京都
- 16.山崎 雅英
造血管疾患におけるサイトメガロウイルス (CMV) 関連腸炎診断の重要性
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会
2017.11.16-19 京都市
- 17.小西 正剛
妊娠中に原発性アルドステロン症を疑い、加療を行った一例
第 27 回 臨床内分泌代謝 Update、第 4 回生涯教育研修会 2017.11.24-26 神戸市
- 18.酒井 珠美
喘息の病態と治療
七尾市医師会学術講演会 2017.11.30 七尾市
- 19.山崎 雅英
血液疾患・がんと血栓
Pharmacy Seminar in 七尾 2017.12.20 七尾市
- 20.足立 浩樹
High-molecular-weight adiponectin inhibits the progression of vascular calcification and cardiovascular disease in Japanese renal allograft recipients.
ISN FRONTIERS MEETINGS 2018
2018.2.22-25 東京都
- 22.宮本 正治
CKD G4 で外来透析予防診療の経過中に、下痢を契機に腎不全となり臨時透析が必要になった糖尿病症例
平成 30 年度七緒の会 第 2 回症例検討会
2018.3.21 七尾市
- 23.小西 正剛
私見、私の SGLT2 阻害薬の使い方
平成 30 年度七緒の会 第 2 回症例検討会
2018.3.21 七尾市
- 【恵寿総合病院 消化器内科】**
1. 宮澤 正樹
The utility of endoscopic examinations for diagnosis of IgG4-related pancreatobiliary lesions
Digestive Disease Week 2017
2017.5.6-9 シカゴ (アメリカ)
2. 宮澤 正樹
Prognosis of type 1 autoimmune pancreatitis after corticosteroid therapy-induced remission in terms of diabetes mellitus
Digestive Disease Week 2017
2017.5.6-9 シカゴ (アメリカ)
3. 宮澤 正樹、松田 昌悟、淵崎 宇一郎、宮森 弘年
胆管狭窄病変の病理診断における新デバイスの有用性
第 93 回日本消化器内視鏡学会総会
2017.5.11-13 大阪市
4. 宮澤 正樹、松田 昌悟、淵崎 宇一郎、宮森 弘年
新型経口胆道内視鏡による範囲診断が可能であった原発性硬化性胆管炎合併胆管癌の 1 例
第 109 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会
2017.6.25 富山市
5. 宮澤 正樹、松田 昌悟、淵崎 宇一郎、宮森 弘年
自己免疫性膵炎における PET/CT の意義
Japan Digestive Disease Week 2017 第 25 回日本消化器関連学会週間 2017.10.12-14 福岡市
- 【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 産婦人科】**
1. 新井 隆成
ALSO におけるチーム医療シミュレーション教育 (チーム STEPPS) が産婦人科医に与えるインパクト
第 69 回日本産婦人科学会学術講演会
2017.4.13-16 広島市
2. 新井 隆成
産婦人科医を目指す初期臨床研修医を対象に産婦人科の診療能力を獲得を目標に行った成果と課題
第 35 回臨床研修研究会
2017.4.22 名古屋市

3. 高多 佑佳
目指そう PCOG プロバイダー:BLSO アドバンスセミナー
第 8 回日本プライマリケア連合学会学術大会
2017.5.13-14 高松市
 4. 新井 隆成
The Advanced Life Support in Obstetrics Provider Course in Japan is Utilized in Many Initiatives for the Community Medicine Crisis
25th Asian&Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology (AOCOG)
2017.7.15-18 香港
 5. 新井 隆成
産科グレード A 対応プロトコルの見直しへ向けたリアルシミュレーションの成果
第 3 回 ALSO-Japan 学術集会
2017.8.26 千葉市
 6. 高多 佑佳
PC 3 の産科救急アルゴリズムをモデルに取り組んだ産後大出血 (PPH) プロトコル作成
第 3 回 ALSO-Japan 学術集会
2017.8.26 千葉市
 7. 新井 隆成
熊本地震急性期, 亜急性期において 避難所は妊婦の主要な避難場所ではなかった
第 23 回日本集団災害医学会総会・学術集会
2018.2.1-3 横浜市
2. 川村 研二
TURBT における cefazolin 単回投与及び非投与による周術期感染予防効果
第 105 回日本泌尿器科学会 総会
2017.4.21-24 鹿児島市
 3. 川村 研二
ESBL 産生菌による急性膀胱炎患者の ESBL 産生菌の直腸内保菌期間について
第 105 回日本泌尿器科学会 総会
2017.4.21-24 鹿児島市
 4. 川村 研二
Dual energy CT 解析によりシスチン結石はカルシウム結石と弁別可能か
第 105 回日本泌尿器科学会 総会
2017.4.21-24 鹿児島市
 5. 川村 研二
泌尿器手術の術後回復に ERAS がおよぼす効果:回復の質スコア(QoR-40J)による 評価
第 105 回日本泌尿器科学会 総会
2017.4.21-24 鹿児島市
 6. 川村 研二
泌尿器小切開手術の術後回復に ERAS がおよぼす効果:回復の質スコア(QoR-40J)による評価
第 30 回日本小切開・鏡視下学会
2017.6.2-3 千代田区
 7. 川村 研二
ESBL 産生菌による急性膀胱炎患者の ESBL 産生菌の直腸内保菌期間について
第 19 回医療マネージメント学会
2017.7.7-8 仙台市
 8. 川村 研二
ESBL 産生菌による急性膀胱炎患者の ESBL 産生菌の保有頻度と直腸内保菌期間について
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 9. 川村 研二
泌尿器科手術の術後回復に ERAS がおよぼす効果:回復の質スコア(QoR-40J)による評価
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 10. 川村 研二
泌尿器手術の術後回復に ERAS がおよぼす効果:回復の質スコア(QoR-40J)による 評価
第 55 回日本癌治療学会学術集会
2017.10.20-22 横浜
 11. 川村 研二
超音波ガイド下経尿道的前立腺核出術(TUEB)-内視鏡と超音波を同一画面に表示させる -

【恵寿総合病院 産婦人科】

1. 小濱 隆文
フランス海岸松樹皮エキスの、男性因子に与える効果について
第 16 回生殖バイオロジーシンポジウム
2017.9.3 東京都
2. 小濱 隆文
術後妊娠出産に至った、多血症合併巨大子宮筋腫の一例
第 62 回日本生殖医学会学術総会
2017.11.16-17 下関市
3. 小濱 隆文
万田酵素の妊婦使用例について-胎内発育不全症例を中心に-
第 20 回日本補完代替医療学会学術集会
2017.12.2-3 東京都

【恵寿総合病院 泌尿器科】

1. 川村 研二
前立腺剥離切除術 (Transurethral enucleation and resection of prostate : TUERP) の手術手技の標準化
第 105 回日本泌尿器科学会 総会
2017.4.21-24 鹿児島市

第 5 章 研究・業績

第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会

2017.11.16-18 徳島市

12.川村 研二

ESBL 産生菌による急性膀胱炎患者の ESBL 産生菌の直腸内保菌期間について

第 67 回日本泌尿器科学会中部総会

2017.11.24-26 大阪市

13.川村 研二

経尿道的膀胱腫瘍切除術における抗菌薬無投与による術期感染予防効果

第 67 回日本泌尿器科学会中部総会

2017.11.24-26 大阪市

14.川村 研二

DPC データによる経尿道的手術の急性期期間の分析

第 67 回日本泌尿器科学会中部総会

2017.11.24-26 大阪市

15.川村 研二

超音波ガイド下経尿道的前立腺核出術 (TUEB)- 内視鏡と超音波を同一画面に表示させる -

第 67 回日本泌尿器科学会中部総会

2017.11.24-26 大阪市

16.川村 研二

泌尿器 ERAS におけるアセトアミノフェンの効果 : 回復の質スコア (QoR-40J) による評価

第 67 回日本泌尿器科学会中部総会

2017.11.24-26 大阪市

17.川村 研二

超音波ガイド下経尿道的前立腺核出術(TUEB)

第 30 回日本内視鏡外科学会

2017.12.7-9 京都市

【恵寿総合病院 小児科】

1. 白橋 徹志郎

学校健診にて高血圧を指摘された 1 年 3 ヶ月後に高安動脈炎と診断された一例

第 120 回日本小児科学会学術集会

2017.4.14-16 東京都

【恵寿総合病院 心臓血管外科】

1. 中嶋 和恵

深部静脈血栓症をきたした膝窩静脈外膜嚢腫の 1 例

第 45 回日本血管外科学会学術総会

2017.4.19-21 広島市

【恵寿総合病院 循環器内科】

1. 東 雅也

胸膜炎の治療後に巨大右室腫瘍を発見された一例

日本循環器学会北陸地方会 第 134 回学術集会

2017.6.25 金沢市

2. 東 雅也

冠動脈瘤、巨大血栓を伴う左回旋枝狭窄病変に対してステントレスで加療した急性心筋梗塞の一例

第 31 回北陸 PTCA 研究会 2017.7.29 金沢市

3. 宝達 明彦

外腸骨動脈、浅大腿動脈閉塞による重症下肢虚血に対して EVT と内膜摘除術のハイブリッド治療を行い良好な結果が得られた一例

Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference 2017 2017.7.12-14 東京都

4. 宝達 明彦

PCI リトライにより血行再建に成功した低左心機能を伴う好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例

Kanazawa Coronary Conference 2018

2018.3.2-3 金沢市

5. 宝達 明彦

治療方針に苦慮した polyvascular disease の一例

Kanazawa Coronary Conference 2018

2018.3.2-3 金沢市

6. 宝達 明彦

Impact of Myosin Light Chain Kinase Mutation on Development of Left Ventricular Systolic Dysfunction

第 82 回日本循環器学会学術集会

2018.3.23-25 大阪市

【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 緩和医療科】

1. 高藤 早苗

Anhedonia と診断されて ~がん終末期患者へのアプローチの難しさ~

第 22 回日本緩和医療学会学術大会

2017.6.23-24 横浜市

2. 高藤 早苗

「心のコンサート」5 年のキセキ ~感動の渦に包まれて~

第 41 回 日本死の臨床研究会 年次大会

2017.10.7-8 秋田市

【恵寿総合病院 リハビリテーション科】

1. 川北 慎一郎

能登エリアにおける脳卒中地域医療連携バスの現況

第 12 回日本海脳卒中医療連携セミナー

2017.4.15 金沢市

2. 川北 慎一郎

能登脳卒中地域連携協議会中間報告

第 12 回脳卒中フォーラム 2017.5.27 七尾市

3. 川北 慎一郎
経口摂取可能となった Foix-Chavany-Marie 症候群の
1 例
日本リハビリテーション医学会北陸地方会
2017.9.2 金沢市
4. 川北 慎一郎
急性期 365 日リハビリ導入効果の検討
第 43 回日本リハ学会北陸地方会
2018.3.3 金沢市

【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 家庭医療科】

1. 伊達岡 要
ALSO/BLSO の全国展開と当院の取り組み
第 8 回日本プライマリケア連合学会学術大会
2017.5.13-14 高松市
2. 宮田 潤
Dr.G に挑戦！難問・奇問・コモンまで、腹痛に強くなる！
第 8 回日本プライマリケア連合学会学術大会
2017.5.13-14 高松市
3. 宮田 潤
当院の切迫早産症例における職種の検討：記述研究
第 8 回日本プライマリケア連合学会学術大会
2017.5.13-14 高松市
4. 宮田 潤
Can you diagnose sigmoid volvulus of the
bedridden elderly patient who does not complain
abdominal pain?
ACP (米国内科学会) 日本支部 年次総会 2017
2017.6.10-11 京都市
5. 宮田 潤
再診外来のみせ方 ～見せる教育から“魅せる”教育へ～
第 14 回北陸総合診療懇話会
2017.10.8 永平寺町
6. 伊達岡 要
産婦人科→総合診療（家庭医）立ち上げに際し、立場の
作り方・関係の作り方・環境の作り方について
若手医師の家庭医療学冬期セミナー 日本プライマリケア連
合学会 PCOG フォーラム
2018.2.10-11 東京都

【恵寿総合病院 消化器外科】

1. 佐藤 就厚
HER2 陽性切除不能進行胃癌に対する XELOX+
trastuzumab 療法を行った 1 例
第 39 回日本癌局所療法研究会
2017.6.23 京都市

2. 中山 啓
閉鎖孔ヘルニアに対する腹腔鏡手術の有用性
第 72 回日本消化器外科学会総会
2017.7.20-22 金沢市
3. 佐藤 就厚
多発性リンパ節転移を伴う進行胃癌に対して術前 SOX 療
法を行い、pCR が得られた 1 例
第 55 回日本癌治療学会総会学術集会
2017.10.20-22 横浜市
4. 佐藤 就厚
腹腔鏡下結腸切除後の新三角再建法による体腔内吻合の
経験
第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会
2017.11.10-11 福岡市
5. 中山 啓
内視鏡的ドレナージ術が有効であった十二指腸憩室穿孔の
一例
第 79 回日本臨床外科学会総会
2017.11.23-24 東京都
6. 中山 啓
Lipomatous pseudohypertrophy of the pancreas
患者に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術
第 30 回日本内視鏡外科学会 総会
2017.12.7-9 京都市

【恵寿総合病院 乳腺外科】

1. 鎌田 徹
術前に孤立性骨転移が判明した T1 乳癌の 1 例
第 24 回日本乳癌学会学術総会
2017.6.16-18 東京都

【恵寿総合病院 臨床研修医】

1. 田邊 稔明
小児心臓血管外科医を目指したキャリアビジョンコース
第 35 回臨床研修研究会 2017.4.22 名古屋市
2. 二川 真子
腸石嵌頓による十二指腸憩室穿孔の 1 例
日本消化器病学会 北陸支部 第 124 回支部例会
2017.6.11 富山県
3. 志摩 純一郎
インフルエンザ感染により症状からの診断が困難であった肥厚
性硬膜炎の 1 例
2017.6.18 富山県
4. 尾山 量子
メトホルミンによる乳酸アシドーシスで死亡した高齢 2 型糖尿
病の 1 例
第 94 回北陸糖尿病集談会 2017.7.8 金沢市

5. 田中 和
壊疽を発症した血液透析患者の1例
第233回日本内科学会北陸地方会 2017.9.3 金沢市
6. 金山 智之
小児後十字靭帯付着部裂離骨折に対して Suture bridge 法で固定した1例
第129回中部日本整形外科災害外科学会学術集会
2017.10.6-7 富山県
7. 村 宏樹
高齢者治療抵抗性B細胞性リンパ腫に対するイブルチニブの使用経験
第28回日本老年医学会北陸地方会
2017.10.28 福井県
8. 二川 真子
Experiences with longitudinal hybrid allopathic and Kampo medicine precepting
The World Organization of National Colleges、Academies and Academic Associations of General Practitioners/Family Physicians Asia Pacific Regional Conference 2017
2017.11.1-4 パタヤ (タイ)
9. 田中 和
心アミロイドーシスが関与したうっ血性心不全の1例
石川県研修医学会 2018.1.27 金沢市
10. 村 宏樹
移植後再発時に白血病細胞の肺浸潤による急性呼吸窮迫症候群を合併したAML例
第40回日本造血細胞移植学会総会
2018.2.1-3 札幌市
11. 金山 智之
大胸筋断裂の2例
第207回北陸整形外科集談会 2018.3.4 金沢市
12. 尾山 量子
偏食、日光露光不足による低Ca血症でテタニー発作をきたした1例
日本内科学会第234回北陸地方会
2018.3.18 福井県

【恵寿総合病院 内視鏡課】

1. 水口 賢
～大腸内視鏡検査・腸管洗浄液飲用における新たな取り組み～ — 患者は何を求めているのか —
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 放射線課】

1. 赤坂 正明
腹部コイルを用いた補助台（コイルを載せる台）の検討

- 第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 三味 篤
Dual energy CT 解析によるシスチン結石の判別
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 林 圭子
一般撮影データベース構築と補助具作成による再撮影率減少への取り組み
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 理学療法課】

1. 浅野 慶祐
投球動作における股関節の運動学的特性 野球経験者と非経験者の比較検討
第52回日本理学療法学術大会
2017.5.12-14 千葉市
2. 大森 光紗
当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における体重減少に関連する入棟時の要因検討
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 松本 康嗣
急性期の365日リハビリテーションを導入して
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
4. 大森 光紗
回復期リハビリテーション病棟患者入棟時のサルコペニアが実績指数に及ぼす影響
第7回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会
2017.11.25 仙台市
5. 前田 莉沙
大腿骨近位部骨折患者における回復期リハビリテーション病棟入棟時の栄養状態と歩行自立度
第7回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会
2017.11.25 仙台市
6. 小谷 恭平
回復期リハビリテーション病棟の身体抑制廃止チームによる取り組みの効果
一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会 第31回研究大会 in 岩手 2018.2.2-3 盛岡市
7. 山田 若奈
神経痛性筋萎縮症により右肩関節挙上困難となり、職業・ADLに支障をきたした症例
第27回石川県理学療法学術大会
2018.3.11 白山市

8. 白波瀬 智哉
廃用症候群患者の重症度別によるADL改善の違い
第27回石川県理学療法学会
2018.3.11 白山市

【恵寿総合病院 作業療法課】

1. 五十嵐 満哉
転倒をくり返しながらも強みを生かした関わりにより生活目標を達成出来た一症例
第10回日本訪問リハビリテーション協会学術集会
2017.6.3-4 札幌市
2. 舟金 優那
左半側空間無視,左身体失認を認めた症例の排泄自立に向けた取り組み～左上肢の使用と声出し確認による麻痺側管理の習慣化に着目して～
第26回石川県作業療法学会
2017.6.25 白山市
3. 蒲田 千晴
興味関心チェックリストを利用することで関係性を築き、離床へと繋げた 作業療法の経験
第26回石川県作業療法学会
2017.6.25 白山市
4. 永井 亜希子
当グループの医療介護の連携 ～強制把握や失行、保続、運動性失語を呈した症例の在宅を目指した介入～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
5. 大野 佳祐
高齢者版興味チェックリストを活用し QOL 向上につながった事例
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
6. 北谷 渉
当院での自動車運転再開支援の状況 ～ドライビングシミュレーションと実車評価の実績報告～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
7. 棚木 久美子
重度失行・失語・片麻痺患者が自宅退院に繋がった経験～排泄動作に着目して～
第51回日本作業療法学会 2017.9.22-24 東京都
8. 山林 桃子
パーキンソニズムによる前傾姿勢に対し、重錘を用いて自立を目指した症例
第17回東海北陸作業療法学会
2017.11.18-19 名古屋市

9. 石崎 昌美代
座位時疼痛軽減目的のクッションを作成し安楽な座位を獲得できた事例
第17回東海北陸作業療法学会
2017.11.18-19 名古屋市

10. 五十嵐 満哉
回復期リハビリテーション病棟におけるタイプ別認知症患者の栄養状態とADLの改善
第7回日本リハビリテーション栄養学会学術集会
2017.11.25 仙台市

【恵寿総合病院 言語療法課】

1. 荒川 和美
左側頭葉～頭頂葉の損傷により感覚性失語とプロソディ障害を呈した1例
第18回 日本言語聴覚学会
2017.6.23-24 松江市
2. 梅木 祐子
胃瘻造設4年後に摂食嚥下外来をきっかけに経口摂取が可能となった脳幹出血の一例
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 諏訪 美幸
当院における摂食嚥下外来の取り組みについて
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
4. 木村 聖子
A Case of Speech and language therapy for an Infant with Severe Hearing Loss - Collaboration between His Family and Speech-language-hearing Therapists
第10回 アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会
2017.9.17-18 成田市
5. 梅木 祐子
左被殻出血による感覚性失語を呈した1例の発話特徴の経過
第17回北陸言語学術集会
2017.10.22 内灘町
6. 川原 明日香
開口・経口摂取困難な状態から自力摂取まで到達した一例
第17回北陸言語学術集会
2017.10.22 内灘町
7. 川原 明日香
開口・経口摂取困難な状態から自力摂取まで到達した重度構音障害の一例
第477回北陸言語障害研究会
2017.11.18 金沢市

8. 荒尾 祐希
左ラクナ梗塞により軽度失語症を呈した一例
能登地区症例検討会
2017.11.19 七尾市
9. 草山 聡美
回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の嚥下障害とADL改善との関連
第7回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会
2017.11.25 仙台市
10. 金城 総
疾患別のカウンセリング依頼時のSDS得点の比較-がん患者と非がん患者を対象として-
北陸心理学会
2017.12.9 野々市市
4. 田中 裕子
視力障害を有する独居高齢糖尿病患者に多職種で退院支援を行った1症例
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
5. 小蔵 要司
高齢脳卒中患者の摂取エネルギー量と日常生活動作改善との関連
第7回日本リハビリテーション栄養研究会学術大会
2017.11.24-25 仙台市
6. 小蔵 要司
糖尿病患者の骨格筋量をいかに増やすか
JMDS 2017 in 博多 2017.11.11-12 福岡市
7. 畑中 聡子
回復期リハビリテーション病棟におけるリハ栄養チームの活動
第7回日本リハビリテーション栄養研究会学術大会
2017.11.24-25 仙台志

【患寿総合病院 薬剤課】

1. 望月 友美
持参薬鑑別支援ツール導入による業務負担軽減効果の検討
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 堀井 雄之介
経尿道的膀胱腫瘍切除術における cefazolin 術前単回静注による周術期感染予防効果
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 青谷 梨加
前立腺全摘除術の術後感染予防における cefotiam 単回投与の妥当性の検討
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿総合病院 臨床栄養課】

1. 小蔵 要司
リハビリテーション栄養チームとサルコペニア、悪液質、栄養目標の設定、栄養評価実施の関連
第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会
2017.2.22-23 横浜市
2. 小蔵 要司
高齢脳卒中患者の摂取エネルギー量と日常生活動作改善との関連
第8日本静脈栄養学会北陸支部学術集会
2017.8.19 富山市
3. 畑中 聡子
回復期リハビリテーション病棟におけるリハ栄養チームの活動
第8日本静脈栄養学会北陸支部学術集会
2017.8.19 富山市

8. 小蔵 要司
高齢脳卒中患者における異なる評価法を用いた栄養状態の一致率-GNRIとCONUTの比較-
第21回日本病態栄養学会年次学術集会
2018.1.12-14 京都市
9. 梶山 知巳
胃癌患者における術後早期の身体組成の変動
第21回日本病態栄養学会年次学術集会
2018.1.12-14 京都市

【患寿総合病院 臨床検査課】

1. 大門 真弓
Free Style リブレ 持続血糖モニター について
糖尿病患者を助け合う地域連携協議会・七緒の会 症例検討会 2018.2.15 七尾市
2. 大門 真弓
当院におけるFGM『FreeStyle リブレ、リブレプロ』の運用について
石川県臨床衛生検査技師会 能登地区研修会
2018.3.4 七尾市

【患寿総合病院 臨床工学課】

1. 二木 駿、栃原 さとみ
当院透析患者の低栄養素の要因調査
第62回日本透析医学会学術集会・総会
2017.6.16-18 横浜市
2. 渡邊 友浩
超音波ガイドによる経尿道的前立腺剥離切除術-内視鏡画像と超音波画像を同一画面に表示させる-
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

3. 佐々木 理恵
臨床工学技士から見た術前カンファレンスの有用性について
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 4. 小田 泰嗣、栃原 さとみ
意識変化を促し栄養指標に改善が見られた一例
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 5. 玉谷 亮一
消化器軟性内視鏡洗淨履歴管理システムの構築
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 【恵寿総合病院 看護部】**
1. 高柳 由香里
ケアミックス型病院に入院した認知症患者の重症度と BPSD
の頻度と考察
第 18 回日本認知症ケア学会大会
2017.5.26-27 宜野湾市
 2. 櫻 さおり
アンケート調査による患者用パスの言葉を分かりやすくする検
討
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 3. 高橋 敬子
母性実習における男子学生の学びを振り返る
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 4. 場合 佳右
整形疾患患者の術後せん妄予防～術後せん妄予防の取り
組みと看護の実際～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 5. 山中 菜穂美
ユニバーサル外来における看護補助者業務の現状と今後の
課題
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 6. 小谷 薫
「ご意見箱」に寄せられた意見を財産にする ～看護部スタッ
フへの意見を今後に活かす～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 7. 山崎 道恵
脳卒中急性期患者への ST と協働した間接訓練の有用性
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 8. 木谷 奈津江
ターミナルケアのありようを知り看護に活かす
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 9. 小崎 孝幸
紹介患者のスムーズな受け入れに関する取り組み－事務職
員を対象とした研修会を行って－
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 10. 菅野 真佐子
外科手術における当院外科系医師の術後急性期期間の認
識について
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 11. 戸田 秀之
PNS システムを受け入れるためのアプローチ
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 12. 谷口 隆行
超音波膀胱容量測定器の術中患者管理への応用
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 13. 和田 征久
認知症ケア回診を実施したことによる現状と課題
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 14. 高柳 由香里
院内デイケアに参加した認知症患者の BPSD 変容と看護
師の負担感～オレンジのつどいを開催して～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 15. 杉原 健太
認知症看護外来の意義と役割
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 16. 松下 逸子
母子の地域連携の充実をはかる
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 17. 中川 剛生
交通外傷により入院となった外国人患者の看護～看護の在
り方の検討～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
 18. 黒氏 美紀
終末期による経口摂取困難な患者の在宅療養が可能となっ
た一例～夫の気持ちの変化～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

第 5 章 研究・業績

- 19.日光 静香
障害者2人による在宅生活のための退院指導～安心して安全に在宅で生活していく～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 20.折戸 幸枝
回復期リハビリテーション病棟抑制ゼロへの取り組み
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 21.檜 奈々江
医療行為・介護行為により発生するスキントア（皮膚損傷）予防の在り方への介入
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 22.左近 みゆき
安全な輸血療法の推進に向けて～自己血輸血に対する医師への意識調査～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 23.黒川 恵梨
胸椎圧迫骨折入院直後に呼吸不全をきたした患者の看護～回復に向けた多職種、家族との関わり～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 24.崎田 透
心不全ワークシート導入による他職種連携の有用性
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 25.土谷 節
与薬準備前確認方法標準化への取り組み
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 26.片岡 克美
がんサポート看護外来開設に向けて
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 27.竹端 敏
救急看護師を育てる一歩を踏み出せない看護師への看護管理の役割「モチベーションを向上させるための心得」
第13回日本救急看護学会学術集会
2017.10.6-7 金沢市
- 28.高 歆歆
女性の自己導尿への看護と退院後訪問指導の振り返り
第10回IMS看護学会 2017.10.28 東京都
- 29.黒氏 美紀
消化管狭窄により経口摂取困難な終末期患者への退院支援～医療機関と在宅看護をつなぐ～
第32回日本がん看護学会学術集会 2018.2.3 千葉市

【患寿総合病院 医療安全管理部】

1. 谷田部 美千代
ディスプレイ駆血帯を導入して
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿総合病院 医療福祉相談課】

1. 柴田 絵里香
充実した患者支援を目指す～業務の見直しを通して～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿総合病院 地域連携課】

1. 細谷 幸治
紹介件数増加を目指して～開業医満足度調査の実施～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿総合病院 医事課】

1. 三浦 基嗣
医事課の業務対策4チームの取組みについて
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿総合病院 医療秘書課】

1. 田中 瑞栄
DPC データを用いた経尿道的手術の急性期期間の分析・評価
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 鷲尾 留美
ユニバーサル外来におけるとことん共有について～医師事務作業補助者のローテーション～
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿金沢病院 病院長 上田 幹夫】

1. 出張インフルエンザワクチン接種を実施してみよう
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿金沢病院 内科】

1. 山下 剛史
中枢神経浸潤を有する多発性骨髄腫症例の後方視的検討－中間報告－
第42回日本骨髄腫学会学術集会
2017.5.27 東京都

2. 松浦 絵里香
t(8,14,18)(q24;q32;q21)を有するびまん性大細胞型 B
細胞リンパ腫
第 79 回日本血液学会学術集会
2017.10.20-22 東京都

【恵寿金沢病院 内科】

1. 熊野 義久
Clinical outcome of primary CNS lymphoma
retrospective analysis comparing with CNS
relapse
第 78 回日本血液学会学術集会
2016.10.13-15 横浜市
2. 山下 剛史
Central Nervous System Invasion in Multiple
Myeloma : A Nationwide Survey of 75Patients in
Papan
米国血液学会年次総会 2016.12.3-6 サンディエゴ

【恵寿金沢病院 リハビリテーション科】

1. 浅野 慶祐
投球動作における股関節の運動学的特性—野球経験者と
非経験者の股関節運動に着目して—
第 52 回日本理学療法学会学術大会
2017.5.12-14 千葉市
2. 風見 悠斗
肩関節疾患 3 症例に対し、術後早期より関節可動域改善
を目指した—経験～病期を追った適切な介入のために—
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 村田 廉志
上腕骨頸部骨折後に変形治癒し、肩関節挙上に著名な挙
上制限を呈した症例
整形外科リハビリテーション学会北陸支部
2018.3.8 金沢市
4. 村田 廉志
上腕骨頸部骨折後に変形治癒し、肩関節挙上に著名な挙
上制限を呈した症例～肩関節挙上獲得に着目して～
第 27 回石川県理学療法学会学術大会 2018.3.11 白山市

【恵寿金沢病院 放射線課】

1. 廣田 さおり
涙道術前 CT 検査における撮影条件適正化の検討
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 南 沙織
当院の一般撮影領域における入射表面線量と DRL の比較
第 59 回全日本病院学会 in 石川

2017.9.9-10 金沢市

【恵寿金沢病院 看護部】

1. 佐々木 絵美
抗がん剤環境汚染に対する曝露対策の改善 —スピルキット
設置に向けた取り組みと研修会実施の成果—
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 井上 直美
当院血液内科における中心静脈ライン関連血流感染サー
ベイランスの取り組みと課題
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【恵寿金沢病院 事務部】

1. 荒木 千保子
病院移譲後の地域連携活動を振り返る
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【介護老人保健施設 和光苑】

1. 藤井 亮嗣
通所リハにて屋外歩行能力 の向上を図った一症例
第 13 回 東海・北陸ブロック老健大会 三重
2017.5.25-26 四日市市
2. 福井 朱美
応用行動分析的アプローチを用いた介入により「できない」か
ら「何でもする」へ
一般社団法人 日本認知症ケア学会 第 18 回大会
2017.5.26-27 宜野湾市
3. 泉 真由美
追想困難な左片麻痺者の在宅復帰を目指して
第 28 回 全国老人保健施設大会 愛媛 in 松山
2017.7.26-28 松山市
4. 山下 充
「ふとした」きっかけで始まった経口摂取への取り組み
第 28 回 全国老人保健施設大会 愛媛 in 松山
2017.7.26-28 松山市
5. 岡田 俊
理学療法における申し送りプログラム実施計画の分析
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
6. 堀野 祥子
災害食を考える「備えよ 常に」
第 21 回 石川県老人保健施設大会
2017.10.18 金沢市
7. 中森 亨
介護技能グランプリ：入浴介助の部

第 5 章 研究・業績

いしかわ介護フェスタ：介護技能グランプリ：入浴介助の部
2017.10.21 金沢市

【介護老人保健施設 鶴友苑】

1. 山口 雄二
在宅復帰への取り組み ～やっぱ、家がいいわいやぁ～
第 13 回 東海・北陸ブロック老健大会 三重
2017.5.25-26 四日市
2. 出雲 恵美
在宅復帰を目指して
第 28 回全国介護老人保健施設大会 愛媛 in 松山
2017.7.26-28 松山市
3. 笹谷 愛美
在宅復帰を目指して
第 28 回全国介護老人保健施設大会 愛媛 in 松山
2017.7.26-28 松山市

【介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘】

1. 岡野 裕子
嚥下体操を見直そう～マンネリ化からの脱出～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 大野 佳祐
高齢者版興味チェックリストを活用し、QOL 向上につながった事例
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 和田 知子
回復期リハビリテーション病棟におけるサルコペニアの有病率と関連因子
第 7 回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会
2017.11.25 仙台市

【恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」】

1. 山本 直美
「少しでも家で過ごしたい」思いをかなえる支援 ～癌ターミナル期での医療と介護の連携～
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【青山彩光苑リハビリテーションセンター】

1. 山科 ゆかり
いつまでも自分の足で歩きたい ～家に帰りたい～
身体障害者リハビリテーション研究集会 2017
2017.11.9-10 名古屋市

【青山彩光苑ライフサポートセンター】

1. 近藤 由香理
始動！青山ライフ移乗プロジェクト ～持ち上げない介護を目指した～
第 41 回全国身体障害者施設協議会研究大会
2017.7.6-7 高知市
2. 木村 輝江、加島 宏祐
安全に口から食べる生活を継続するために ～嚥下・口腔ケアプロジェクトの取り組みを通して～
第 41 回全国身体障害者施設協議会研究大会
2017.7.6-7 高知市

【青山彩光苑穴水ライフサポートセンター】

1. 宮下 千草
サービス提供のあり方を考える～ケアガイドラインに沿った支援の充実～
第 41 回全国身体障害者施設協議会研究大会
2017.7.6-7 高知市
2. 高見 翼
ステーキを食べる夢に向かって～生きる懸け橋となれ～
東海北陸地区身体障害者施設職員研究大会 2017 とやま大会 2017.9.28-29 富山市

【石川県精育園】

1. 平沢 麻理
生活リズムが昼夜逆転の自閉症スペクトラム障がい者に対する活動参加アプローチの試み
第 51 回日本作業療法学会 2017.9.22 東京都

【ふれあいの里】

1. 久保 由美子、谷口 美帆
貰ってうれしいポイントカード
平成 29 年度全国老人福祉施設研究会議（高知介護）
2017.10.18 高知市

講師・座長・パネリスト等

【理事長 神野 正博】

1. 診療報酬、介護報酬ダブル改定に向けた地域連携、地域包括ケアを考える（講師）
第7回 埼玉西部医療を考える会 2017.4.19 川越市
2. 我が国の財政の現実を直視し社会保障制度の持続可能性を問う～超少子高齢化で加速する生産人口減少に伴う（シンポジスト）
HMS 政策研究集会 財政と社会保障シンポジウム 2017.4.23 東京都
3. 地域医療構想の実現と2018年診療・介護報酬同時改定の方向～更なる医療機能分化と地域包括ケアシステム構築に期待される医療の役割～（講師）
HMS 政策研究集会 2018年同時改定と病院経営シンポジウム 2017.4.23 東京都
4. 2018年度診療報酬・介護報酬の同時改定を見据えたこれからの医療介護政策と経営
日本医療経営機構 2017年度病院経営力強化プロジェクトNTT勉強会 2017.5.27 東京都
5. 2025年に備えよ、先進事例から学ぶ機能分化と地域連携（講師）
ファイザー 病院薬剤師サミット 2017 機能分化と地域連携に向けた病院薬剤部門の新たな展開 2017.6.3 東京都
6. 地域医療構想策定、ダブル改定を見据えた地域包括ケアのあり方を考える（講師）
医療・介護事業の経営改善と資金調達セミナー 2017.6.9 東京都
7. 地域の医療提供体制のこれからを考える（講師）
第37回 いわき市医師会 勤務医と開業医の集い 2017.6.15 いわき市
8. 医療における「おもてなし経営」の実践談（講師）
全国スマート施工競技大会 2017.7.6 小松市
9. “特定行為で変わ（え）る”！ これからの医療・介護現場（座長・シンポジスト）
第67回日本病院学会 医療人育成ルネサンス 2017.7.20 神戸市
10. これからの地域包括ケアシステムのあり方を考える（講師）
第11回神戸市北区医師会病院集会 2017.8.3
11. 病院経営戦略としての地域包括ケアへの対応（講師）
ソフトウェアサービスユーザー会・第2回理事長院長部会 2017.8.18 大阪市
12. 日本変革フォーラム 働き方改革：今後の医療はどうあるべきなのか（パネリスト）
HOSPITAL MANAGEMENT JAPAN SUMMIT 2017

- 2017.9.14 東京都
13. 恵寿式地域包括ケアシステム（講師）
PBA 医薬マーケティング・アカデミー9月講座 2017.9.14 東京都
14. 地域包括ケアと医療・介護の人材確保について（講師）
第17回沖縄県慢性期医療協会研究発表会 2017.9.16 宜野湾市
15. 同時改定の方向性と求められる地域医療（講師）
静岡県病院協会 第1回病院管理研修会 2017.9.20 静岡市
16. 新専門医制度と地域医療（講師）日本医師会生涯教育講座 平成29年度病院管理研修会 2017.10.15 札幌市
17. 次期改定の議論の焦点～入院医療（講師）
日経ヘルスケア診療報酬改定セミナー 徹底予測！2018年度診療報酬改定の行方と経営へのインパクト 2017.10.23 東京都
18. “地域包括ヘルスケアシステム”構築のために必要なこと（講師）
第69回全日立医学会 2017.10.28 ひたちなか市
19. 地域包括ケアシステムを見据えたダブル改定、地域医療構想の行方と対策を考える（講師）
第14回 Kochi Stroke フォーラム～地域包括ケアシステムを見据えた取り組み～ 2017.11.11 高知市
20. 地域包括ケア提供のためのICTを考える（講師）
第46回日本医療福祉設備学会 2017.11.21 東京都
21. 病院建設と病院マネジメント～病院のビジョン、ミッションを実現するための病院建築～（シンポジスト）
HOSPEX JAPAN 2017 医療経営セミナー 2017.11.22 東京都
22. 今こそ、生きるをデザインしよう（講師）
七尾市医師会創立70周年記念式典 2017.11.22 七尾市
23. これからの病院の役割を考える～恵寿式地域包括ヘルスケアサービス～（講師）
NC 連携セミナー・地域で診まもる研究会 2017.11.29 沖縄市
24. 地域医療構想の実現と2018年診療・介護報酬同時改定の方向～地域包括ケアシステム構築に期待される医療の役割～（講師）
2018年診療・介護報酬同時改定と病院経営セミナー 地域医療構想、次期診療報酬改定を見越した機能別病院経営のゆくえ 2017.12.2 東京都
25. 民間病院の地域医療連携の関わり方の重要性について（講師）

第5章 研究・業績

一般社団法人病院トップマネジメント研究会主催 トップマネジメントセミナー 東海・北陸地方の地域医療を考える～地域医療連携と地域包括ケアについて～
2017.12.22 名古屋市

26. 地域医療構想の実現と 2018 年診療・介護報酬同時改定
の方向～更なる医療機能分化と地域包括ケアシステム構築
に期待される医療の役割～（座長）
HMS 政策研究集会 2018 年同時改定と病院経営シンポ
ジウム 2018.1.27 東京都
27. 医師の働き方と医師の需給・偏在対策について（シンポジ
スト）
医療環境の変革に向けた社会医療法人対応セミナー
2018.2.4 東京都
28. 平成 30 年度診療報酬改定と地域医療連携（講師）
地域医療連携フォーラム
2018.2.10 佐倉市
29. 2018 年度同時改定への急性期病院の対応策（講師）
Live Symposium 病院経営 2018 年度同時改定への
急性期病院の対応策 2018.2.16 東京都
30. 2025 年を見据えた今後の医療事業戦略（講師）
2018 年診療・介護報酬の同時改定 2025 年に向けた医
療経営戦略 2018.2.18 熊本市
31. 専門医制度の今後のあり方について（講師）
平成 29 年度熊本県四病院団体合同研修会
2018.3.12 熊本市
32. 地域包括ケアシステム構築に向けての改定内容とは（講師）
平成 30 年度診療報酬改定 ポイント解説
2018.3.15 東京都

【本部 常務理事 神野 厚美】

1. ユニバーサル外来（プレゼンター）
グッドデザイン・ベスト 100 デザイナーズプレゼンテーション
2017 2017.11.2-5 東京都
2. ユニバーサル外来（プレゼンター）
グッドデザインラボ 2017 2017.12.15 東京都

【本部 本部長 進藤 浩美】

1. 新会員研修
（公社）石川県作業療法士会研修会
2017.5.20 金沢市
2. 在宅・訪問 3
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. グッドキャリア企業 – 社員が成長できる企業 – とは
グッドキャリア企業アワード 2017 表彰式
2017.11.27 東京都

【本部 情報部長 山野辺 裕二】

1. 一般演題 電子カルテ（6 演題）（座長）
第 37 回医療情報学連合大会
2017.11.20-23 大阪市
2. 手術前の同意書は本来必要ない（講師）
テクマトリックス北陸ユーザー会 2017.10.28 金沢市

【患寿総合病院 病院長 山本 健】

1. 病院 – 薬局連携のさらなる強化を目指して～薬局が真に患
者のメリットとなる存在になるために～（座長）
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【患寿総合病院 整形外科】

1. 森永 敏生
くびが痛い！（講師）
第 70 回能登地区整形外科症例検討会
2018.3.8 七尾市

【患寿総合病院 内科】

1. 宮本 正治
臨床教授
金沢大学医薬保健学域医学類
2017.1.1-2018.3.30 金沢市
2. 宮本 正治
東京多摩地区における糖尿病医療連携およびチーム医療の
実践（座長）
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
3. 宮本 正治
七尾地区での糖尿病性腎症重症化予防連係パス
（講師）
七尾市医師会学術講演会 2017.9.14 七尾市
4. 宮本 正治
糖尿病の基礎知識について（講師）
七尾市民講座 2017.12.13 七尾市
5. 宮本 正治
糖尿病性腎症重症化予防プログラムの 1 年を振り返る
七尾市医師会学術講演会 2018.3.7 七尾市
6. 小西 正剛
メタボの病態を学ぼう！（講師）
七尾市民講座 2018.3.14 七尾市

【患寿総合病院 消化器内科】

1. 瀧崎 宇一郎
『胸焼け症状を診る』（日本大学医学部内科学系消化器
肝臓内科学分野教授 後藤田 卓志先生）（座長）
七尾市医師会学術講演会 2017.4.12 七尾市

2. 瀧崎 宇一郎
『集中治療室における急性血液浄化療法について—腎臓内科医の立場から—』（金沢医科大学 腎臓内科学 講師 足立 浩樹先生）
『菌血症について』（厚生連高岡病院 総合診療科 診療部長 狩野 恵彦先生）（座長）
第2回感染症セミナー—敗血症を中心に—
2017.7.3 七尾市
3. 瀧崎 宇一郎
「C型肝炎ならびに非アルコール性肝炎の最近の知見」（金沢大学附属病院 消化器内科 准教授 水腰 英四郎先生）（座長）
七尾市医師会学術講演会 2017.10.23 七尾市
4. 瀧崎 宇一郎
『富山県立中央病院における IBD 診療の実際』（富山県立中央病院 内科（消化器）部長 松田 耕一郎先生）（座長）
七尾 IBD 講演会 2018.1.30 七尾市
5. 瀧崎 宇一郎
『日本を取り巻く輸入感染症』（国立国際医療研究センター 国際感染症センター 忽那 賢志先生）（座長）
第3回感染症セミナー 2018.3.9 七尾市
6. 瀧崎 宇一郎
『逆流性食道炎の病態と治療の新展開』（日本医科大学 消化器内科学 大学院教授 日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科部長 岩切 勝彦先生）（座長）
第10回 イブニングセミナー 2018.3.16 七尾市
- 【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 産婦人科】**
1. 新井 隆成
ALSO インストラクターコース・プロバイダーコース（講師）
2017 プロバイダーコース in 国立成育医療センター
2017.5.3-5 東京都
2. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
2017 日本プライマリ連合学会 ALSO プロバイダーコース
2017.7.8-9 東京都
3. 新井 隆成
病院全体で始めようチーム医療 いつも共通言語は ABCDE ~産科救急医療は特別ではない~（講師）
平成 29 年度第 3 回青森県医師会母体保護法指定医研修会 2017.9.16 八戸市
4. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
2017 プロバイダーコース in 名古屋市立大学
2017.10.8-9 名古屋市
5. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
- ALSO プロバイダーコース in 川崎医科大学附属病院
2017.10.27-29 倉敷市
6. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
ALSO プロバイダーコース in 弘前大学
2017.11.3-4 弘前市
7. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
ALSO プロバイダーコース in OGCS
2017.12.2-3 大阪市
8. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
ALSO プロバイダーコース in 名古屋市立大学
2017.12.16-17 名古屋市
9. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
ALSO プロバイダーコース in 愛媛大学
2018.1.27-28 松山市
10. 新井 隆成
ポスターセッション「傷病管理 3」（座長）
第 23 回日本集団災害医学会総会・学術集会
2018.2.1-3 横浜市
11. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
第 25 回山梨 ALSO-Japan プロバイダーコース
2018.2.10-11 中央市
12. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
ALSO プロバイダーコース in 長崎医療センター
2018.2.23-24 大村市
13. 新井 隆成
ALSO プロバイダーコース（講師）
第 26 回山梨 ALSO-Japan プロバイダーコース
2018.3.3-4 中央市
- 【恵寿総合病院 産婦人科】**
1. 小濱 隆文
一般演題 1-3（座長）
第 20 回日本補完代替医療学会学術集会
2017.12.2-3 東京都
2. 小濱 隆文
一般演題 11-13（座長）
第 20 回日本補完代替医療学会学術集会
2017.12.2-3 東京都

第 5 章 研究・業績

【恵寿総合病院 泌尿器科】

1. 川村 研二
栄養・給食・NST・薬剤・臨床検査（座長）
第 59 回 全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
2. 川村 研二
データ活用（座長）
第 18 回日本クリニカルパス学会
2017.12.1-2 大阪市
3. 川村 研二
良好な医療を適切な入院期間で地域に選ばれるための
ERAS DPC データ解析（講師）
金沢医科大学氷見市民病院クリニカルパス大会
2018.2.27 氷見市

【恵寿総合病院 小児科】

1. 中谷 茂和
子どもの病気の対処法 ～急な時に知っておきたいこと～
（講師）
「医師による小児救急対策出前講座」
2017.10.26 七尾市
2. 白橋 徹志郎
食物アレルギーについて（講師）
第 24 回アレルギー疾患の講演と相談会
2018.2.24 金沢市

【恵寿総合病院 循環器内科】

1. 宝達 明彦
<この症例どうする> 三枝病変（ディスカッサ）
第 26 回日本心血管インターベンション治療学会
2017.7.6-8 京都市

【恵寿総合病院 リハビリテーション科】

1. 川北 慎一郎
加賀エリアにおける脳卒中地域医療連携パスの
現況（座長）
第 12 回日本海脳卒中医療連携セミナー
2017.4.15 金沢市
2. 川北 慎一郎
新しい介護医療連携用紙についての紹介（座長）
第 12 回脳卒中フォーラム
2017.5.27 七尾市
3. 川北 慎一郎
慢性疼痛患者に対する認知行動療法に基づいたリハビリ
（座長）
日本リハビリテーション医学会北陸地方会
2017.9.2 金沢市

4. 川北 慎一郎
脳卒中の地域連携と生活期リハビリ（講師）
脳卒中リハビリ市民公開講座 in 金沢
2017.10.15 金沢市
5. 川北 慎一郎
脳卒中とてんかん（座長）
能登脳卒中地域連携協議会総会役員会
2017.10.21 七尾市
6. 川北 慎一郎
悪性脳腫瘍のリハビリテーション（講師）
がんリハ講習会 2017.10.22 金沢市
7. 川北 慎一郎
関連専門職演題 9 脳卒中 3（座長）
第 1 回日本リハビリテーション学会秋期学術集会
2017.10.27-29 大阪市
8. 川北 慎一郎
教育講演 24 認知症のリハビリテーションの展望（座長）
第 1 回日本リハビリテーション学会秋期学術集会
2017.10.27-29 大阪市
9. 川北 慎一郎
高齢者のフレイルと認知症（座長）
認知症を考える会 in 七尾 2017.11.11 七尾市
10. 川北 慎一郎
予防から治療、リハビリまで（座長）
脳卒中市民公開講座 2017.12.16 珠洲市
11. 川北 慎一郎
平成 29 年度 七尾市医師会 緊急時医療研修会（座長）
2018.1.31 七尾市
12. 川北 慎一郎
認知症とてんかんセミナー（座長）
2018.2.1 七尾市

【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 家庭医療科】

1. 伊達岡 要
BLSO で繋ぐ・育む（講師）
第 3 回 ALSO-Japan 学術集会
2017.8.26 千葉市
2. 伊達岡 要
BLSO インストラクターコース、BLSO プロバイダーコース（講師）
BLSO プロバイダーコース in Sapporo 2017
2017.9.17 札幌市
3. 伊達岡 要
BLSO プロバイダーコース（講師）
病院前妊産婦救護に関するシュミレーションコース BLSO in
高知 2017.10.1 高知市

4. 伊達岡 要
BLSO プロバイダーコース (講師)
BLSO プロバイダーコース@日本医科大多摩永山病院
2017.11.17-19 多摩市 東京都

5. 伊達岡 要
BLSO プロバイダーコース (講師)
病院前妊産婦救護に関するシミュレーションコース BLSO in
高知 2018.1.21 高知市

6. 伊達岡 要
BLSO プロバイダーコース (講師)
BLSO コース@恵寿
2018.3.10 七尾市

7. 伊達岡 要
BLSO プロバイダーコース (講師)
災害 BLSO 研修会
2018.3.17 吹田市

【恵寿総合病院 消化器外科】

- 高井 優輝
一般演題(ミニオーラル)小腸：イレウス 3 (座長)
第 72 回日本消化器外科学会総会
2017.7.20-22 金沢市
- 佐藤 就厚
一般演題(ミニオーラル)総論：救急・腹膜炎 3 (座長)
第 72 回日本消化器外科学会総会
2017.7.20-22 金沢市
- 佐藤 就厚
テーマ：胃癌の治療戦略 (講師)
北陸 Cancer Forum 2017.11.4 金沢市
- 佐藤 就厚
能登地区大腸癌研究会 (座長)
2017.11.7 七尾市

【恵寿総合病院 乳腺外科】

- 鎌田 徹
学部学生・メディカルスタッフ・初期研修医セッション 小腸 2
(座長)
第 72 回日本消化器外科学会総会
2017.7.11-13 金沢市
- 鎌田 徹
T-DM1 の 3 年投与例と低用量投与例の経験 (講師)
石川県 乳癌 Expert Meeting
2017.10.27 金沢市
- 鎌田 徹
DPC・クリニカルパス 2 (座長)
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 放射線課】

- 延田 宗久
知っておきたい CT の基礎シリーズ (座長)
第 5 回 SOMATOM 研究会
2017.10.9 金沢市

【恵寿総合病院 理学療法課】

- 田中 秀明
救命講習会 (講師)
鳥屋小学校救命講習会 2016.7.1 中能登町
- 井舟 正秀
リハビリテーション 10 (座長)
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 中村 秀哉
訪問リハビリテーションの実践について ～パーキンソン病の在宅生活を支える～ (講師)
第 3 回 能登地区 神経・筋難病ネットワーク 地域連携の会 2017.9.23 七尾市
- 田中 秀明
内部障害理学療法 (非常勤講師)
国際医療福祉専門学校七尾校
2017.10.4、2017.10.10 七尾市
- 久保 佳子
介護福祉基礎 (非常勤講師)
石川県立田鶴浜高等学校健康福祉科
2017.10.6-2018.3.22 七尾市
- 井舟 正秀
地域の他病期・他施設との連携するために～急性期からの入院における連携体制～ (講師)
協会指定管理者研修会職域別 (地域包括ケア病棟) 管理者中央研修会 2018.1.28 東京都

【恵寿総合病院 作業療法課】

- 川上 直子
リハビリテーション 5 (ポスター発表) (座長)
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 永井 亜希子
リハビリテーション 5 (一般演題) (座長)
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
- 永井 亜希子
介護福祉基礎 (非常勤講師)
石川県立田鶴浜高等学校健康福祉科
2017.10.6-2018.3.22 七尾市

4. 永井 亜希子
現職者選択研修 身体障害者領域 「急性期」(講師)
現職者選択研修 身体障害者領域
2017.9.30 金沢市
5. 高間 達也
日常生活動作学実習 (非常勤講師)
専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
2017.10.12-2017.10.19 金沢市
6. 川上 直子
リハビリの先生にさらにしっかり体操を習おう! 講座 (講師)
中能登町高齢者支援センター 2017.11.9 中能登町
7. 川上 直子
地域ケア会議 (目標設定会議) (アドバイザー)
中能登町高齢者支援センター
2017.9.16、2018.1.16 中能登町
8. 五十嵐 満哉
在宅リハビリテーション活動紹介 恵寿訪問リハビリテーション
事業所「けいじゅ」 (講師)
平成 29 年度リハビリテーション技術支援ネットワーク強化事業
「在宅リハビリテーション検討会」
2018.2.8 七尾市
9. 川上 直子
地域ケア会議 (目標設定会議) (アドバイザー)
七尾市社会福祉協議会 2018.2.14 七尾市

【恵寿総合病院 言語療法課】

1. 木村 聖子
介護福祉基礎 (非常勤講師)
石川県立田鶴浜高等学校健康福祉科
2017.10.6-2018.3.22 七尾市
2. 木村 聖子
治療論 (言語療法) (講師)
七尾看護専門学校 2017.10.3、2017.10.10 七尾市
3. 木村 聖子
言語リハビリテーション講習会 (講師)
石川県脳卒中リハビリテーション協会 七尾市言語リハビリ講習会
2016.11.17 中能登町
4. 諏訪 美幸
誤嚥性肺炎を予防する為の食事摂取時の姿勢と介助方法
(講師)
千寿苑 勉強会 2017.9.28-29 七尾市
5. 木村 聖子
能登地区教育相談会 (講師)
能登地区教育相談会 2017.11.26 穴水町

【恵寿総合病院 臨床栄養課】

1. 前田 美穂
胃癌周術期の栄養サポート (パネリスト)

- 第2回能登がんセミナー 2017.5.20 輪島市
2. 前田 美穂
生活習慣病の食事指導 (講師)
第7回地域医療連携研究会 なのはな会
2017.5.24 七尾市
3. 小蔵 要司
みんなではじめるリハビリテーション栄養 (講師)
済生会滋賀県病院 NST 研修会
2017.6.28 草津市
4. 小蔵 要司
恵寿リハビリテーション栄養チームの効果 (講師)
リハ栄養フォーラム 金沢 2017.7.9 金沢市
5. 清水 裕美
症例検討 (講師)
石川県栄養士会 伝達講習会 2017.12.9 七尾市
6. 前田 美穂
栄養情報提供書を学ぼう (講師)
石川県栄養士会 伝達講習会 2017.12.9 七尾市
7. 小蔵 要司
歯科口腔疾患・嚥下障害②、褥瘡 (座長)
第21回日本病態栄養学会年次学術集会
2018.1.12-14 京都市
8. 小蔵 要司
リハビリテーション栄養のすゝめ (講師)
福井内部障害リハビリテーション研究会
2018.3.3 福井市

【恵寿総合病院 臨床検査課】

1. 尾田 真一
当院における下肢静脈超音波検査について (講師)
深部静脈血栓を考える会 in 珠洲
2017.10.11 珠洲市
2. 山口 拓也
糖尿病教室 ～血液は語る～ (講師)
石川県糖尿病指導士研究会 能登地区研修会
2017.9.3 七尾市
3. 谷内 正人
七尾看護学校講義 (講師)
2018.1.23 七尾市
4. 尾田 真一
当院における下肢静脈超音波検査について (講師)
深部静脈血栓を考える会 in 富来
2018.1.26 志賀町
5. 山口 拓也
七尾看護学校講義 (講師)
2018.1.9 七尾市

6. 川端 舞香
七尾看護学校講義（講師）
2018.2.1 七尾市
7. 大門 真弓
七尾看護学校講義（講師）
2018.2.20 七尾市
8. 尾田 真一
当院における下肢静脈超音波検査について（講師）
深部静脈血栓を考える会 in 輪島
2018.3.16 輪島市
- 【恵寿総合病院 看護部】**
1. 高柳 由香里
老年看護学Ⅱ（認知症看護）（講師）
石川県立田鶴浜高等学校専攻科
2017.4.1-2018.1.31 七尾市
2. 船山 真理子
病態疾病論（呼吸機能障害看護）（講師）
石川県立田鶴浜高等学校専攻科
2017.4.1-2018.1.31 七尾市
3. 大内 喜美子
思春期講座 ザ・思春期（講師）
七尾市立中島中学校 2017.6.22 七尾市
4. 本橋 敏美
看護2（座長）
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
5. 前濱 静香
看護1（座長）
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
6. 船山 真理子
看護6（口演）（座長）
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
7. 川江 辰徳
看護6（ポスター）（座長）
第59回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市
8. 竹端 敏
救急看護師を育てる一歩を踏み出せない看護師への看護
管理の役割（パネリスト）
第13回日本救急看護学会学術集会
2017.10.6-7 金沢市
9. 大内 喜美子
こころの授業（講師）
輪島市立門前西小学校 2017.10.31 輪島市
10. 大内 喜美子
こころの授業（講師）
輪島市立河合小学校
2017.10.16 輪島市
11. 大内 喜美子
こころの授業（講師）
輪島市立鶴巣小学校 2017.10.31 輪島市
12. 山本 美保
意思決定支援に関する看護（座長）
第24回石川県看護学会 2017.11.11 金沢市
13. 大内 喜美子
大人への一歩（講師）
石川県立羽咋工業高校 2017.11.21 羽咋市
14. 大内 喜美子
こころの授業（講師）
輪島市立大屋小学校 2017.11.24 輪島市
15. 大内 喜美子
大人への一歩（講師）
エイズ講演会（日本航空高等学校石川）
2017.11.27 輪島市
16. 大内 喜美子
大人への一歩（講師）
エイズ講演会（石川県立穴水高等学校）
2017.11.27 穴水町
17. 大内 喜美子
こころの授業（講師）
輪島市立輪島中学校 2017.11.27 輪島市
18. 大内 喜美子
こころの授業（講師）
輪島市立鳳至小学校 2017.11.29 輪島市
19. 大内 喜美子
思春期健康教育 ザ思春期（講師）
七尾市立東部中学校 2017.12.16 七尾市
20. 大内 喜美子
職業紹介（講師）
七尾市立東部中学校 2017.12.16 七尾市
21. 大内 喜美子
思春期健康教育 ザ思春期（講師）
七尾市立七尾中学校
2017.12.17 七尾市
22. 大内 喜美子
思春期講座（講師）
中能登町立中野渡中学校 2017.12.2 中能登町
23. 大内 喜美子
大人への一歩（講師）
エイズ講演会（石川県立能登高等学校）
2017.12.7 能登町

第5章 研究・業績

24.大内 喜美子

こころの授業（講師）

輪島市立町野小学校 2017.12.7 輪島市

25.大内 喜美子

思春期健康教育 ザ思春期（講師）

七尾市立能登香島中学校 2018.3.15 七尾市

【恵寿総合病院 医療安全管理部】

1. 山野辺 裕二

医療安全・リスクマネジメント2（座長）

第59回全日本病院学会 in 石川

2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 事務長 森下 毅】

1. 森下 毅

放射線3（座長）

第59回全日本病院学会 in 石川

2017.9.9-10 金沢市

2. 森下 毅

「外からみた放射線室」自分たちはどのように見られていると思いますか。（パネリスト）

第10回北陸3県合同診療放射線技師学術研修会

2018.2.25 金沢市

【恵寿総合病院 医療福祉相談課】

1. 中川 一美

地域医療連携から見た地域包括ケアの仕組みの中での医療機関の役割（パネリスト）

第59回全日本病院学会 in 石川

2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 地域連携課】

1. 宮田 琴江

地域包括ケア病棟でのレスパイト入院 ～利用と現状～（講師）

第3回能登地区神経・筋難病ネットワーク地域連携の会

2017.9.23 七尾市

2. 宮田 琴江

がん疼痛を支えるヘルスシステム ～当院ならではの取り組み～（講師）

第3回 北陸がん疼痛ケアフォーラム

2017.12.2 金沢市

【恵寿総合病院 サービス課】

1. 室矢 寛子

介護事業におけるコールセンターの役割

第59回全日本病院学会 in 石川

2017.9.9-10 金沢市

【恵寿総合病院 医療秘書課】

1. 瀬戸 亜矢

MEDI-TARGET 活用事例（講師）

平成29年度 医療の質評価公表等推進事業報告会

2018.3.21 東京都

【恵寿金沢病院 病院長 上田 幹夫】

1. 一般演題プログラム「薬剤2」（座長）

第59回全日本病院学会 in 石川

2017.9.9-10 金沢市

2. 免疫不全状態と感染症（講師）

金沢市医師会血液疾患談話会

2017.7.12 金沢市

【恵寿金沢病院 内科】

1. 村田 了一

真菌感染懇話会（ディスカッサント）

2017.4.13 金沢市

2. 村田 了一

合同輸血療法委員会加賀講演会（演者）

2017.9.2 加賀市

3. 村田 了一

エンブリシティ記念講演会（座長）2017.12.1 金沢市

4. 村田 了一

多発性骨髄腫最新治療講演会（オープニングリマークト）

2018.2.16 金沢市

【恵寿金沢病院 リハビリテーション科】

1. 米山 太郎

介護予防支援会議（相談員）

金沢市介護予防支援会議 地域包括支援センターおおてまち 2017.4.26 金沢市

2. 米山 太郎

そくさい地域出前講座（健康講座）転倒予防（講師）

金沢・健康を守る市民の会 朱鷺の苑 彦三

2017.5.23 金沢市

3. 畠山 智行

肩関節後下方、仙腸関節、足関節前方組織の触診と機能解剖（講師）

整形外科リハビリテーション学会北陸支部

2017.5.25 金沢市

4. 坂本 真理

一般演題 発達障害、訪問（座長）

石川県作業療法学会 2017.6.25 白山市

5. 米山 太郎

介護予防支援会議（相談員）

金沢市介護予防支援会議 地域包括支援センターおおてまち 2017.6.28 金沢市

6. 畠山 智行
肩関節後下方組織の拘縮除去（講師）
整形外科リハビリテーション学会北陸支部
2017.6.29 金沢市
7. 村田 廉志
肩関節後下方組織の拘縮除去（講師）
整形外科リハビリテーション学会北陸支部
2017.6.29 金沢市
8. 坂本 真理
介護予防支援会議（相談員）
金沢市介護予防支援会議 地域包括支援センターおおてま
ち 2017.8.23 金沢市
9. 坂本 真理
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.9.8 金沢市
10. 坂本 真理
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.9.15 金沢市
11. 米山 太郎
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.9.22 金沢市
12. 米山 太郎
そくさい地域出前講座（健康講座）体力測定コース（講
師）
金沢・健康を守る市民の会 地域包括支援センターおおてま
ち 2017.9.29 金沢市
13. 米山 太郎
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.10.6 金沢市
14. 米山 太郎
そくさい地域出前講座（健康講座）体力測定コース（講
師）
金沢・健康を守る市民の会 地域包括支援センターおおてま
ち 2017.10.13 金沢市
15. 米山 太郎
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.10.18 金沢市
16. 米山 千尋
介護予防支援会議（相談員）
金沢市介護予防支援会議 地域包括支援センターおおてま
ち 2017.10.25 金沢市
17. 米山 太郎
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.11.10 金沢市
18. 坂本 真理
地域包括支援センター おおてまち 認知機能向上教室
（講師）
金沢市長寿福祉課（公財）金沢総合健康センター
2017.11.17 金沢市
19. 坂本 真理
介護予防支援会議（相談員）
金沢市介護予防支援会議 地域包括支援センターおおてま
ち 2017.12.20 金沢市
20. 畠山 智行
変形性股関節症の評価と運動療法（講師）
整形外科リハビリテーション学会北陸支部
2018.1.25 金沢市
21. 米山 太郎
認知症カフェ（認知症予防）（相談員）
金沢市地域包括支援センターおおてまち
2018.2.8 金沢市
22. 米山 太郎
転ばん元気な体づくり教室（講師）
公益社団法人 金沢市スポーツ事業団
2018.2.15 金沢市
23. 畠山 智行
足関節周囲の機能解剖学的触診と運動療法
（実技講師）
整形外科リハビリテーション学会 2018.2.24-25 尼崎市
24. 米山 千尋
介護予防支援会議（相談員）
金沢市介護予防支援会議 地域包括支援センターおおてま
ち 2018.2.28 金沢市
25. 畠山 智行
理学療法の根源を考える（講師）
石川県理学療法士会 2018.3.11 白山市
- 【恵寿金沢病院 薬剤課】**
1. 宮森 久志
当院血液内科における薬剤師業務の紹介（講師）
加賀地区がん治療における薬・薬連携研修会
2017.12.10 能美市

第5章 研究・業績

【恵寿金沢病院 臨床栄養課】

1. 阿部 さゆり
造血器悪性腫瘍患者の化学療法が栄養状態に及ぼす影響
第 59 回全日本病院学会 in 石川
2017.9.9-10 金沢市

【恵寿金沢病院 看護部】

1. 宝金 あゆみ
職業講和（講師）
いしかわ就職・定住サポートセンター「ジョブカフェ石川」
2017.7.10 金沢市
2. 井上 直美
石川県立看護大学看護キャリア支援センターフォローアップ研修（座長）
石川県立看護大学看護キャリア支援センター
2017.9.30 かほく市

【鳥屋診療所 いまいき】

1. 細口 智之
熱中症予防・運動
高齢者サロン 2017.5.11 中能登町
2. 五十嵐 満哉
認知症予防・脳トレ
高齢者サロン 2017.9.28 中能登町

【介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘】

1. 中西 こずえ
中堅リーダー養成研修（OT 手工芸）（講師）
石川県脳卒中リハビリテーション協会 中堅リーダー養成研修会 2017.6.7 穴水町
2. 中西 こずえ
桜町健康教室（講師）
穴水町介護予防・生活支援サービス事業
2017.8.3 穴水町
3. 中瀬 利美
高齢者や家族の心理（講師）
平成 29 年度介護現場で生かそう中高年マンパワー事業研修 2017.9.5 輪島市
4. 鶴野 誠
老いてもその人らしく生活できるために（尊厳の保持と自立）（講師）
平成 28 年度介護現場で生かそう中高年マンパワー事業研修 2017.9.5 輪島市
5. 鶴野 誠
現場での緊急時 こんな時どうする？（講師）
平成 29 年度介護現場で生かそう中高年マンパワー事業研修 2017.9.7 輪島市

6. 鶴野 誠
老いてもその人らしく生活できるために（尊厳の保持と自立）（講師）
平成 29 年度介護現場で生かそう中高年マンパワー事業研修 2017.9.20 七尾市
7. 松野 大介
運動機能向上プログラム（講師）
穴水町介護予防・生活支援サービス事業
2017.9.26 穴水町
8. 鶴野 誠
実習指導者特別研修「介護の基本・実習指導の理論と実際」（ファシリテーター）
石川県介護福祉士会介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修 2017.10.28 七尾市
9. 松野 大介 運動機能向上プログラム（講師）
穴水町介護予防・生活支援サービス事業
2017.10.31 穴水町
10. 松野 大介
運動機能向上プログラム（講師）
穴水町介護予防・生活支援サービス事業
2017.12.12 穴水町
11. 岡田 亮一
事例研究大会 発表 2 部（座長）
平成 29 年度徳充会事例研究大会
2018.2.24 七尾市

【恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」】

1. 諏訪 勝志
腰痛・膝痛の方にも配慮した「100 歳体操」の正しい方法（講師）
七尾市健康福祉部保険課 2017.6.5 七尾市
2. 諏訪 勝志
リハビリの先生にさらにしっかり体操を習おう！講座（講師）
中能登町高齢者支援センター 2017.6.6 中能登町
3. 諏訪 勝志
ケアマネジメントの演習／リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例（講師）
平成 29 年度 介護支援専門員専門研修過程 I（更新研修 A） 2017.6.20 七尾市
4. 諏訪 勝志
新人教育プログラム「リスクマネジメント」（講師）
石川県理学療法士会 2017.6.25 七尾市
5. 諏訪 勝志
ケアマネジメントの演習／リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例（講師）
平成 29 年度 介護支援専門員専門研修過程 I（更新研修 A） 2017.6.27 金沢市

6. 諏訪 勝志
地域ケア会議（目標設定会議）（アドバイザー）
中能登町高齢者支援センター 2017.7.18 中能登町
7. 諏訪 勝志
ケアマネジメントにおける実践事例の研究および発表／リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例（講師）
平成29年度 介護支援専門員専門研修過程Ⅱ（更新研修A） 2017.8.1 金沢市
8. 諏訪 勝志
リハビリの先生にさらにしっかり体操を習おう！講座（講師）
中能登町高齢者支援センター 2017.8.29 中能登町
9. 諏訪 勝志
主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践／リハビリテーションや福祉用具の活用に関する事例（講師）
平成29年度 主任介護支援専門員更新研修
2017.9.19 金沢市
10. 諏訪 勝志
「理学療法の未来に向けた取り組み」通所系サービス（座長）
第52回日本理学療法士協会全国学術研修大会
2017.10.21 金沢市
11. 諏訪 勝志
地域ケア会議（個別ケアプラン検討会議）（アドバイザー）
七尾市地域包括支援センター 2017.10.24 七尾市
12. 田辺 航也
地域ケア会議（個別ケアプラン検討会議）（アドバイザー）
七尾市地域包括支援センター 2017.10.24 七尾市
13. 諏訪 勝志
「在宅でのリハビリについて」～訪問リハビリの現状～（講師）
中能登町医療と介護連携推進事業研修会
2017.11.9 中能登町
14. 諏訪 勝志
ケアマネジメントにおける実践事例の研究および発表／リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例（講師）
平成29年度 介護支援専門員専門研修過程Ⅱ（更新研修A） 2017.11.16 金沢市
15. 諏訪 勝志
内部障害理学療法学（講師）
国際医療福祉専門学校七尾校 2017.11.30 七尾市
16. 諏訪 勝志
ケアマネジメントのプロセス、自立支援のためのケアマネジメントの基本② 他（講師）
平成29年度 介護支援専門員実務研修・更新研修B・再研修 2017.12.19-2018.2.24 七尾市
17. 愛徳 誓城
自立支援のためのケアマネジメントの基本②、ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術 他（講師）
平成29年度 介護支援専門員実務研修・更新研修B・再研修 2017.12.21-2018.2.22 七尾市
18. 田辺 航也
ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術／モニタリング及び評価 他（講師）
平成29年度 介護支援専門員実務研修・更新研修B・再研修 2018.1.12-3.9 七尾市
19. 諏訪 勝志
PT・OT・ST 連絡会活動意見交換会（講師）
石川県 PT・OT・ST 連絡会 2018.2.2 金沢市
20. 愛徳 誓城
地域ケア会議（個別ケアプラン検討会議）（アドバイザー）
七尾市地域包括支援センター 2018.3.15 七尾市
- 【在宅複合施設 ほのぼの】**
1. 石渡 利浩
平成29年度 徳充会 事例研究大会（座長）
2018.2.24 七尾市
- 【デイサービスセンター いこい】**
1. 高松 由紀子
平成29年度 徳充会 事例研究大会（座長）
2018.2.24 七尾市
- 【さいこうえんの障害者生活支援センター】**
1. 前田 晋
福祉サービス支援機関について講師
七尾特別支援学校進路指導説明会
2017.4.24 七尾市
2. 前田 晋
障害者就業・生活支援センターについて講師
七尾特別支援学校雇用促進セミナー
2017.7.11 七尾市
3. 前田 晋
能登地区における就業支援の実際について（ケーススタディ・意見交換）講師
就労支援基礎研修 2017.9.21 金沢市
4. 前田 晋
就労アセスメントについて講師
七尾特別支援学校就労アセスメント説明会
2017.11.1 七尾市
5. 前田 晋
「精神障害、発達障害とは」「障害との付き合い方」「精神・発達障害者の職業適性について」講師
精神・発達障害者しごとサポーター養成講座
2017.11.2 七尾市

第5章 研究・業績

【青山彩光苑リハビリテーションセンター】

1. 久保 奈保
平成 29 年度障害支援区分認定調査員研修（講師）
石川県 2017.5.30 金沢市
2. 瀧野 利徳
身体障害者リハビリテーション研究集会 2017（座長）
全国身体障害者更生施設長会
2017.11.9-10 名古屋市
3. 久保 奈保
平成 29 年度サービス管理責任者研修（地域生活：身体）（講師）
石川県 2017.12.5-6 金沢市

【青山彩光苑穴水ライフサポートセンター】

1. 日詰 千草
介護職員等による喀痰吸引等実施研修の経管演習（指導・評価）（講師）
石川県社会福祉協議会 2017.6.17 かほく市
2. 細木 俊逸
平成 29 年度相談支援従事者現任者研（講師・ファシリテーター）
石川県社会福祉協議会 2017.7.27 金沢市
3. 細木 俊逸
平成 29 年度相談支援従事者現任者研修（講師・ファシリテーター）
石川県社会福祉協議会 2017.8.24-25 金沢市
4. 細木 俊逸
平成 29 年度相談支援従事者初任者研修（ファシリテーター）
石川県社会福祉協議会 2017.9.12-13 金沢市
5. 日詰 千草
介護職員等による喀痰吸引等実施研修の経管演習（指導・評価）（講師）
石川県社会福祉協議会 2017.10.1 かほく市
6. 細木 俊逸
平成 29 年度相談支援従事者初任者研修（ファシリテーター）
石川県社会福祉協議会 2017.10.15 金沢市
7. 日詰 千草
介護職員等による喀痰吸引等実施研修の経管演習（指導・評価）（講師）
石川県社会福祉協議会 2017.11.4 かほく市

資格取得

【本部 総務部】

1. 春木 彩花
障害者職業生活相談員

【本部 情報部】

1. 山野辺 裕二
社会医学系専門医・指導医
2. 渡横 昭
情報セキュリティマネジメント
3. 渡横 昭
高齢者エキスパート（総合）

【恵寿総合病院 内科】

1. 山崎 雅英
日本老年医学会指導医
2. 宮本 正治
日本老年医学会指導医
3. 酒井 珠美
日本内科学会 総合内科専門医
4. 小西 正剛
日本内科学会 総合内科専門医
5. 山崎 雅英
日本医師会 産業医
6. 酒井 珠美
日本アレルギー学会 アレルギー専門医(内科)

【恵寿総合病院 消化器内科】

1. 松田 昌悟
日本内科学会 総合内科専門医
2. 荻崎 宇一郎
日本内科学会 総合内科専門医

【恵寿総合病院 加速みんなの医療センター 産婦人科】

1. 高多 佑佳
日本産科婦人科学会 産婦人科専門医
2. 宮田 康一
日本医師会認定産業医

【恵寿総合病院 小児科】

1. 白橋 徹志郎
臨床研修指導医

【恵寿総合病院 循環器内科】

1. 宝達 明彦
日本心血管インターベンション治療学会認定医

【恵寿総合病院 リハビリテーション科】

1. 川北 慎一郎
日本認知症学会専門医

【恵寿総合病院 加速みんなの医療センター 家庭医療科】

1. 宮田 潤
日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医
2. 伊達岡 要
日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医

【恵寿総合病院 消化器外科】

1. 中山 啓
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
2. 中山 啓
日本消化器外科学会 消化器外科専門医

【恵寿総合病院 健康管理センター】

1. 山下 優子
医療通訳士技能検定 英語一級（E1-2017AO-0022）

【恵寿総合病院 放射線課】

1. 赤坂 正明
業務拡大に伴う講習会厚生労働省後援修了証
2. 奥村 みず穂
健診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
3. 黒川 紗絵子
健診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
4. 三味 篤
肺がん CT 検診認定技師

【恵寿総合病院 理学療法課】

1. 田中 秀明
博士（保健学）
2. 柴田 真行
認定理学療法士（運動器）
3. 柴田 真行
BLS インストラクター
4. 長谷部 浄英
BLS インストラクター
5. 水口 光
BLS ヘルスケアアドバイザー
6. 細口 智之
BLS ヘルスケアアドバイザー
7. 石川 貴士
BLS ヘルスケアアドバイザー

8. 高間 陽彦
福祉住環境コーディネーター2級
9. 林 星斗
福祉住環境コーディネーター2級

【恵寿総合病院 作業療法課】

1. 高間 達也
修士

【恵寿総合病院 薬剤課】

1. 藤田 昌雄
糖尿病薬物療法准認定薬剤師

【恵寿総合病院 臨床栄養課】

1. 梶山 知巳
日本糖尿病療養指導士

【恵寿総合病院 臨床検査課】

1. 大門 真弓
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会終了証
2. 小林 英里奈
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会終了証
3. 竹内 由紀子
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会終了証
4. 橋 ひとみ
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会終了証

【恵寿総合病院 臨床工学課】

1. 佐々木 理恵
3学会合同呼吸療法認定士
2. 大灘 郁弥
3学会合同呼吸療法認定士
3. 玉谷 亮一
3学会合同呼吸療法認定士
4. 渡邊 友浩
3学会合同呼吸療法認定士
5. 石島 宏彰
3学会合同呼吸療法認定士
6. 小田 泰嗣
透析技術認定士
7. 二木 駿
透析技術認定士
8. 佐々木 理恵
透析技術認定士

【恵寿総合病院 看護部】

1. 前浜 静香
生殖医療コーディネーター

2. 森 美千代
3学会合同呼吸療法認定士
3. 和田 安代
3学会合同呼吸療法認定士
4. 黒川 恵梨
ACLSプロバイダー
5. 藤本 友紀子
ACLSプロバイダー
6. 半浦 聖香
ACLSプロバイダー
7. 後山 純子
石川県糖尿病療養指導士
8. 大森 圭子
糖尿病重症化予防（フットケア）研修修了
9. 坪内 由紀美
糖尿病重症化予防（フットケア）研修修了
10. 船山 真理子
特定行為研修修了（4区分、8行為）
11. 山本 美保
特定行為研修修了（4区分、8行為）
12. 川江 辰徳
特定行為研修修了（4区分、8行為）
13. 小崎 孝幸
特定行為研修修了（4区分、8行為）
14. 谷口 隆行
特定行為研修修了（4区分、8行為）
15. 本橋 敏美
第7回看護師特定行為研修指導者講習会修了
16. 西村 美津枝
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
17. 櫻 栄一朗
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
18. 守田 尚美
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
19. 沢田 美代子
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
20. 水口 ふじ美
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
21. 高僧 紀乃美
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
22. 木谷 奈津江
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
23. 堀内 礼子
厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了
24. 登美 和枝
認知症看護実践看護師研修修了
25. 高柳 由香里
認知症看護認定看護師 認定更新

26.船山 真理子

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 認定更新

27.宮島 美代子

スポーツナース講習会修了

28.谷口 隆行

スポーツナース講習会修了

29.橋本 可菜実

排尿自立指導料診療報酬対象研修修了

30.左近 みゆき

排尿自立指導料診療報酬対象研修修了

【恵寿総合病院 医療福祉相談課】

1. 西田 ひとみ

認定医療社会福祉士

2. 荒井 美花

介護支援専門員

【恵寿総合病院 管理課】

1. 松木 尊紀法

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

2. 上田 亜希子

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

3. 打越 実佳

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

4. 大成 道広

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

5. 能山 直美

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

6. 柴田 詠美

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

7. 松木 尊紀法

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

8. 松木 尊紀法

AHA-BLS インストラクター

【恵寿総合病院 医療秘書課】

1. 吉田 佳織

がん登録実務初級者認定

2. 大鍋 奈央子

ピンクリボンアドバイザー【初級】

3. 鷲尾 留美

石川県肝炎医療コーディネーター

【恵寿金沢病院 病院長 上田 幹夫】

1. 日本医師会認定産業医

【恵寿金沢病院 内科】

1. 山下 剛史

総合内科専門医

【恵寿金沢病院 放射線課】

1. 西願 正美

日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ撮影認定技師（更新）

2. 南 沙織

日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ撮影認定技師（更新）

3. 武村 真弓

日本超音波医学会認定 超音波検査士（健診領域）

【恵寿金沢病院 臨床栄養課】

1. 中山 由子

病態栄養専門管理栄養士

2. 中山 由子

石川県糖尿病療養指導士

【恵寿金沢病院 看護部】

1. 山崎 裕子

緩和ケア認定看護師

2. 田中 秀和

学会認定・臨床輸血看護師

3. 田中 秀和

BLS インストラクター

【恵寿金沢病院 事務部】

1. 宮川 知子

診療情報管理士

【恵寿金沢病院 看護部】

1. 伊藤 綾

認定看護管理者 ファーストレベル

2. 井上 直美

感染管理認定看護師

3. 尾戸 信介

学会認定 臨床輸血看護師

4. 山崎 瑞貴

ACLS プロバイダー

5. 吉田 真希

ACLS プロバイダー

【介護老人保健施設 鶴友苑】

1. 野田 万里子

介護支援専門員

2. 畠山 恵

介護支援専門員

【介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘】

1. 中西 こずえ
介護支援専門員(新規)
2. 豊田 琴美
介護支援専門員(更新)
3. 橋本 優
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者（アセッサー）
4. 北平 喜美江
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者（アセッサー）
5. 岡野 裕子
認定特定行為業務従事者
6. 豊田 琴美
認定特定行為業務従事者
7. 室谷 暁美
認定特定行為業務従事者
8. 大崎 志帆
専門理学療法士(生活環境支援)

【恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」】

1. 中田 理恵子
主任介護支援専門員

【在宅複合施設ほのぼの】

1. 竹森 友美
介護福祉士実習指導者
2. 仁八 育代
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者（アセッサー）
3. 石渡 利浩
丙種危険物取扱者
4. 岡田 優理
認知症ケア指導管理士（初級）

【デイサービスセンター いこい】

1. 小西 綾 介護福祉士

【小規模多機能型居宅介護事業所 けいじゅ一本杉】

1. 岡本 幸子
介護支援専門員

【小規模多機能型居宅介護事業所 楽らく】

1. 大葉 佳菜
介護支援専門員

【青山彩光苑リハビリテーションセンター】

1. 中森 もも 社会福祉士
2. 佐竹 綾乃 介護福祉士

【青山彩光苑ライフサポートセンター】

1. 小林 禎弥 介護福祉士
2. 山口 雅大 介護福祉士
3. 嶋田 紀依 介護福祉士

【青山彩光苑穴水ライフサポートセンター】

1. 林 直美
介護支援専門員

【石川県精育園】

1. 前田 加余子
精神保健福祉士
2. 町中 可織 介護福祉士
3. 逢坂 美樹恵 介護福祉士

【エレガントなぎの浦】

1. 矢部 祥平 介護福祉士
2. 西尾 翔 介護福祉士
3. 河原 ふさ子 介護福祉士
4. 吉野 美恵子 介護福祉士
5. 山本 眞実枝 介護福祉士

【エレガントたつるはま】

1. 川口 厚
介護支援専門員
2. 富樫 小百合 介護福祉士

【ふれあいの里】

1. 谷口 由美子 介護福祉士

公職

【理事長 神野 正博】

1. 全日本病院協会副会長
公益社団法人 全日本病院協会
2. 日本社会医療法人協議会副会長
一般社団法人 日本社会医療法人協議会
3. 日本専門医機構理事
一般社団法人 日本専門医機構
4. 七尾商工会議所副会頭
七尾商工会議所
5. サービス産業生産性協議会(SPRING)幹事
サービス産業生産性協議会(SPRING)
6. 石川県病院協会副会長
石川県病院協会
7. VHJ 機構理事・VHJ 研究会監事
特定非営利活動法人 VHJ 機構
8. 日本医療機能評価機構評議員、事業推進委員
公益財団法人 日本医療機能評価機構
9. 日本医療経営実践協会理事
一般社団法人 日本医療経営実践協会
10. 日本ホスピタルアライアンス理事
一般社団法人 日本ホスピタルアライアンス
11. 医道審議会医師分科会医師臨床研修部会委員
厚生労働省
12. 医道審議会医師分科会医師国家試験改善検討部会委員
厚生労働省
13. 医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員
厚生労働省
14. 医師臨床研修制度到達目標・評価の在り方に関する WG 委員
厚生労働省
15. 中医協・診療報酬調査専門組織 入院医療等の調査・評価分科会委員
厚生労働省
16. 医療従事者の需給に関する検討会医師分科会委員
厚生労働省
17. 認知症の人の行動・心理症状や身体合併症対応など循環型の医療介護等の提供のあり方に関する研究会委員
厚生労働省
18. 診療報酬調査専門組織 入院医療等の調査・評価分科会委員
厚生労働省
19. がん診療提供体制のあり方に関する検討会
厚生労働省
20. 平成 28 年度厚生労働科学研究「看護師の特定行為に係る研修制度の普及等に関する研究（神野班）」研究代表者

- 厚生労働省
21. 平成 28 年度厚生労働科学特別研究「看護師の特定行為研修の修了者の活動状況に関する研究（永井良三班）」委員
厚生労働省
22. 石川県医療審議会委員
石川県
23. 医療計画推進委員会地域医療ビジョン策定部会委員
石川県
24. 医商工連携促進協議会会員
石川県
25. 総合部会員、医療安全対策委員会委員長、医療制度委員会委員
四病院団体協議会
26. 看護師特定行為研修検討プロジェクト委員会委員長
公益社団法人 全日本病院協会
27. 災害医療対策委員会副委員長
日本病院会
28. 病院委員会委員
日本医師会
29. 総合診療専門医に関する委員会委員
日本専門医機構
30. 医師臨床研修マッチング協議会運営委員
医師臨床研修マッチング協議会
31. 月刊「病院」編集主幹
医学書院
32. モントレー・ジャズ・フェスティバル・イン・能登理事
モントレー・ジャズ・フェスティバル・イン・能登

【本部 本部長 進藤 浩美】

1. 石川県作業療法士会 監事
公益社団法人 石川県作業療法士会
2. 日本作業療法士協会 代議員
一般社団法人 日本作業療法士協会
3. 日本作業療法士協会 学会演題査読委員
一般社団法人 日本作業療法士協会
4. 七尾市在宅医療・介護連携推進協議会委員
七尾市
5. 石川県介護支援専門員協会 監事
石川県介護支援専門員協会

【本部 情報部】

1. 山野辺 裕二
次世代電子カルテ等開発技術審査委員会 外部委員
東京都病院経営本部

【恵寿総合病院 病院長 山本 健】

1. European Journal of Anaesthesiology 掲載論文査読員
European Society of Anaesthesiology/Walters
Kluwer.
2. PLOS ONE 掲載論文査読員
Public Library of Science.
3. 日本麻酔科学会一般演題査読委員
日本麻酔科学会
4. 日本ペインクリニック学会誌 編集委員
日本ペインクリニック学会
5. 石川県医師会機関誌 石川医報 編集委員
石川県医師会
6. 金沢大学医学部十全同窓会理事
金沢大学医学部十全同窓会
7. 金沢大学医学部十全同窓会会報 編集委員
金沢大学医学部十全同窓会
8. 七尾市医師会理事
七尾市医師会
9. 金沢大学医学部十全同窓会能登支部長
金沢大学医学部十全同窓会

【恵寿総合病院 内科】

1. 山崎 雅英
石川県メディカルコントロール協議会 委員
石川県危機管理監室消防保安課
2. 山崎 雅英
石川県ドクターヘリ運航調整委員会 委員
石川県健康福祉部地域医療推進室
3. 山崎 雅英
石川県医療計画推進委員会 災害・救急部会 委員
石川県健康福祉部地域医療推進室
4. 宮本 正治
石川県糖尿病対策推進会議 委員
石川県医師会長
5. 宮本 正治
糖尿病患者を助け合う地域連携協議会・七緒の会 会長
糖尿病患者を助け合う地域連携協議会・七緒の会

【恵寿総合病院 消化器内科】

1. 瀧崎 宇一郎
日本消化器内視鏡学会本部学術評議員
日本消化器内視鏡学会
2. 瀧崎 宇一郎
日本消化器内視鏡学会北陸支部評議員
日本消化器内視鏡学会

【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 産婦人科】

1. 新井 隆成
臨床教授
山梨大学医学部 産婦人科
2. 新井 隆成
客員教授
金沢医科大学 小児科
3. 新井 隆成
代表理事
NPO 法人 周生期医療支援機構
4. 新井 隆成
評議員
日本胎児心臓病学会
5. 新井 隆成、高多 佑佳
女性の医療・保健委員会 委員
日本プライマリ・ケア連合学会
6. 新井 隆成
ALSO-Japan 活動推進委員会 委員
NPO 法人 周生期医療支援機構

【恵寿総合病院 泌尿器科】

1. 川村 研二
評議員
日本クリニカルパス学会

【恵寿総合病院 小児科】

1. 中谷 茂和
石川県小児科医会 理事
石川県小児科医会
2. 中谷 茂和
七尾市医師会 理事
七尾市医師会

【恵寿総合病院 リハビリテーション科】

1. 川北 慎一郎
七尾市医師会 理事
七尾市医師会
2. 川北 慎一郎
能登脳卒中地域連携協議会 会長
能登脳卒中地域連携協議会
3. 川北 慎一郎
七尾市介護保険認定審査会委員
七尾市
4. 川北 慎一郎
日本リハビリテーション医学会代議員、指導責任者
日本リハビリテーション医学会

5. 川北 慎一郎
日本リハビリテーション医学会北陸地方会世話人、監事
日本リハビリテーション医学会
6. 川北 慎一郎
北陸がんリハビリテーション研究会副会長
北陸がんリハビリテーション研究会
7. 川北 慎一郎
国際医療技術専門学校七尾校 講師
国際医療技術専門学校七尾校
8. 川北 慎一郎
健康増進センターアスロン 顧問医
健康増進センターアスロン

【恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 家庭医療科】

1. 吉岡 哲也
女性の医療・保健委員会 委員
日本プライマリ・ケア連合学会
2. 吉岡 哲也
臨床講師
金沢大学
3. 吉岡 哲也
ALSO-Japan 活動推進委員会 委員
NPO 法人 周生期医療支援機構
4. 伊達岡 要
ALSO-Japan BLSO 委員会 委員長
NPO 法人 周生期医療支援機構

【恵寿総合病院 脳神経外科】

1. 東 壮太郎
金沢大学医学部 臨床教授
金沢大学医薬保健学域
2. 東 壮太郎
学校法人 東邦大学医学部医学科 客員講師
学校法人 東邦大学
3. 東 壮太郎
一般社団法人日本脳神経外科学会 第7期代議員、評議員
一般社団法人 日本脳神経外科学会
4. 東 壮太郎
一般社団法人 日本脳神経超音波学会 評議員
一般社団法人 日本脳神経超音波学会
5. 東 壮太郎
能登脳卒中地域連携協議会 顧問
能登脳卒中地域連携協議会
6. 東 壮太郎
中部神経内視鏡研究会 世話人
中部神経内視鏡研究会

7. 東 壮太郎
石川脳血管障害研究会 世話人
石川脳血管障害研究会
8. 東 壮太郎
千里浜脳循環代謝カンファレンス 世話人
千里浜脳循環代謝カンファレンス
9. 東 壮太郎
能登脳卒中フォーラム 世話人
能登脳卒中フォーラム

【恵寿総合病院 放射線課】

1. 三味 篤
国際医療福祉専門学校七尾校非常勤講師
国際医療福祉専門学校
2. 山下 勝
国際医療福祉専門学校七尾校非常勤講師
国際医療福祉専門学校
3. 三味 篤
北陸アンギオ研究会企画委員
北陸アンギオ研究会
4. 延田 宗久
北陸 SOMATOM 研究会幹事
北陸 SOMATOM 研究会

【恵寿総合病院 理学療法課】

1. 田中 秀明
七尾市介護認定審査委員
七尾市
2. 田中 秀明
日本理学療法士協会査読員
公益社団法人 日本理学療法士協会
3. 井舟 正秀
日本理学療法士学術大会査読員
公益社団法人 日本理学療法士協会
4. 井舟 正秀
日本理学療法士協会職能関連業務執行委員会（地域包括ケア病棟における理学療法士指針モデル事業）協力員
公益社団法人 日本理学療法士協会
5. 久保 佳子
日本理学療法士学術大会査読員
公益社団法人 日本理学療法士協会
6. 井舟 正秀
能登脳卒中地域連携協議会 幹事
能登脳卒中地域連携協議会
7. 久保 佳子
石川県立田鶴浜高等学校介護福祉学科非常勤講師
石川県立田鶴浜高等学校介護福祉科

【恵寿総合病院 作業療法課】

1. 川上 直子
金沢大学医薬保健学域保健学類臨床講師
金沢大学医薬保健学域
2. 永井 亜希子
石川県作業療法士会 能登支部長
公益社団法人 石川県作業療法士会
3. 川上 直子
石川県作業療法士会理事
公益社団法人石川県作業療法士会
4. 小川 正人
七尾市障害判定審査会委員
七尾市
5. 川上 直子
石川県作業療法士会学術誌査読委員
公益社団法人 石川県作業療法士会
6. 永井 亜希子
石川県立田鶴浜高等学校非常勤講師
石川県教育委員会

【恵寿総合病院 言語療法課】

1. 諏訪 美幸
石川県言語聴覚士会 研修局 副理事
石川県言語聴覚士会
2. 木村 聖子
石川県失語症友の会役員
石川県失語症友の会
3. 諏訪 美幸
石川県失語症友の会 主任相談役
石川県失語症友の会

【恵寿総合病院 臨床栄養課】

1. 小蔵 要司
栄養委員会委員
回復期リハビリテーション病棟協会
2. 小蔵 要司
日本リハビリテーション栄養学会 代議員
日本リハビリテーション栄養学会

【恵寿総合病院 臨床検査課】

1. 尾田 真一
石川県臨床衛生検査技師会 常務理事
一般社団法人 石川県臨床衛生検査技師会
2. 谷内 正人
石川県合同輸血療法委員会委員
石川県合同輸血療法委員会

【恵寿総合病院 看護部】

1. 前濱 静香
能登第二支部看護連盟 支部長
石川県看護連盟
2. 金森 敦志
教育委員
石川県看護協会
3. 平田 吉喜
医療・看護安全対策委員
石川県看護協会
4. 小谷 薫
能登中部地区看護協会書記
中能登地区看護協会
5. 菅野則之
能登地区透析研究会世話人
能登地区透析研究会

【恵寿総合病院 事務長 森下 毅】

1. 公益社団法人石川県診療放射線技師会副会長
公益社団法人石川県診療放射線技師会

【恵寿総合病院 医療福祉相談課】

1. 西田 ひとみ
研修委員
(公社) 石川県医療ソーシャルワーカー協会

【恵寿総合病院 医療秘書課】

1. 田中 瑞栄
北陸診療情報管理研究会 理事
北陸診療情報管理研究会
2. 鷲尾 留美
石川県支部世話人
日本医師事務作業補助研究会

【恵寿金沢病院 病院長 上田 幹夫】

1. 日本血液学会評議員
日本血液学会
2. 日本輸血・細胞治療学会評議員
日本輸血細胞治療学会
3. 日本輸血・細胞治療学会北陸支部長
日本輸血細胞治療学会
4. 日本内科学会北陸支部評議員
日本内科学会北陸支部
5. 日本血液学会北陸支部評議員
日本血液学会北陸支部

【恵寿金沢病院 放射線課】

1. 廣田 さおり
乳がん検診読影委員会委員
金沢市医師会
2. 武村 真弓
人財育成委員会 女性活躍推進班（中日本地域） 石
川県副代表
日本診療放射線技師会

【恵寿金沢病院 薬剤課】

1. 高倉 美穂
石川県病院薬剤師会がん治療委員会委員
石川県病院薬剤師会

【介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘】

1. 鶴野 誠
石川県介護福祉士会理事
石川県介護福祉士会
2. 中瀬 利美
石川県介護福祉士会能登北部ブロック役員
石川県介護福祉士会
3. 宮坂 一恵
石川県介護支援専門員協会有能登北部支部役員
石川県介護支援専門員協会
4. 岡田 亮一
石川県介護支援専門員協会有能登北部支部役員
石川県介護支援専門員協会
5. 鶴野 誠
介護福祉学科教育課程編成委員
国際医療福祉専門学校七尾校
6. 中西 こずえ
七尾市介護認定審査会審査委員
七尾市

【恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」】

1. 諏訪 勝志
公益社団法人石川県理学療法士会理事
公益社団法人石川県理学療法士会
2. 諏訪 勝志
日本理学療法学会大会査読員
公益社団法人日本理学療法士協会
3. 諏訪 勝志
国際医療福祉専門学校七尾校非常勤講師
国際医療福祉専門学校七尾校
4. 諏訪 勝志
七尾市在宅医療・介護連携推進協議会委員
七尾市
5. 諏訪 勝志

中能登町介護認定審査会審査委員

中能登町

6. 愛徳 誓城
石川県介護支援専門員協会理事
石川県介護支援専門員協会
7. 愛徳 誓城
石川県介護支援専門員協会有能登中部支部役員
石川県介護支援専門員協会
8. 諏訪 勝志
七尾市介護保険事業者連絡会副会長
七尾市介護保険事業者連絡会

【在宅複合施設 ほのぼの】

1. 石渡 利浩
中能登町介護保険事業計画等策定委員
中能登町

【苑長 今寺 忠造】

1. 全国身体障害者施設協議会 常任協議員
全国身体障害者施設協議会
2. 日本作業療法士協会 代議員
一般社団法人 日本作業療法士協会
3. 日本作業療法士協会教育部 部員
一般社団法人 日本作業療法士協会
4. 障害者施策推進協議会および自立支援協議会 委員
石川県
5. いしかわ介護・福祉人材確保対策推進協議会 委員
石川県
6. 七尾鹿島手をつなぐ育成会 顧問
特定非営利活動法人 七尾鹿島手をつなぐ育成会
7. 石川県社会福祉協議会評議員
石川県社会福祉協議会
8. 石川県身体障害者施設部会 副会長
石川県社会福祉協議会
9. 石川県作業療法士会 顧問
公益社団法人 石川県作業療法士会
10. 自立支援協議会 会長
七尾市・中能登町
11. 自殺対策委員会 委員
七尾市
12. 七尾市社会福祉協議会 理事
七尾市社会福祉協議会

【さいこうえんの障害者生活支援センター】

1. 前田 晋
発達障害者雇用支援連絡会委員
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 石川
障害者職業センター

第5章 研究・業績

2. 前田 晋
精神障害者雇用支援連絡協議会委員
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 石川
障害者職業センター
3. 滝本 智恵美
石川県立七尾特別支援学校就労サポーター
石川県教育委員会

【青山彩光苑リハビリテーションセンター】

1. 久保 奈保
七尾中能登地域自立支援協議会くらしの部会委員長
七尾市・中能登町

【青山彩光苑ライフサポートセンター】

1. 藤井 則子
健康福祉審議会 障害者福祉分科会委員
七尾市
2. 藤井 則子
障害福祉計画等策定委員
中能登町
3. 藤井 則子
七尾鹿島手をつなぐ育成会 評議員
特定非営利活動法人 七尾鹿島手をつなぐ育成会
4. 加島 宏祐
中能登町障害支援区分認定審査会委員
中能登町

【青山彩光苑穴水ライフサポートセンター】

1. 細木 俊逸
石川県相談支援専門員協会理事
石川県相談支援専門員協会
2. 細木 俊逸
自立支援協議会委員
石川県
3. 細木 俊逸
障害支援区分認定審査会委員
輪島市
4. 細木 俊逸
奥能登地域自立支援協議会会長
奥能登地域自立支援協議会

【石川県精育園】

1. 岩島 輝夫
日本知的障害者福祉協会 北陸ブロック代表
公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
2. 岩島 輝夫
石川県知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会長
石川県知的障害者福祉協会

3. 表 晃一
石川県知的障害者福祉協会 運営委員
石川県知的障害者福祉協会
4. 川島 大和
石川県虐待防止権利擁護研修 委員
石川県
5. 北野 正敏
強度行動障害支援者養成研修 委員
石川県
6. 田中 こず恵
相談支援従事者初任者・現任研修 委員
石川県
7. 池田 まり子
穴水町障害支援区分認定審査会委員
穴水町

【エレガントなぎの浦】

1. 藤澤 優子
障害支援区分認定審査会委員
七尾市

【事務局】

1. 森山 能孝
七尾市リハビリ友の会事務局
石川県脳卒中リハビリテーション協会
2. 畑中 浩樹
七尾鹿島安全運転管理者協議会理事
七尾鹿島安全運転管理者協議会

メディア出演

FM ラジオななほ「ほっとたいむ」 出演者：理事長 神野 正博

放送年月日	放送内容	放送回数
2017.4.3	ガサガサかかとを防ぐ 足裏全体を使う歩き方に	1,039
4.10	フットケアで糖尿病の気になる「足病変」を予防しよう	1,040
4.17	コラーゲンは本当に効果があるの？	1,041
4.24	伝わるかで治療に差 「痛み」の伝え方 7つのポイント	1,042
5.1	脱腸～鼠径ヘルニア	1,043
5.8	森林浴の勧め	1,044
5.15	広報誌「患寿」より：認知症について	1,045
5.22	道路交通法改正後の高齢者講習	1,046
5.29	熱中症にご注意	1,047
6.5	「肥満と強力な関係」のある 11 種類のがんとは？	1,048
6.12	お酒で顔が赤くなる人「骨粗しょう症・骨折」に注意	1,049
6.19	痛い・重い・だるい 腰の痛み、内臓疾患の可能性	1,050
6.26	耳かきダメ 「とにかく耳にモノを突っ込むな」と注意	1,051
7.3	卵 1 日 1 個はウソ？ コレステロールの真実 摂取目標量が撤廃されたワケ	1,052
7.10	女性の痛風	1,053
7.17	高齢者に多い熱中症	1,054
7.24	虫にさされたら、どうする？	1,055
7.31	生き方上手の話	1,056
8.7	死に方を考える	1,057
8.14	胃瘻（胃ろう）を考えよう	1,058
8.21	夏バテ？ 実は貧血かも 食べ方工夫で「鉄分」補う 食材組み合わせ吸収アップ	1,059
8.28	なぜ夏に多い「尿路結石」	1,060
9.4	政治家放談 9.9	1,061
9.11	しつこい疲れは副腎疲労	1,062
9.18	男性も他人ごとではない「貧血」と「腎臓」の深～い関係	1,063
9.25	水虫で転倒しやすく？ 歩き方に異変、高齢者注意 水洗い・保湿で予防／足の爪は短く保つ	1,064
10.1	むくみの原因 リンパの滞り、どう改善？	1,065
10.8	食欲の秋 寝不足は肥満のもと	1,066
10.16	飲み続けたいならまず禁煙	1,067
10.23	Personal Health Record	1,068
10.30	なぜ「減塩」が必要なのか？	1,069
11.6	筋肉は「質の低下」に注意	1,070
11.13	40代から増える「女性の高血圧」ホルモン減が影響	1,071
11.20	不整脈って怖い？ 怖くないの？	1,072

放送年月日	放送内容	放送回数
11.27	高血圧に効果的な果物は？	1,073
12.11	味がしない、食欲がない…それは亜鉛不足かも	1,075
12.18	手足の冷え防ぐ 6 つのコツ	1,076
12.25	不眠症、まず生活習慣をチェック 睡眠薬に頼らず改善	1,077
2018.1.8	謹賀新年 新春展望 AI～シンギュラリティとCSV	1,078
1.15	尿が近い、尿の回数が多い ～頻尿～	1,079
1.22	心筋梗塞などの「血栓症」なぜ冬は特に注意	1,080
1.29	足に走る激痛 こむら返り、冬場は特に注意	1,081
2.5	息切れやむくみ、だるさ 意外に知らない心不全 高血圧の放置は禁物 早期発見で悪化防ぐ	1,082
2.12	チョコレート健康効果	1,083
2.19	若者に「スマホ老眼」長時間使用でピンぼけ 遠くの文字見つめる 目に温タオルパック	1,084
2.26	手の震え「手の震え」放置しないで 頻発なら早めに受診を	1,085
3.5	「100 歳以上の長寿には小食が多い」 ウソ・ホント？	1,086
3.12	誤嚥性肺炎から高齢者守れ 料理・発声でリスク減	1,087
3.19	血圧と姿勢	1,088
3.26	のどトレ ごっくん運動でのどを筋トレ 飲み込み力、低下防ぐ のど仏上げて 10 秒 肺炎での死、誤嚥性が 7 割	1,089

FM ラジオななほ「安心マイライフ」

放送年月日	放送内容	出演者
2017.4.5	認定看護師を目指した理由	高柳 由香里
4.12	認定看護師としての役割、活動内容	
4.19	認知症予防法の紹介	
4.26	甲状腺機能亢進症について	宮本 正治
5.10	甲状腺機能低下症、甲状腺がんについて	
5.17	高血圧について	
5.24	医療安全管理部の活動と医療事故について	山野辺 裕二
5.31	アドボカシーについて	
6.7	自己紹介、言語聴覚士の仕事内容	諏訪 美幸
6.14	「聞くこと」の障害、「話すこと」の障害について	
6.21	「食べること」の障害、言語障害について	
6.28	摂食嚥下外来について	
7.5	自己紹介、管理栄養士の仕事について	前田 美穂
7.12	病院で働く管理栄養士の 1 日の流れ	
7.19	上手な栄養の取り方について	
7.26	肝臓病の症状・病気の種類	宮森 弘年

放送年月日	放送内容	出演者
8.2	B型肝炎について	
8.9	C型肝炎・アルコール性肝炎について	宮森 弘年
8.23	肝臓がんについて	
8.30	自己紹介、臨床検査技師を目指した理由	谷内 正人
9.6	臨床検査技師の仕事内容	
9.13	臨床検査技師の将来性、病院内での役割について	
9.20	病院で働く薬剤師の仕事、「薬」について	藤田 昌夫
9.27	いろいろな飲み薬、薬の効果と副作用	
10.4	薬の飲み合わせについて	
10.11	乳がんとは	鎌田 徹
10.18	マンモグラフィー検査について	鎌田 徹、久保 景子、寺田 晃子
10.25	超音波検査・乳がん治療について	鎌田 徹
11.1	心臓カテーテル検査について	内山 勝晴
11.8	狭心症・不整脈について	
11.15	学生生活について、どんな看護師になりたいか	宮下 茜、山下 有紗
11.22	看護師を目指した理由、がん性疼痛看護認定看護師とは	黒氏 美紀
11.29	師長の仕事内容、認定看護師としての活動	
12.6	事務長の仕事、1年を振り返る	森下 毅
12.13	「カルテコ」について	
12.20	グッドキャリア企業アワード受賞について	進藤 浩美
2018.1.10	新年のご挨拶、2017年を振り返る	山本 健
1.17	自己紹介	神野 厚美
1.24	病院内のデザインについて	
1.31	ユニバーサル外来について	
2.7	自己紹介、診療放射線技士の仕事内容	三味 篤
2.14	診療放射線技士の仕事内容	
2.21	恵寿総合病院放射線課の特徴	
2.28	インフルエンザについて、風邪との違い、今年の流行傾向	谷田部 美千代
3.7	インフルエンザ予防法	
3.14	自己紹介、臨床工学技士の仕事について	四蔵 勇一
3.28	臨床工学技士になるには、この仕事を選んだ理由	

いしかわ企業人インタビューDVD 出演者：理事長 神野 正博

いしかわのプロフェッショナル I Will vol.2 「終わらない革新」

その他

【恵寿総合病院 消化器内科】

1. 瀧崎 宇一郎

Best Doctors in Japan 2016-2017



2017年6月28日 イクボス宣言



第 6 章

KEIJU
MONTHLY
LETTER

一期一会と余情残心

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

年度が替わる3月から4月には、卒業式に入学式、仕事場では転勤、就職など多くの出会いと別れがある。また、私事になるが、5年間、変則3期を務めさせていただいた七尾市医師会長は5月で任期切れを迎え、3月末の医師会臨時総会にて後任の医師会長予定者として奥村義治先生に決まった。そして代わりと言っては何だが4月から七尾商工会議所副会頭のお役も回ってきた。七尾の商工振興を応援する商工会議所では、かねてからの私の主張である「民ができることを公はやらない。同時に、民は公に何でも頼らない」をポリシーとして民の自律あってこそその地域振興であると主張していきたい。

まさに、役は回り回さねばならない。諸先輩からのバトンの後輩にリレーする必要がある。そんな季節の中で、一期一会という言葉思い出す。同じ時間は二度とない。一生に一度の緊張感をもって出会いを大切に、誠意を尽くす。去りゆく人には別れを惜しみ、出会った人とは心を通わせたい。それによって、バトンは渡され、バトンを渡すことができるに違いない。

3月末の、新規採用職員の接遇研修で大阪からお呼びしたインストラクター、田中桂子氏から一期一会の続きがあることを教わった。一期一会、余情残心である。余情残心とは「茶事が終わり、客が帰った後に、残った茶を飲みながらその日の自らの行動を反省し、茶事終了後も客のことを考え続けるというおもてなしの心を意味する表現。」（実用日本語表現辞典）であるとされる。

一生に一度の出会いかもしれない客に亭主は誠意を尽くす。



客と別れた後には、緊張からとけて客との出会いを振り返り、その余韻を楽しむというぜいたくな時間を持つ。そして、今日のもてなしを反省しながら客のことを考え続けるのである。

一期一会が外なる振る舞いならば、余情残心は内への振り返りということになる。内への振り返りがあってこそ、次への改善が図られることだろう。まさに、現代のPDCAサイクルの茶の湯版かもしれない。

医療の世界では、茶の湯ほどに時間は緩やかではない。しかし、医療の世界で求められているものは、今こそ患者中心の医療 patient-centered medicine でもある。その日本的な実践は医療者が立ち止まって患者のこと、自らが提供した医療内容や支援策のことを考える余情残心から始まるかもしれないと思うのである。

タスクシフティング

けいじゅヘルケアシステム 理事長 神野正博

患寿では、昨年度の看護師特定行為研修センターの開設に加えて、今年度は県内の病院に先駆けて喀痰吸引等研修センターを開設する。ここでは介護職員を対象に第 2 号研修(口腔又は鼻腔において行われる喀痰吸引及び胃ろう又は腸ろうによる経管栄養)として 51 時間の講義・演習と実習を行う。

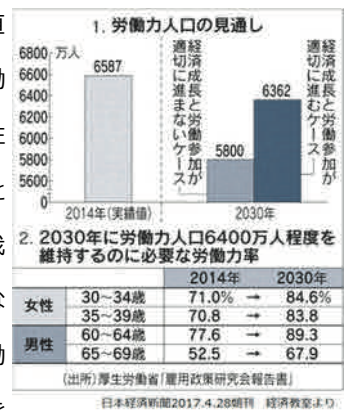
これは、医療職や介護職のタスクシフティングを図り、患者さんや利用者さんにより迅速で質の高い医療、看護、介護の提供を目指すことを目的としている。すなわち、315 時間の共通科目研修と 15~72 時間の区別特定行為研修を修了した看護師は、これまで医師が行っていた医行為の一部を、医師の包括的な指示の下で、判断の上実施可能となる。また、喀痰吸引等研修を修了した介護職員は、これまで看護師が行ってきた喀痰吸引や経管栄養を実施できるようになるのである。

新しい知識と技術がますます増え続ける中で、医療現場により多くの負荷をかけるのは不可能であろう。その中で、医師の仕事の一部を看護師に、看護師の仕事の一部を介護職にといったタスク(仕事)のシフティング(移動させる)が必要なのである。その結果として、医師は医師にしかできない仕事に、看護師は看護師にしかできない仕事により注力すべきということになる。

折りしも、働き方改革の議論が真っ盛りである。その背景には、過重労働問題以上に少子高齢化、労働力不足の問題が潜んでいるに違いない。総務省は 4 月 26 日、2015 年国勢調査に基づく労働関連の集計を発表した。15 歳以上の産業別働き先は、3 位の医療・福祉が 702 万 4000 人と初めて 700 万人を突破。全産業に占める割合は 11.9%で、前回 10 年調査と比べると 1.6 ポイント増えており、増加率が最も高かったという。

すなわち、少子化で労働者は減少している中で、高齢者の増加で医療・介護サービスの需要は増加しているということになる。

図は、労働力人口の見直しと 2030 年に必要な労働力率なる資料である。女性は本より高齢者も労働力としてカウントしないことには我が国の産業・経済は持たないということになる。この労働必要量のタスクシフティングを



模索しなければならない。若者から高齢者へ、専門職から他の職種へといった流れは必然ともいえるだろう。

そんな中、昨年の世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)でクラウス・シュワブ会長が技術革新を「第 4 次産業革命の衝撃」と表現し、人工知能(AI)、ロボット、生命工学などの急速な進化による技術革新への期待を表明した。

この技術革新が新しいタスクシフティングをもたらしてくれるに違いない。日本経済新聞と英フィナンシャル・タイムズ(FT)が実施した共同の調査研究が発表となり、Web*上で「わたしの仕事、ロボットに奪われますか?」というタイトルで分析ツールを提供してる。それによると、医師・看護師・薬剤師などでは 29%がロボットで代替できるという。一方、介護職は 19%であり、工場労働者は 77%、オフィスの事務職員は 62%である。

タスクはシフトして終わりではない。決して投げ捨てるものでもない。相手が人であれ、ロボットであれ、受け渡す方も受け取る方も後行程への目配せ、配慮と感謝を忘れてはならない。

*：わたしの仕事、ロボットに奪われますか？



<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/ft-ai-job/>

Choosing Wisely

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

過ぎたるは及ばざるが如し。

本当に必要な医療と、もしかしたらそうではないもの。

2010 年ごろから、アメリカの内科専門医集団である「米国内科医学委員会：American Board of Internal Medicine (ABIM)」が「Choosing Wisely (賢い選択の意)」の必要性を提唱しはじめたことから、この社会運動 Movement が始まった。

「風邪をひいたから抗生物質を飲まない。」は正しいのか？ 膝の痛みの原因となっている変形性膝関節症で盛んにコマーシャルされているサプリメントに果たして効果はあるのか？ 「気軽に」飲む鎮痛薬だが、気をつけなければならないことは？ 大腸がんの検診で精密検査としてよく行われる大腸内視鏡検査。適切な検査のタイミングと期間はどれくらいなのか？ 腰痛があるときベッドで安静にするばかりが治療ではない？ 適切な安静の期間はどれくらいなのか？

Choosing Wisely キャンペーンは不要であるばかりか有害でさえありえるような治療介入の一覧を示すことを目的としているという。

わが国では、Choosing Wisely Japan なる Web (<http://choosingwisely.jp>) の他、医療情報提供サイトであるメディカルノート (<https://medicalnote.jp>) で米国版の翻訳記事が掲載されている。そこでは、医療者ばかりではなく患

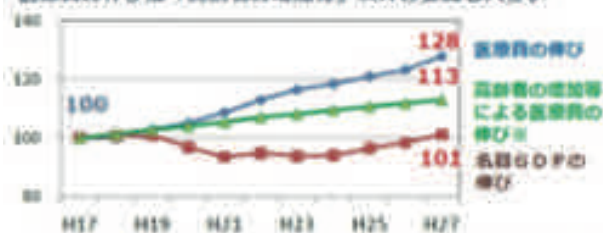
者の視点から医療を見つめようとしているのだ。

この延長にあり得ることはベンチマークによる医療の質と無駄の削減に他ならないだろう。わが国の急性期医療で使われている DPC (診断群分類包括評価)。14 桁でコーディングされる「診断群分類番号」で各疾病は併存疾病、合併症を含めて細かに分類され、診療報酬の支払いに供される。すなわち、同じコードならばほぼ同じ病態ということになる。これをコード毎にその治療内容 (例えば抗生物質の使用量、酸素投与量、術後の点滴期間など) や在院日数を他院と比べ、平均を越える治療内容、在院日数であるならば、その治療に無駄がある可能性が高いとされるのである。

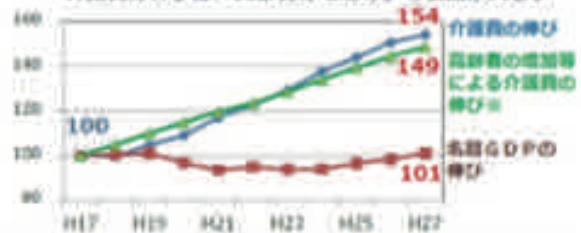
欧米各国同様、わが国も財源論から医療費や社会保障費が語られることが多い。いかにわが国の医療費が対 GDP 比で他国より低いと言ったところで、その伸びは経済成長をはるかに超える。特に下図のように医療費の伸びは高齢化の影響が H17 年度比 13%であるのに対して、それ以外の影響が 15%とあるという。その原因は医療の進歩に伴う先進医療や高額薬剤によるところが大きいらしい。

もちろん、国民が求める医療を提供するのがわれわれの使命である。先進医療に互助、共助である保険財源を使うかどうかは議論のあるところではあるが、使うなという権限はわれわれにはない。われわれにできることは、EBM に則って Choosing Wisely なのである。

医療費の伸びは「高齢者の増加等」以外の要因も大きい



介護費の伸びは「高齢者の増加等」の要因が大きい



医療費・介護費の伸びと名目GDPの伸び

厚生労働省「医療費・介護費の伸びと名目GDPの伸び」(平成27年度)より (2017.4.12)

不安な個人、立ちすくむ国家

～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

去る5月18日に経済産業省で開催された産業構造審議会総会（第20回）の配布資料に、経済産業省次官・若手プロジェクト報告書（20代、30代の若手官僚30人を省内公募したプロジェクト報告書）として、

不安な個人、立ちすくむ国家～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～

http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

が公開された。特に、グローバル・メガトレンドの中で、議論の視点を「社会」とし、背景としての個人の価値観の変化・多様化、少子高齢化と人口構成の変化、格差の拡大・固定化、情報化社会などを踏まえながら民主主義のあり方までに踏み込んでいる。

この報告書の目次には刺激的な言葉が並ぶ。以下の通りだ。

1. 液状化する社会と不安な個人
2. 政府は個人の人生の選択を支えられているか？
 - (1) 個人の選択をゆがめている我が国の社会システム
 - ① 居場所のない定年後
 - ② 望んだものと違う人生の終末
 - ③ 母子家庭の貧困
 - ④ 非正規雇用・教育格差と貧困の連鎖
 - ⑤ 活躍の場がない若者
 - (2) 多様な人生にあてはまる共通目標を示すことができない政府
 - (3) 自分で選択しているつもりが誰かに操作されている？
3. 我々はどうすれば良いか

そして、最後に

2025年には、団塊の世代の大半が75歳を超えている。それまでに高齢者が支えられる側から支える側へと転換するような社会を作り上げる必要がある。そこから逆算すると、この数年が勝負。

かつて、少子化を止めるためには、団塊ジュニアを対象に効果的な少子化対策を行う必要があったが、今や彼らはすでに40歳を超えており、対策が後手に回りつつある。



今回、高齢者が社会を支える側に回れるかは、日本が少子高齢化を克服できるかの最後のチャンス。**2度目の見逃し三振はもう許されない。**

と結ぶ。メッセージは明快だ。

- ① 一律に年齢で「高齢者＝弱者」とみなす社会保障をやめ、働ける限り貢献する社会へ
- ② 子どもや教育への投資を財政における最優先課題に
- ③ 「公」の課題を全て官が担うのではなく、意欲と能力ある個人が担い手に

とする。これらに対して「時代遅れの制度を変える様々な抜本的提案」が列記されている。①には働ける高齢者を支えられる側から支える側へシフトさせる施策が提案される。②に関しても、教育こそ国の礎であることに賛同する。教育バウチャー、子ども保険、海外留学奨学金、就学前義務教育化などの施策が並ぶ。そして、③においては、個人が「公」の担い手とし、新しいソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）などの考え方も紹介されている。特に、私の思いと共通する。なんでも「公」に頼る「民」の姿勢をたしなめるべきであり、かつ「公」には「民」にできることはやらない姿勢を求めたい。

待ったなしの社会の変革に、政府ばかりではなく国民がどれだけ当事者意識を持つか、そこにこの国の命運がかかっているように思えてならない。

生活の場

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

人の生活の場はどこなのか？一般の国民であろうが、医療・介護関係者であろうが、当然この答えは、住まいや働く場を中心としたコミュニティであり、決して病院や介護保健施設ではないはずだ。しかし、われわれ医療者の多くの関心事は、生活の場において不幸にして病を発症してからであり、そして、病が癒えれば関心の外であった。

従来、年を取ったから発生する病気というニュアンスで使われてきた「成人病」という言葉を、予防や未病への対策の必要性を説き、1996年に国に名称を「生活習慣病」と変えさせたのは、去る7月18日に105歳でお亡くなりになった日野原重明先生であった。「生き方上手をすすめ」、「10の生活習慣」など、多くの生活の場の重要性を説いてきたのだ。そして、その言葉通り、105歳の大往生は病院ではなく、ご自宅であったと聞く。

病院や施設にいるときには、医療や介護サービスはもちろんのこと、見守りも療養上のお世話提供など、衣食住、そして娯楽までが提供される。そこから、一旦退院、退所し、生活の場に戻ったならば、これらサービスは一瞬にして途絶する。家族の負担も大きくなる。訪問診療、訪問看護、訪問介護といっても入院、入所に比べれば圧倒的に時間は少ない。外来診療、通所リハビリ、通所介護といってもこれまた時間は少ない。

有病率の高い高齢者、特に団塊の世代という大きな人口ボーナスを占める世代が後期高齢者となる2025年に向かっている。しかも、アベノミクスで産業の生産性が向上したといってもわが国の財政は窮乏、入院医療や介護入所の短期化圧力はますます増大する。と言って、生活の場への財政的なサポートが充実していくとも思われない。

生活の場は、自己責任によって成り立つのである。

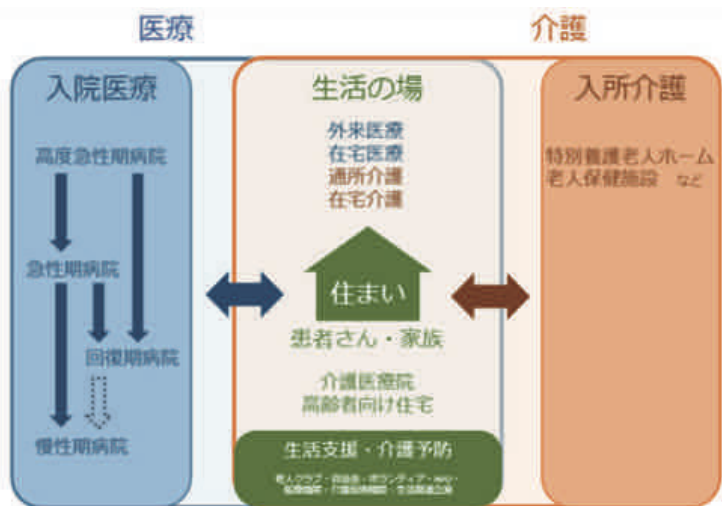
第6章 KEIJU MONTHLY LETTER



2008年6月25日 恵寿総合病院玄関にて

生活の場を支援するのは誰か？行政という公助か、ボランティアや町内会などの共助、互助なのか。あるいは、自己や家族による自助なのか。

いずれにしても、今後ヘルスケアの中で、この生活の場の比重がますます大きくなることが予想される。われわれ医療や介護保険事業者も、自らが、あるいは他の事業者や企業と協働することで、この場へ関わり、生活支援に医療や介護サービスの継続性ばかりではなく、生活に関わる新サービスを模索していく必要があるに違いない。



生活の場中心の生き方

Singularity 2029

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

手塚治虫が生んだ鉄腕アトムは、1951年（昭和26年）に未来の世界2003年生まれの子供として登場した。20世紀半ばから半世紀後の21世紀初頭の世界を予想したのである。このヒト型ロボットは、単なる100万馬力の力持ちや膨大な知識だけでなく、「心優しい科学の子」で表現されるように人間とほぼ同様な感情を持っているのである。

アトムが誕生する2003年を越えた現在、このアトムに匹敵するロボットはまだ誕生していない。しかし、空こそ飛べないものの2足歩行するロボットは誕生し、AI（人工知能）は身近なところでは、スマホに話しかけると対応し、そして、先進のAIは既に囲碁や将棋のチャンピオンを打ち負かし、医師よりもはるかに高い診断能力を誇っているのである。

米国の著名な発明家で、現在はグーグルで人工知能の研究に携わっているRay Kurzweil氏は2045年頃に、コンピュータが発達して、その知能が人類の知能を凌駕する技術的特異点（Technological Singularity）が起きると予想していた。そして、その年以降では、人工知能の能力が上回ってしまうので、人工知能が新しく考え出した知見について、人間が理解できなくなると述べていた。

ところが、ここ数年は、毎年のようにサプライズを伴うイノベーションが起きているのを体感する。それを踏まえれば、2045年よりも前に起こるのではないかとされるのも当然だろう。先のKurzweil氏も最近では2029年にはSingularityが来ると予想を早める。12年後である。2045年は遠い先だが、2029年は次の干支、酉年となると、そんなに先のことではない。Singularity以降は、AIがディープラーニングと呼ばれる自己学習を繰り返し、われわれが予想もしなかった多数の革新的な真理が解明されていくかもしれない。医療の世界では、画像を中心とする診断はもとより、多数の所見やデータを組み合わせることによって正確な診断がなされることだろう。その先には、膨大なゲノム解析によって従来からの臓器別疾病体系から遺伝子異常別疾病体系に変わっていくかもしれない。たとえば、すでに起こりつつある知見として、ALK遺伝子の

異常による癌はALKomaという分類になり、これまでのような肺がん、悪性リンパ腫、腎臓がん、神経芽細胞腫といった臓器別分類はなくなる。治療もどのがんに対してもALK阻害剤の投与ということになるのである。すなわち、内科、泌尿器科、小児科といった診療科分類はなくなるかもしれないのである。



また、医療で蓄積されてきたBig Dataを用いて、人の頭で仮説を立て検証する医療開発（仮説検証型医療開発）から、AIが導き出す仮説を検証する医療開発（人の頭では考えられない紐付けがベース；仮説発見型医療開発）によって、膨大な新たな知見が生み出されるに違いない。

Singularity以降は医者はいらなくなるのか？少なくとも病気だけを見る医者はAIに取って代わられるかもしれない。しかし、“知性に訴える”職域、すなわち人を見る医者は残ると思う。AIが「心優しい科学の子」になるのはその先だと思われるからだ。そのためには、今一度幅広い知識と感性を備え持つリベラルアーツ liberal artsに磨きをかけることがSingularityの時代への備えであることに違いない。



大変革前夜に挑め！

～今こそ 生きる をデザインせよ～

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

開会式オープニングとして昨年 11 月にユネスコ無形文化遺産に指定された日本最大の曳山、七尾青柏祭のデカ山の町衆による木遣り唄と七尾まだらから始まった第 59 回全日本病院学会 in 石川。地方の祭の賑わいと伝統・文化こそ、地方活性化の源であり地方創生の種であるというメッセージを發しました。そして、その地方になくてはならないものはセーフティネットとしての医療であると訴えました。

晴天に恵まれた 9 月 9～10 日に石川県立音楽堂をメイン会場に 14 会場で、全国から約 3,300 名が集って、病院に関する学会、第 59 回全日本病院学会 in 石川を開催しました。2018 年春に迫る診療報酬・介護保険報酬ダブル改定、第 7 次地域医療計画策定を含む数々の目の前の改革への対応から、中長期的に社会の変化や価値観の変化にいかに対応するか、あるいは進化する ICT をいかに利用するかなどを、大変革前夜に挑め！

～今こそ 生きる をデザインせよ～

というテーマで議論することとしました。まさに、ここでの「生きる」にはこれまで病院が専ら担ってきた入院医療ばかりでなく、住民の生活の場や人生にかかわらねばならないという思いを込めてプログラムを組みました。病院関係者はもとより、行政官、研究者、経済人、起業家さらには影響力の大きい政治家が集い、特別講演 3、教育講演 4、市民公開特別シンポジウム、シンポジウム 6、パネルディスカッション 13、ランチョンセミナー 21、応募演題 710 を通して大いに盛り上がることができました。

この会を催すにあたって、多くの地元の企業の皆様、医療機関に多大なご協力をいただいたことに深く感謝します。

ここで、開会式でお話した開催趣旨（キーワードと全文）を公開します。

【地域の伝統と文化】昨年 11 月 30 日にユネスコ無形文化遺産に登録された日本最大の曳山、デカ山が木遣り衆による木遣り唄、梶子衆による七尾まだらとともに新緑 5 月の能登七尾の街を多くの人の手によって引き廻されます。日本の地方地方に広がる特徴ある祭の賑わいと伝統・文化こそ、地方活性化の源であり地方創生の種かもしれません。

【病院と地域】病院も極めて地域密着です。一般の病院を受診する患者のほとんどは地域住民であり、地域が廃れば病院はお客を失い、病院がなくなれば人は安心を求めて去っていく、さらには、安心の医療を中心に介護福祉・子育て・教育が整った地域には人は集まってくる可能性もあります。病院はセーフティネットであると同時に、地方創生の切り札になり得るのではないのでしょうか？



【2018 年 4 月】近視眼的に、来春 2018 年 4 月にはトリプル計画といわれる地域医療構想を含む「第 7 次医療計画」「第 3 期医療費適正化計画」「第 7 期介護保険事業計画」の策定、またトリプル改定といわれる「診療報酬」「介護保険報酬」「障害福祉サービス等報酬」の改定、さらには新専門医制度が始まり、医師の働き方改革の議論が佳境を迎えるという大変革が待っています。

【中長期的課題】しかし、中長期的に日本の医療を取り巻く環境を概観すれば、わが国の財源不足による社会保障費の圧縮圧力、少子高齢・人口減社会の到来、そしてそれに伴う人々の価値観の変化、働き方の変容があります。また、ICT の進化は、効率性を生むと同時に生き方、働き方を大きく変化させようとしています。

【患者の「生きる」と病院の「生きる」】われわれは、これまで患者がドアをノックした時から始まり、傷病が癒えれば終わるといった医療を展開してきました。これに対して、社会の変化、特に高齢社会の到来は、生命、生存へのかかわりに加えて、生活、人生の場におけるわれわれのかかわりを求めています。まさに病気の前から病気の後までを地域で包括した「生きる」を提案し、デザインする力が求められているのではないのでしょうか？これこそ地域の新しい文化の創出なのかもしれません。そして、これが人口減時代におけるわれわれ病院の「生きる」= 生き残りの一手になるかもしれないのです。【大変革前夜に挑め！ ～今こそ 生きる をデザインせよ～】今回このような「生きる」を考えながら、この大変革の前にして「生きる」デザインせよというテーマでプログラムを組みました。デザインとはまさに目的・目標の実現に向かった計画を立てることから始まります。縮小していく社会の中でこれまでと同じ医療を行っていたのではわれわれの衰退は目に見えています。皆さんとともに、われわれは何に挑まねばならないのか？大いに語り合える学会にしたいと思います。多くの皆さんが学会会場で、懇親の場で考え、議論していただきたく思います。

【感謝】略

デザイン・シンキング

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

日本の産業、特に製造業はその生産性において世界をリードしてきた。探求心に満ち、職人と呼ばれる日本の技術者による技術力の向上と QC サークル活動など現場レベルでの絶え間ない Kaizen 活動がその底力として支えてきたのである。そして、企業では、開発・製造部門ばかりではなく、経営・企画部門、事業部門、販売部門などが各々問題解決のために、知恵を絞っている。

一方、ICT の進歩は職人の手と目ばかりか五感を模倣し、さらに空間を越えてミクロン単位の製造管理を実現させる。AI の進歩、deep learning により、気温、湿度など天候データや人の動態、消費者心理など多変量を解析し、販売戦略を実現する。このような進歩は、これまでの日本の優位性を危うくする。大国が巨費を投じて、高速大容量コンピュータシステムとシステムエンジニアを確保するならば、それまでの暗黙知の大部分をカバーする上に、新たなイノベーションを生みだすかもしれないのである。

新たに強みを創出するための種を模索しなければならない。部門に横串をさして俯瞰し、顧客の「～しやすさ」、例えば「見やすさ」「聞きやすさ」「動きやすさ」「わかりやすさ」などを追求しながら、仕事のやり方 process を変えていく。これこそ、デザイン・シンキング design thinking というものと理解する。すなわち、design とは、『目的を達成するために、人間の感覚に理にかなった方法で記号（＝対象や意味を指し示すもの）を計画し、創造する行為』という狭義の意味から、『情報を整理し、価値の再整理をし、再構築して視覚化すること』まで広がる。われわれは、既存の各部門の不断の努力と顧客の視点を併せ持って、さらなる価値の再構築を求められているのだ。

10月4日、当院の外来部門はユニバーサルレイアウトとして、グッドデザイン賞ベスト100（Good Design Award Best 100）を受賞した。これまで、われわれの意識のなかにグッドデザイン賞とは、優れた工業製品というイメージがあった。しかし、この度の受賞理由は、産業向けの意識改善／マネジメント方法という部門であ

り、モノではなくコト、まさにやり方であった。その概要を『一般に病院の外来には各診療科の診察室があります。そこでは各科ごとのスペースと人員が必要になり、患者の移動動線が長くなります。新病院建築時にその課題をユニバーサルデザインの視点で見直し、すべての人にやさしい外来を作りました。どの科にも紐づけられていない均一な診察室を複数用意し、電子カルテを仮想化し、デジタルサイネージで誘導する「ユニバーサル外来」です。受付は一つで複数の科をカバーし、診察室の編成を「今日は内科、明日は外科」というように弾力的に患者数、医師数により変えることができます。』

とした。まさに、患者側の見やすさ、動きやすさ、わかりやすさと、病院側の効率性と面積の有効利用など、形だけではなく情報、価値の再構築を高く評価されたことになった。

2014年の本館新築時から、この仕組みを守り続けている職員の頑張りへの賞でもあり、われわれのデザイン・シンキングの賜物であると誇りたい。



GOOD DESIGN AWARD 2017

BEST 100



バイキングとルームサービス

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

ホテルの朝食でおなじみの「バイキング」は何語なのか。ご存知の方も多いと思うが、完ぺきな日本語である。海外のホテルや訪日外国人には、全く通じない。国際的には Buffet という。本来フランス語であるこの言葉の発音はブッフエだろうが、英語ではバッフエに聞こえる。大皿に盛られた料理を、また飲み物を好きなだけ取ってくる。ホテル側は、給仕することを省くことで、効率化し、その分中身も充実できる。ただ、人気ホテルの朝食会場では、列を待つということもしばしばである。

一方、シティホテルには、Buffet の他に、ルームサービスなるものがある。好きなメニューを好きな時間に待つことなく部屋まで持ってきてくれる。Buffet のように目で見てから食べるものを決めるといった楽しみはないものの、くつろぎながら部屋で寝間着のままでも、テレビを見ながらでも食べることができる。

どちらの費用が高いのか？明らかである。手間がかかり個別対応であるルームサービスは割高である。この経済論理は、誰にでも理解できるはずである。

さて、医療の話となる。家族が身体の不自由なお年寄りを介助しながら病院や診療所の外来に連れてくる。ご多分に漏れず、それなりの待ち時間があれば、家族も付き合わねばならない。いかに働き方改革の時代とはいえ、仕事を持っていれば、定期受診の度に半日ないしは1日の休みを取らねばならない。

一方で在宅医療である。今年の1月に開催された第343回中央社会保険医療協議会総会の在宅医療（その1）の資料で、訪問診療を行っている理由を問うと、「身体機能の低下のため、介助があっても通院が困難」な患者が全体の約50%を占める一方、「介助があれば通院可能だが、介助の確保が困難」が34%に達している。また、同じ資料の中の訪問診療対象患者の

第6章 KEIJU MONTHLY LETTER



医療行為で、「健康相談・血圧・脈拍測定・服薬援助・管理のみのもの」が40%に達するというデータも出されている。

まさに、外来診療は Buffet であり、在宅医療はルームサービスではなかろうか。ホテルであろうが医療であろうがルームサービスがいい。しかし、ホテルでは費用負担とサービスの見合いがあるのに対して、医療ではどうなのか？

地域医療構想を含め、国はこれから増大する高齢者の医療ニーズを在宅医療等で賄おうとする。この話に費用負担、国民医療費の増大要素があることを忘れてはならない。まして、地方では在宅医療の担い手である診療所医師の高齢化、訪問看護師の不足、さらには過疎化によって広い地域に高齢者住宅が点在することによる非効率性という問題も横たわる。

在宅医療にはそれなりの負担をいただくこと、さらには、効率化のための患者の集住化などを真剣に考えねば、この国の、この地方の在宅医療論議はできないように思っている。

地域医療構想を後押しするといつてよい診療報酬改定、地域包括ケアを後押しするといつてよい介護保険報酬改定。いよいよダブル改定の年を迎えようとしている。



トリプル改定から Value 創出へ

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

新年あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお祈りします。

暮れの 12 月 20 日、正式に来春のトリプル改定と呼ばれる医療、介護、福祉分野の公定価格が発表となった。具体的には、

診療報酬：

本体部分 プラス 0.55%

薬価等 マイナス 1.74%

全体 マイナス 1.19%

介護報酬： プラス 0.54%

障害福祉サービス報酬：プラス 0.47%

という状況である。診療報酬は本体と薬価等に分けられる。薬価等は、薬剤費と材料費からなる。流通経費のわずかは売値と仕入れ値の差額、差益としての収益から捻出し、かつ調剤や手技の失敗による廃棄や有効期限切れ在庫部分もまたこの収益から差引かれる。

本体に関しては「医師の給与増」などとマスコミは書き立てる。しかし、この部分は診察料から各種手技料、手術料といった技術料の他、指導料、管理料などであり、決して医師の給与ではない。確かに医師の給与もここが原資ではあるものの、それ以上にチーム医療として看護師からコメディカル、事務職員の給与原資であり、さらには委託料の原資、建物や設備の償還原資までが含まれているのである。建物や設備への投資の多い急性期病院であればあるほど償還資金は大きくなる。

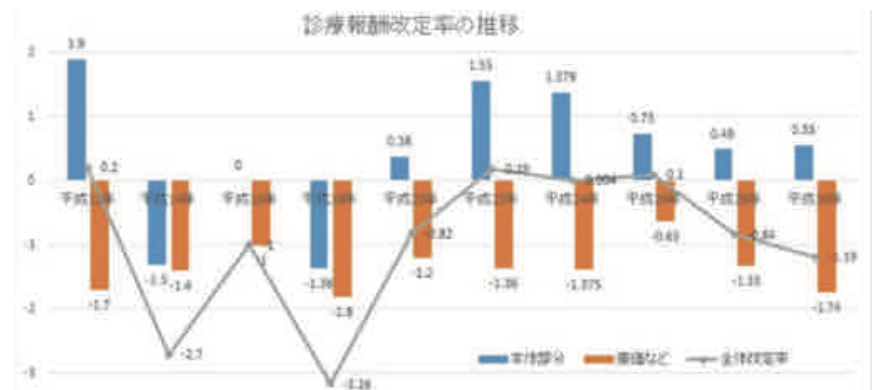
この厳しき経済状況の中、本体プラスは上出来であるという意見も聞く。一方で、総理は働き方改革の中で労働者の賃金を 3% 上げよという。医療におけるこの労働

者の賃金は、先のように 0.55% の「本体部分」から充てられるのだ。介護や福祉に関しても、賃金 3% アップの原資となるにはほど遠いプラスである。しかも、今回改定も医療費は全体マイナスである。お金が回らない。人への投資、モノや設備への投資に回らない。

このような診療報酬などの改定ごとに全国の病院の動きも変わる。実際、2 年前の改定で急性期病院の条件である「重症度、医療・看護必要度」の項目に「救急搬送後の入院」が加わった以降、都会において社会問題化していた救急車のたらいまわしがなくなったという。

もちろん、国の制度に対応し、適応していくことは重要である。しかし、社会は経済の減速や高齢化、過疎化などとともに価値観も刻々と変化する。また、ICT やロボット、AI などの技術も急速に進歩する。これに対応することが先への布石と心得たい。

これまでの業務や価値観から新たな価値観 Value の創造が待たれているのである。恵寿も、2018 年、新たな価値、「恵寿バリュー」の創出に力を注ぎたい。職員間で、患者との間で、地域の医療機関との間で、さらに地域社会との間で「恵寿バリュー」を分かち合えるよう努力したい。



Transcendence

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

世界初の人工知能 PINN（ピン）を研究開発する量子コンピュータ科学者のウィル・キャスターは、反テクノロジーを唱える過激派テロ組織の凶弾に倒れてしまう。妻・エヴリンは夫を救うべく、死の際にあったウィルの意識を PINN にアップロードする。彼女の手により人工知能としてよみがえったウィルは、軍事機密から金融、経済、果ては個人情報にいたるまで、あらゆる情報を取り込み、驚異の進化を始める。

2014年にイギリス・中国・アメリカ合衆国で製作されたSF映画である。最近CS放送で視聴した。このウィルをジョニー・デップが好演する。人間のすべての意識、知性とは何か？これらをコンピュータにアップロードするということは、知識ばかりではなく、感覚、感性が格納され、そして、それらが神経系ネットワークで縦横につながっている全脳をコピーするということになる。

将棋や囲碁でAI（人工知能）がすでに人間を凌駕し、AI同士が対局することで、さらに強いAI棋士が生まれているという。また、AIがディープラーニングによって知識をどんどん吸収し、人間が考えてもみない可能性を生み出しつつあるという。あたかも、すべての面で人間を超える日が近いという予想さえ語られる。

また、医療の分野でも画像診断や病理診断などの形態診断で近いうちにAIが正確な診断を下し、各種所見やデータからドクターG張りの鑑別診断も下すかもしれない。

まるでAIさえ導入すれば、無から有と新たな知恵が創造されるかのような錯覚がある。AIが自分で学習し、自分で新たなネットワークを作っていくという考え方である。確かに、知識量からクイズ王にすぐになれるに違いない。囲碁や将棋は単純な盤の目という座標軸における確率の計算でより強くなれるに違いない。

問題は、感性や欲望、それも潜在的なものをAIが獲得できるかということになる。われわれが、これまで聴いたこともない新しいジ



ヤナルの曲の虜になるのはどう理解するのだろうか。

マニュアルで書けるものはAIで学習可能であろう。感性に起因するものの中で「気配り」「思いやり」をマニュアル化すれば、気の利かない御仁よりもよほど心地いいサービスを提供できることだろう。あらゆる情報と感覚から物事を判断する「洞察力」を磨くには、より複雑なマニュアルが必要だろう。さらに、より良き姿を目指す「志（こころざし）」、「慈しみ」となると、相当上級編となり、当面人間が優位かもしれない。

もとよりAIと知識量や計算力で勝負すれば全く勝ち目はない。また、単純な技術や処理能力もAIはすぐに身に付ける。となれば、人間力ともいえる感性に磨きをかけ、高い志をもつ。これぞ、AI時代に生き残れる人間らしさなのではないだろうか。

活機応変

けいじゅヘルスケアシステム 理事長 神野正博

機という言葉がある。英語ではチャンスだろうか。それ以上に機には「機を見る」という言葉があるように、「きっかけ」「きざし」「はずみ」「おり」「しおどき」といった日本的感性も含んでいるのかもしれない。

そして、臨機応変という。もともとは、仏教用語らしい。諸行無常～この世の存在はすべて変化していく。決して、不変のものはない。その変化に^{あがな}贖うことなく受け入れる必要がある。そこで、物事の変化に応じて自身も対応も変化していくということが臨機応変ということだろう。

しかし、機に臨んで変化するためには、準備が必要である。何も基礎がないまま変化してもうまくいくはずがない。平昌オリンピックでも、前半の屋外の強風と寒波の中でいい成績を残したジャンプやモーグル、スケートボードの選手たちは臨機応変がカギだったと思われる。スピードスケートの新種目マススタートでも、自分との闘い以上に他の選手たちの動きにいかに対応したかが勝負のカギだったと思われる。日頃から、あらゆる場面を想定して練習を重ねたからこそ、変化に対応できたのだろう。

そうなってくると、機に臨んでから、もう一步進んで『活機応変』ではなかったのかと思えてならない。機を活かして変化するのである。機をいかに活かすかもまた、日ごろの鍛錬の賜物となるに違いない。

スポーツだけではなく、われわれにも、それに気づくか否かはあるものの多くの機が降り注いでいるはずである。その機は誰かにだけに降りてくるものはないと思う。その機を活かすか否かがそれぞれの受け止め方とそれを実行する胆力ではないだろうか。機に臨むと同様に基礎力が必要なのは言うまでもない。日常から蓄えた知識、知恵、問題意識がないと機はあつという間に過ぎ去り、後からでは



取り返しがつかないことになるだろう。

36年連続日本一の後、一昨年37連覇とならなかった和倉温泉・加賀屋は、昨年見事にリベンジして日本一となった。その日本一の「おもてなし」の奥義は顧客アンケートと職員の気付きの共有化、見える化である。顧客のクレーム、お褒めの言葉に、さらには何気ない一言に機を見出し、それを活かすことによってサービスが向上し、改善される。さらなる気付きが、より「おもてなし」に磨きをかけるという、まさに正のスパイラルの賜物だといえよう。

医療の現場にも、数多くの機がある。医療安全ではヒヤリハットであり、ISOでは是正文書であり、投書や満足度調査であり、それ以上にヒトがヒトにするサービスだけに多くの職員の気付きがある。さらには、地域のニーズも社会のニーズも機である。ICTやAiの進歩もまた、捉えるべき機であるに違いない。

機を探すこと、その機をいかに利用するか考えること。それを、組織で、地域ぐるみで行うこと、これこそ組織の強化策であり、地域の振興の種だと言えるのではないだろうか。



2017年9月4日 カルテコサービス開始



第 7 章
トピックス
(社会貢献)

董仙会トピックス（社会貢献）

日付	内容
2017.4.11	のと共栄信用金庫 救命救急講習会開催（Keiju Innovation Hub）
4.20	がん患者サロン Smile～すみれ～イベント「がん化学療法認定看護師とおしゃべり会」開催（恵寿総合病院）
4.29	恵寿総合病院本館花嫁のれん展示、GW 期間中一本杉 Café オープン
5.10	看護の日イベント「ブチナス・ふれあい看護体験」を開催（恵寿総合病院 看護部）
5.11	医療連携の集いを開催
6.2	中能登町より委託され、「スーパー元気アップ塾」開講
6.15	がん患者サロン Smile～すみれ～イベント「七夕」開催（恵寿総合病院）
6.22	『寄り合い処「みらい Café」』をオープン（小規模多機能型居宅介護事業所 恵寿みおや）
6.28	イクボスの輪に賛同し、イクボス宣言
7.5	喀痰吸引等研修センターが開講（恵寿総合病院）
7.16	七尾港祭り 総踊りに参加
7.21	Cologic 開始(恵寿総合病院)
7.21	県警航空機ヘリポート着陸訓練&傷病者引継ぎ訓練(恵寿総合病院)
8.2	栄養の日・栄養週間イベント開催(恵寿総合病院)
8.17	がん患者サロン Smile～すみれ～イベント「上手に栄養をとろう パート2」開催（恵寿総合病院）
8.29	七尾高校にて「出前授業」を開催
9.4	カルテコサービス開始
9.9-9.10	全日本病院学会 in 石川
9.29	看護師特定行為研修修了式を開催。特定看護師が誕生
9.30	第 14 回董仙会 TQM 発表大会開催(コスモアイル羽咋)
10.4	ユニバーサル外来が 2017 年度グッドデザイン・ベスト 100 に選出(恵寿総合病院)
10.19	がん患者サロン Smile～すみれ～イベント「化学療法後の運動」開催（恵寿総合病院）
10.25	青森出身デュオ「サエラ」による「懐かしの歌謡曲 秋風を奏でるコンサート」を開催
11.1	ユニバーサル外来が 2017 年度特別賞[未来づくり]に選出(恵寿総合病院)
11.9	グッドキャリア企業アワード 2017 でイノベーション賞を受賞
11.15	第一回 能登脳卒中地域連携協議会症例検討会
11.18	羽咋高校生 34 名が参加する「医志未来塾」を開催
12.21	がん患者サロン Smile～すみれ～イベント「がんとわかった時から始まる緩和ケアパート2」開催（恵寿総合病院）
12.26	けいじゅヘルスケアシステム大忘年会
12.29	内定者の集い開催(恵寿総合病院)
1.4	けいじゅヘルスケアシステム新年互礼会開催
1.6	福原俊一教授のワークショップを開催
2.8	事業計画発表会開催
2.20	健康経営優良法人 2018～ホワイト 500～に認定
3.9	第 3 回感染症セミナー・忽那賢志先生の講演を開催
3.17	第 14 回董仙会 TQM 発表大会開催(コスモアイル羽咋)
3.22	山田邦子さん率いるスター混声合唱団によるチャリティーコンサート開催
3.30	ベビーカルテコ「赤ちゃんのエコー画像で思い出をつくろう！」を開催

第 7 章 トピックス（社会貢献）

2017.5.11

看護の日イベント「ブチナス・ふれあい看護体験
(ななおあいじこども園)」を開催



2017.7.21

県警航空機ヘリポート着陸訓練
&傷病者引き継ぎ訓練



2017.11.9

羽咋高校生 34 名が参加する「医志未来塾」
を開催



2018.3.22

山田邦子さん率いるスター混声合唱団による
チャリティーコンサート開催

第 7 章 トピックス (社会貢献)

徳充会トピックス（社会貢献）

日付	内容
2017.6.1	徳充会法人 いしかわ我がまちアドプト制度のサポーター認定
7.16	徳充会法人 七尾港まつり「市民総踊り」に参加
7.26	徳充会法人 NTT ドコモ北陸支社を通して「みんなのメダルプロジェクト」に不要の携帯電話を抛出
8.30	石川県精育園 平和こども園（穴水町）との交流会
9.2	石川県精育園 公開講座開催（ボランティアについて）
10.6	青山彩光苑障がい者週間委員会 七尾市立山王小学校 福祉教育（車椅子体験、風船バレーボール交流）
10.24	エレガンテナギの浦 七尾市立小丸山小学校との交流会
10.25	穴水ライフサポートセンター障がい者週間委員会 穴水町立穴水中学校 福祉教育
11.17	高齢者事業局たつるはま 三引健康クラブにて健康教室（認知症予防・あべこべ体操）開催
11.22	青山彩光苑障がい者週間委員会 七尾市立石崎小学校 福祉教育（車椅子体験、風船バレーボール交流）
11.22	青山彩光苑障がい者週間委員会 七尾市立徳田小学校 福祉教育（車椅子体験、風船バレーボール交流）
11.22	青山彩光苑障がい者週間委員会 七尾市立高階小学校 福祉教育（車椅子体験、風船バレーボール交流）
2018.1.18	高齢者事業局たつるはま 金ヶ崎交流館にて健康教室（認知症予防・あべこべ体操）開催

2017.6.1
アドプト制度サポーター認定



2017.7.16
市民総踊り

2017.10.6
山王小学校 風船バレー交流



2017.11.22
徳田小学校・高階小学校
車いす体験

第7章 トピックス (社会貢献)



ユニバーサル外来(恵寿総合病院)

けいじゅヘルスケアシステム

2017 業績集

2018年6月12日発行

発行人 社会医療法人財団 董仙会 理事長

社会福祉法人 徳充会 理事長

神野 正博

編 集 社会医療法人財団 董仙会 企画部 企画課



社会医療法人財団董仙会
恵寿総合病院
Keiju Medical Center

〒926-8605 石川県七尾市富岡町 94 番地
TEL:0767-52-3211 FAX:0767-52-3218

厚生労働省臨床研修指定病院、日本医療機能評価

救急告示病院、DPC 対象病院 ホームページ <http://www.keiju.co.jp>
メール info@keiju.co.jp



日本医療機能評価機構
JLQH



GOOD DESIGN AWARD 2017
BEST 100



日本サービス大賞
NIPPON SERVICE AWARD

第1回 日本サービス大賞 総務大臣賞

Keiju Healthcare System